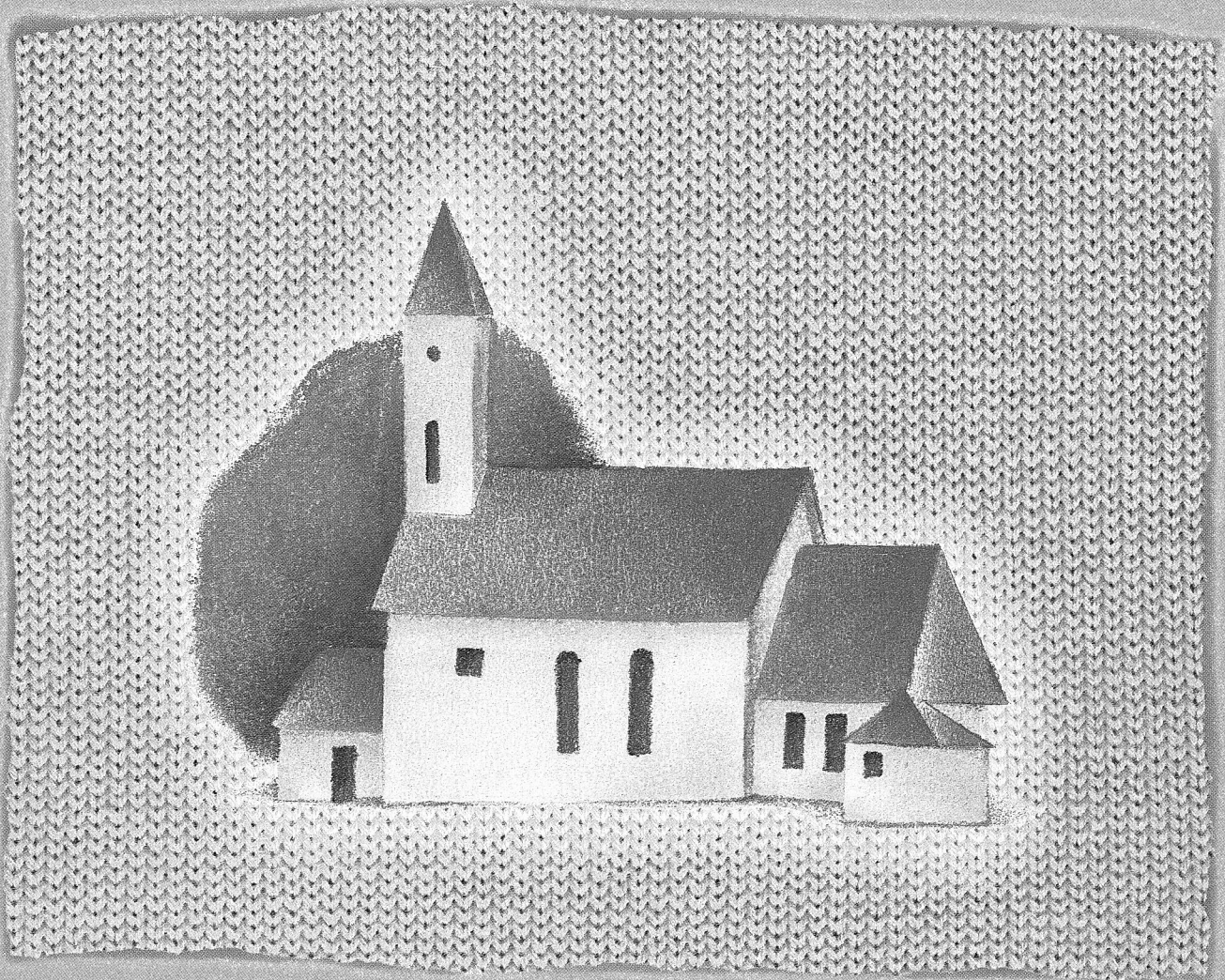


brother



palisé A II

取扱説明書
KH-893

もくじ

模様集	1
各部の名称とはたらき	10
編機の組み立て方	14
編機のしまい方	16
編む前の知識	18

引返しレバー・ボタンもどしレバー・カムボタン
スレッドレバー・選針切替ツマミ・編目ダイヤル
編出し・編針の位置・指示マーク・段数計・Kキャリジ
カラーウエイト・端針選針機構・端針戻し機構

編機の基本操作

平編	24
1. 編糸の通し方	24
2. 編み始め方	25
3. 編み方	27
4. 編地のはずし方	28

模様の編み方

模様とパンチカード	29
パンチカードの見方と編針の関係	30
パンチカードのセット方法	31
模様編の基本ステップ	32
すべり目模様	34
配色すべり目模様	35
タック模様	36
配色タック模様	37
スレッド模様	38
ポイント・スレッド模様	40
同時編込模様	41
ポイント・同時編込模様	43
間欠送り模様	47
編込レース模様	48
ポイント・編込レース模様	50
レース模様・タックレース模様	53
レース・タックレース混合模様	56
ポイント・レース模様	57
添え糸編	59
添え糸編(地糸と添え糸を入れ替えて編む場合)	61
添え糸タック模様	62
アーガイル編	63

こんなときには

平編がうまく編めない場合	65
1. 編針に編糸がかからないときには	65
2. Kキャリジの操作が非常に重いときには	65
3. 編目が引き上がってしまうときには	65
4. 編目があちてしまったら(編目の拾い方)	66

編みまちがえたときの直し方	67
(平編・添え糸編)	67
(模様編)	71
(アーガイル編)	74
(レース模様・タックレース模様)	75
Kキャリジをカラ送りするには	77
正しく選針されているかどうか確認したいときには	77
編針がまちがって選針されていた場合	77

編物知識

ウツシの使い方(編目の移し方)	78
タツピの使い方(ゴム編)	78
編目の増し方(増し目)	80
編目の減らし方(減らし目)	82
引返しによる編目の増し方・減らし方(引返し編)	84
1. 平編・添え糸編・模様編	84
2. レース模様・タックレース模様	86
3. アーガイル編	88
なわ編(交差模様)	90
ひも編	91

作品を編む前に

編ゲージについて	92
編ゲージの作り方	92
編ゲージの測り方	95
編ゲージのセットのしかた	96
シートへのパターンの写し方	97
シートのセットのしかた	99
編目スケールの目盛りの読み方	100

編針の取り替え方

編機の手入れ

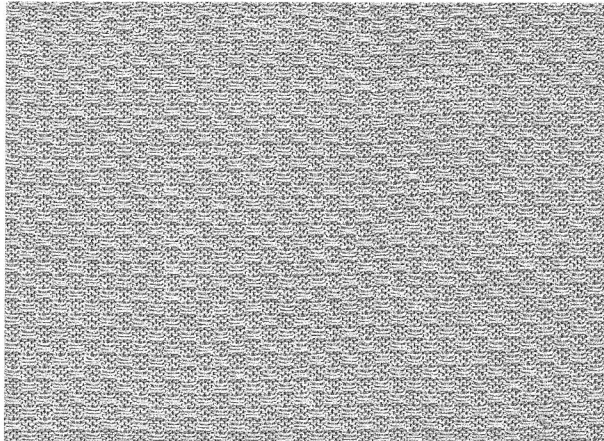
編目スケールを段方向(段数)に使うときの早見表

お買い上げまことにありがとうございます。この製品のすばらしい性能と、その正しい使い方をご理解いただくために、この《取扱説明書》を最後までよくお読みください。

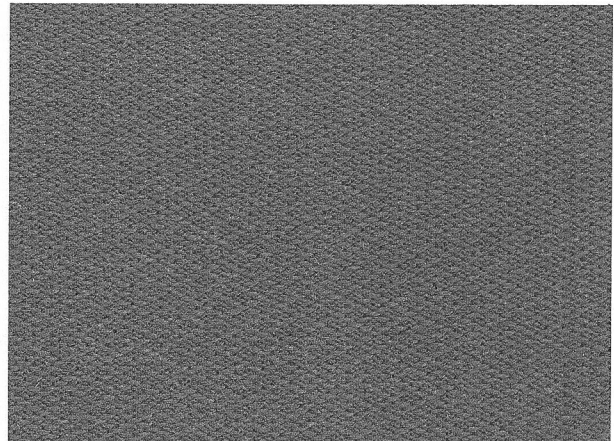
お読みになったあとは、保証書とともに、必ず保存してください。

すべり目模様 利用できるカード：1a・2a・3a・5a・7a・8a・11a

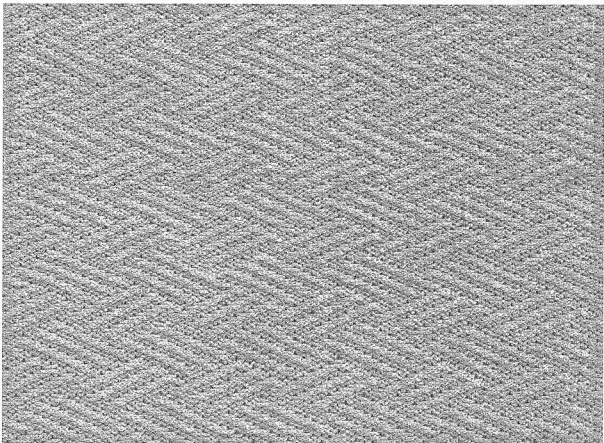
編み方：34ページ



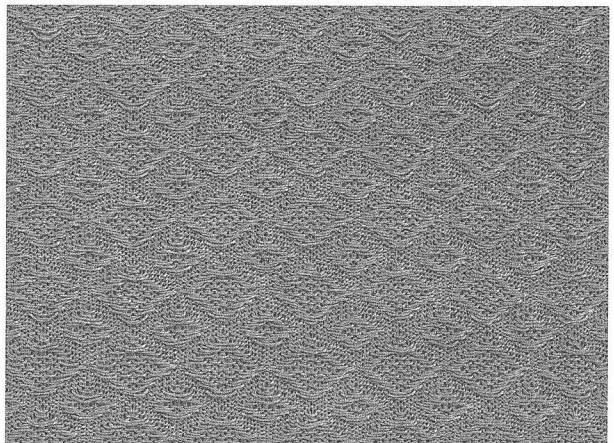
カードNo.2a



カードNo.3a



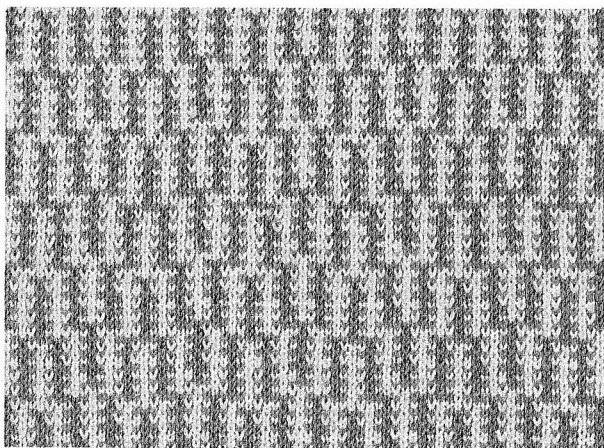
カードNo.5a



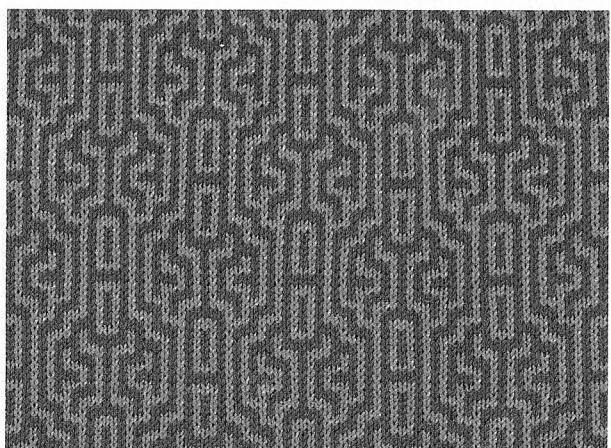
カードNo.11a

配色すべり目模様 利用できるカードは、すべり目模様と同じです。

編み方：35ページ



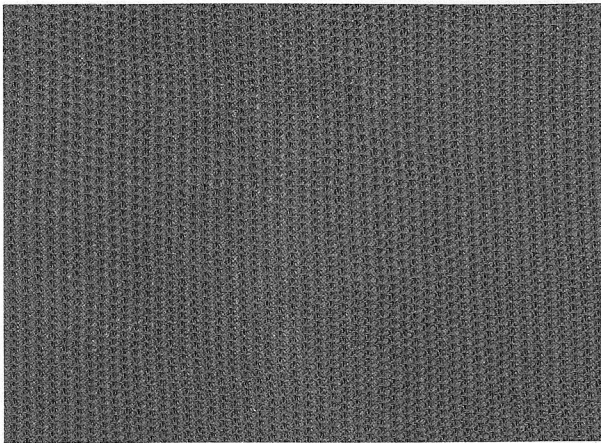
カードNo.5a



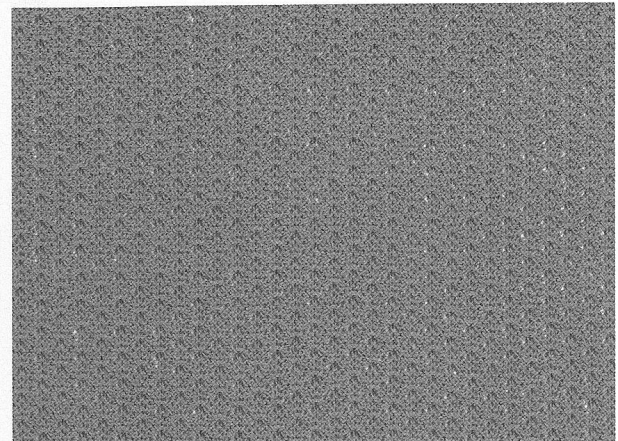
カードNo.7a

タック模様 利用できるカード：No1a・2a・3a・7a・8a

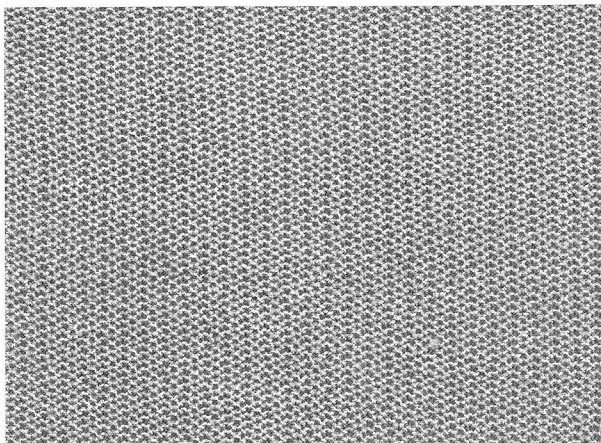
編み方：36ページ



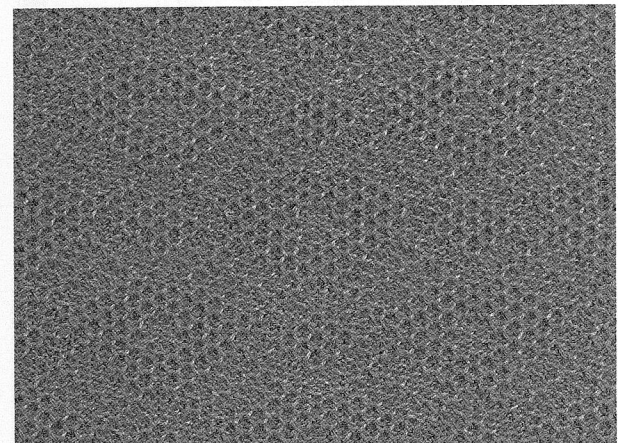
カードNo1a



カードNo2a



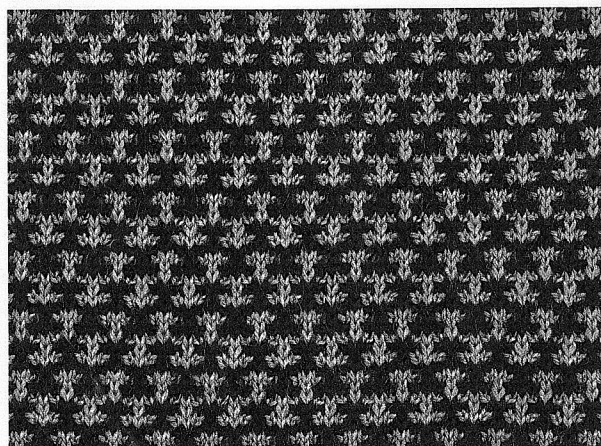
カードNo3a



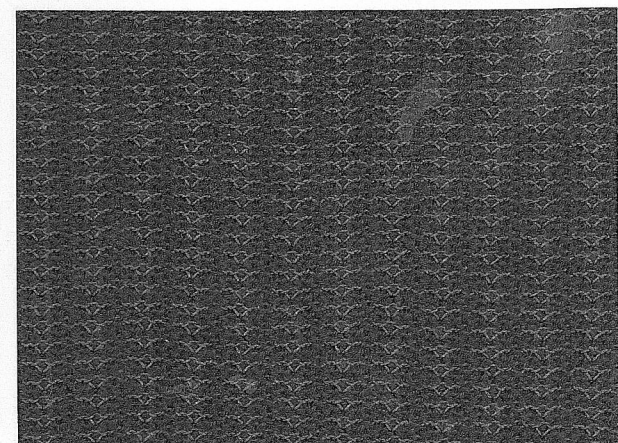
カードNo7a

配色タック模様 利用できるカードは、タック模様と同じです。

編み方：37ページ



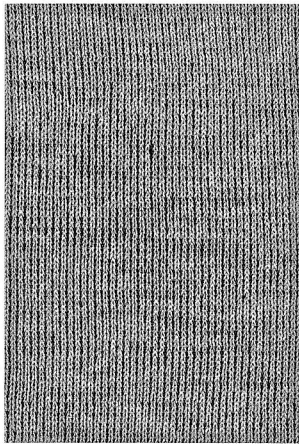
カードNo2a



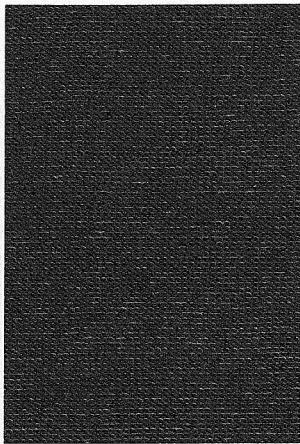
カードNo3a

添え糸編

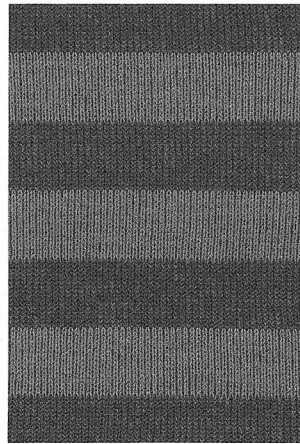
編み方：59・61ページ



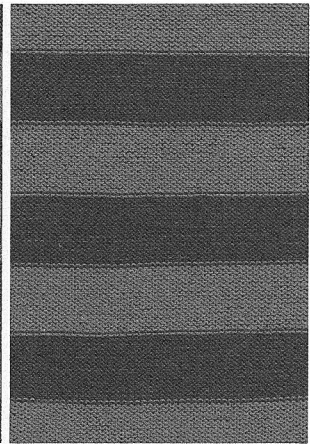
表



裏



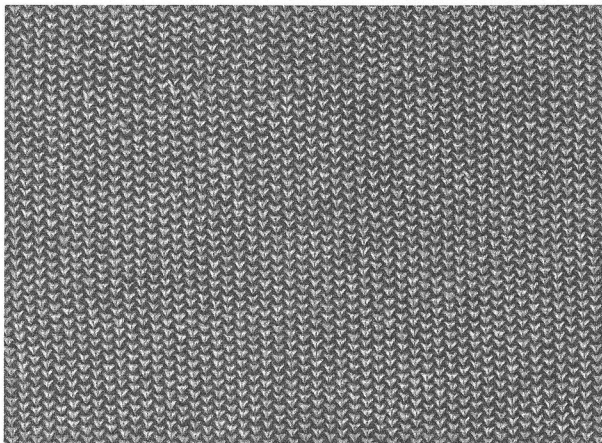
表



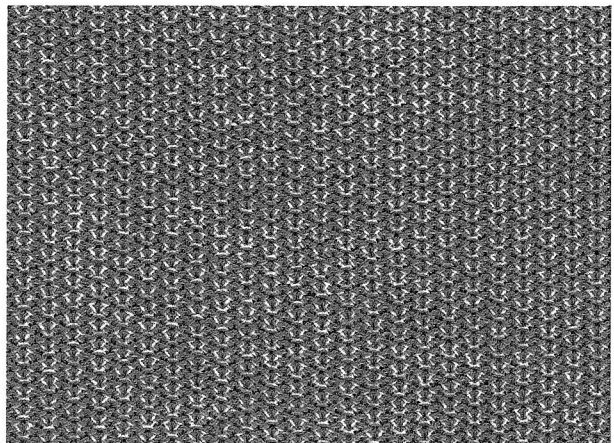
裏

添え糸タツツ模様 利用できるカード：10・30・80

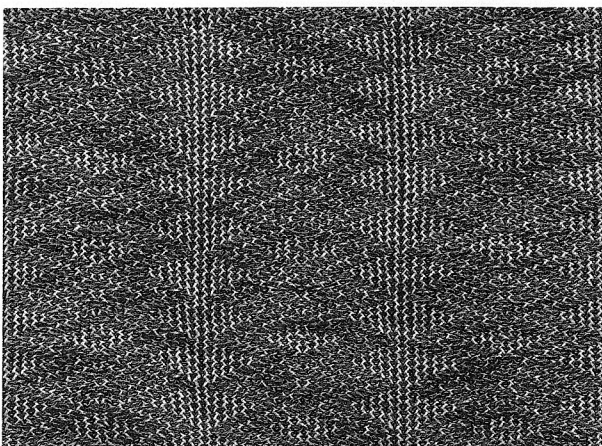
編み方：62ページ



カードNo10
裏



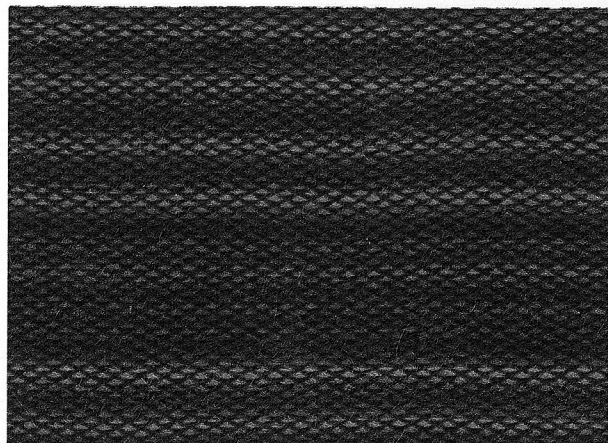
カードNo30
裏



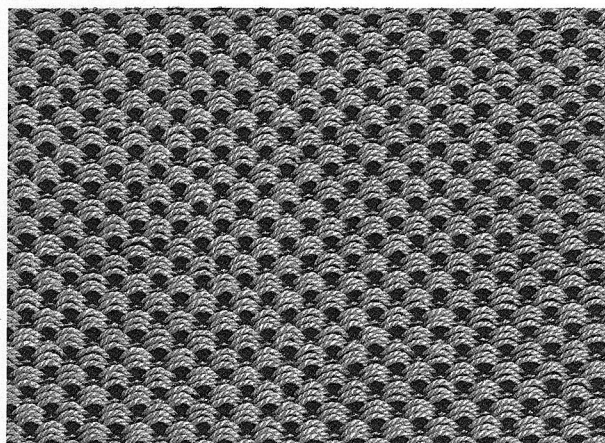
カードNo80
裏

スレツド模様 利用できるカード：1a・2a・3a・5a・7a・8a・11a・12a

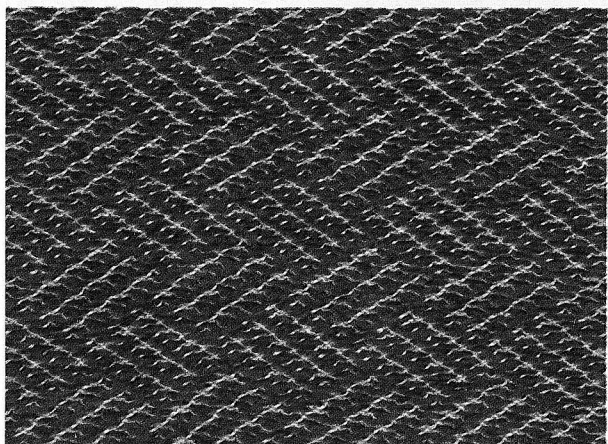
編み方：38ページ



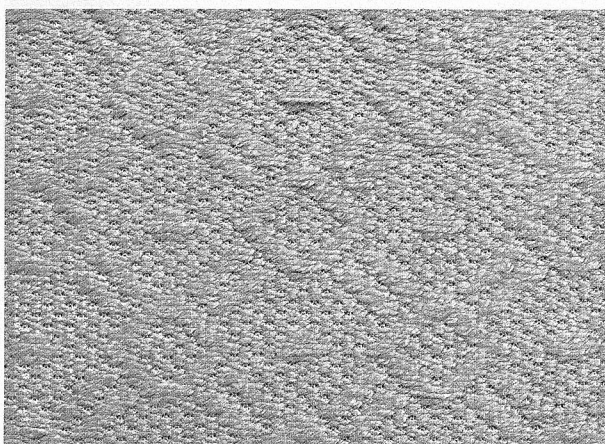
カードNo.1a



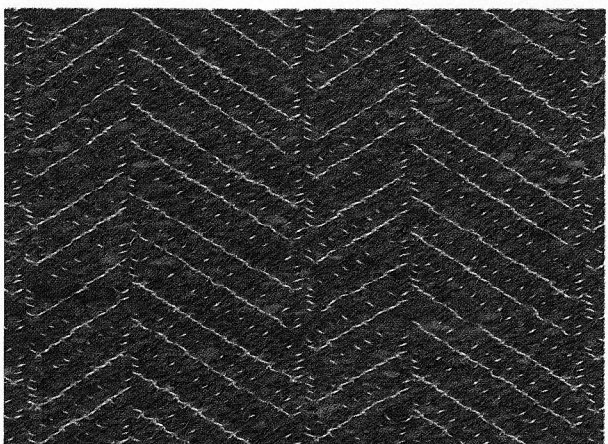
カードNo.2a



カードNo.5a

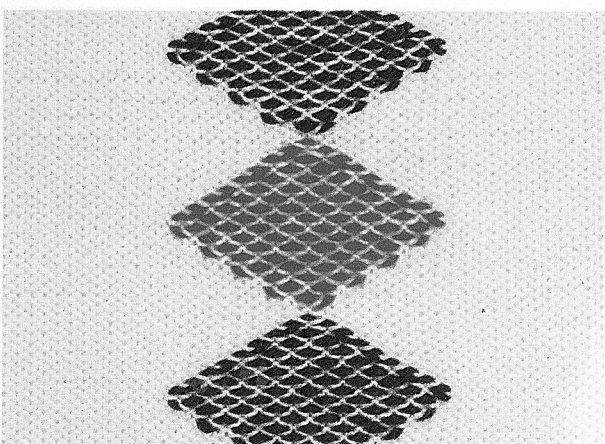


カードNo.7a

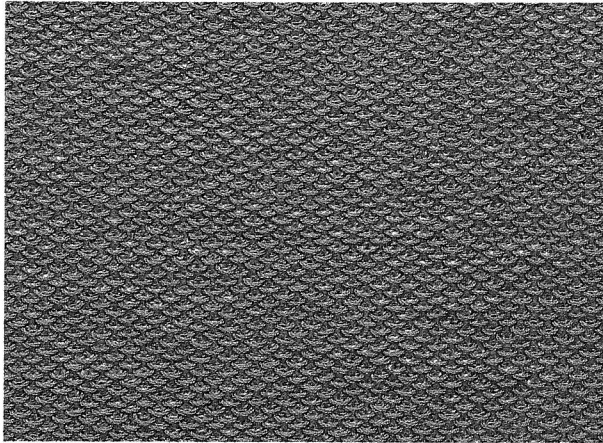


カードNo.12a

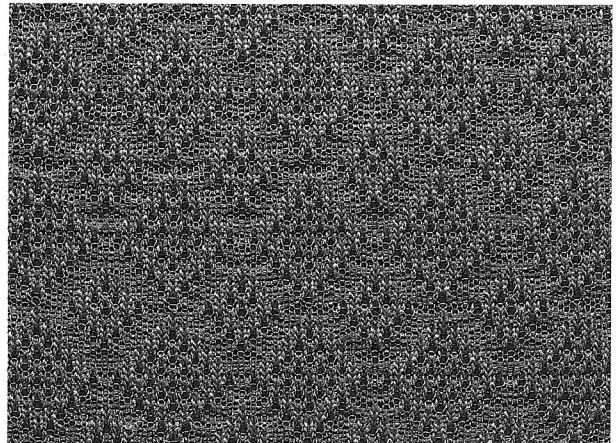
ポイント・スレツド模様 利用できるカード：No.1a 40ページ



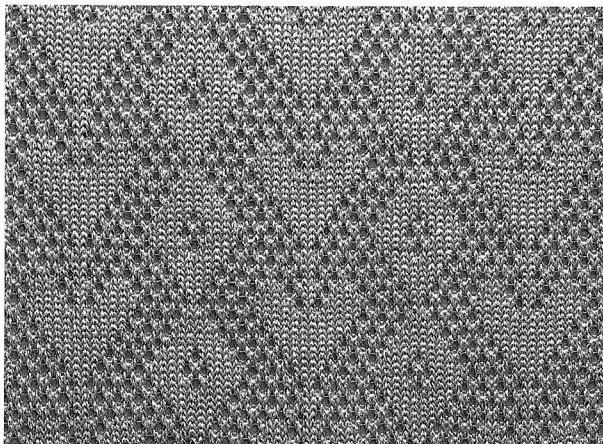
カードNo.1a



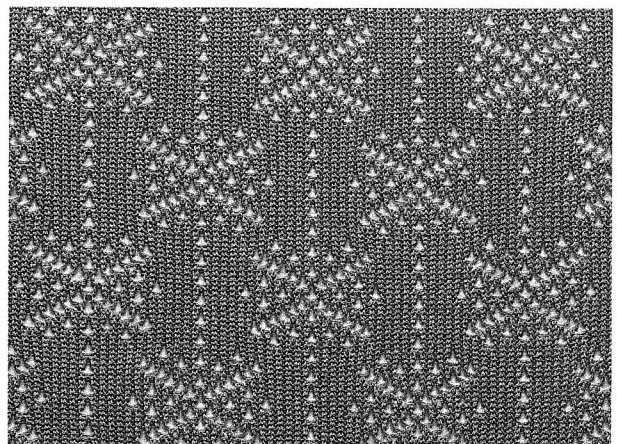
カードNo10



カードNo110



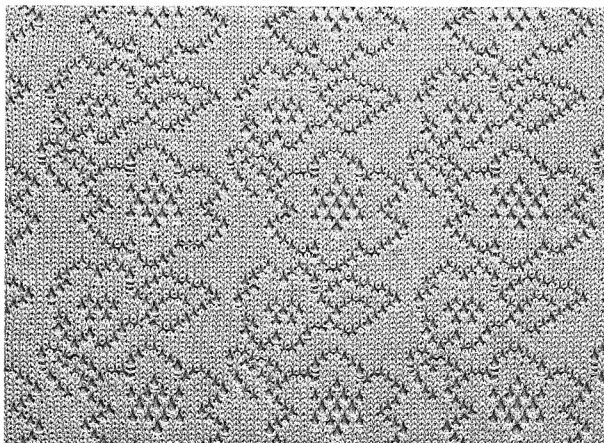
カードNo140



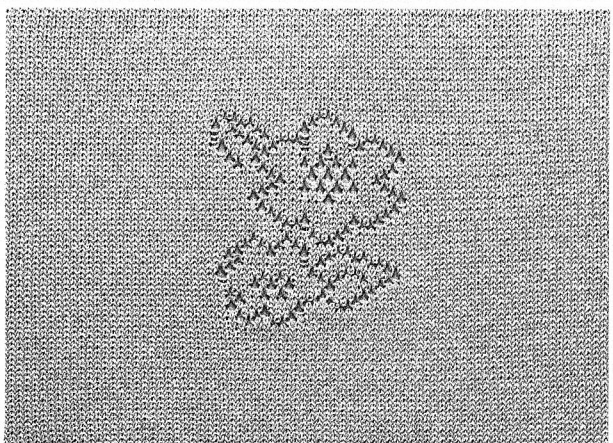
カードNo150

ポイント・編込レース模様

編込レースのカードが利用できます。編み方：50ページ

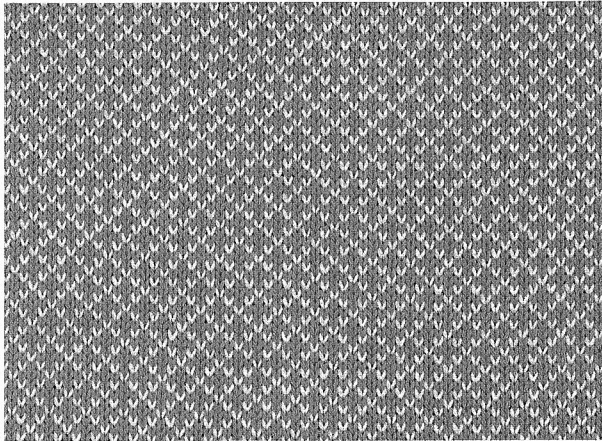


カードNo160

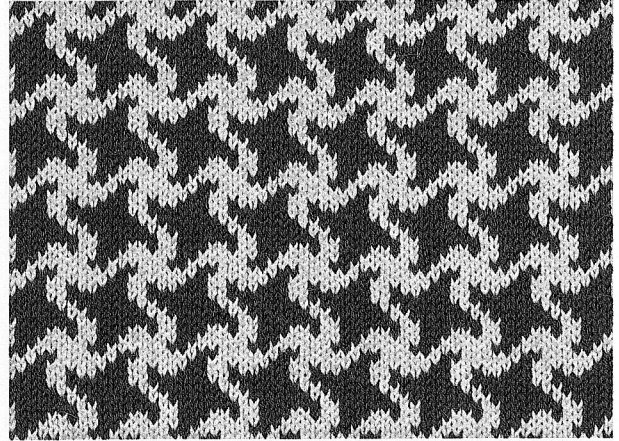


カードNo160

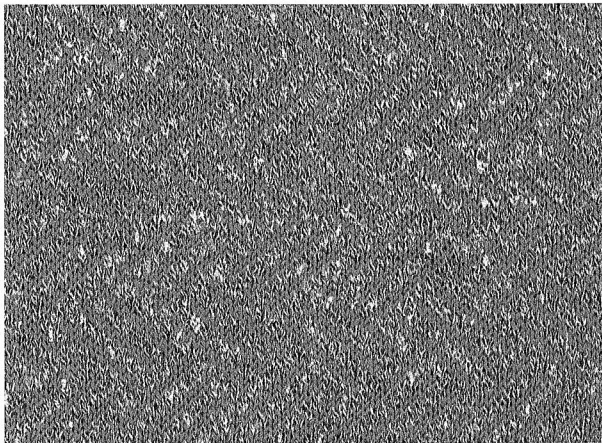
同時編込模様 利用できるカード：1a・2a・3a・4a・5a・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a・13a 編み方：41ページ



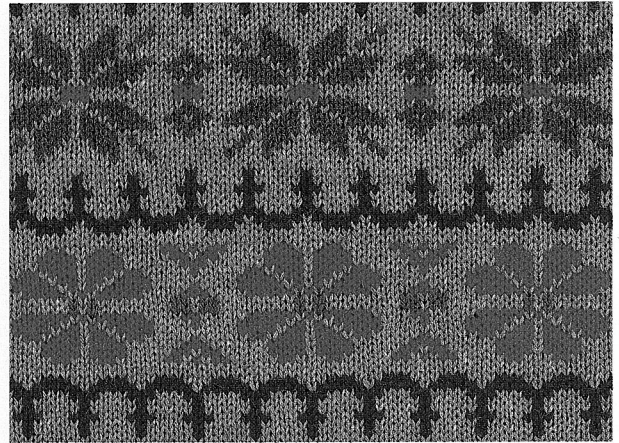
カードNo.3a



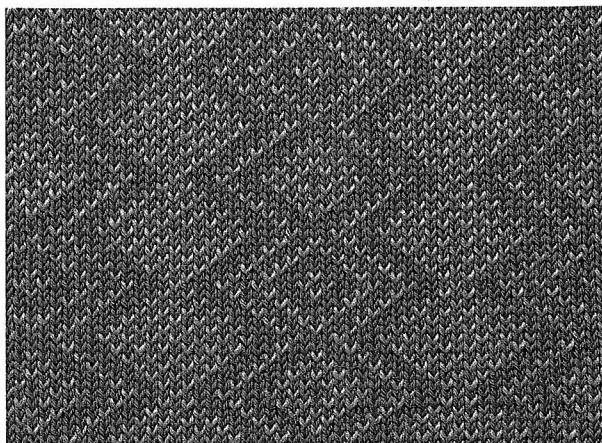
カードNo.4a



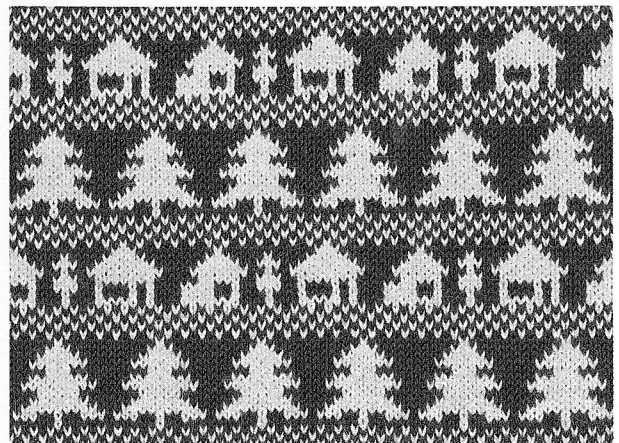
カードNo.5a



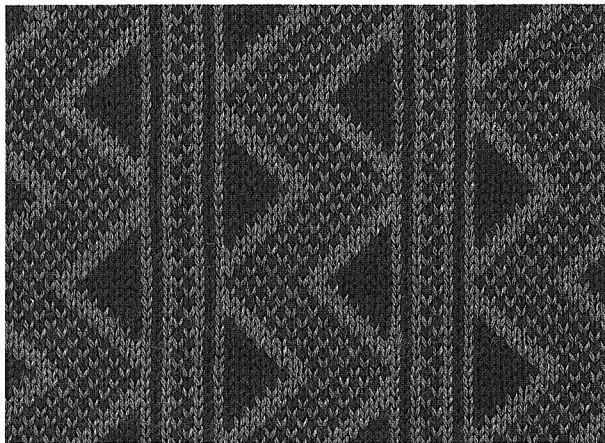
カードNo.6a



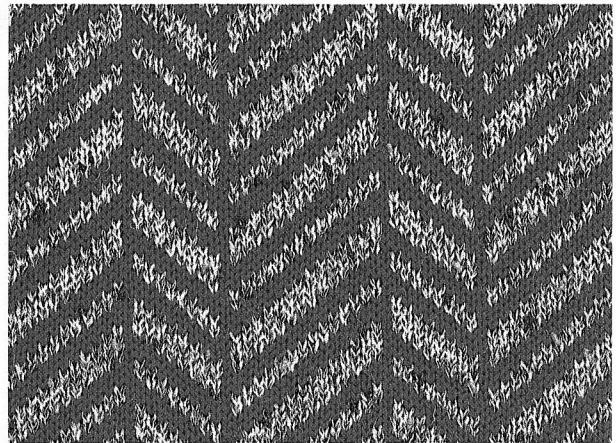
カードNo.8a



カードNo.9a

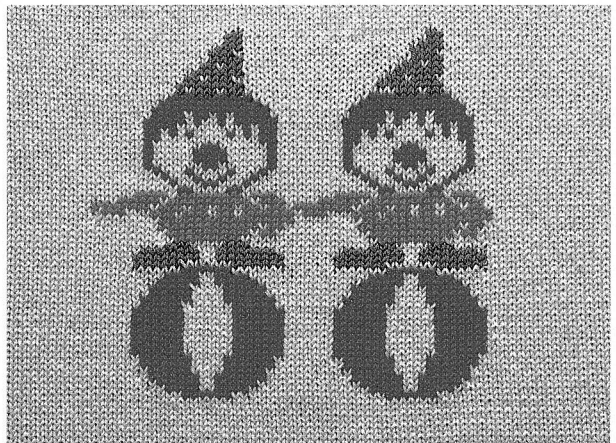


カードNo10a



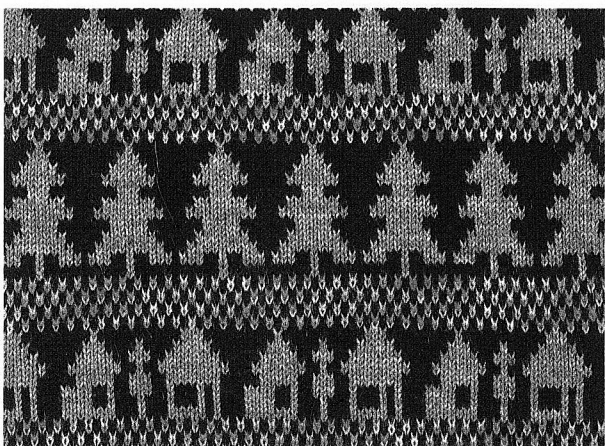
カードNo12a

ポイント・同時編込模様 利用できるカード：No13a, 同時編込模様のカードも利用できます。編み方：43ページ

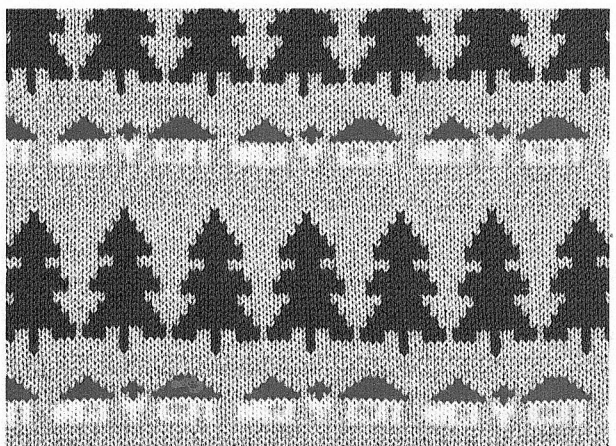


間欠送り模様 利用できるカードは同時編込模様と同じです。

編み方：47ページ



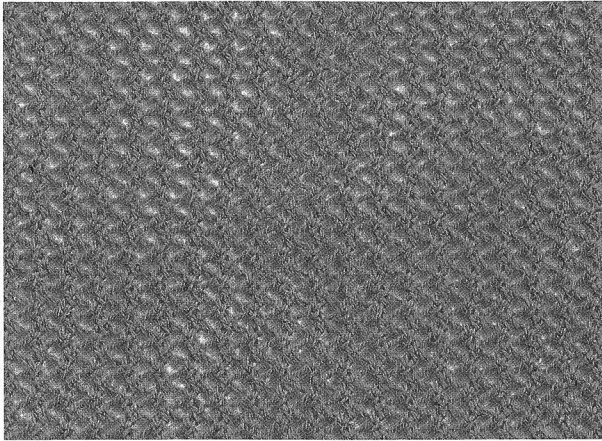
カードNo9a
〈間欠送り使用〉



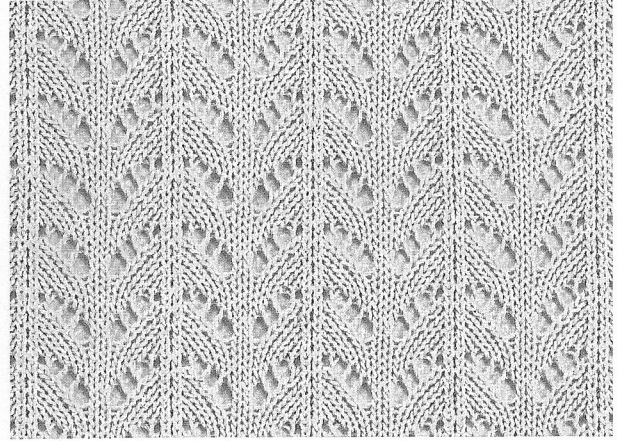
カードNo9a
〈間欠送りを部分的に使用〉

レース模様 利用できるカード：17Q・18Q・19Q・20Q

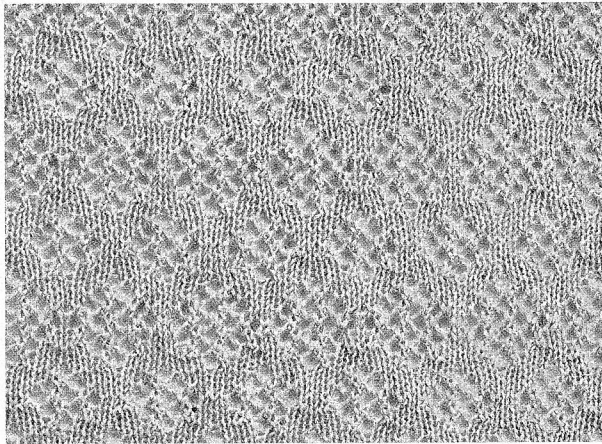
編み方：53ページ



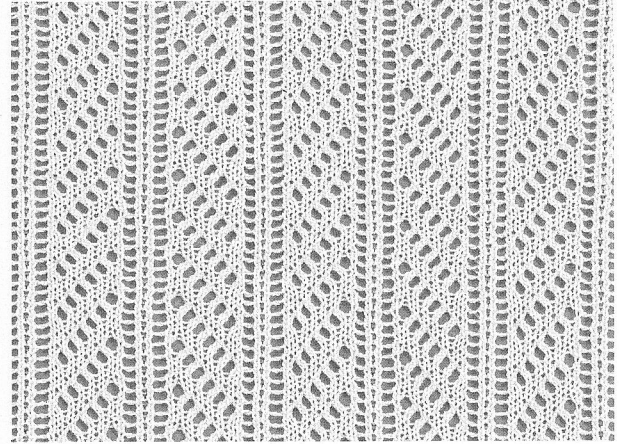
カードNo17Q



カードNo18Q



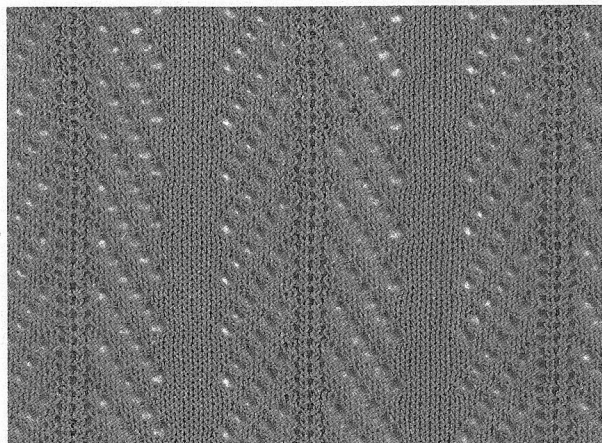
カードNo19Q



カードNo20Q

ポイント・レース模様 利用できるカードは、レース模様と同じです。

編み方：57ページ



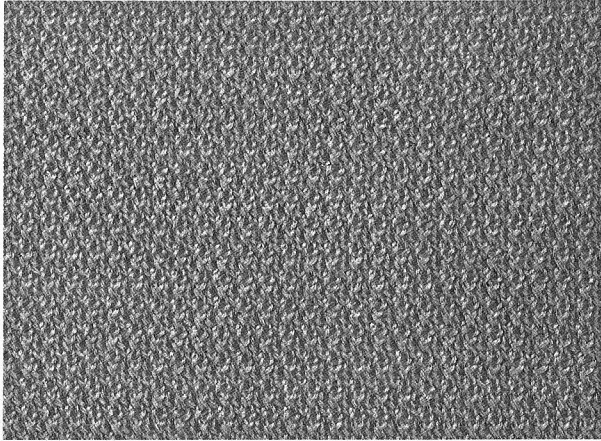
カードNo20Q
〈Lポイントカム4使用〉



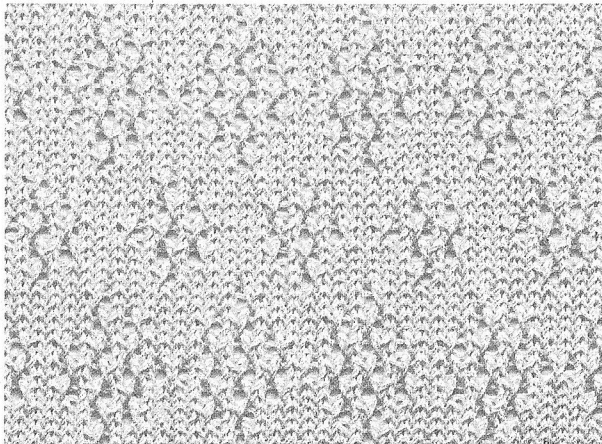
カードNo20Q
〈Lポイントカム8使用〉

タックレース模様 利用できるカード：17a・19a・20a

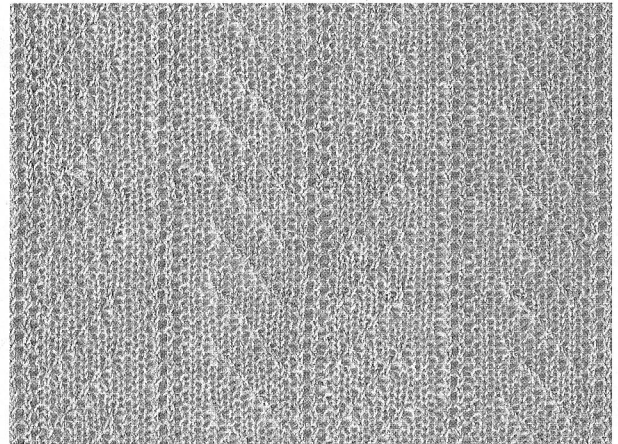
編み方：53ページ



カードNo17a



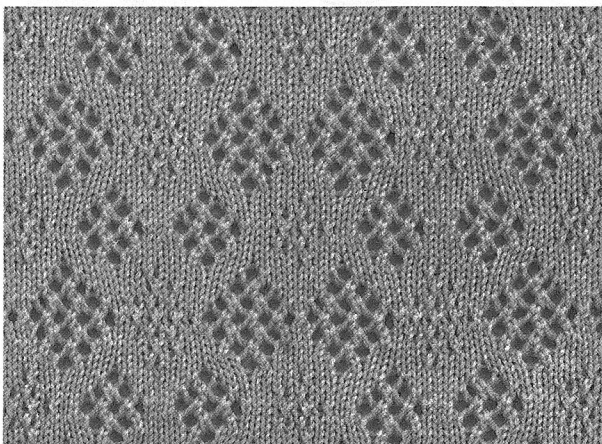
カードNo19a



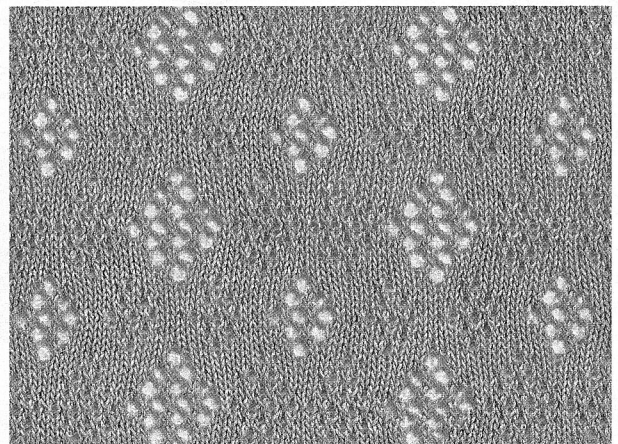
カードNo20a

レース・タックレース混合模様 利用できるカード：No19a

編み方：56ページ



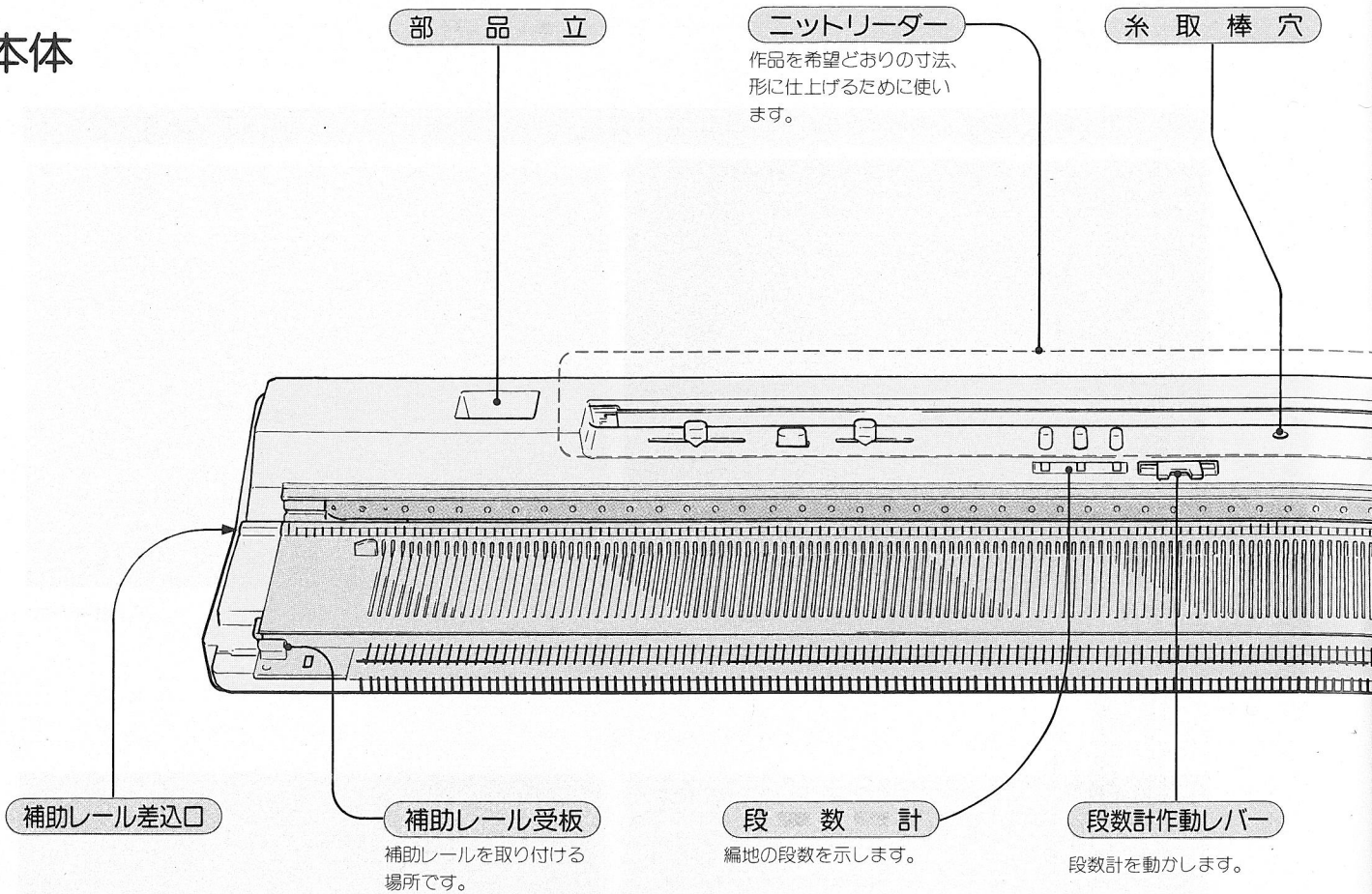
カードNo19a
〈レースから編み始めた場合〉



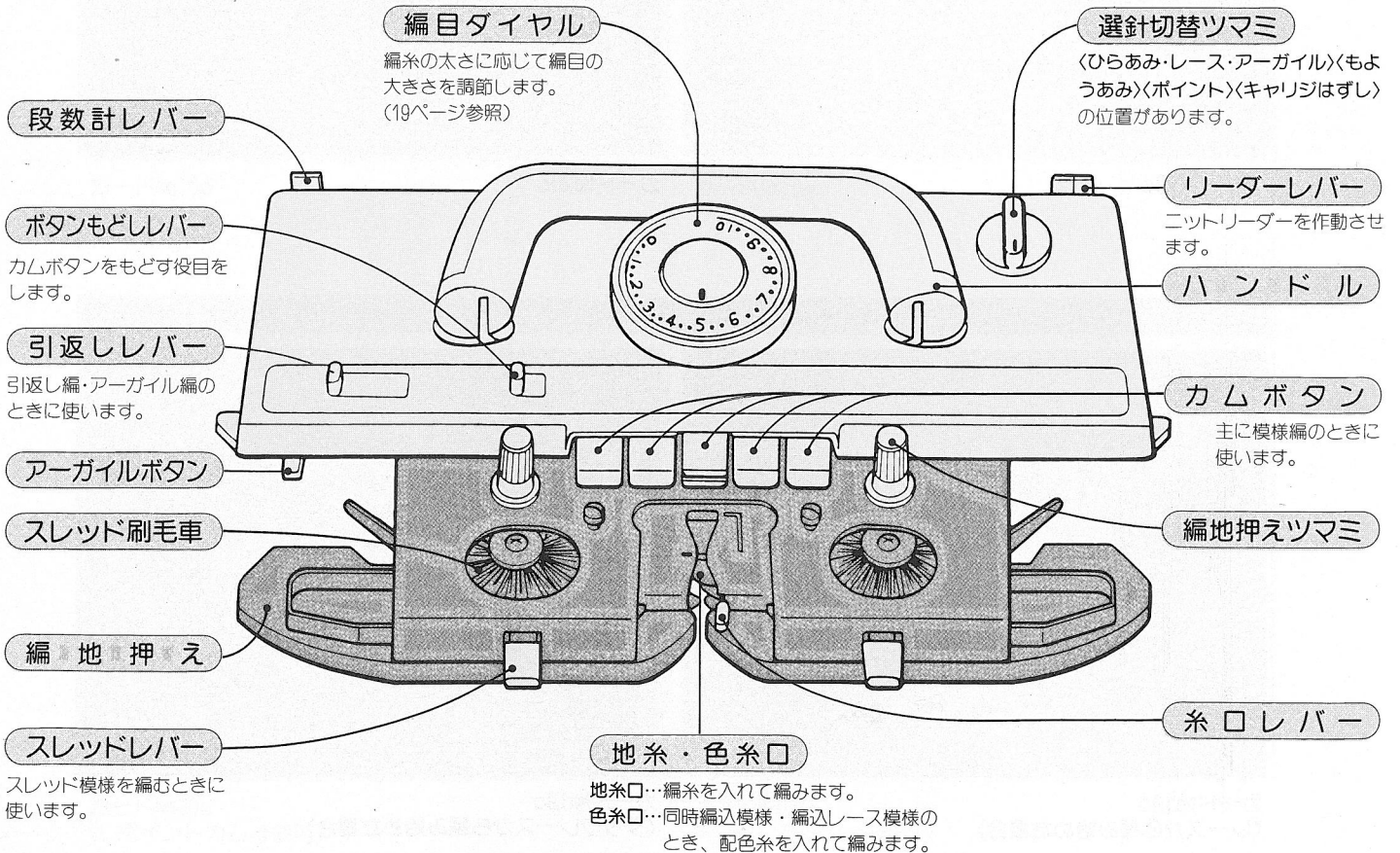
カードNo19a
〈タックレースから編み始めた場合〉

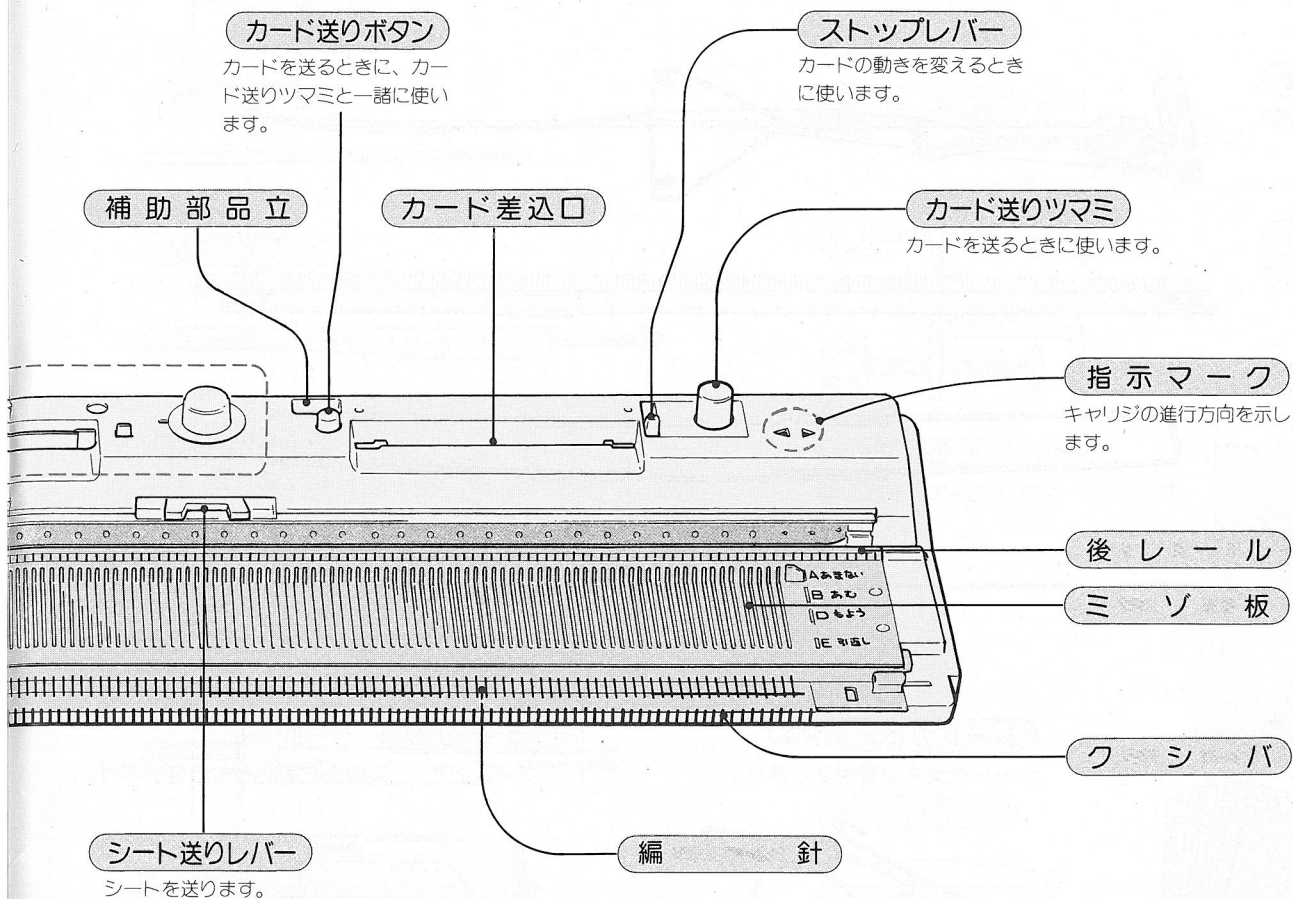
各部の名称とはたらき

● 本体

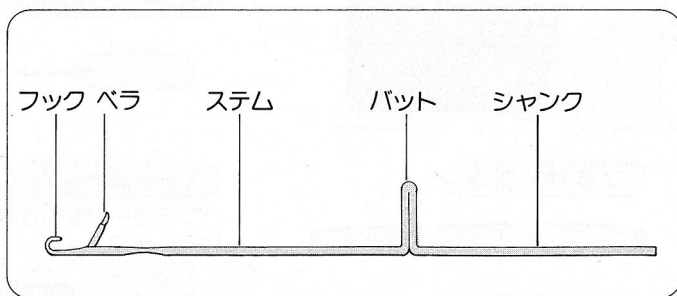


● Kキャリジ

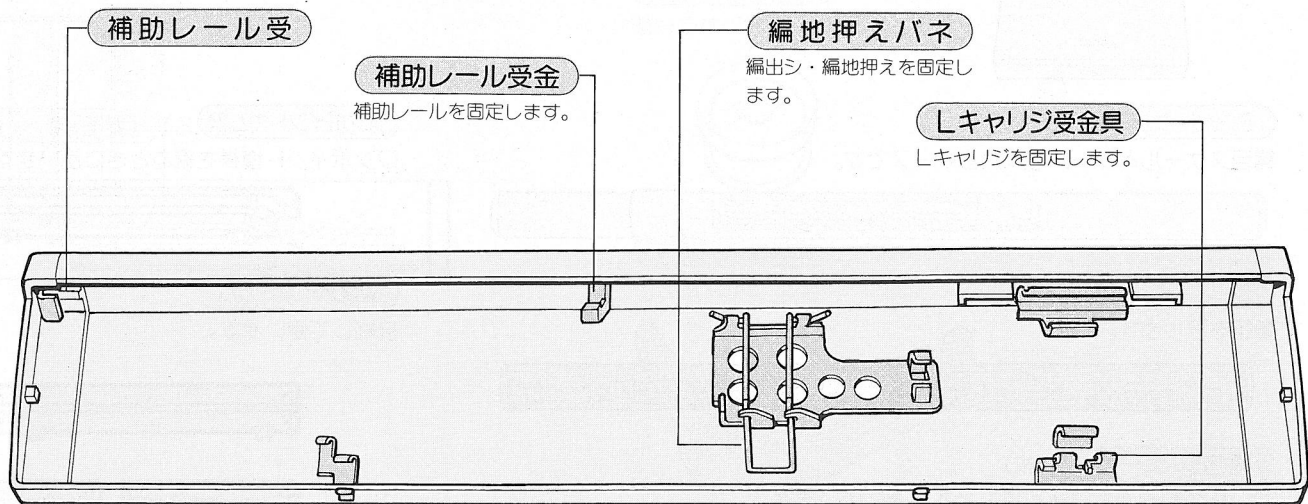




● 編針



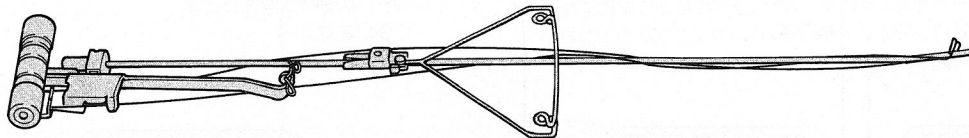
● ケース



● 付属品

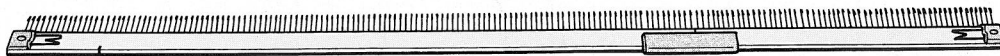
糸取装置

編糸の供給を自動的に調節します。



編出シ

編み始めを行うときに使います。



補助レール

キャリジ落下防止の役目をします。

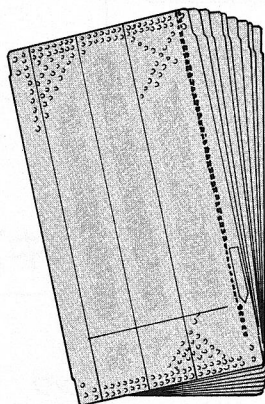


トジワイヤー

ミシン縫製するとき、編地の端をかがるのに使います。

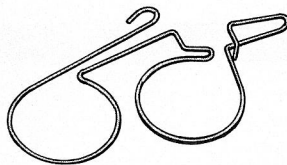


パンチカード (20枚)



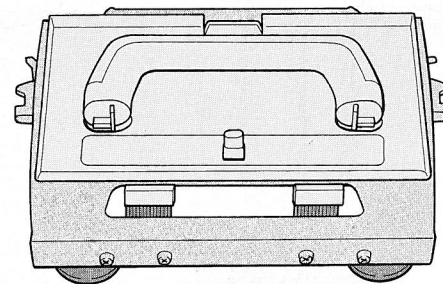
シートガイド (2本)

シートを支える役目をします。



L キャリジ

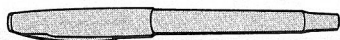
レース・タックレース模様を編むときに使います。



名札

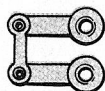


ブラザーペン



カードスナップ (4個)

パンチカードをつなぎ合わせるときに使います。



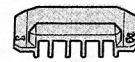
L ポイントカム

L キャリジで、ポイントレース模様を編むときに使います。

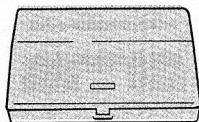
4針用
(6個)



8針用
(6個)

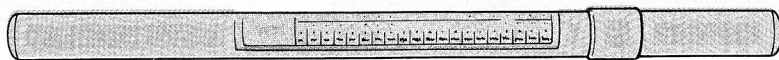


部品箱



シートケース

編目スケールとシートを入れるケースです。



シート

製図を写します。



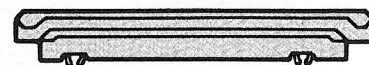
編目スケール (30枚)

シートの製図から目数を読みとるときに使います。



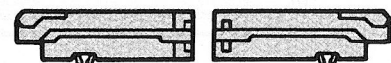
ワンポイントカム24

ワンポイント模様を編むときに使います。



連続ポイントカム

接続して使います。



L(1本)

R(1本)

カギ針



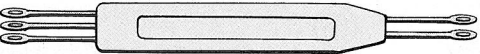
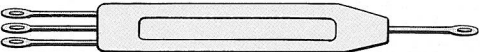
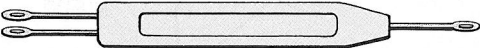
タッピ

ゴム編などに使います。



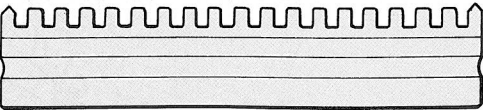
ウツシ(1×2、1×3、2×3)

減らし目、増し目などをするときに使います。



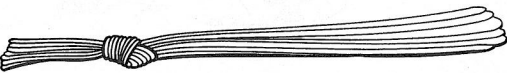
模様板(0×1)

おもに編針を出すときに使います。



抜き糸

捨て編をするときなどに使います。

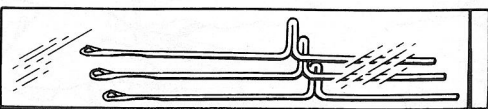


トジ針 (編針といっしょに入っています)

編地をとじたり、はいだりするときなどに使います。

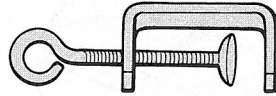
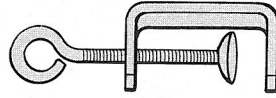


編針(予備) (3本)



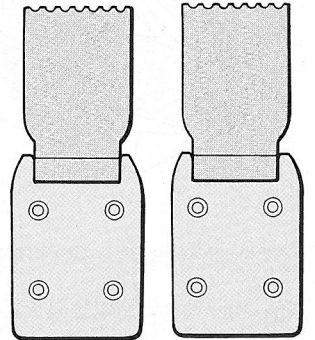
取付金具 (2個)

編機をテーブルに固定するときに使います。

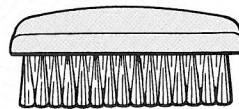


カラーウェイト (2個)

模様編を編むときに使うオモリです。

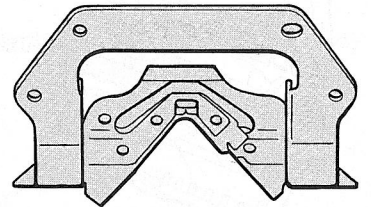


手バケ

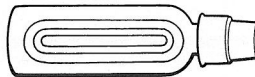


添え糸用糸口

添え糸編のときに使います。



手入れ油



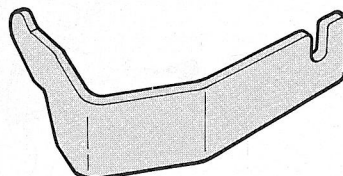
パラフィン (ケース付)

編糸のすべりをよくします。



キャリジ止め金

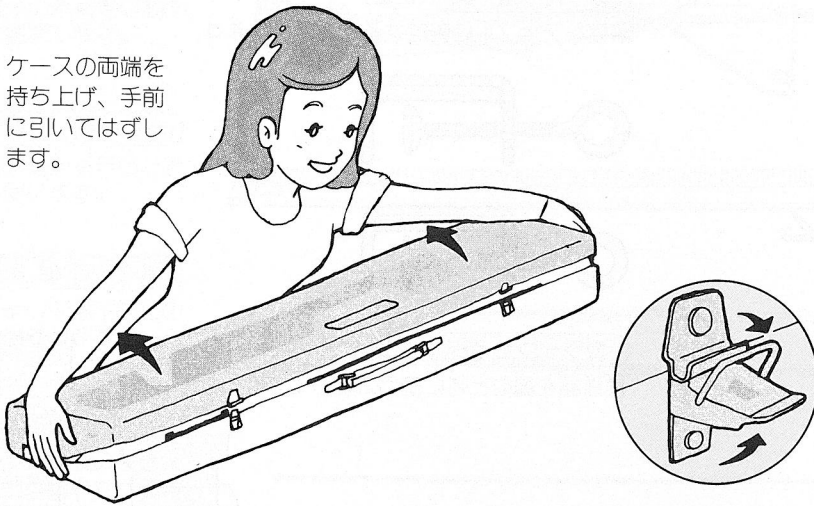
Kキャリジを本体に固定するために使います。



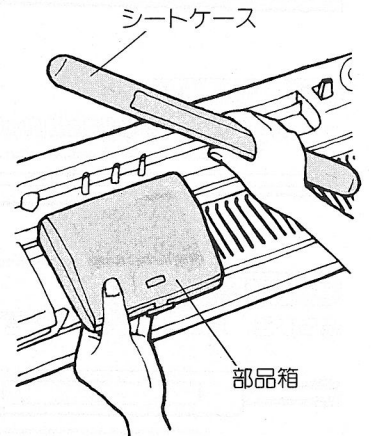
編機の組み立て方

- ① 取っ手を向こう側にして置き、錠前をはずします。

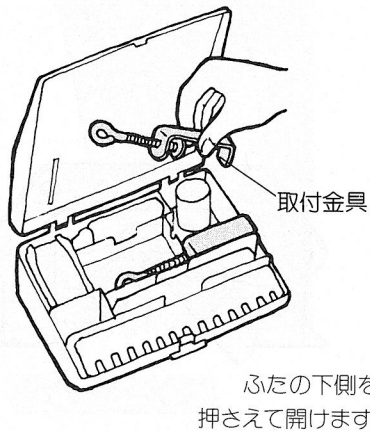
ケースの両端を持ち上げ、手前に引いてはずします。



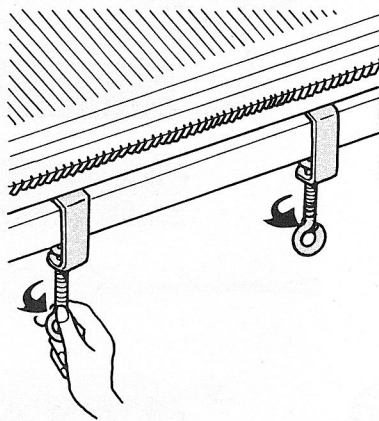
- ② シートケースと部品箱をはずします。



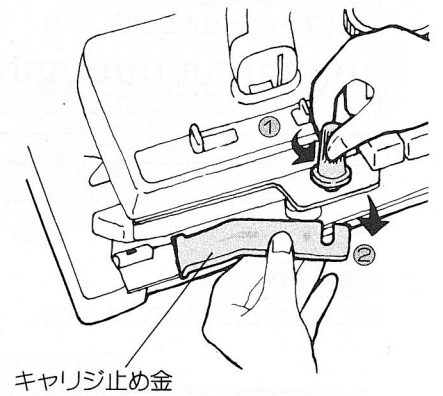
- ③ 部品箱から取付金具を2個、取り出します。



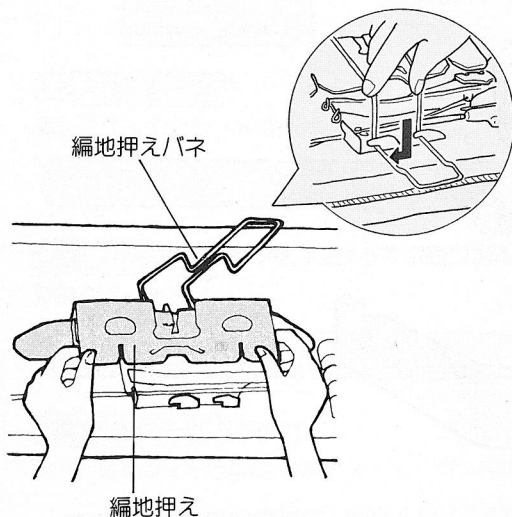
- ④ 取付金具で、編機をテーブルに固定します。



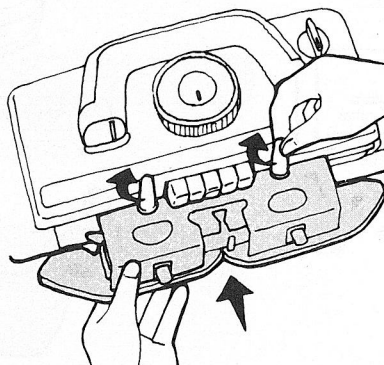
- ⑤ Kキャリジの編地押えツマミをゆるめ、キャリジ止め金をはずします。



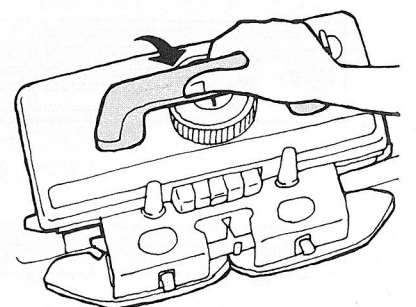
- ⑥ ケース内側の編地押えパネを開き、編地押えを取り出します。



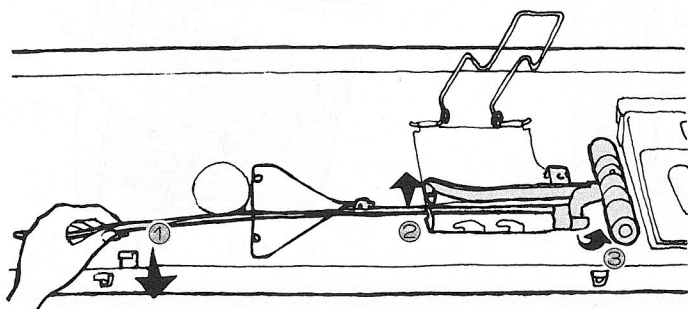
- ⑦ 左右のツマミをゆるめ、編地押えをいっぱい差し込み締め付けます。



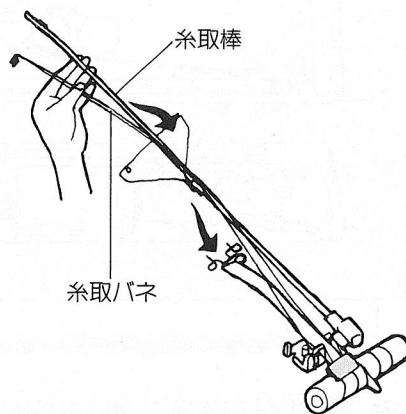
- ⑧ ハンドルを起こします。



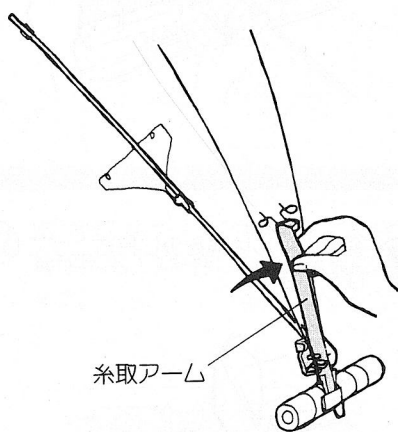
⑨ ①・②・③の順に、糸取装置をはずします。



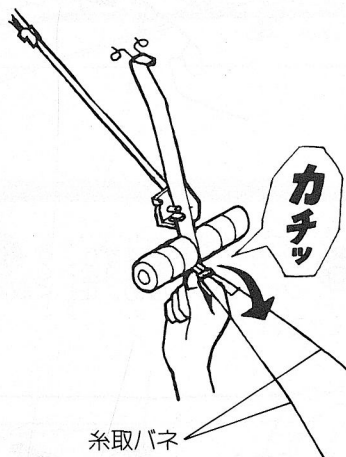
⑩ 糸取棒から、糸取バネをはずします。



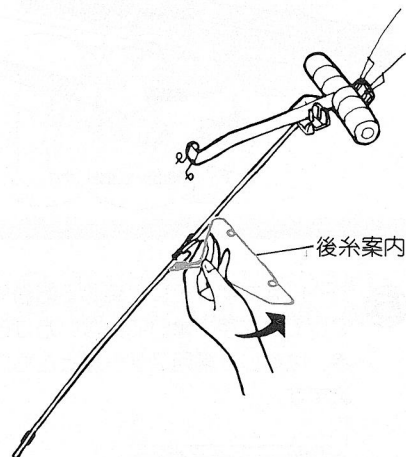
⑪ 糸取アームを止まるまで上げます。



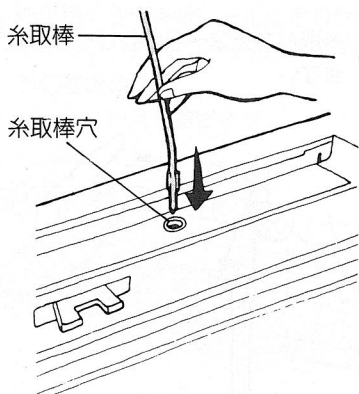
⑫ 糸取バネの根元を持ち、カチツと音がするまで持ち上げます。



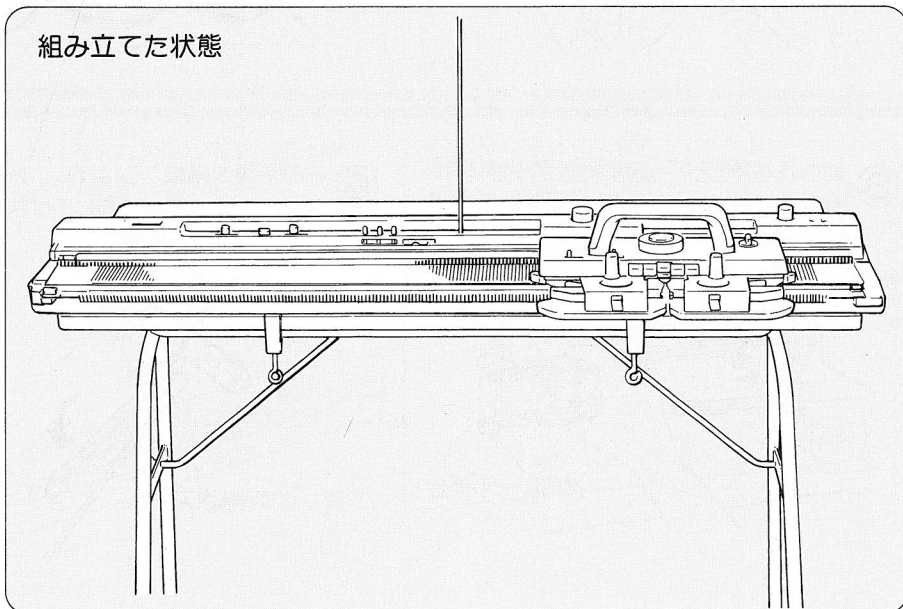
⑬ 後糸案内を持ち上げます。



⑭ 糸取棒を、糸取棒穴に差し込みます。

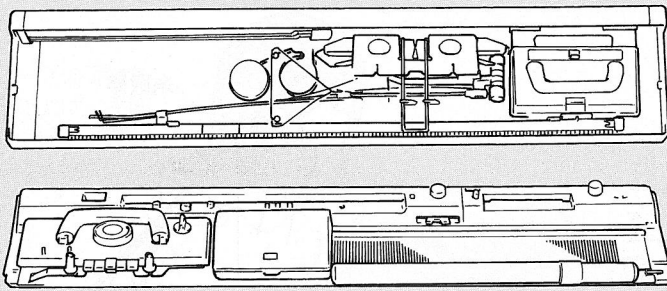


組み立てた状態

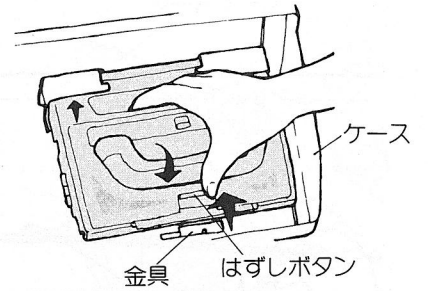


編機のしまい方

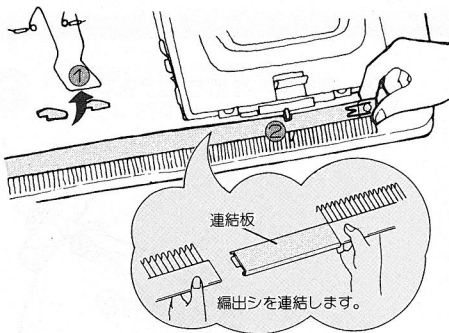
収納状態 ケース内側に表示してある番号順に収めます。



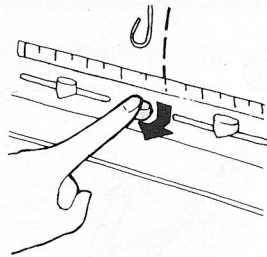
- ① シヤリジのハンドルをたおして絵の上に正しくのせ、はずしボタンを押して金具にかけます。



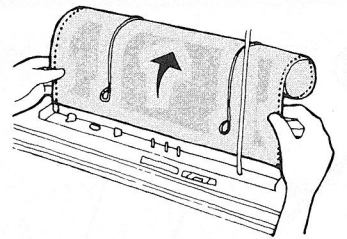
- ② 編地押えバネを開き、編出シの糸カケを上にして切り欠き部を金具にはめ、正しく置きます。(左の金具にもはめます。)



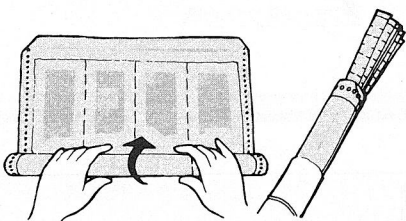
- ③ クラッチボタンをいっぱい押し、手前に引いてロックします。



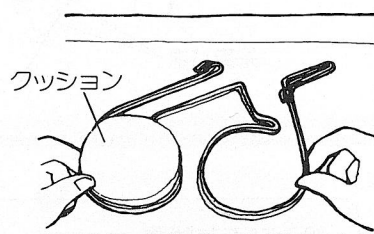
- ④ シートを抜き取ります。



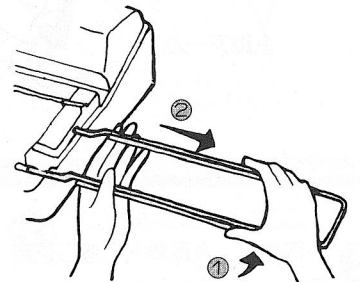
- ⑤ シートは文字が正しく読める方を外側にして、文字の書いていない方から巻き、はずした編目スケールとともに収めます。



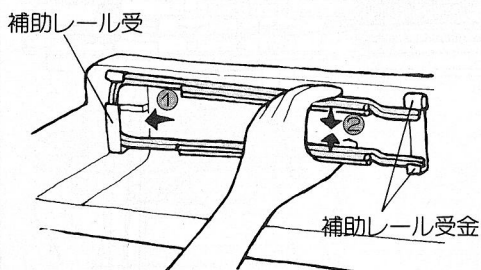
- ⑥ シートガイドをはずし、ケースのクッションにはめ、正しく収めます。



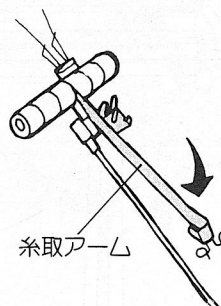
- ⑦ 補助レールは端を少し持ち上げてはずします。



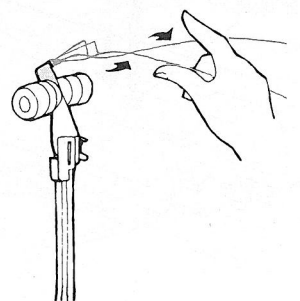
- ⑧ 輪の方を補助レール受にはめ、先端をせばめて補助レール受金にかけます。



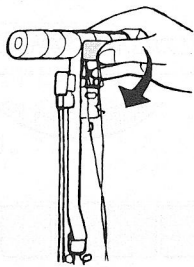
- ⑨ 糸取装置を編機からはずし、糸取アームを止まるまで押し下げます。



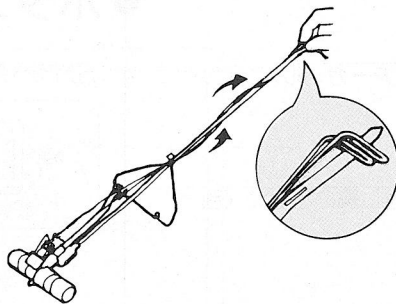
- ⑩ 糸取バネを2~3回ねじり合わせます。



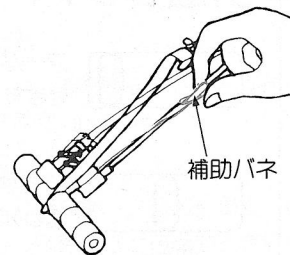
⑪ 糸取バネの根元を持ち、止まるまで押し下げます。



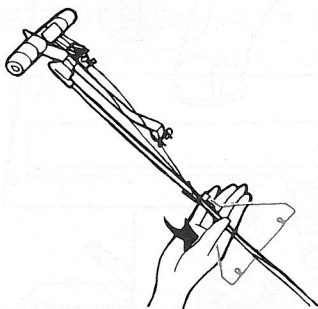
⑫ 糸取バネを糸取棒に2~3回巻き付け、先端をひっかけます。



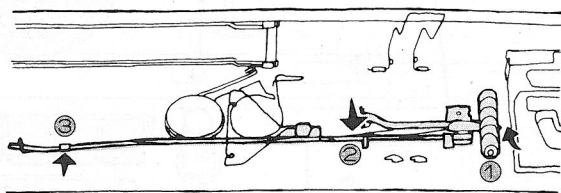
⑬ 補助バネを糸取棒にはめます。



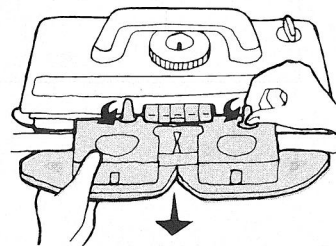
⑭ 後糸案内を、つかえるまで押し下げます。



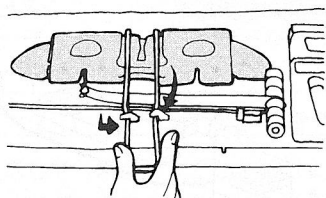
⑮ 糸取装置を①・②・③の順にケース金具にはめます。



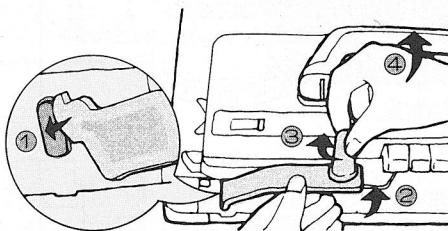
⑯ Kキャリジの左右の編地押えツマミをゆるめ、編地押えはずします。



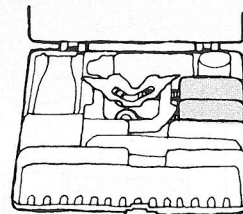
⑰ 編地押えをケースの中に正しく置き、編地押えバネを押しつけ、金具にかけます。



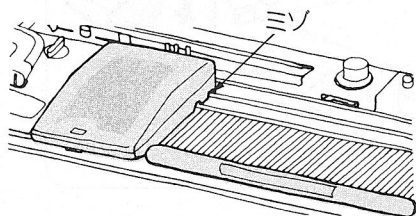
⑱ キャリジ止め金を取り付け、ハンドルをたおします。



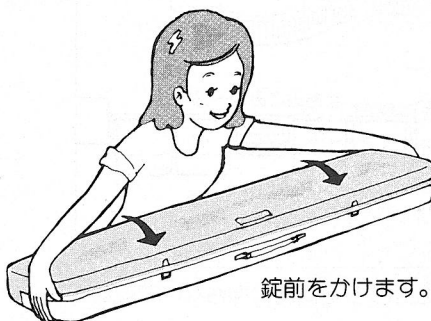
⑲ 取付金具をテーブルからはずし、他の部品とともに部品箱に収めます。



⑳ 部品箱のミゾを後レールに合わせKキャリジの横にピッタリつくように置きます。シートケースを置きます。



㉑ ケースをななめにしてそのまま押しつけ、錠前をかけます。

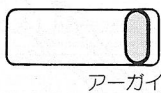


編機を次の状態で保管しないでください。

- 直射日光の当たるところ
- ヒーターの横のような高温なところ
- 湿度の高いところ



● 引返しレバー



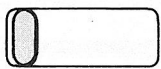
アーガイル編のときに「アーガイル」に合わせます。

アーガイル



アーガイル編以外の引返し編のときに「引返し」に合わせます。

引返し

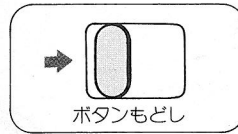


上記以外のときに「ひらあみ」に合わせます。

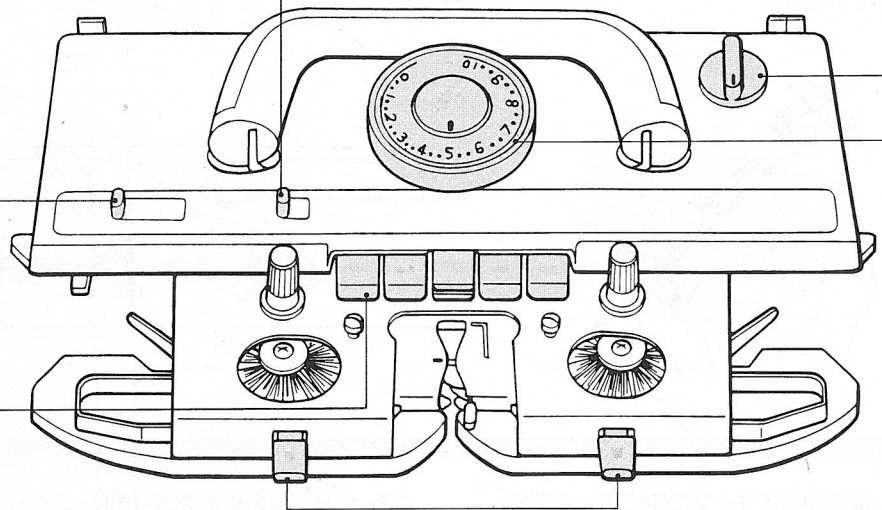
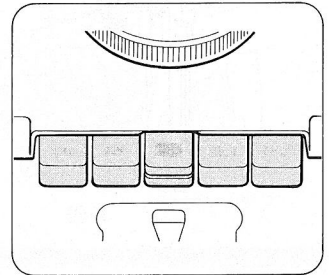
ひらあみ

● ボタンもどしレバー

右方向へ押すと、セットされたカムボタンがもどります。

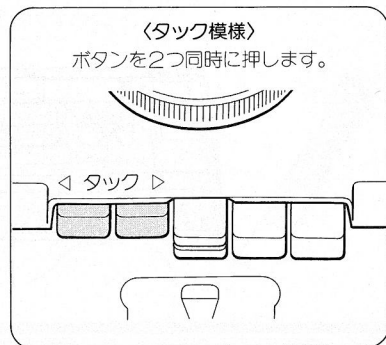


ボタンもどし



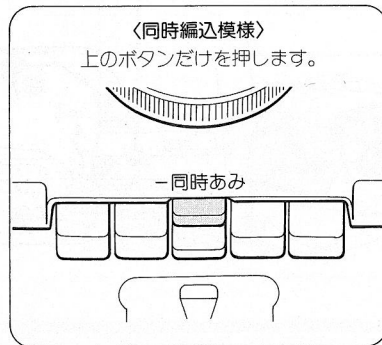
● カムボタン

模様編のときに使うボタンでいっぱい押すと押された位置でロック(止まる)します。2つのボタンを押すときには同時に押ししてください。



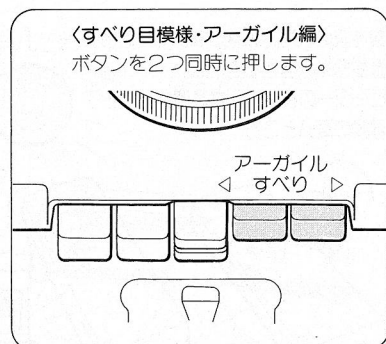
「タック模様」
ボタンを2つ同時に押します。

◀ タック ▶



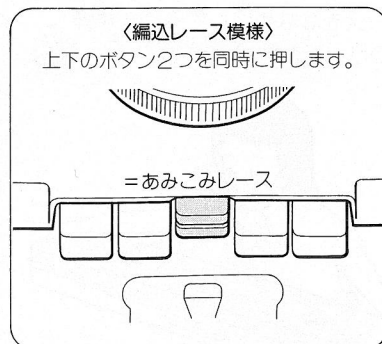
「同時編込模様」
上のボタンだけを押します。

— 同時あみ



「すべり目模様・アーガイル編」
ボタンを2つ同時に押します。

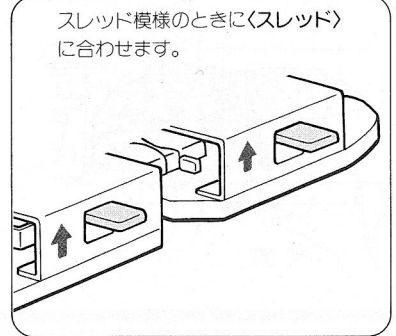
アーガイル
◀ すべり ▶



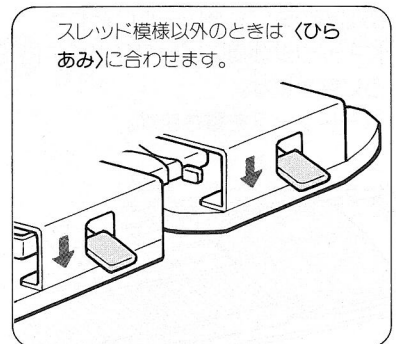
「編込レース模様」
上下のボタン2つを同時に押します。

= あみこみレース

● スレッドレバー



スレッド模様のときに「スレッド」に合わせます。



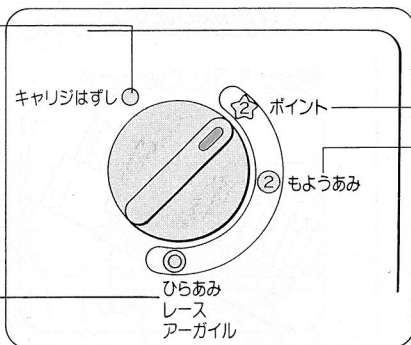
スレッド模様以外のときは「ひらあみ」に合わせます。

※カムボタンの「あみこみレース」と他のカムボタンを同時に押さないでください。

● 選針切替ツマミ

キャリジはずし

編地の途中でキャリジ
ジをはずすときに合
わせます。



☆ ポイント

ワンポイントカム24、連続ポイントカムを用いて
編むときに合わせます。

② もようあみ

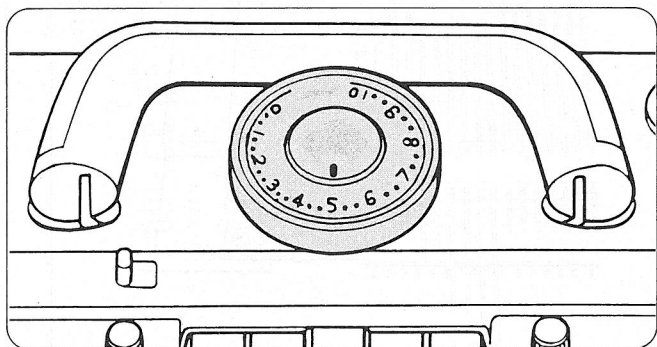
タック模様、すべり目模様、スレッド模様、同時
編込模様、編込レース模様などを編むときに合
わせます。

ひらあみ・レース アーガイル

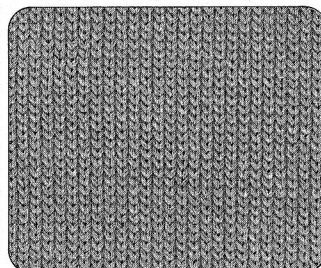
平編・レース模様・
アーガイル編を編む
ときに合わせます。

☆選針切替ツマミが<もようあみ②>か<ポイント☆>になっ
ているときは、選針切替ツマミを<ひらあみ・レース・アーガイル>
にセットするだけで押されているカムボタンは、自動的にもど
ります。

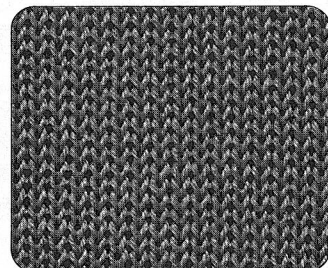
● 編目ダイヤル



編糸に応じて、編目の大きさを調節する役目をします。数字が大
きくなるほど、編まれる編目は大きく(あらく)なります。編糸に
応じて、ダイヤルの数字または・印をダイヤル中央部のキャップ
についている！印に合わせます。



●ダイヤルの数字を小さく合
わせたとき



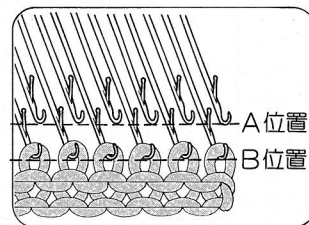
●ダイヤルの数字を大きく合
わせたとき

平編のときの標準編目ダイヤル

編糸タイプ	編目ダイヤル
極細	0 ~ 3
合細	3 ~ 5
中細	4 ~ 6
合太	7 ~ 10
並太(1目針抜き)	4 ~ 6

※1目針抜きとは

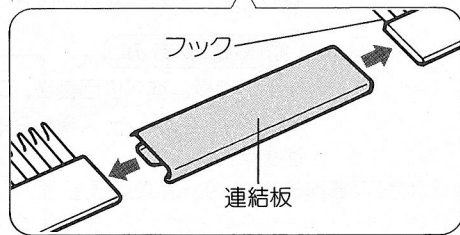
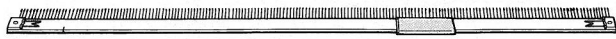
右図のように編針を1本おき
に、A位置に下げた状態で編
むことをいいます。
並太タイプなどを編む場合に、
風合いよく編むことができま
す。



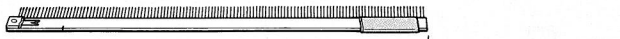
● 編出シ

連結板をはずして140目、60目の長さにも使い分けることができます。

● 200目



● 140目

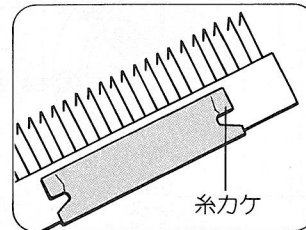


● 60目



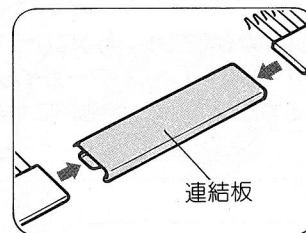
連結板の使い方

編出シを分けて使うとき



連結板を糸カケとして使用しますので、糸カケを手前にして編出シからはみ出さないように付けます。

編出シを連結して使うとき

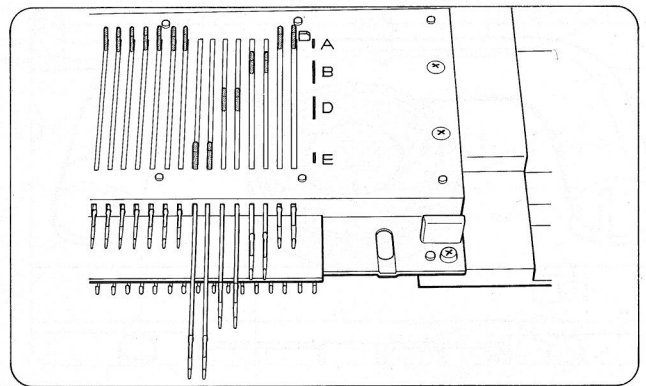


連結板で図のように糸カケをむこうにして連結します。

● 編針の位置

編機は、編針の位置によっていろいろな編み方ができます。その編針の位置をミソ板の左右の端に、A・B・D・Eの文字で示してあります。

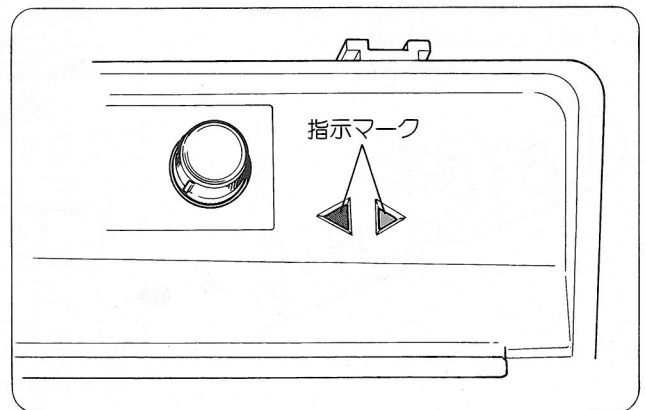
- A. あまない位置……キャリジを操作しても編めません。
- B. あむ位置……普通はこの位置で編みます。
- D. もよう位置……模様編の場合の選針位置です。
- E. 引返し位置……引返し編に使う位置です。



● 指示マーク

模様編のときに指示マークが作動し、キャリジの進行方向を示す◀▶(ピンク色)のサインが出ます。

- ▶◀……K(L)キャリジが右へ進んでいるとき
- ◀▶……K(L)キャリジが左へ進んでいるとき

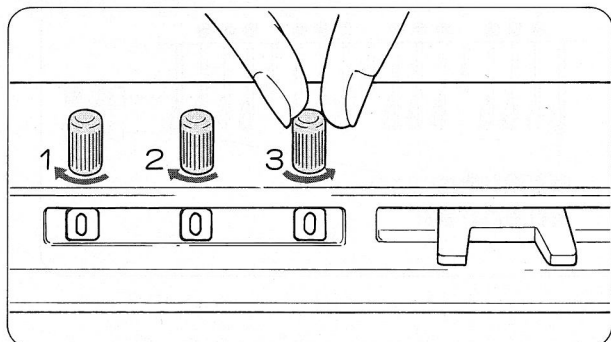


● 段数計

Kキャリジの操作によって編まれる段数を数字で知ることが出来る装置です。

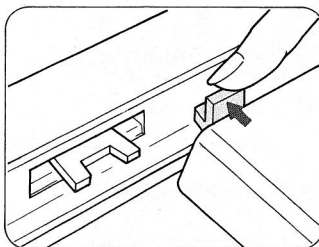
数字をセットするには、ツマミを回して行います。

0000にセットするときは、左側のツマミから順に段数計の矢印にしたがって合わせます。

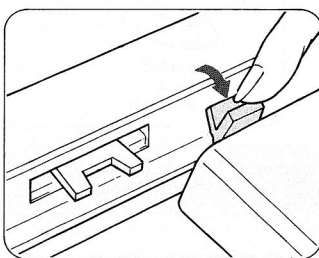


● 段数計を使うときは、Kキャリジ左側後方の段数計レバーを下げてください。必要のないときは上げておいてください。

段数計を使うとき



段数計を使わないとき

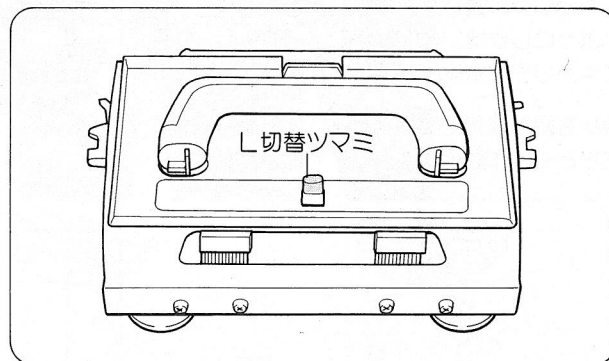


● Lキャリジ

Lキャリジは、自動的に選針し、目移しを行いレース目・タックレース目を作ります。

L切替ツマミ

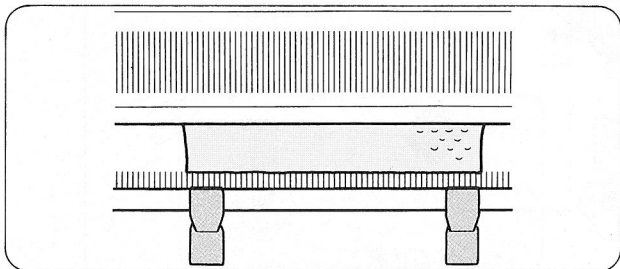
- レース模様を編むときに<レース>に合わせます。
- タックレース模様を編むときに<タックレース>に合わせます。



● カラーウェイト

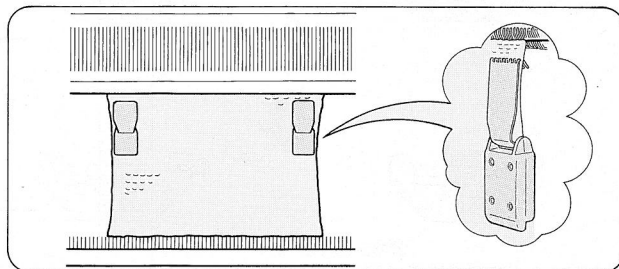
カラーウェイトは、編地の下がりをよくするために使用します。

● 通常、編出しにかけて使用します。



編地の幅に対して左右均等にかけます。

● 編地の両端の下がりが悪い場合、直接編地にかけて使用します。

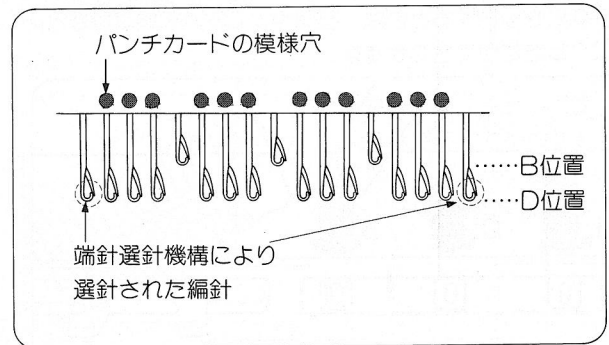
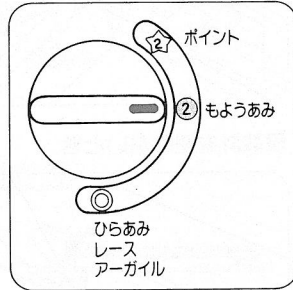


編み進むにしたがって、20段おきくらいに上にかけて替えます。

● Kキャリジの端針選針機構

● 端針選針機構について

- パンチカードの模様穴に関係なく、編地の両端の編針が自動的にD位置に選針されるので、端目が美しく編みあがります。
- 端針選針機構は、選針切替ツマミが〈もようあみ〉のときにはたります。

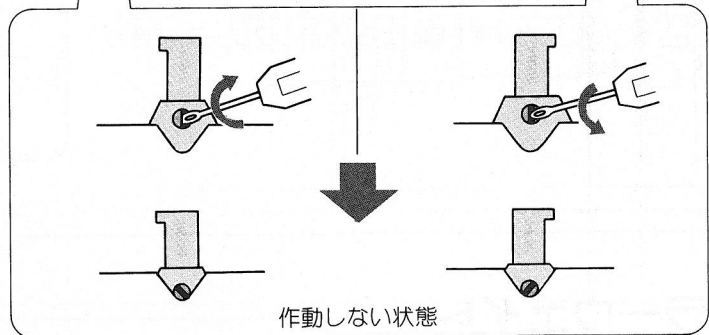
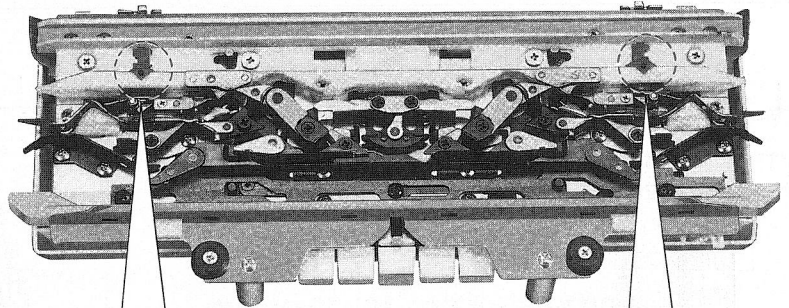


編込レース模様または針抜きで模様を編む場合

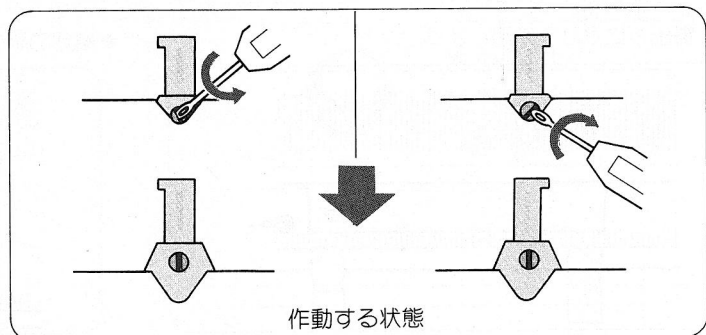
● 下記のように端針選針機構を作動しないようにします。

- ① 選針切替ツマミを〈もようあみ〉に合わせます。
- ② Kキャリジを本体からはずし、裏返します。
- ③ Kキャリジの端針選針機構を左右とも作動しないようにします。(右図参照)
- ④ Kキャリジを本体にもどして編み進みます。

※ 模様を編み終えたあとは、必ず端針選針機構を左右とも、作動するようにしておきます。



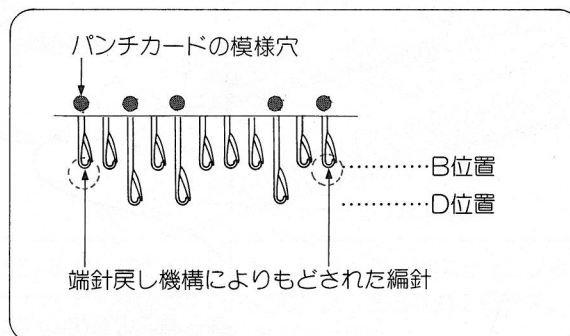
● 端針選針機構を作動させるには……



● Lキャリジの端針戻し機構

● 端針戻し機構について

編地の端目を保つため、両端の編針はパンチカードの様穴に関係なく、自動的にB位置にもどされます。



LキャリジとKキャリジの混合模様を針抜きで編む場合

● 下記のようにLキャリジの端針戻し機構と、Kキャリジの端針選針機構を作動しないようにします。

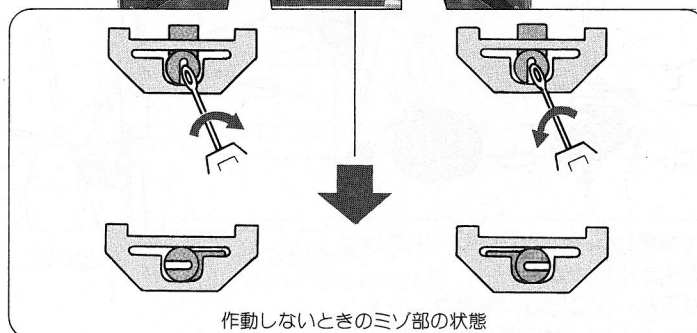
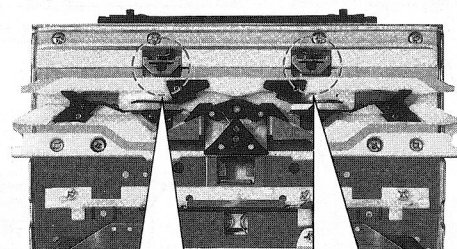
① LキャリジとKキャリジを本体からはずし、両方とも裏返します。

② Lキャリジの端針戻し機構を左右とも作動しないようにします。(右図参照)

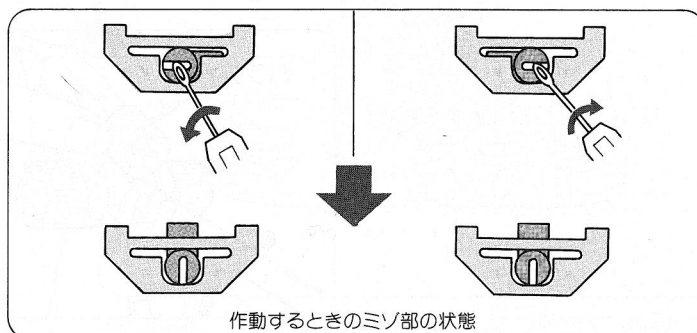
③ Kキャリジの端目選針機構を左右とも作動しないようにします。(22ページ参照)

④ それぞれの機構を作動しないようにしたら、LキャリジとKキャリジを本体にもどし、カードの指示に従って編み進みます。

※ 編み終えたあとは、必ず両キャリジの機構を左右とも、作動するようにしておきます。



● Lキャリジの端針戻し機構を作動させるには……

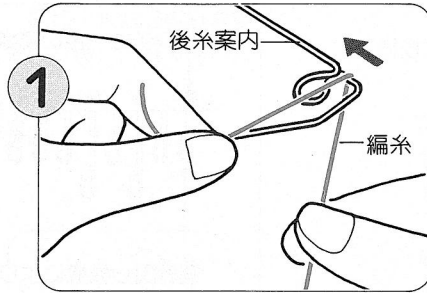


※ Lキャリジの端針戻し機構が作動しているときのみLポイントカムによる部分消しができます。

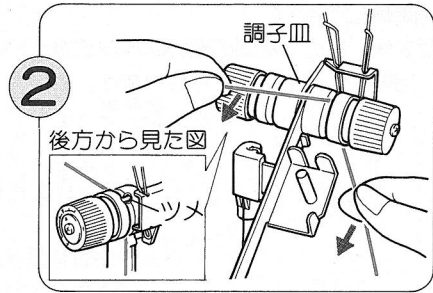
編機の基本操作

平編 平編を編む場合の操作は、編機を扱うときの基本操作となりますので、よく覚えてください。

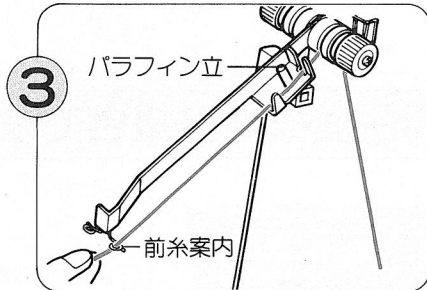
1. 編糸の通し方



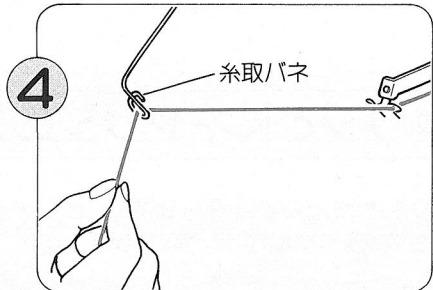
後糸案内の右側の穴に外側から編糸を通します。



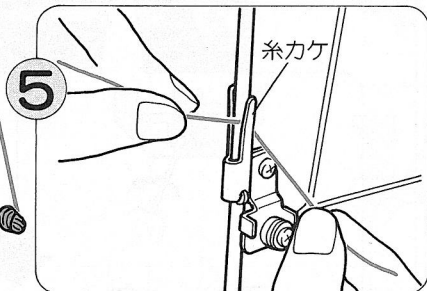
後方から、編糸をツメの内側に通し、調子皿にはさみます。
(上図のように糸を持ち、手前へ引けばツメの内側に糸が入ります。)



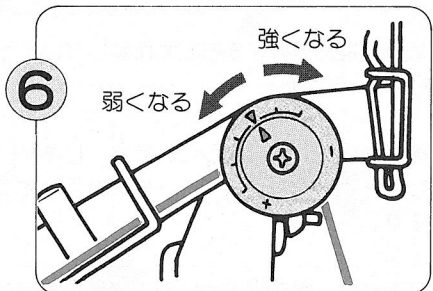
糸をパラフィン立の上から引き、前糸案内に通します。



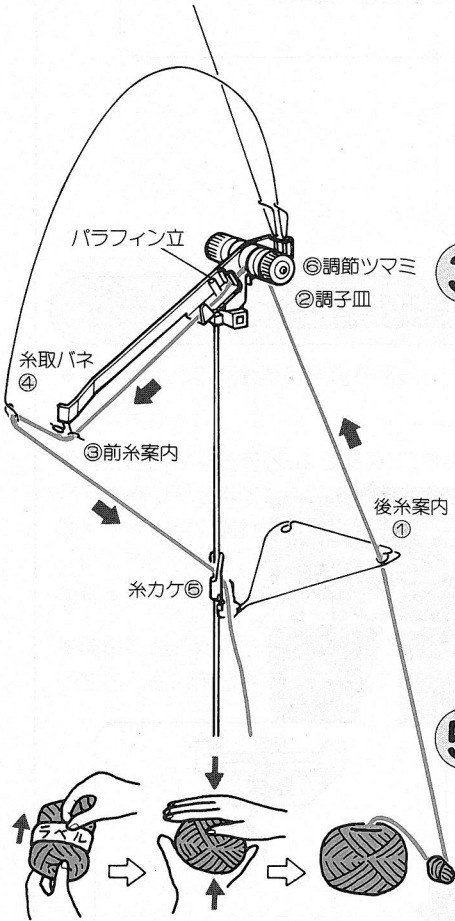
糸取バネに通します。



糸端を糸カケにはさみ込んで止めます。

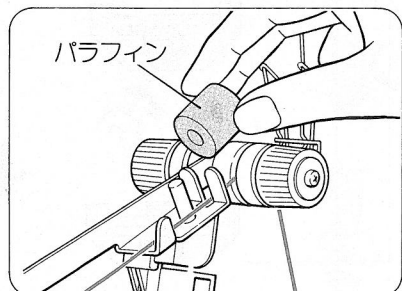


調節ツマミを、編糸に応じて調節します。+側に合わせると糸の引きが強くなり、-側に合わせると弱くなります。
※中細糸は▽印に合わせ、太糸は-側、細めの糸は+側にします。



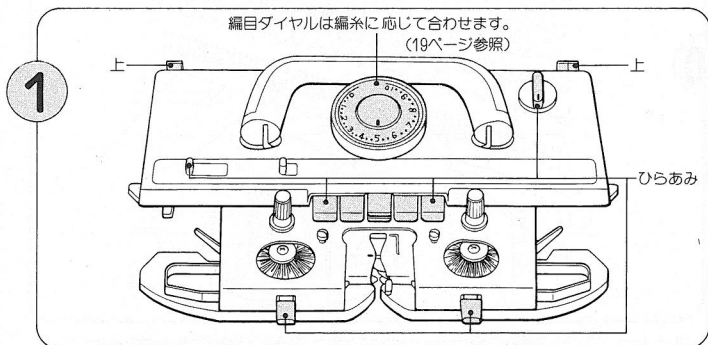
※ラベルが正しく読める状態で、中から編糸を引き出します。

※編糸がスムーズに出ない場合は、糸玉の中に指を入れ、中心部分をさらに引き出します。

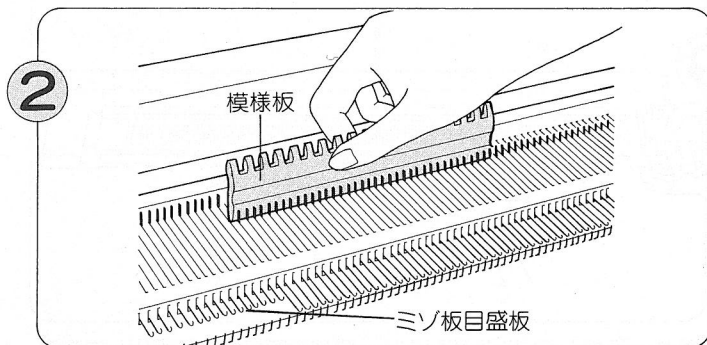


※糸のすべりが悪いときは、部品箱から、パラフィンを取り出して、パラフィン立に立ててください。

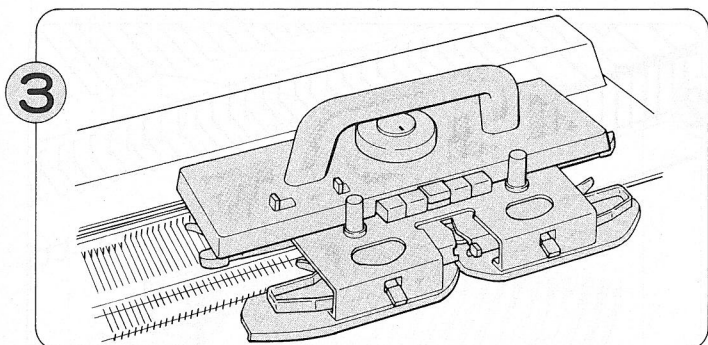
2. 編み始め方



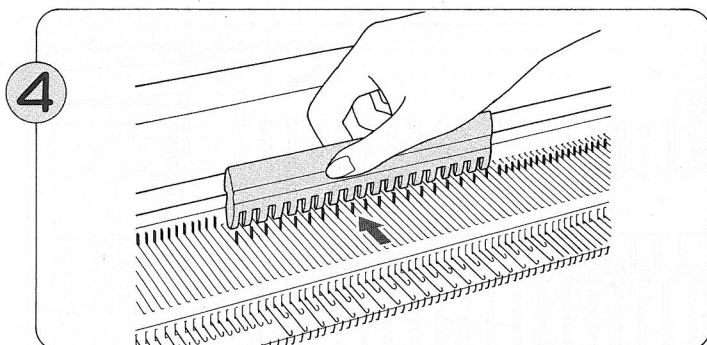
Kキャリジを図のように平編の状態にセットします。



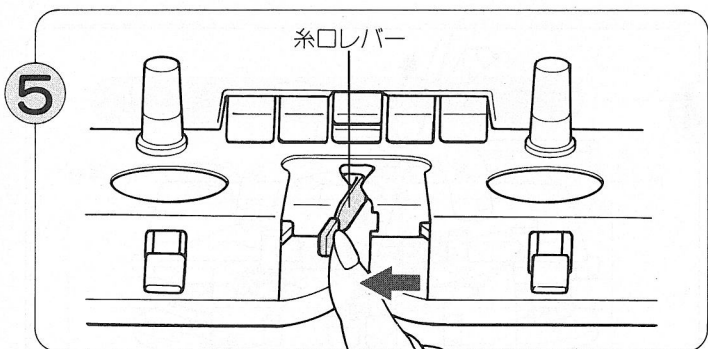
部品箱から模様板を取り出します。ミゾ板中心（ミゾ板目盛板についている目盛りの0の位置）から左右同数の編針を、模様板を使ってB位置（あむ位置）まで出します。



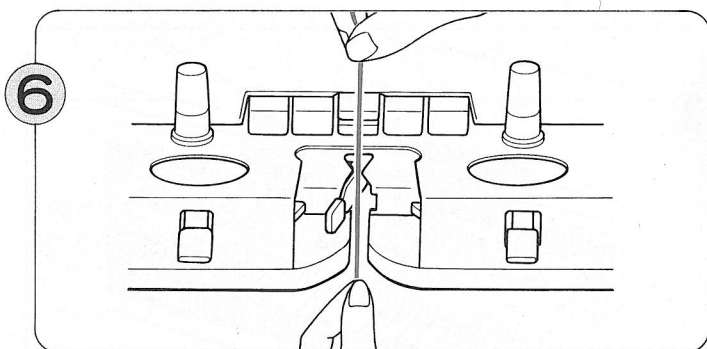
B位置に出した編針をそろえるため、Kキャリジを1~2回左右に動かし、ミゾ板の右側に置きます。



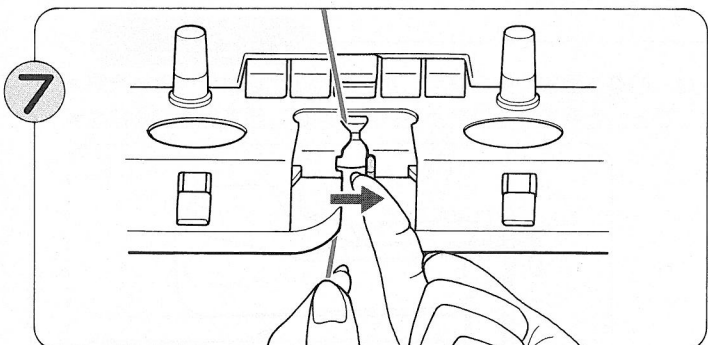
B位置に出した編針より左端の2本目の編針から、模様板の1/1側を使って1本おきにA位置に下げます。



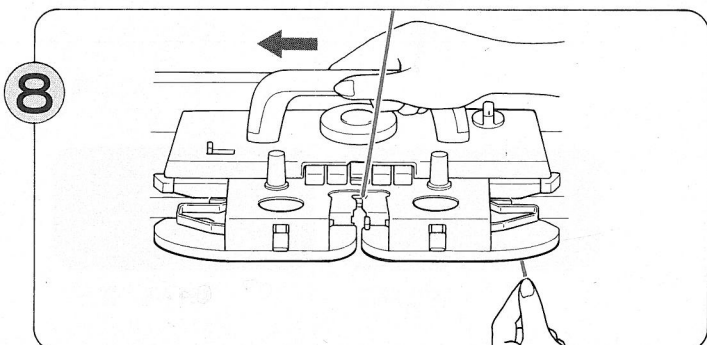
糸口レバーを左に開きます。



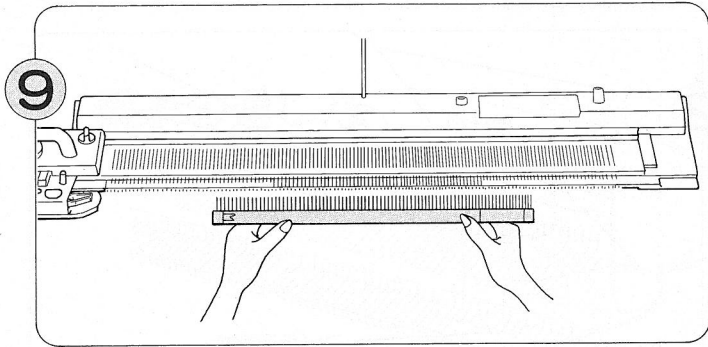
糸取装置に止めてある編糸をはずします。糸端を編地押えの下にして持ち、地糸口の奥に入れます。



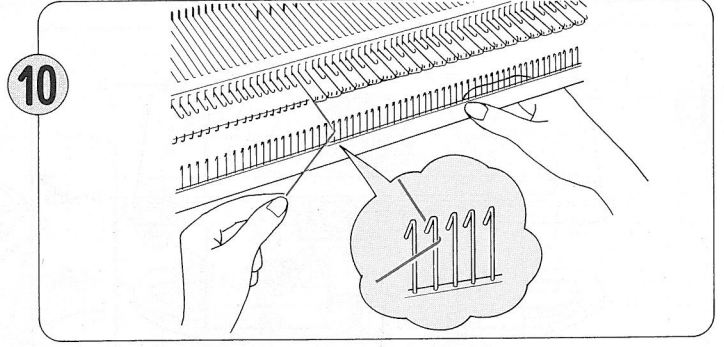
糸口に糸が入ったら、糸端を持ったまま、糸口レバーを右側（もとの位置）にもどします。



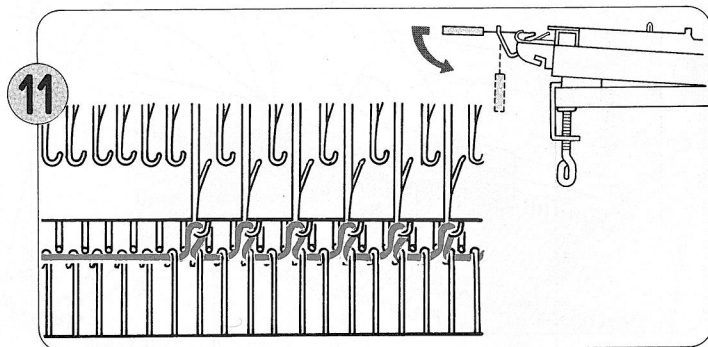
糸口に通した糸端をかるく真下に引くように指でつまみ、そのままの状態でもキャリジをゆっくり左側に動かします。編糸が編針にかかったことを確認してから糸端を離し、左端まで動かします。



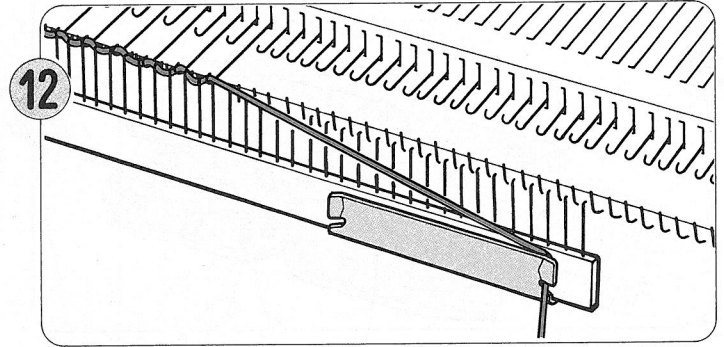
- ①ケースから編出シを取り出し、編地の幅に応じて編出シを選びます。(20ページ参照)
 ②編出シのフック部先端を編機側にし、編地の幅に対して左右均等な位置に持ちます。



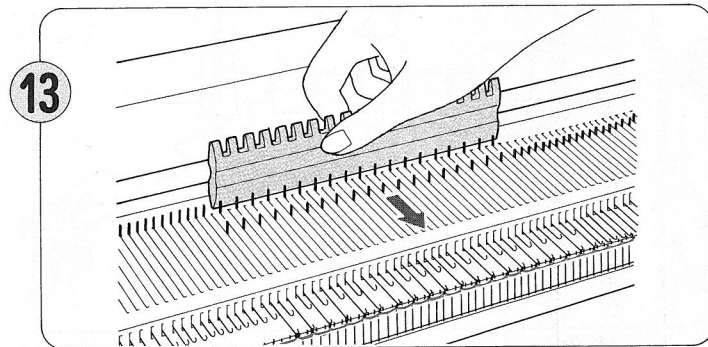
編まれていない編糸をつまんで手前に引き、編出シを下から入れます。



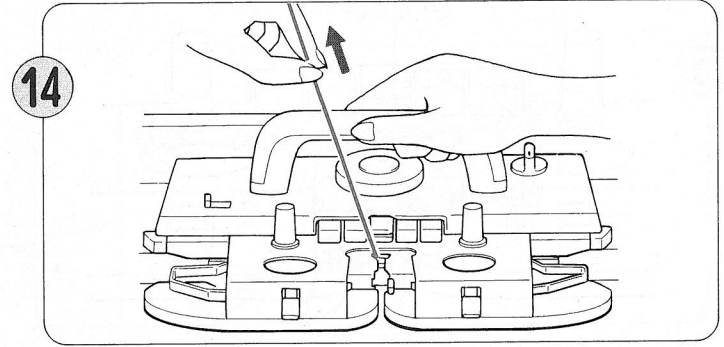
編出シを編機と水平にし、編まれた編糸に編出シのフックをかけ、下へ引きます。



右端の糸端は、編出シの糸カケにかけます。

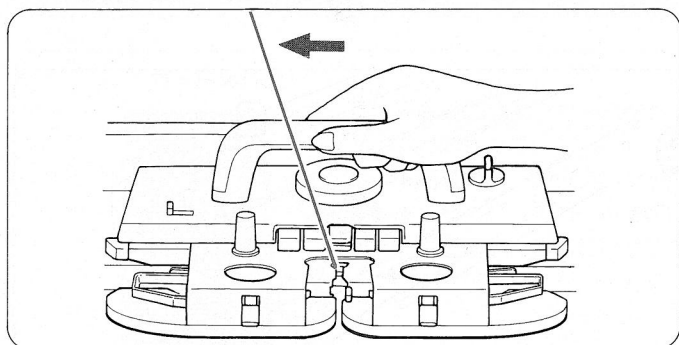


A位置にもどされている編針は、模様板を使ってB位置にそろえます。



編糸を指でつまみ、かるく上に引き、編糸のたるみを取りながら、Kキャリジを右にゆっくり動かして1段編みます。編糸のたるみがなくなったら左手を放してください。

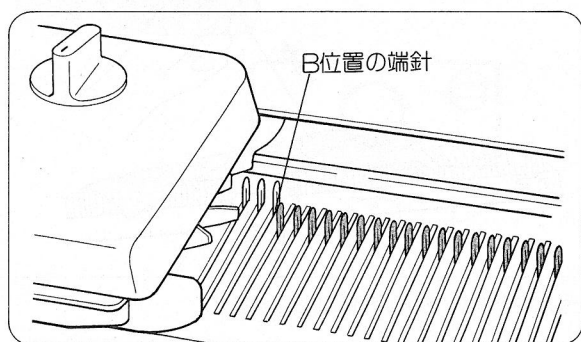
3. 編み方



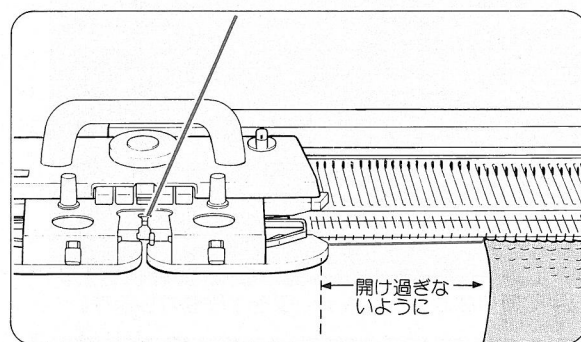
Kキャリジをそのまま左右に動かすと、平編が編めます。

Kキャリジを動かす前に

- 以下の点に注意してください。



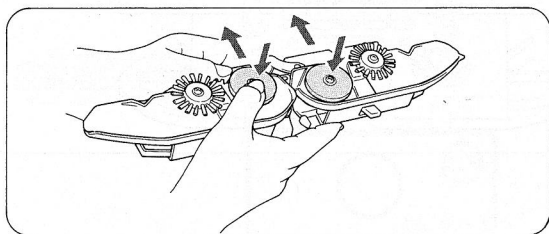
Kキャリジの折り返しは、進行方向側のB位置の端の編針がKキャリジの端から完全に抜けた位置から折り返します。



Kキャリジの折り返しは、B位置の端の編針とKキャリジの端との間を開け過ぎないようにしてください。編糸がたるむ原因になります。

綿・化繊レース糸などで編む場合には

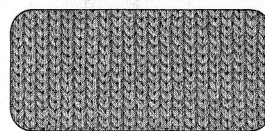
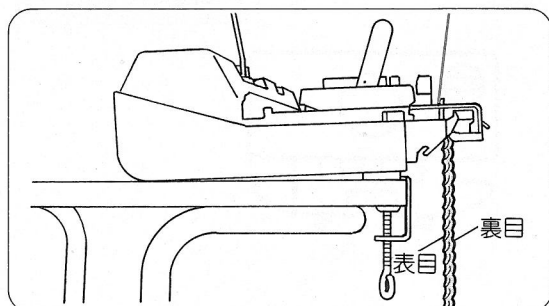
- 編地押えの裏にあるゴム車を作動位置に出してください。



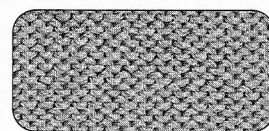
- (1)編地押えをKキャリジからはずし、裏返します。
 - (2)左右のゴム車を、押さえながら矢印の方向に出します。
- ※もどす場合には、出したときと反対方向に押しもどしてください。

編地の表と裏

- 編地が編針にかかっているとき、手前見える面を裏目、反対側の面を表目といいます。
- お好みにより表目、裏目のどちらも作品として使うことができます。

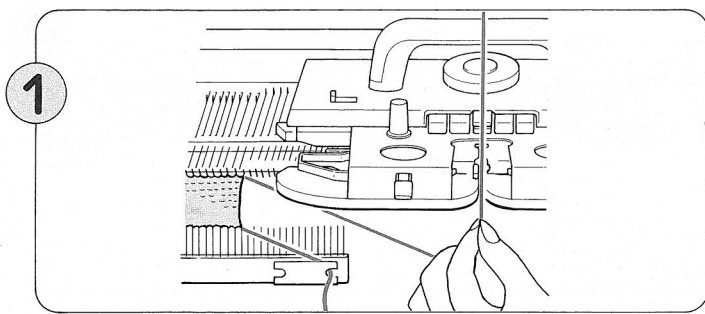


平編の表目

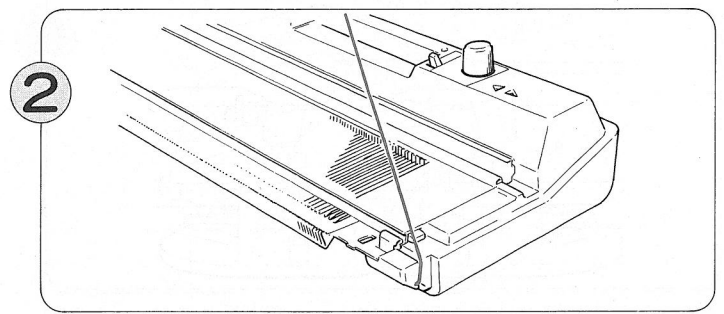


平編の裏目

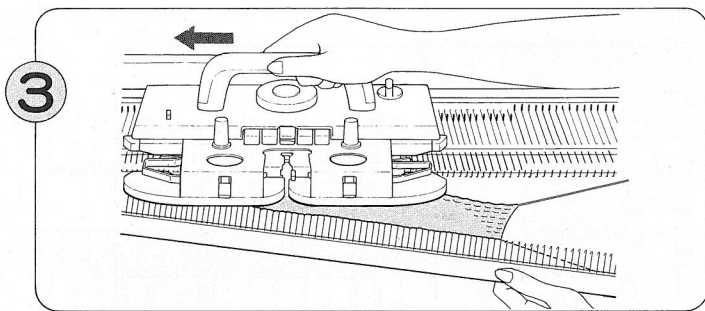
4. 編地のはずし方



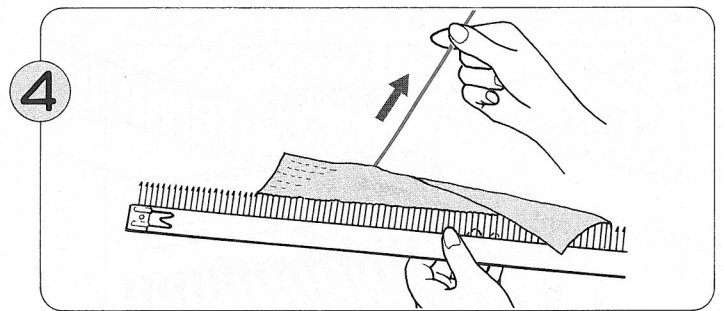
① 編糸を糸口からはずします。



② 編糸を糸カケに休めます。



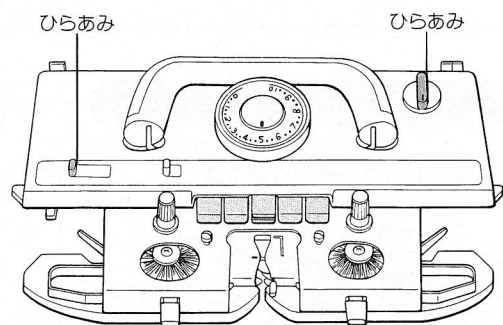
③ 編地を左手で持ちながら、Kキャリジを1段動かします。



④ 編糸を引っばれば、かんたんにはずけます。

模様を編んでいる途中で、編地をはずすとき

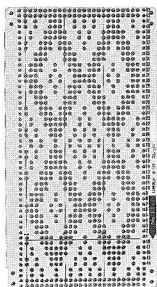
- 選針切替つまみと引返しレバーを〈ひらあみ〉に合わせ、Kキャリジを平編の状態にします。その後、上記①～④を行います。



模様の編み方

模様とパンチカード

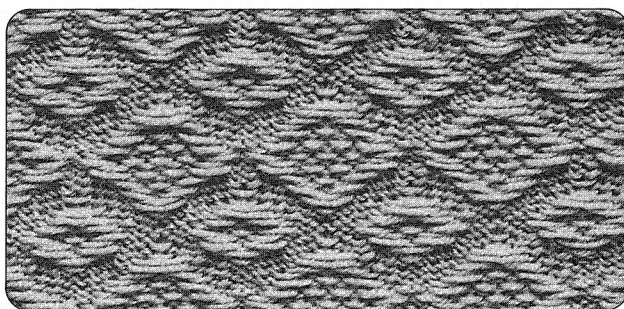
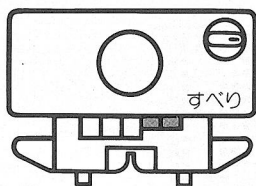
カードNo11q



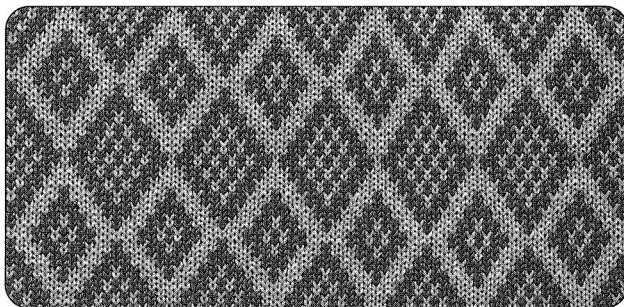
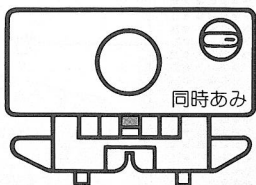
- ★編機にパンチカードをセットすると、キャリジを左右に動かすだけでいろいろな模様を編むことができます。
- ★編機には、20枚のパンチカードが付属されています。
- ★1枚のパンチカードを使い、模様に合わせてカムボタンなどをセットすれば、いろいろ変化に富んだ模様を編むことができます。
(それぞれのパンチカードに、そのパンチカードで編める模様の種類が書いてあります。)

〈例〉カードNo11qを使って、次のような模様がお楽しみいただけます。

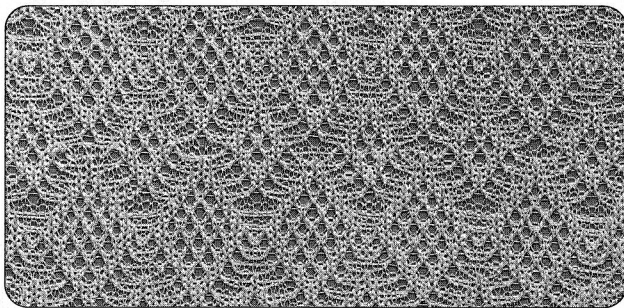
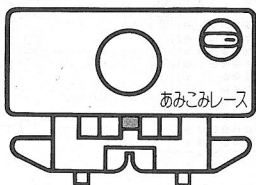
すべり目模様



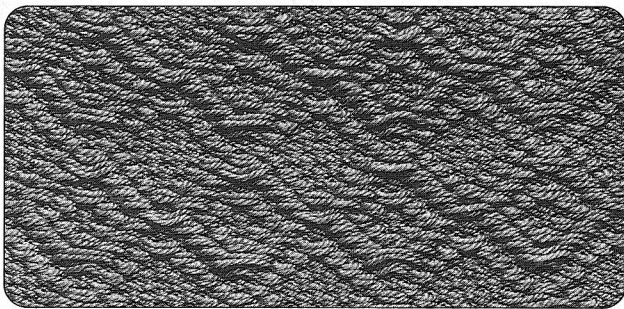
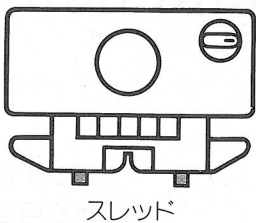
同時編込模様



編込レース模様



スレッド模様



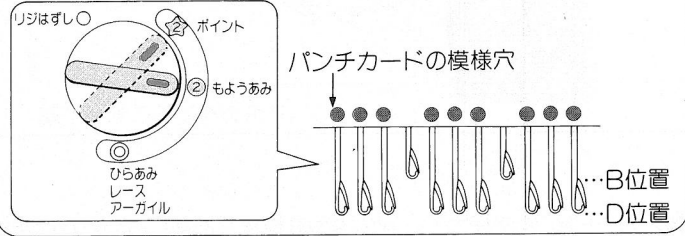
パンチカードの見方と編針の関係

- パンチカードの1模様は24目(24針)です。
- 1模様は編機の中心(左12から右12の編針)に編め、その左右に繰り返して連続模様が編めます。
- ミゾ板目盛板の選針マーク(ピンクの帯または線の部分)は1模様(24針)が編まれる位置を示しています。
- パンチカードの穴のあいている部分(模様穴)に対応する編針がD位置に選針されます。

選針とは……

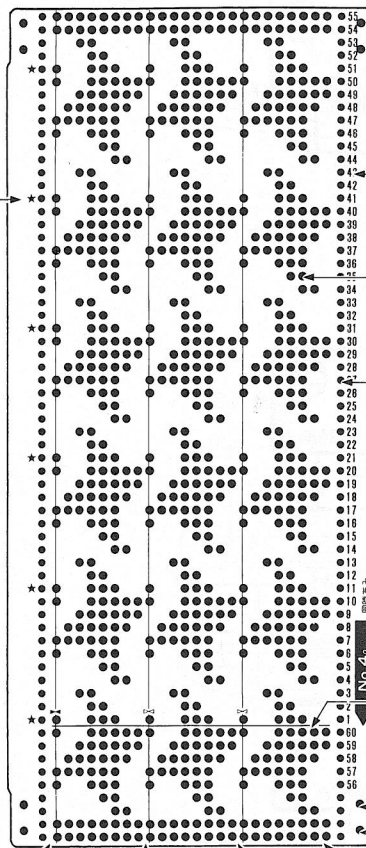
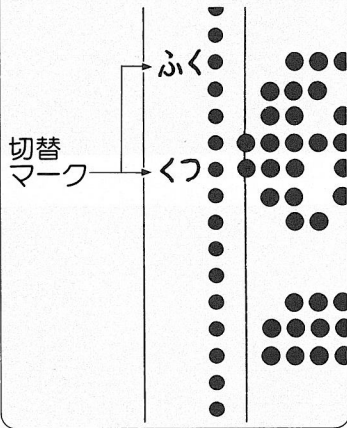
パンチカードの模様穴にしたがって、次の段に編む模様に応じて編針がB位置とD位置に分かれることです。

※選針切替ツマミがくもようあみまたはくポイント)にセットされているときに、編針が選針します。



切替マーク
配色糸および間欠送りの切替位置を示しています。

パンチカードによっては、“ことば”で示しているものもあります。



カード目盛

模様穴

カード送り穴

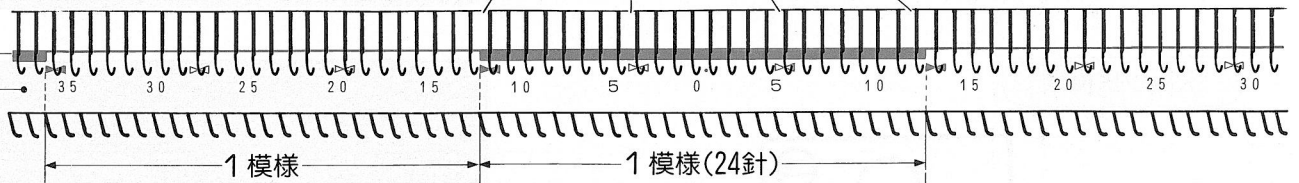
1枚のカードで編める模様の種類がわかります。

カードNo

スタートライン
編み始めるときのスタート位置です。

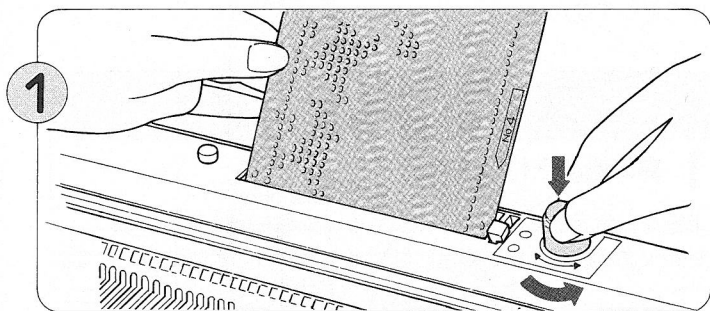
カード継ぎ穴

選針マーク
ミゾ板目盛板

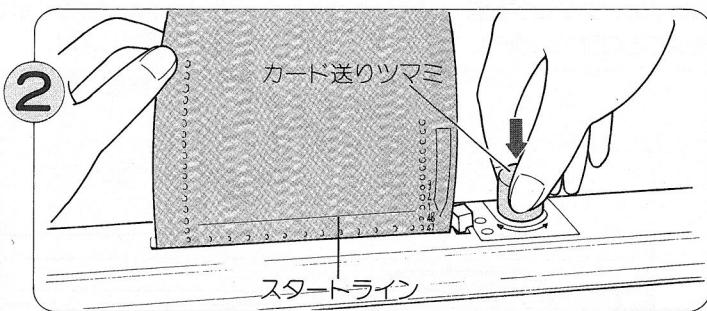


★パンチカードは折りたたんだり折り目をつけないようにしてください。

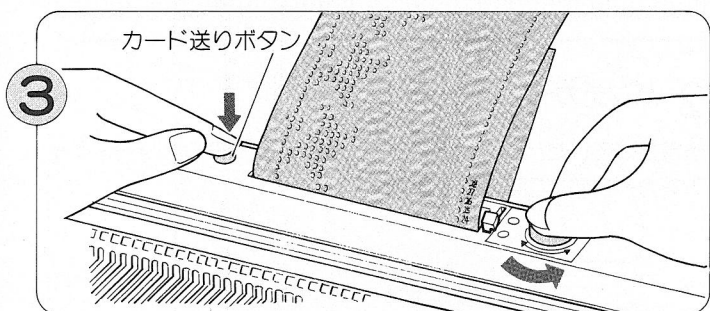
パンチカードのセット方法



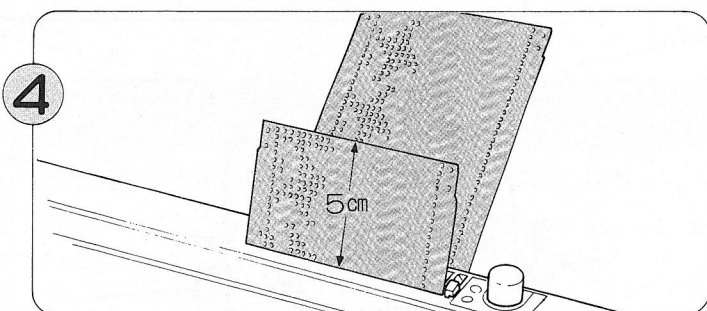
1 パンチカードのカードNoを右下にし、カード送りつまみを押したまま(おくる)方向へ回して、カード差込口へまっすぐに差し込みます。



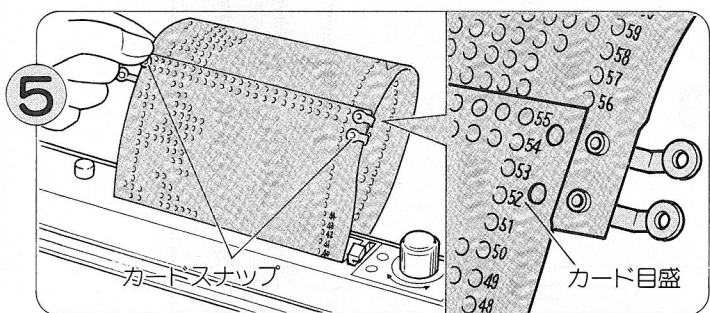
2 パンチカードのスタートラインとカード差込口が平行になっていることを確認します。



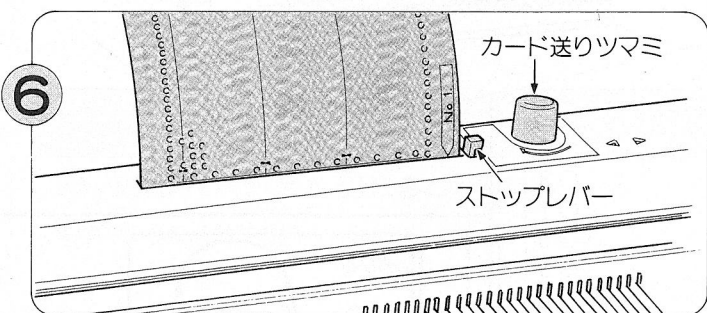
3 さらにパンチカードを送ります。カード送りボタンをいっぱい押し続けたまま、カード送りつまみを回すと、楽にパンチカードを送ることができます。



4 パンチカードを、カード差込口から約5cmの位置まで送ります。



5 カード差込口から出ているカードの端を上にして、付属のカードスナップでカードの両端をつなぎます。(カードをつないだ時、カード目盛の番号が繋がります。)



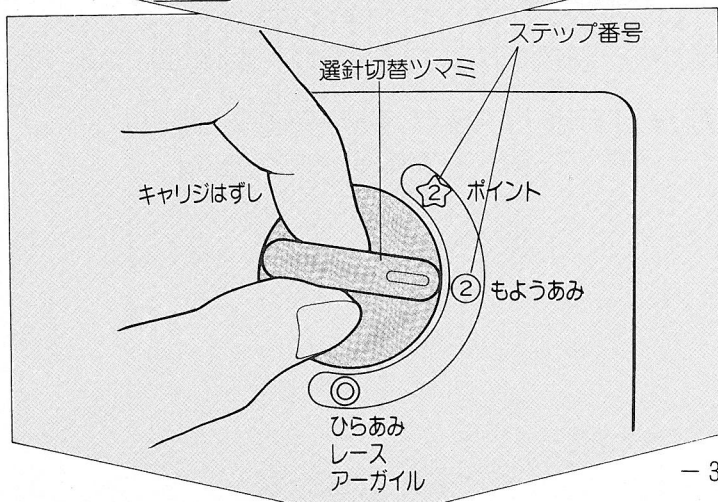
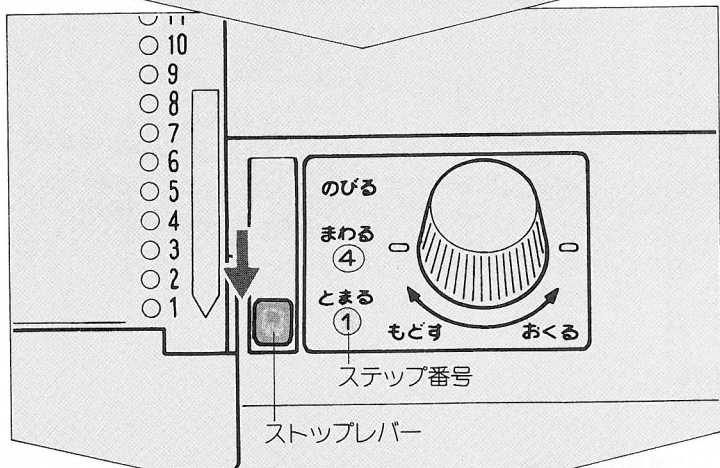
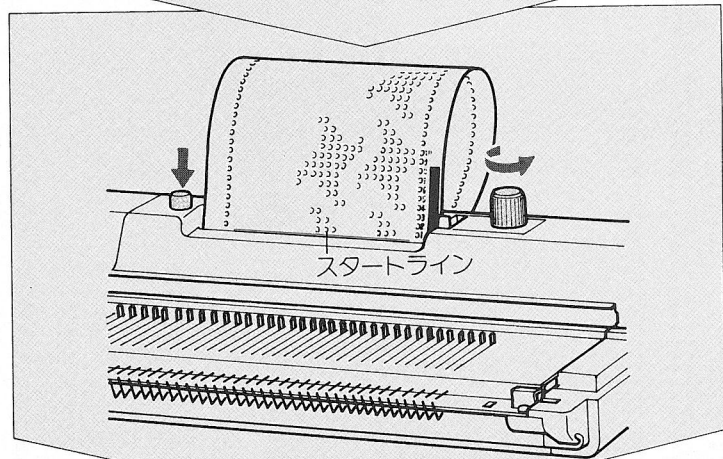
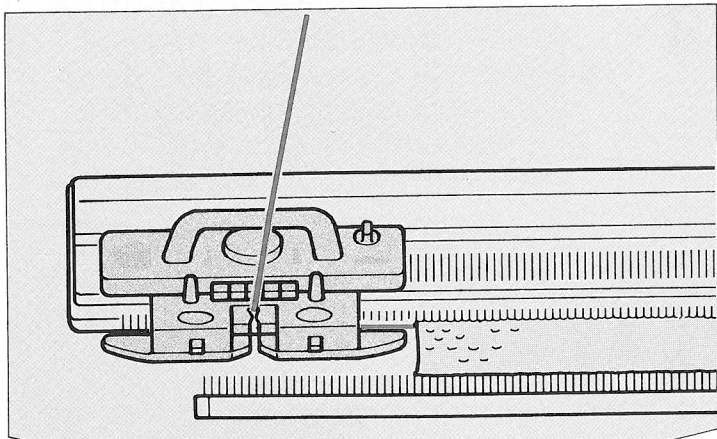
6 パンチカードのスタートラインをカード差込口に合わせ、ストップレバーを(とまる)に合わせます。

◀知識メモ▶

- カード送りつまみは、模様編の途中で編針が正しく選針されているかどうかを確認したいときにも使います。(77ページ参照)
- カード差込口に見えているカード目盛から7段もどった位置の模様穴が、選針されている編針と対応します。

模様編の基本ステップ

模様編は、それぞれの模様により操作のしかたが異なりますが、基本的な順序として下記のようなステップに分けることができます。編機には“ステップ番号”が表示されており、操作の手順がわかりやすくしてあります。模様ごとの詳しい操作については、それぞれの項目で説明します。



ステップ 1

1 編み始めを行います。

平編を10段ほど編んでから、Kキャリジを左側に置きます。
※間欠送り模様を編む場合には、Kキャリジを右側に置きます。

2 パンチカードをセットします。

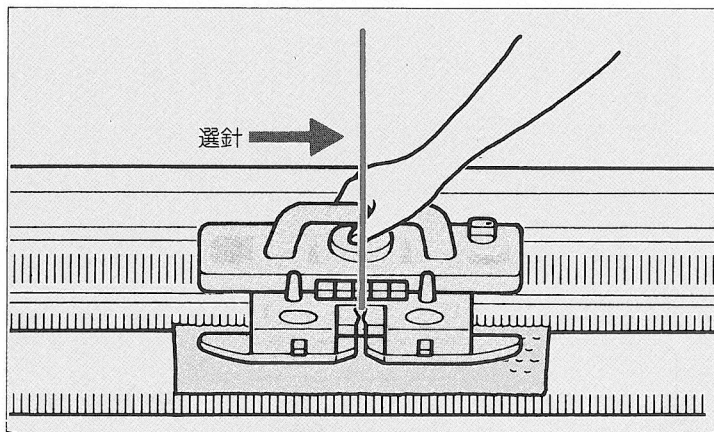
各模様に応じたパンチカードをセットし、カードのスタートラインをカード差込口に合わせます。

3 ストップレバーを<とまる>に合わせます。

ステップ 2

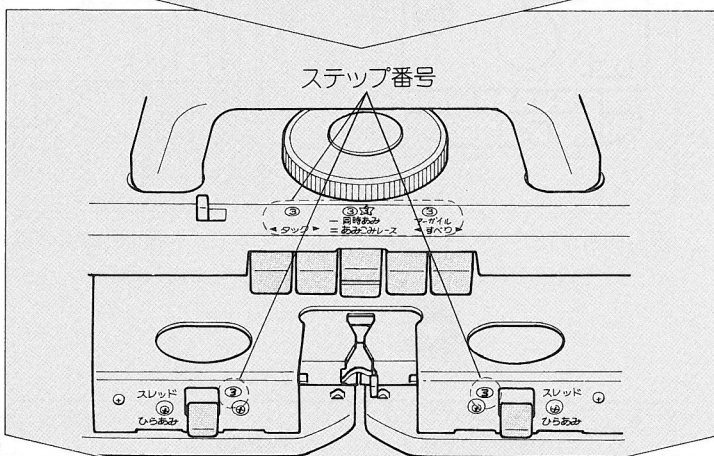
1 選針切替つまみを<もようあみ>に合わせます。

※ポイント模様を編む場合には<ポイント>に合わせます。



2 選針をします。

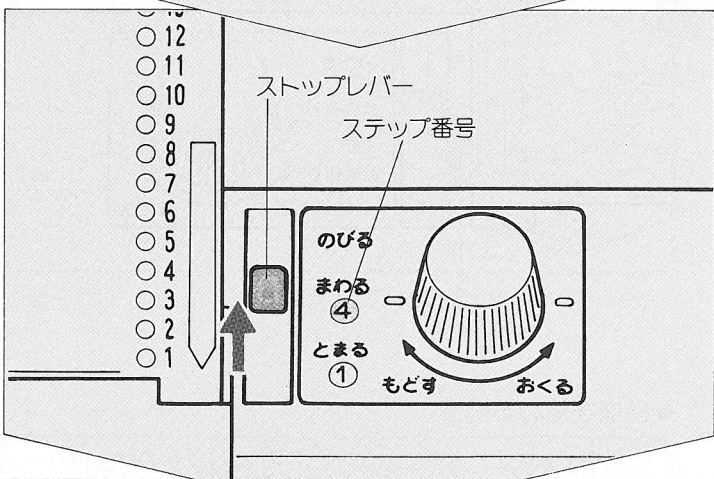
Kキャリジをゆっくり右側(間欠送り模様の場合は左側)へ操作すると編針が選針されます。



ステップ 3

カムボタンまたはスレッドレバーをセットします。

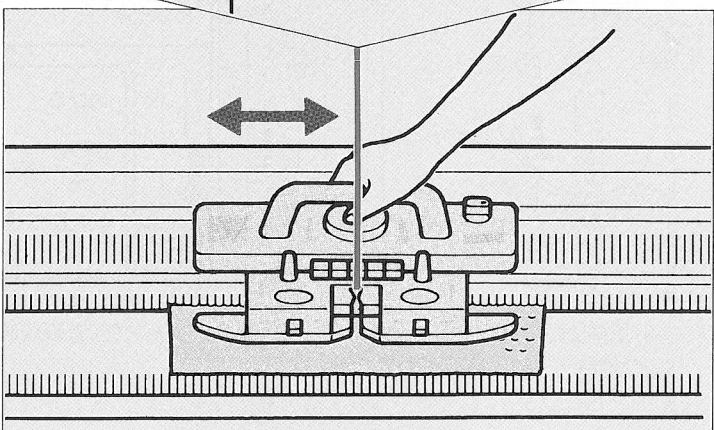
※ステップ2で②印に合わせたときは③印のいずれかのボタンを
☆印に合わせたときは☆印のボタンを押します。



ステップ 4

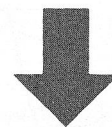
ストップレバーを(まわる)に合わせます。

※間欠送り模様を編む場合には(くのびる)に合わせます。



Kキャリジを動かし編み進みます。

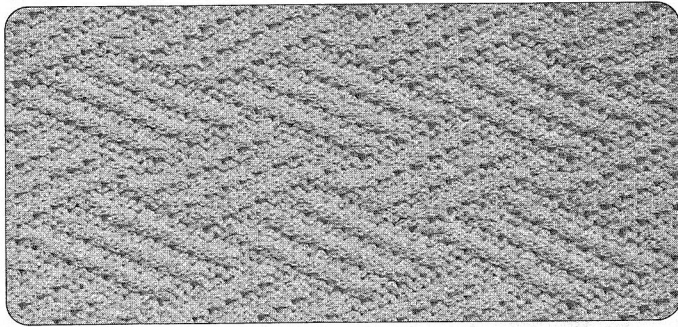
※配色糸を使用する模様の場合は、色糸口に入れてからKキャリジを動かします。



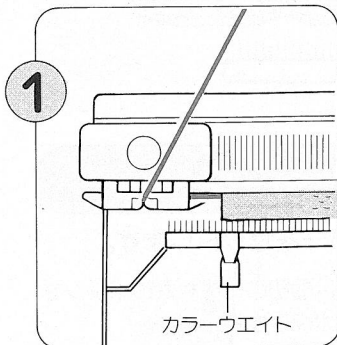
すべり目模様

利用できるカード：No1a・2a・3a・5a・7a・8a・11a

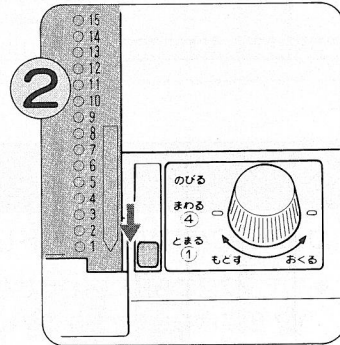
カードNo5a



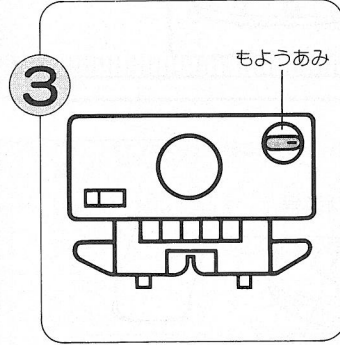
● 模様の編み方



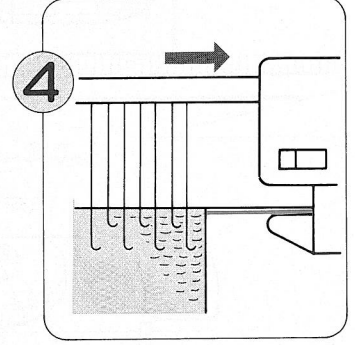
① 地糸で平編を数段編み、Kキャリジを左側に置きます。カラーウエイトを左右均等にかけます。



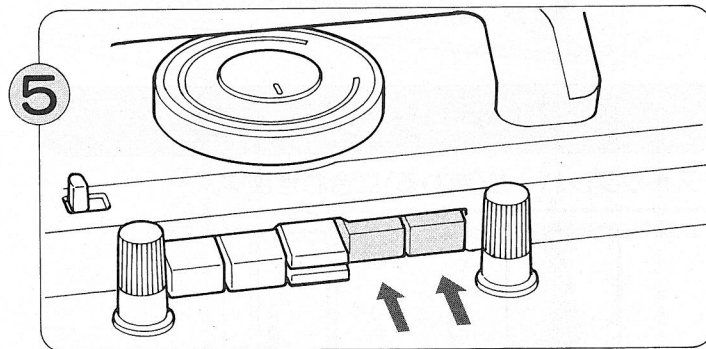
② パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを<とまる>に合わせます。



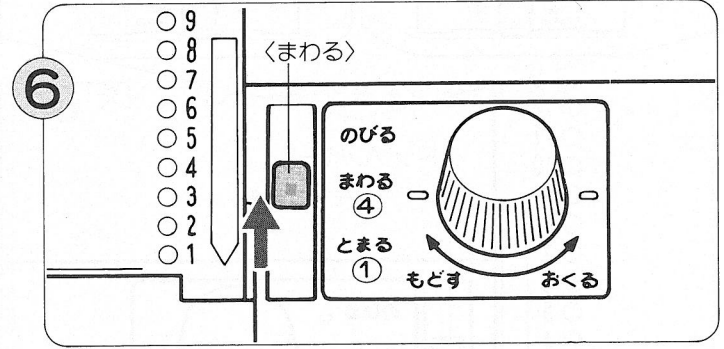
③ 選針切替ツマミを<もようあみ>に合わせます。



④ Kキャリジを右へ動かします。編針が選針されます。

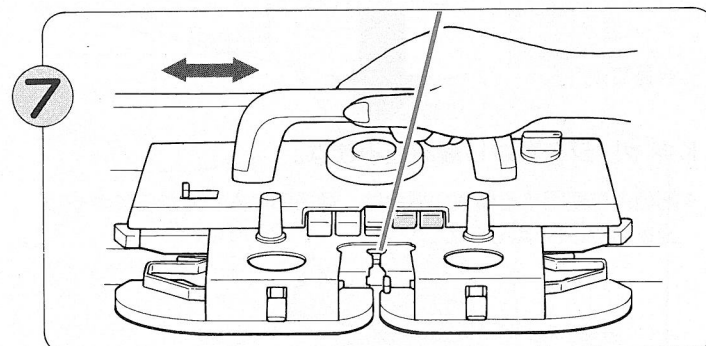


⑤ カムボタンの<すべり>左右を押します。

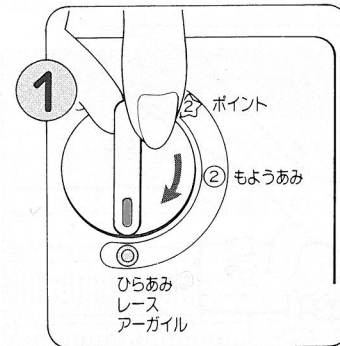


⑥ ストップレバーを<まわる>に合わせます。

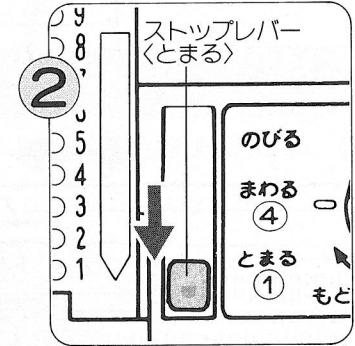
● 模様を終わる場合



⑦ Kキャリジを左右に動かすと、すべり目模様が編めます。



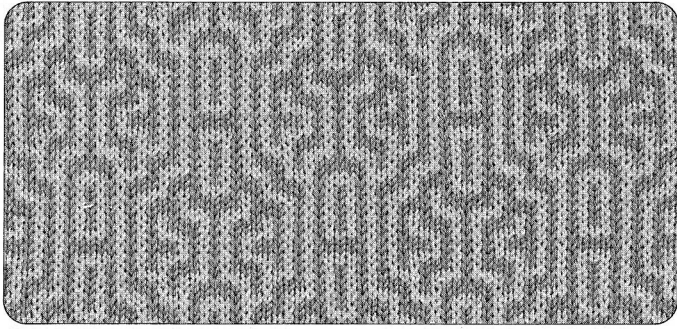
① 選針切替ツマミを<ひらあみ>にもどします。カムボタンは、自動的にもどります。



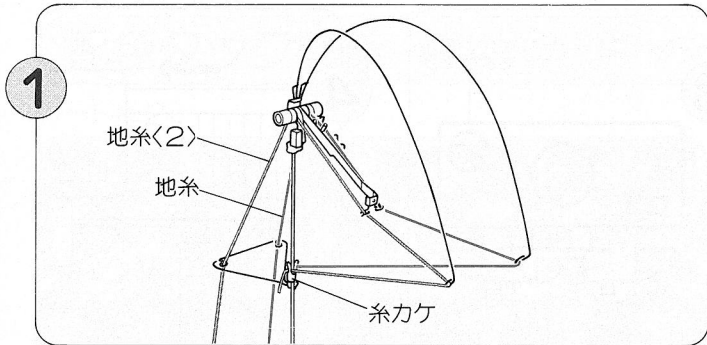
② ストップレバーを<とまる>にもどします。

配色すべり目模様 利用できるカード：すべり目模様と同じです。

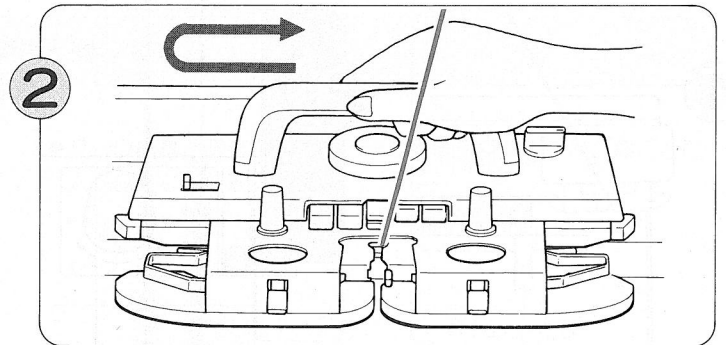
カードNo70



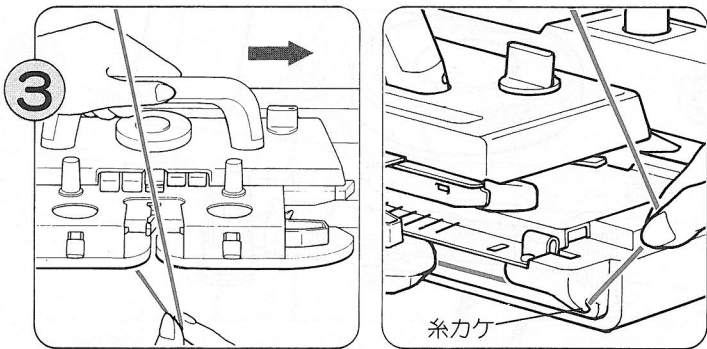
- すべり目模様と同じ操作で編みますが、2色の編糸を2段ごとに入れ替えながら編みます。



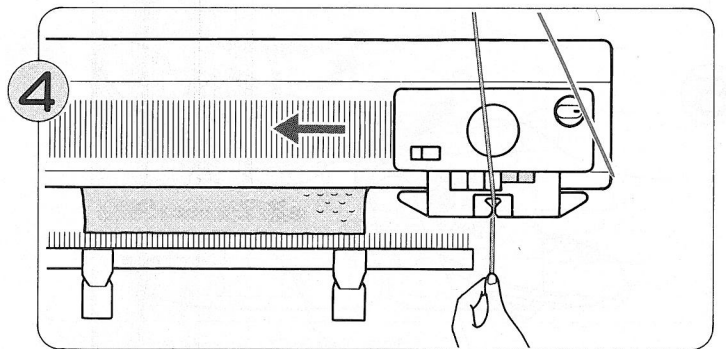
糸取装置の右側に地糸を、左側に地糸<2>を通し、糸カケに止めます。すべり目模様の①～⑥を行います。(34ページ参照)



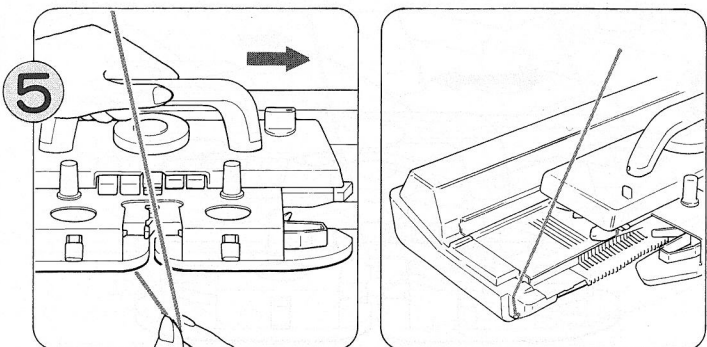
Kキャリジを動かし、2段編みます。



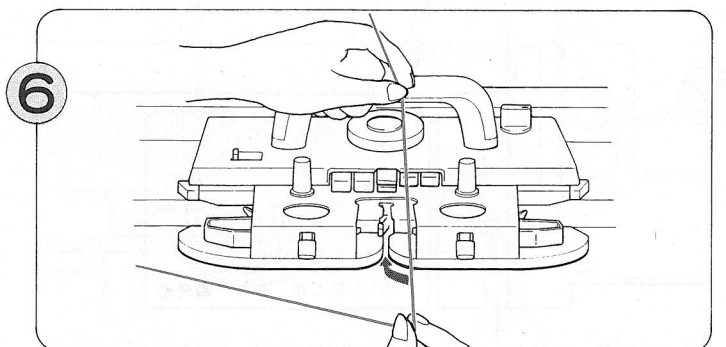
地糸を地糸口からはずし、編機右端の糸カケに休めます。
(Kキャリジを少し右(外側)へずらせば、編糸がうまくはずれます。)



糸取装置に止めてある地糸<2>を地糸口に入れ、2段編みます。



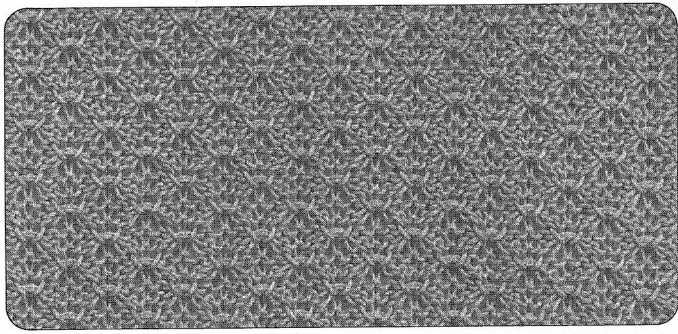
地糸<2>を地糸口からはずし、編機左端の糸カケに休めます。
※糸取装置の右側の編糸(地糸)は編機右端の糸カケに、左側の編糸(地糸<2>)は編機左端の糸カケに休めます。



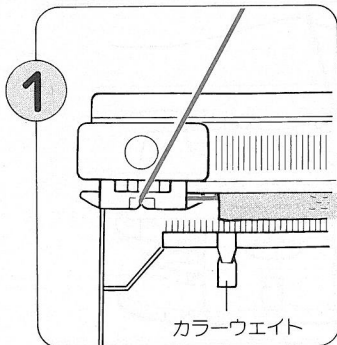
編機右側の糸カケに休めてある地糸を、地糸口に入れ2段編みます。地糸口の編糸を、2段ごとに入れ替えながら編みます。

タック模様 利用できるカード：No.1Q・2Q・3Q・7Q・8Q

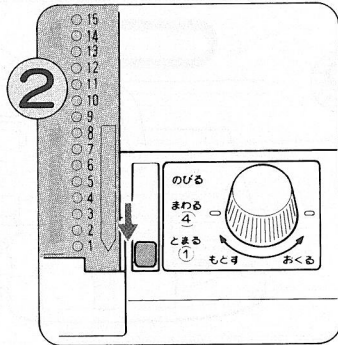
カードNo.2Q



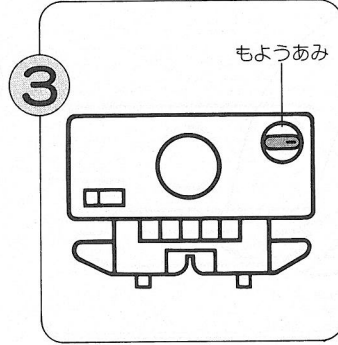
● 模様の編み方



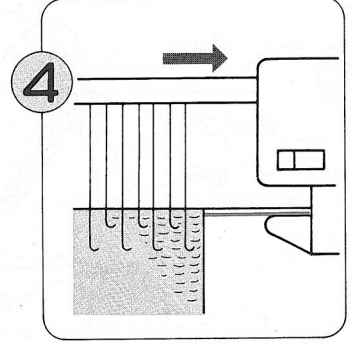
1 カラーウエイト
地糸で平編を数段編み、Kキャリジを左側に置きます。カラーウエイトを左右均等にかけます。



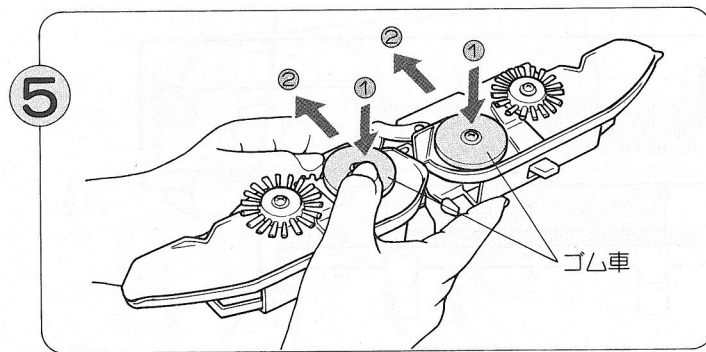
2 パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを〈とまる〉に合わせます。



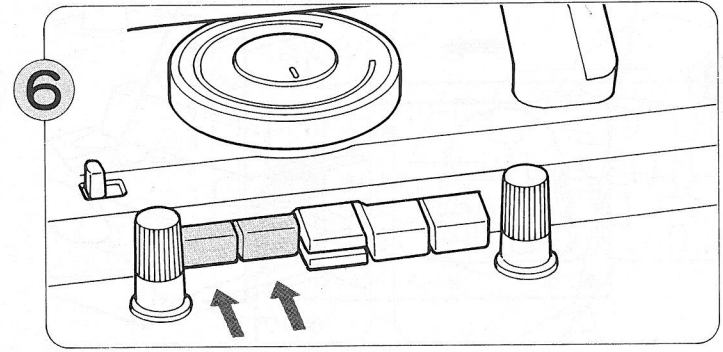
3 選針切替つまみを〈もようあみ〉に合わせます。



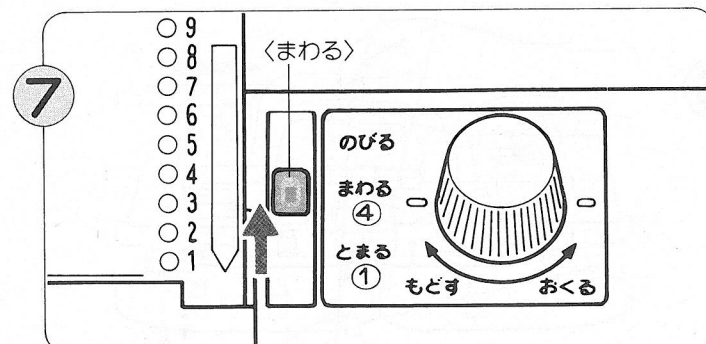
4 Kキャリジを右へ動かします。編針が選針されます。



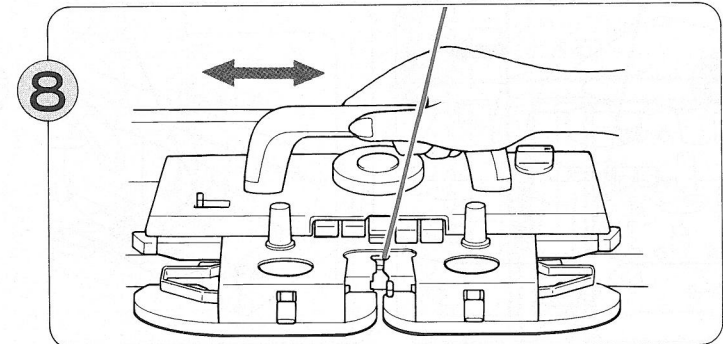
5 編地押えをKキャリジからはずして①ゴム車のネジ頭を押し②そのまま矢印方向へ「パチッ」と音がするまで押し出します。編地押えをKキャリジに取り付けます。



6 カムボタンの〈タック〉を左右同時に押します。

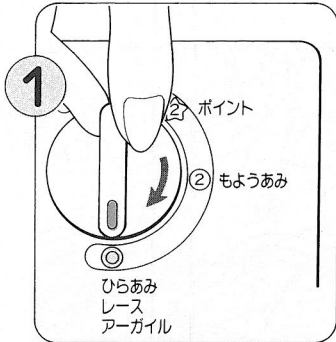


7 ストップレバーを〈まわる〉に合わせます。

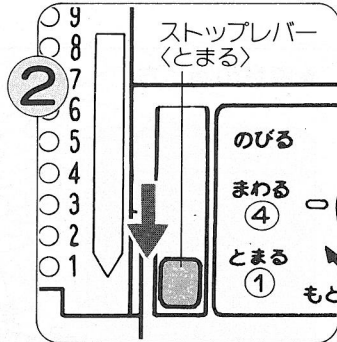


8 Kキャリジを左右に動かすと、タック模様が編めます。

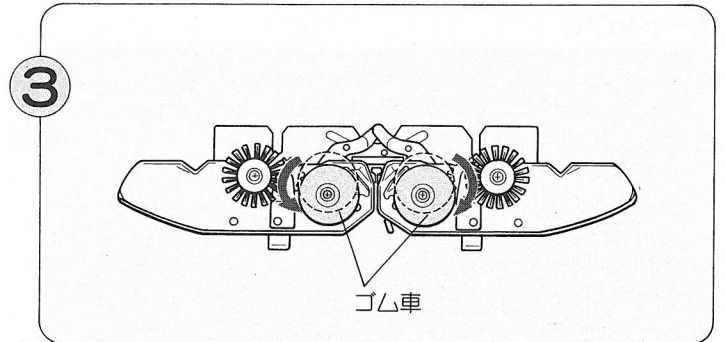
●模様を終わる場合



選針切替ツマミを〈ひらあみ〉にもどします。カムボタンは自動的にもどります。



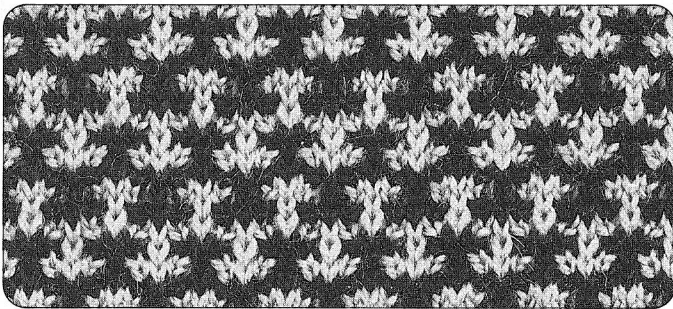
ストップレバーを〈とまる〉にもどします。



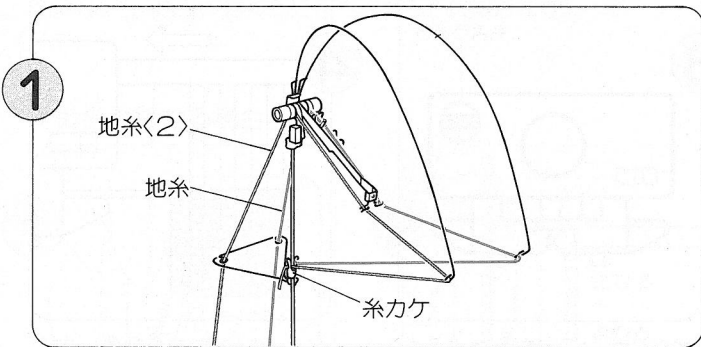
ゴム車をもどします。

配色タック模様 利用できるカード：タック模様と同じです。

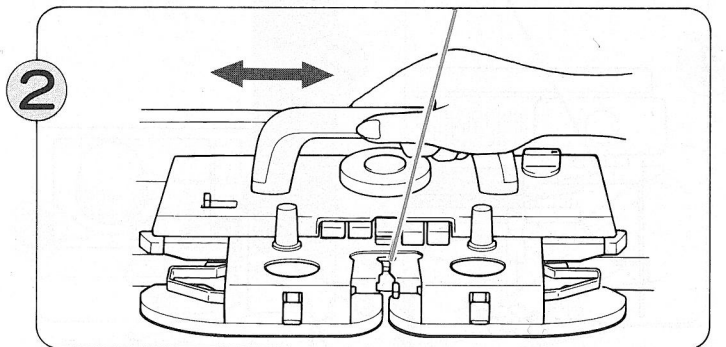
カードNo20



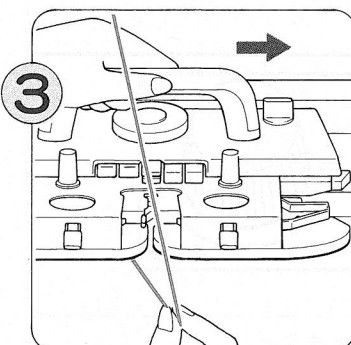
●タック模様と同じ操作で編みますが、2色の編糸を2段ごとに入れ替えながら編みます。



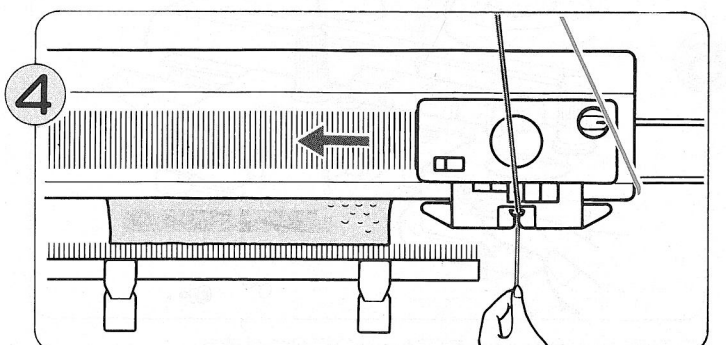
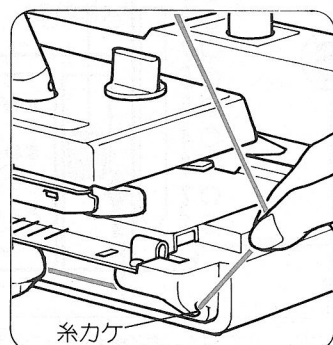
糸取装置の右側に地糸を、左側に地糸〈2〉を通し、糸カケに止めます。タック模様の①～⑦を行います。(36ページ参照)



Kキャリジを動かし、2段編みます。



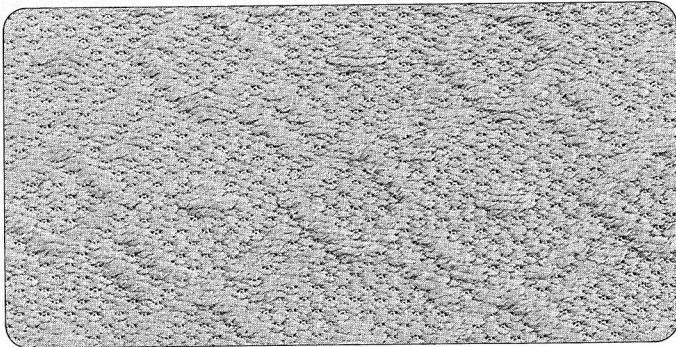
編糸を地糸口からはずし、編機右端の糸カケに休めます。(35ページ③と⑥参照)
(Kキャリジを少し右(外側)へずらせば、編糸がうまくはずれます。)



糸取装置に止めてある地糸〈2〉を地糸口に入れ、2段編みます。地糸口の編糸を、2段ごとに入れ替えながら編みます。
(編糸を入れ替えるとき、前の編糸と交差しないように注意してください。)

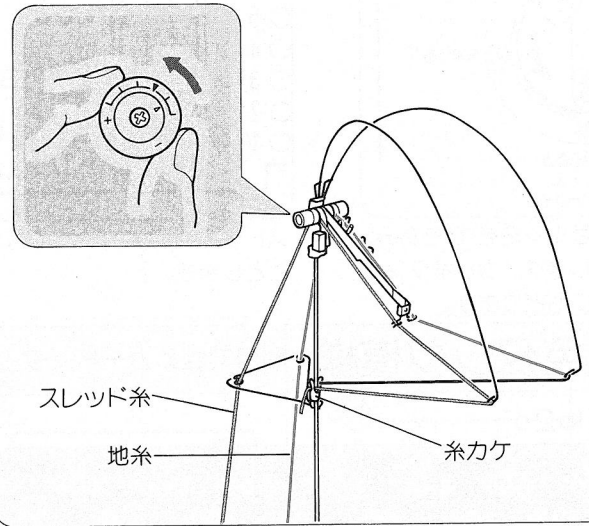
スレッド模様 利用できるカード：No10・20・30・50・70・80・110・120

カードNo70



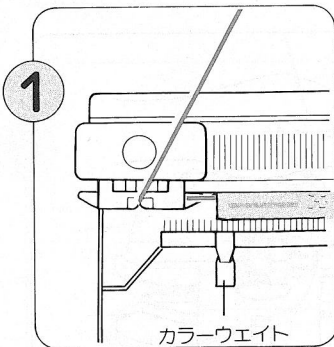
- 2色の編糸(地糸用・スレッド糸用)を使用します。
- スレッド糸には、地糸より少し太めの編糸を使うと効果的です。

●編糸の通し方

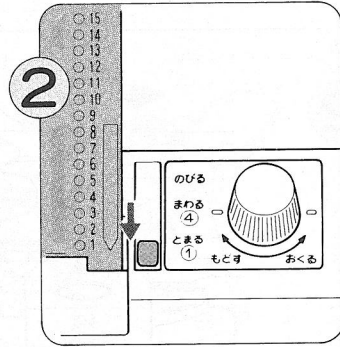


糸取装置の右側へ地糸を、左側へスレッド糸を通します。
 ※スレッド糸が太いものや、すべりが悪いときにはつまみをくー側)にし、Kキャリジの編目ダイヤルを大きめに合わせます。

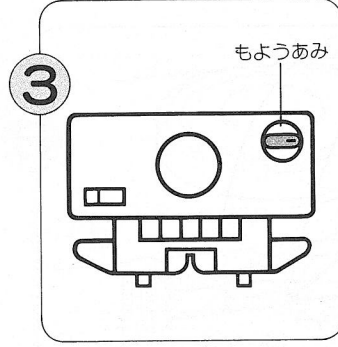
●模様の編み方



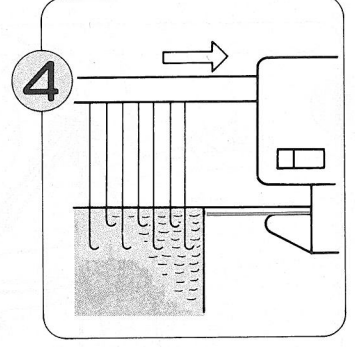
地糸で平編を数段編み、Kキャリジを左側に置きます。カラウエイトを左右均等にかけます。



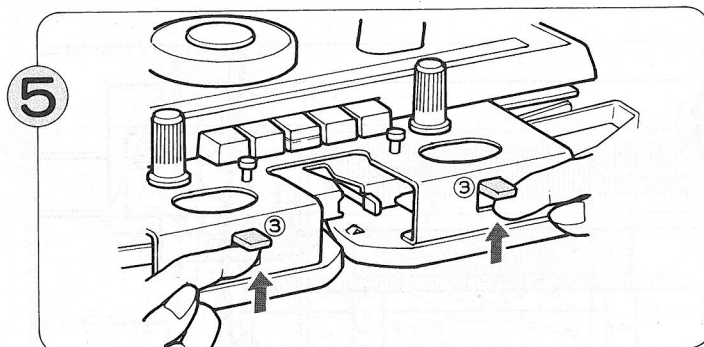
パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを<とまる>に合わせます。



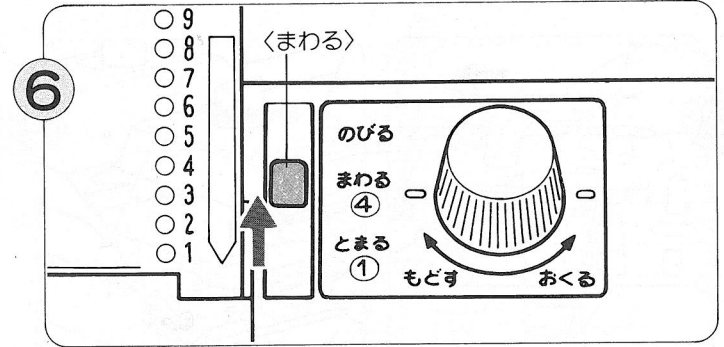
選針切替つまみをくもようあみ)に合わせます。



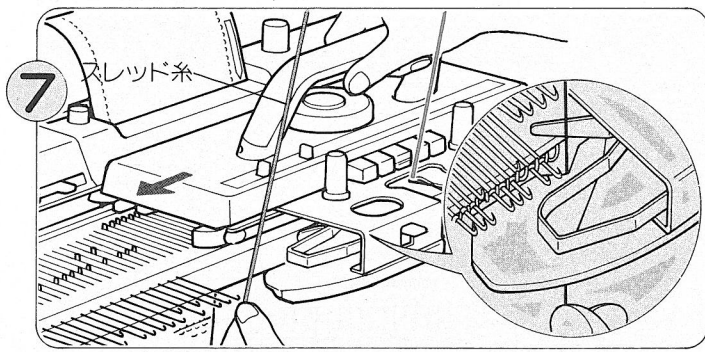
Kキャリジを右へ動かします。編針が選針されます。



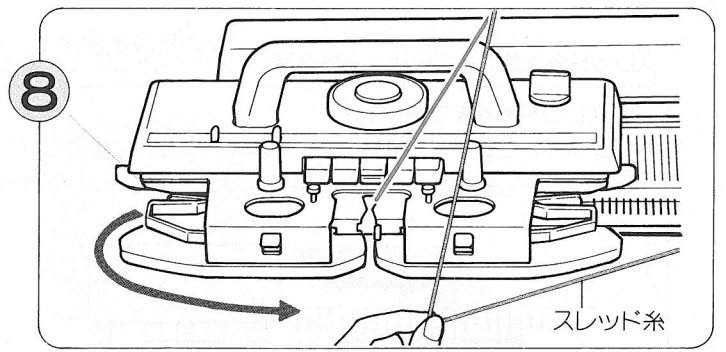
左右のスレッドレバーを<スレッド>に合わせます。



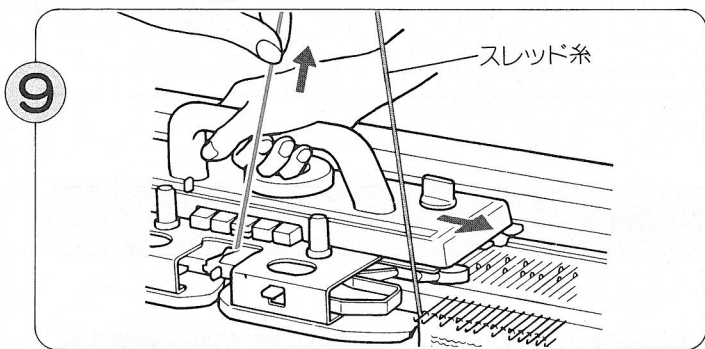
ストップレバーを<まわる>に合わせます。



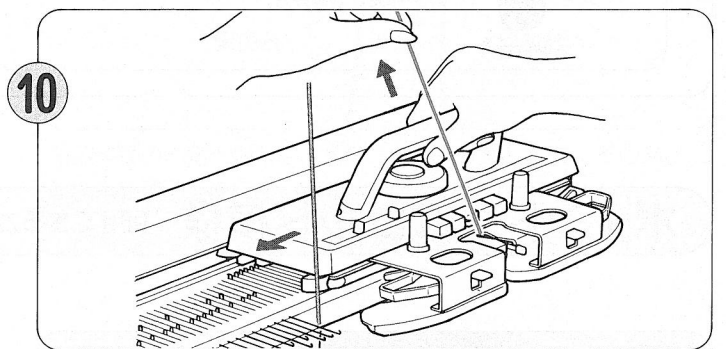
糸取装置に止めてあるスレッド糸を、Kキャリジ左の糸案内に入るように持ち、Kキャリジを左へ1段動かします。
 ※スレッド糸の糸端は、1段編んで離します。



スレッド糸を左の糸案内から引き離し、編地押えの下をくぐらせ、Kキャリジの右で離します。(Kキャリジを少し左<外側>へずらせばうまはずれます。)

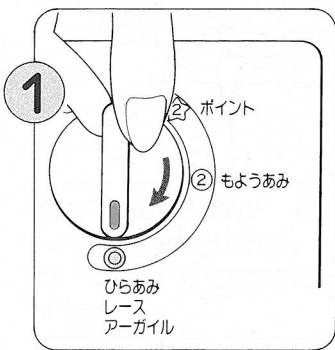


Kキャリジを右へ移動させ、スレッド糸が右の糸案内に入るのを確かめて、地糸を軽く上に引きながら1段編みます。

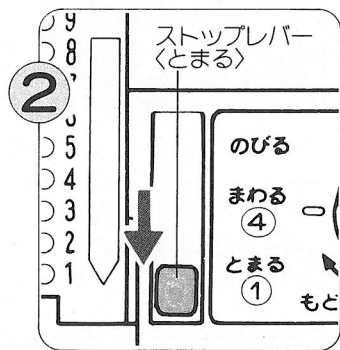


毎段スレッド糸を左右の糸案内に入れて、地糸を軽く上に引きながら編みます。

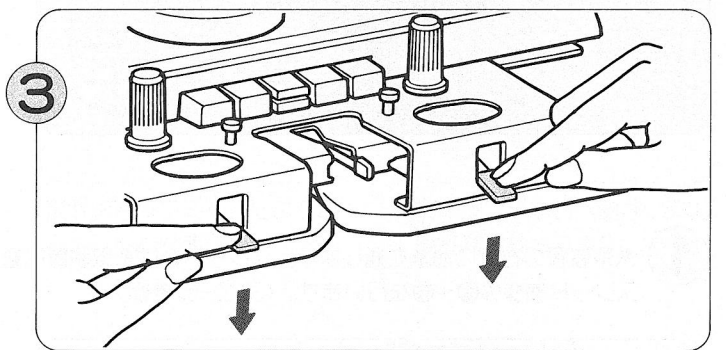
●模様を終わる場合



選針切替ツマミを<ひらあみ>にもどします。



ストップレバーを<とまる>にもどします。



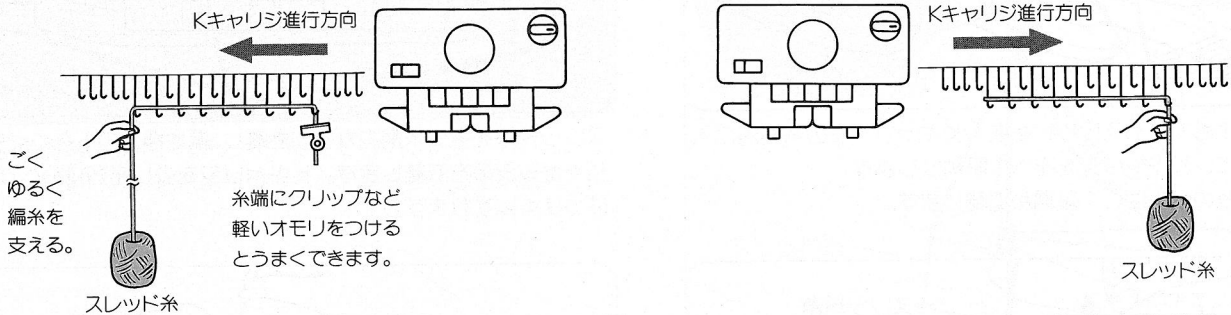
スレッドレバーを<ひらあみ>にもどします。

スレッド糸が2色以上の場合

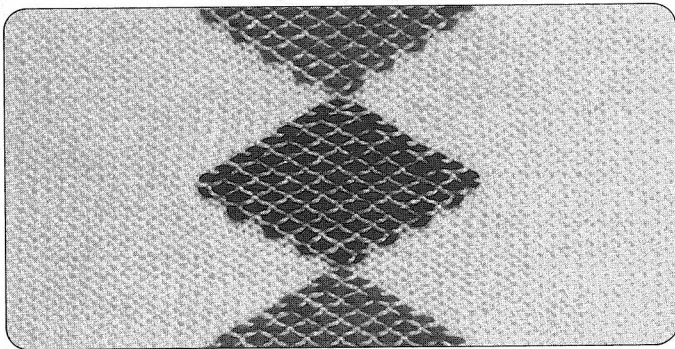
スレッド糸を替えるのには、糸取装置のスレッド糸を替える方法と、他のスレッド糸を手で編針の上に渡す方法があります。

●スレッド糸を手で渡す方法

スレッド糸を必ずKキャリジのある側からクシバに近寄らせて、選針されている編針の上に渡してから、Kキャリジを1段操作します。毎段スレッド糸を渡しながら、Kキャリジを操作して、編み進みます。



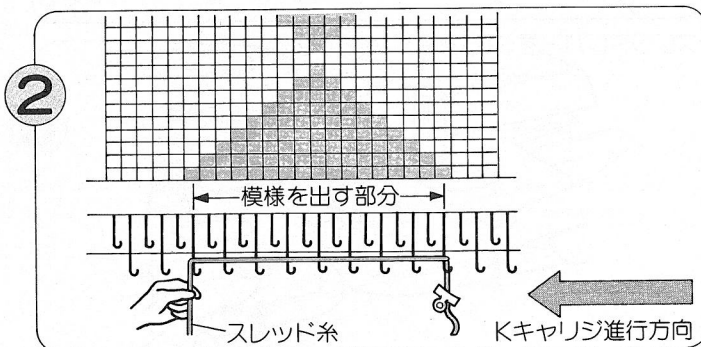
ポイント・スレッド模様 利用できるカード：No.10



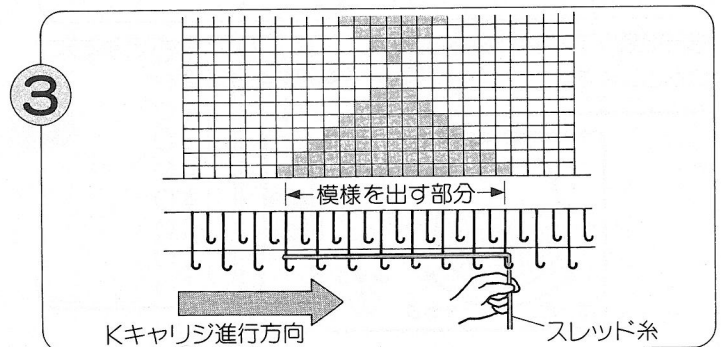
●カードNo.10をセットして、1×1目の選針を行い、模様を出したい部分だけにスレッド糸を渡して編みます。

※図案は、グラフ状に描いたり、ニットリーダーのシートに描きます。

- 1 糸取装置の右側に地糸を通します。スレッド糸は糸取装置に通さないで足もとに置きます。スレッド模様の①～⑥を行います。(38ページ参照)



スレッド糸を必ずKキャリジのある側からクシバに近寄らせて、模様を出す部分の選針されている編針の上に渡してから、Kキャリジを1段操作します。

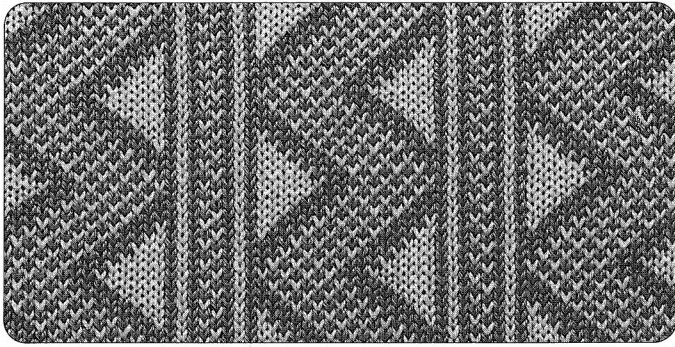


毎段スレッド糸を模様部分に渡しながらKキャリジを操作して、編み進みます。

同時編込模様

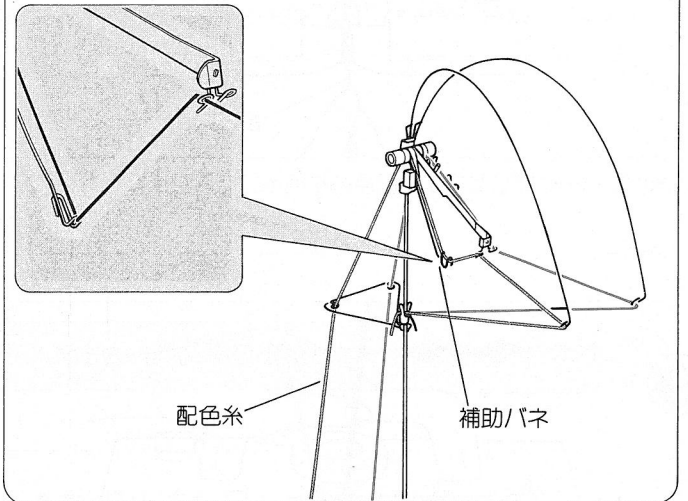
利用できるカード：No10・20・30・40・50・60・70・80・90・100・110・120・130

カードNo100



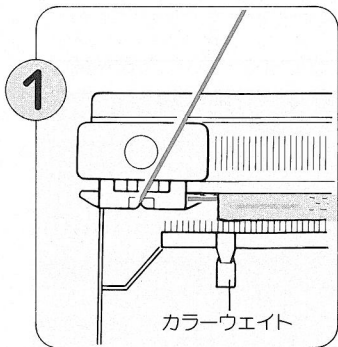
●2色の編糸(地糸用・配色糸用)を使用します。

●編糸の通し方

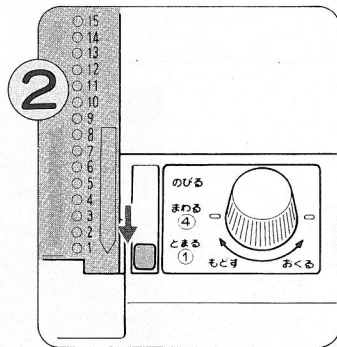


糸取装置の右側へ地糸を、左側へ配色糸を通します。そのあと、配色糸を補助バネに通します。

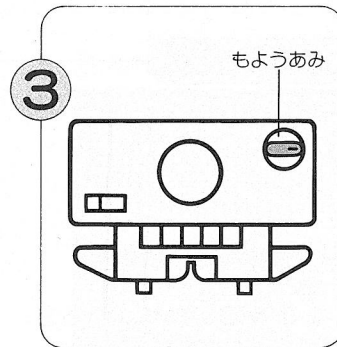
●模様の編み方



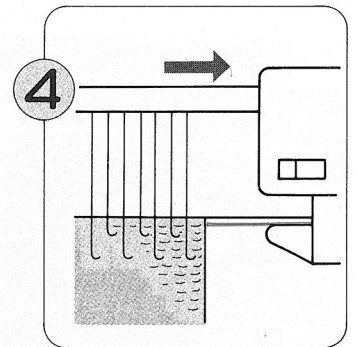
1 地糸で平編を数段編み、Kキャリジを左側に置きます。カラーウエイトを左右均等にかけます。



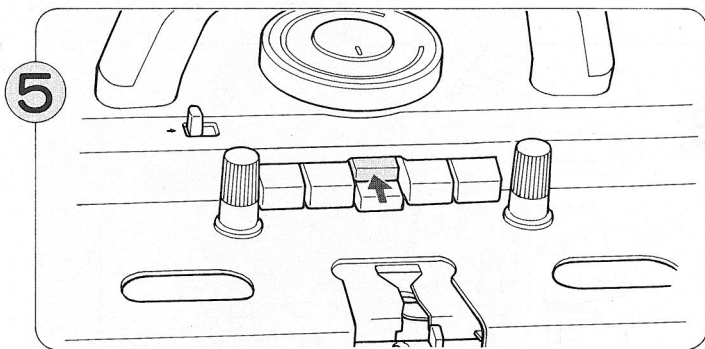
2 パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを<とまる>に合わせます。



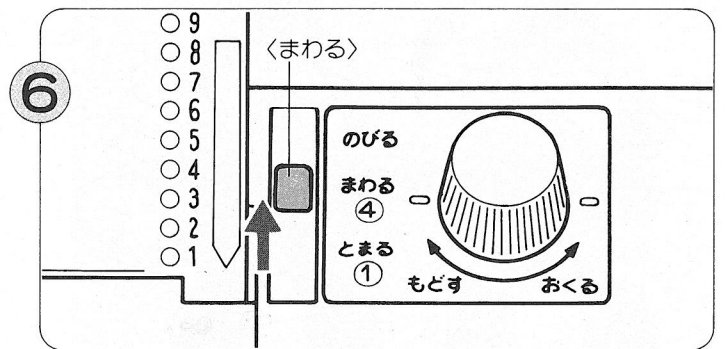
3 選針切替ツマミを<もようあみ>に合わせます。



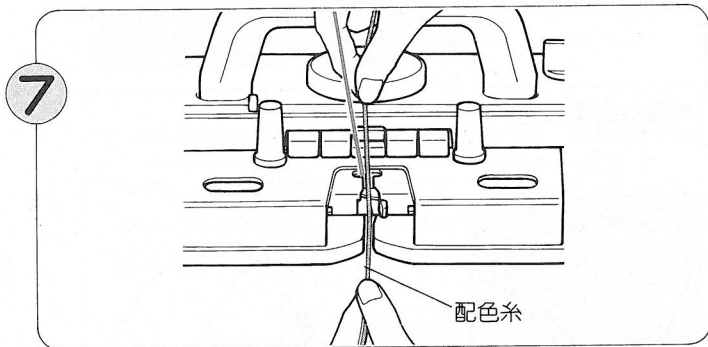
4 Kキャリジを右へ動かします。編針が選針されます。



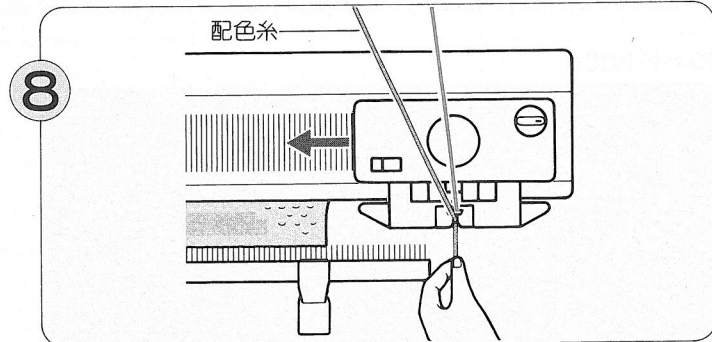
5 カムボタンの<同時あみ>(上のボタンだけ)を押します。



6 ストップレバーを<まわる>に合わせます。

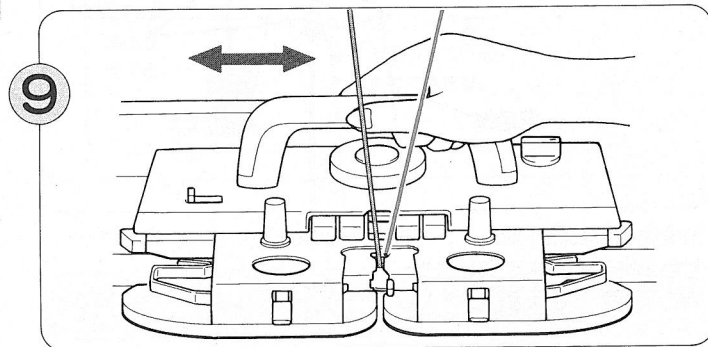


糸口レバーは閉じたままで配色糸を色糸口に入れます。

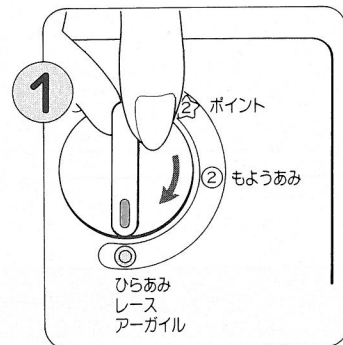


配色糸の糸端を指でつまみ、軽く真下に引くようにしながらKキャリジを左へ動かします。

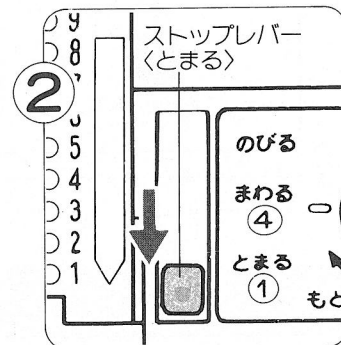
●模様を終わる場合



Kキャリジを左右に動かすと、同時編込模様が編めます。



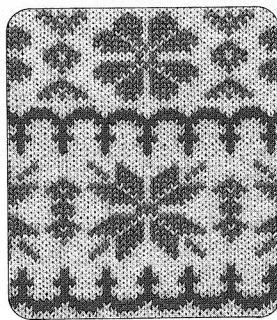
選針切替ツマミをくひらあみにもどします。カムボタンは自動的にもどります。



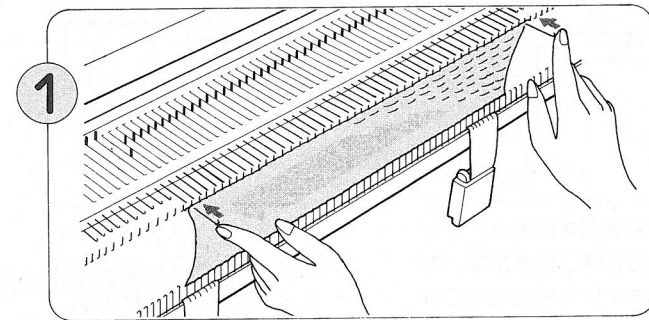
ストップレバーを<とまる>にもどし、配色糸をはずします。

模様の中に地糸だけで編む段があるとき

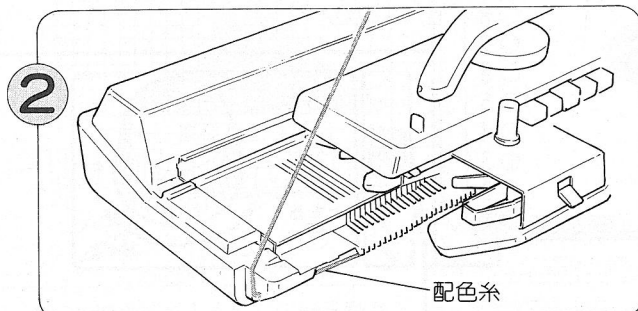
カードNo.60



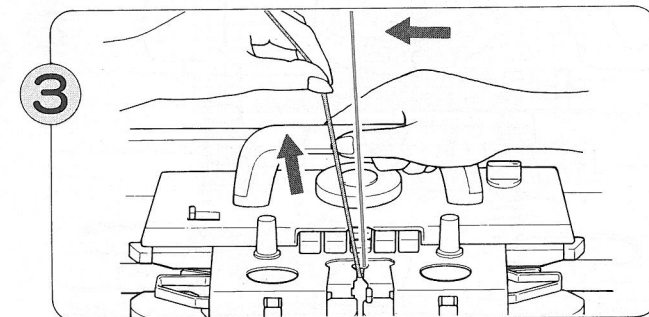
カードNo.60を編んでいる途中で両端針だけが選針されることがあります。そのような場合には、次のようにしてください。



その両端針を指でB位置にもどします。

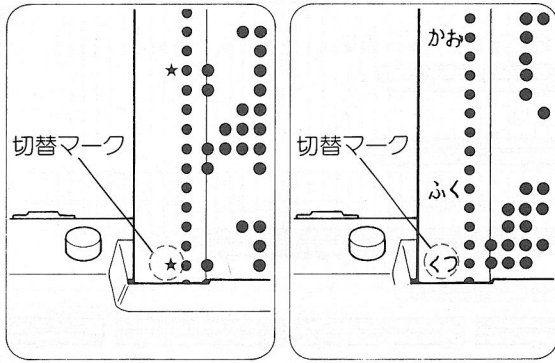


配色糸を色糸口からはずして糸カケにかけ、そのまま、Kキャリジを動かします。



再び選針されたときに、配色糸を色糸口に入れます。配色糸を軽く引きながら、次の段を編みます。

パンチカードに切替マークがあるとき



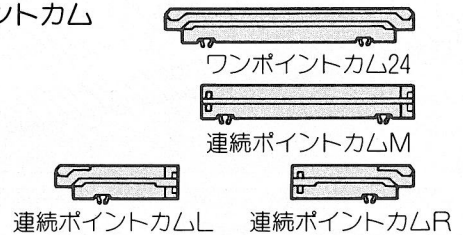
●2色以上の配色糸を切り替えて編む場合、パンチカードの左側の切替マークが、カード差込口にきたときに配色糸を切り替えます。

- ①色糸口の配色糸を取り出し、糸取装置からはずします。
- ②次に編む配色糸を糸取装置に通し、色糸口に入れて編みます。

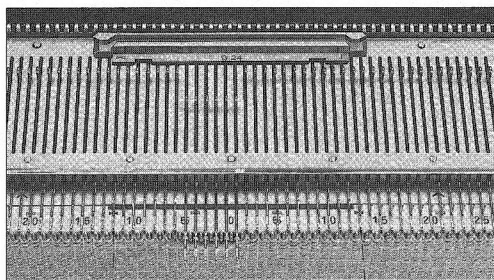
ポイント・同時編込模様 利用できるカード：No13Q、同時編込模様のカードも利用できます。

●ポイント模様は、ポイントカムを使うことにより、編幅に関係なく、ポイントカムが置かれている部分にだけ模様が編める編み方です。

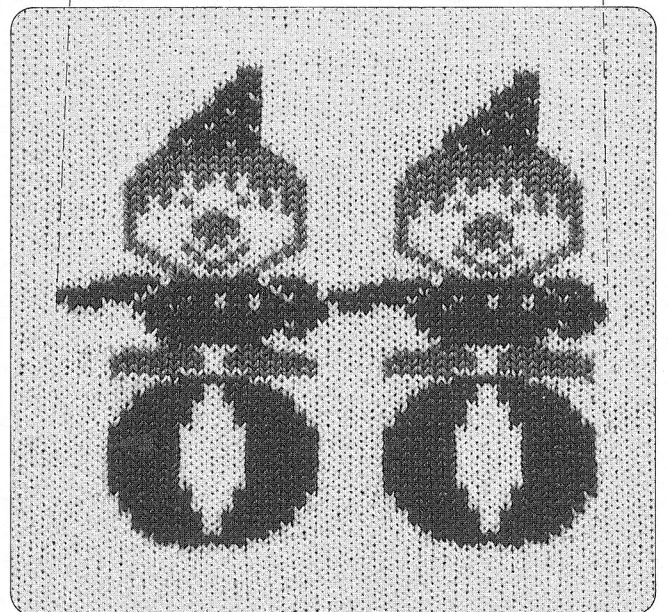
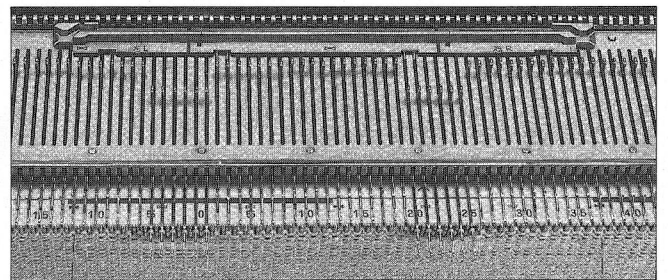
●ポイントカム



①24針分(ワンポイント模様)



②48針分(2連続模様)



●ポイントカムの組み合わせと接続方法

ワンポイントカム24は単独で使用します。連続ポイントカムは組み合わせにより、模様幅を24針、48針、72針の3段階に増大させることができます。

※連続ポイントカムL、M、Rはそれぞれ単独で使うことはできません。

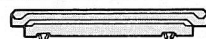
※連続ポイントカムを接続する場合は、LとRが必ず両端になる組み合わせで接続します。

接続の方法

図のように、それぞれの先端①部と②部を合わせて“パチツ”と音がするまではめ込みます。

※接続をはずすときは、引き抜けばはずれます。

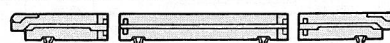
●24針分(ワンポイント模様)



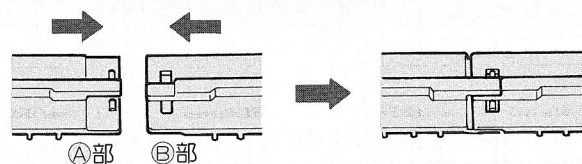
または



●48針分(2連続模様)



●72針分(3連続模様)



●模様の編み方

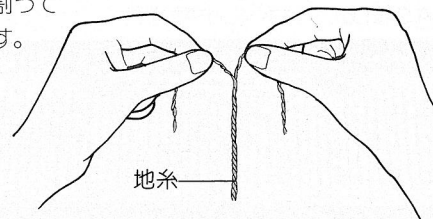
ここでは、ワンポイントカム24を使用し、①の編地を例にしますが、連続ポイントカムを使用するときも操作は同じです。

用意するもの

- パンチカードNo13a
- 地糸・配色糸(数色…パンチカードを見てどの部分を何色で編むか決めます。)
- 別糸(右図参照)―地糸と同じ色で地糸より細い編糸カナイロン糸(約80cm)

ワンポイント模様を美しく編むために……

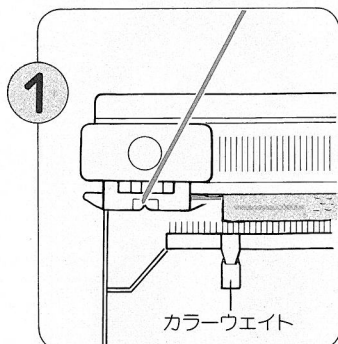
地糸を2本に割って別糸を作ります。



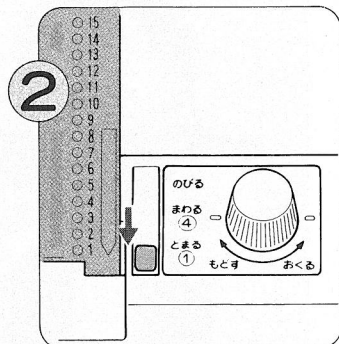
部分的に模様を編み込んだ場合、配色糸が一部分の編地だけに編み込まれますので、そのままでは、模様の両側に穴があいた状態になってしまいます。

模様を美しく編むために、毎段キャリジのある側に別糸(または透明糸)をかけて編みます。

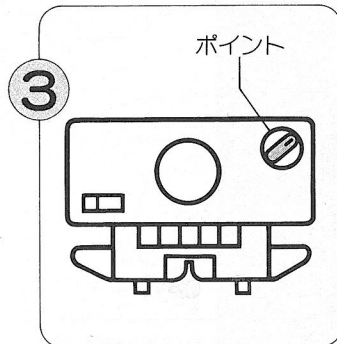
●糸取装置の編糸の通し方は、同時編込模様と同じです。(41ページ参照)



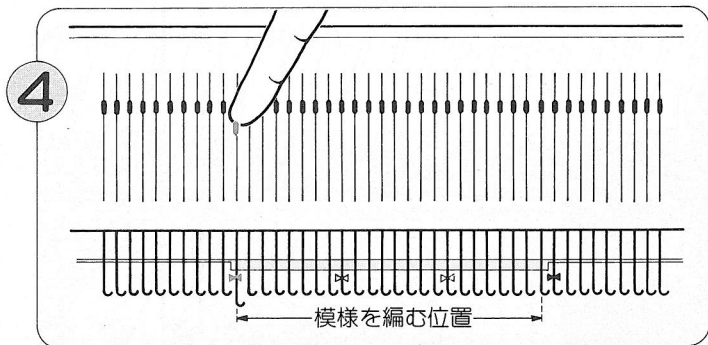
地糸で平編を数段編み、Kキヤリジを左側に置きます。カラーウエイトを左右均等にかけます。



パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを<とまる>に合わせます。

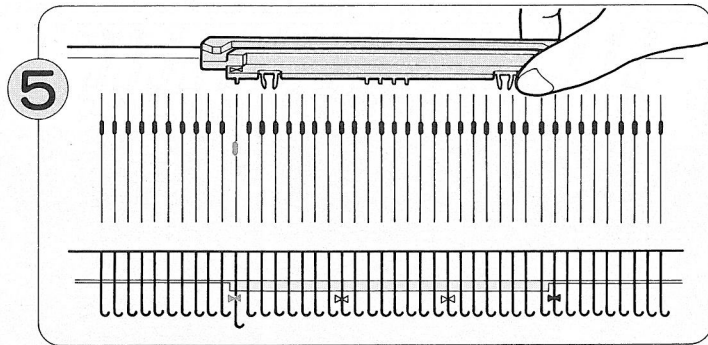


選針切替ツマミを<ポイント>に合わせます。

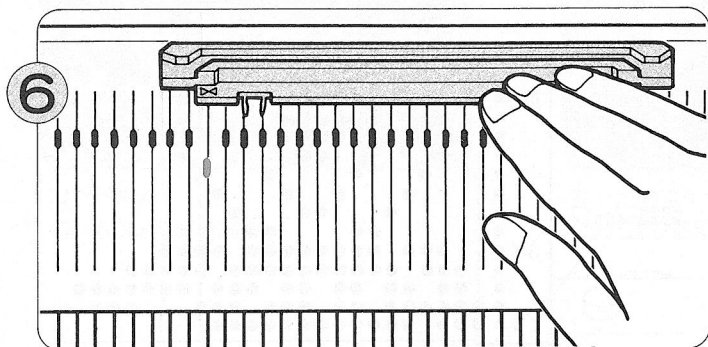


ミゾ板目盛板の選針マークを参考にして、カムのセット位置を決めます。

※模様を編む位置の選針マーク左端の◀マークの編針を少し出すとポイントカムを置く位置がわかりやすくなります。

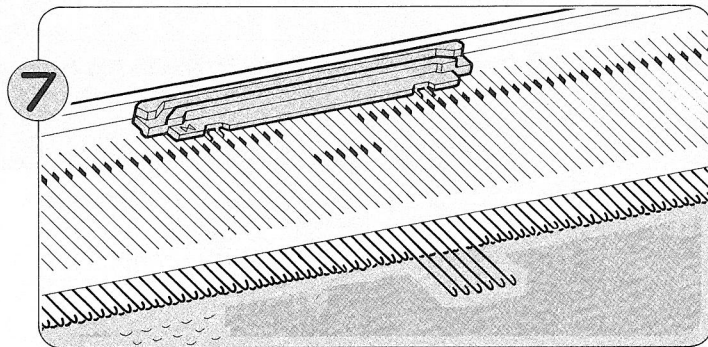


ワンポイントカム24の▶マークを左側にして持ち、ポイントカムの▶マークを出しておいた編針の位置に合わせてセットする位置を決めます。

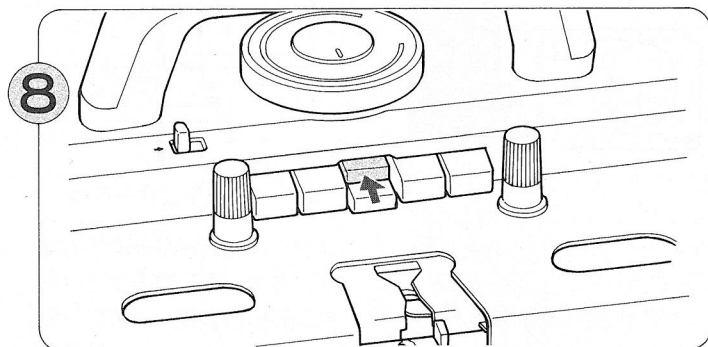


ポイントカム裏面のツメをミゾ板のミゾにはめ、ポイントカムの後側を少し浮かせながら、後レール側(後レールのピンがかくれるまで)へ平行に押しつけて固定します。

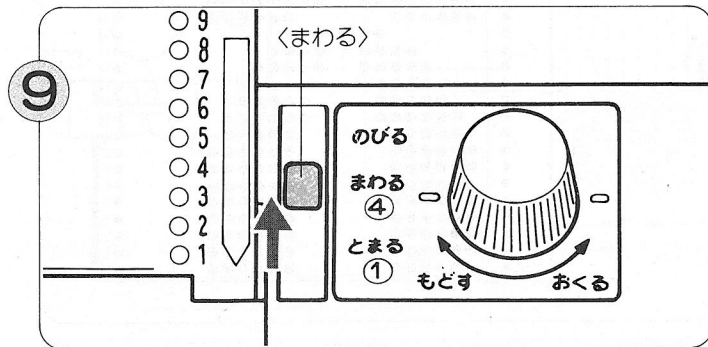
※正確にはまっていないと、ポイントカムがとびだしたり、ポイントカムを痛めることにもなります。



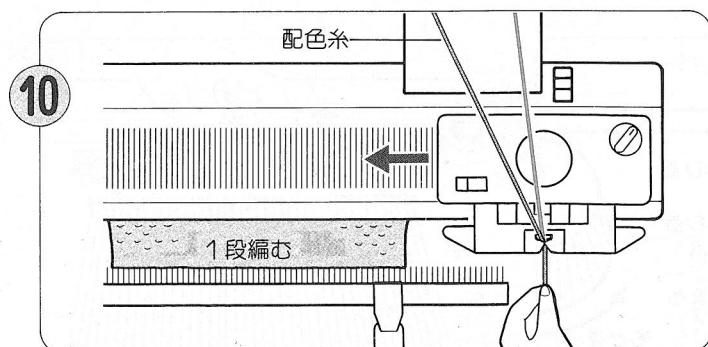
Kキャリジを右側へゆつくり操作し予備選針をします。
※ポイントカムをセットした部分だけが選針されます。



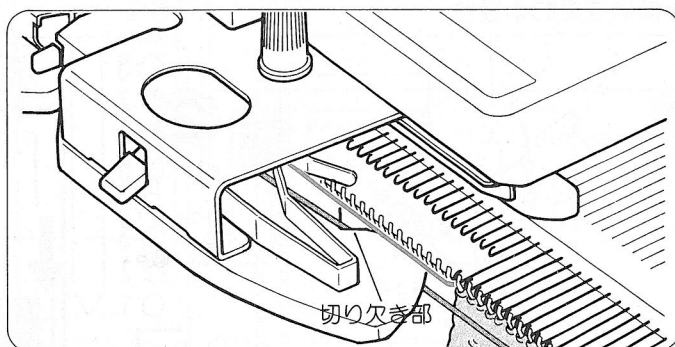
カムボタンの<同時あみ>(上のボタンだけ)を押します。



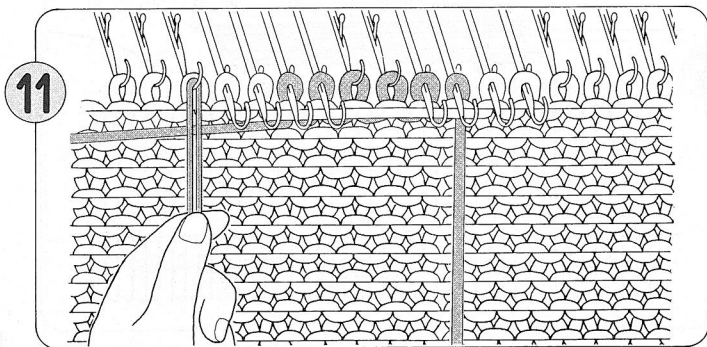
ストップレバーをくまわるに合わせます。



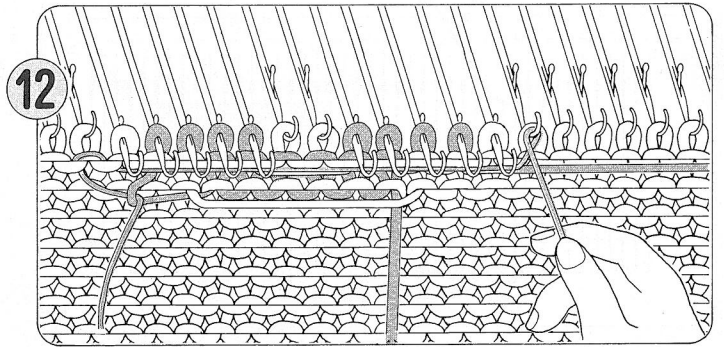
糸口レバーは閉じたままで配色糸を糸口に入れて、糸端を軽くつまみ軽く真下に引くようにしてKキャリジを左へ動かします。



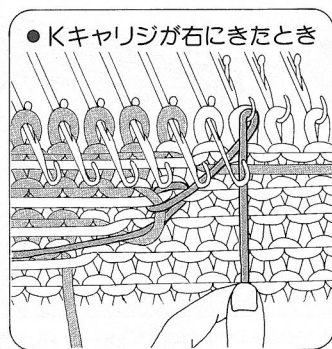
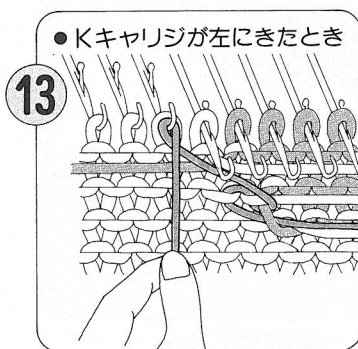
※次の段からは配色糸が編地押えの切り欠き部から下側に通るのを確かめ、編糸の糸たるみをなくしてから編んでください。もしはずれたときは下側に通し直します。



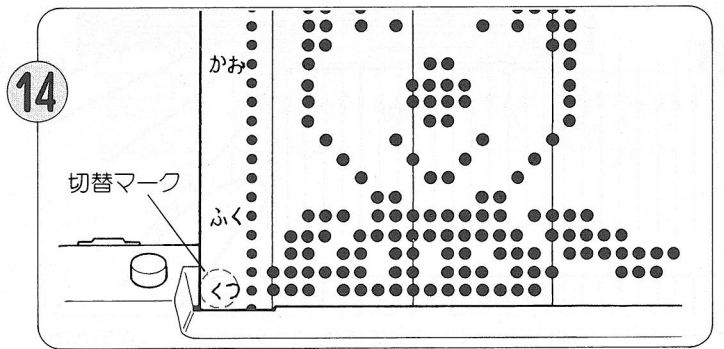
11 左側(Kキャリジのある側)で、D位置に選針されている端針のすぐ左隣のB位置の編針に用意した別糸を半分に折ってかけ、指で軽く下に引きます。Kキャリジを右へ動かします。



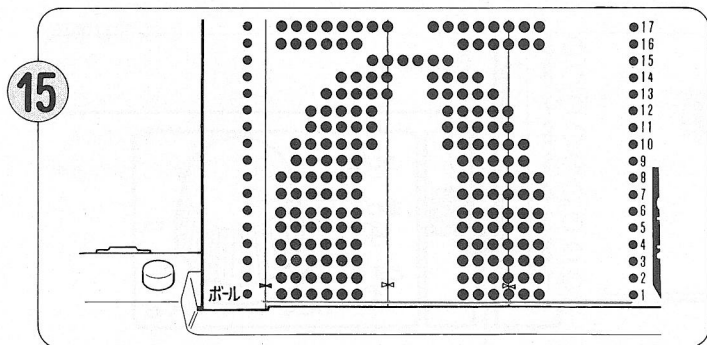
12 右側(Kキャリジのある側)でD位置に選針されている端針のすぐ右隣の編針に、左側でかけた別糸の片側を外側から内側にかけます。Kキャリジを左へ1段動かします。



13 1段編むごとに、Kキャリジのある側で、別糸をかけながら、編み進みます。別糸は、D位置に選針されている端針のすぐ隣(外側)のB位置の編針に外側から内側にかけます。

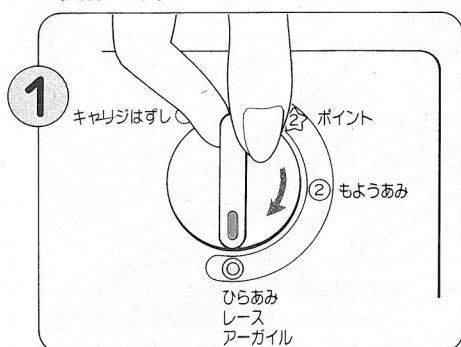


14 カード差込口に、切替マークがきたら、いま編んできた配色糸を糸取装置・色糸口からはずし、これから編む配色糸と入れ替えて編みます。

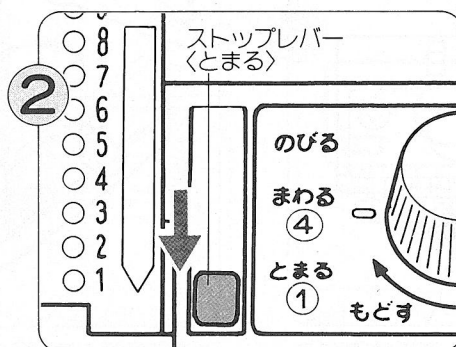


15 パンチカードのスタートラインが、カード差込口にきたら、1模様編み終わります。

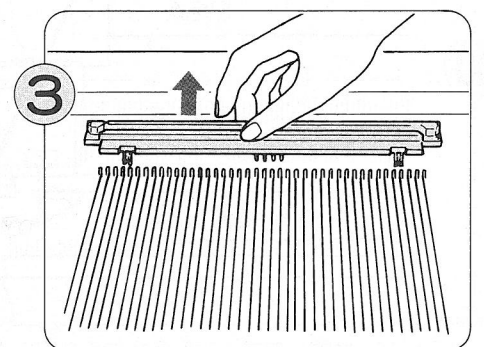
● 模様を終わる場合



1 選針切替ツマミを(ひらあみ)にもどします。カムボタンは自動的にもどります。



2 ストップレバーを<とまる>にもどし、配色糸をはずします。



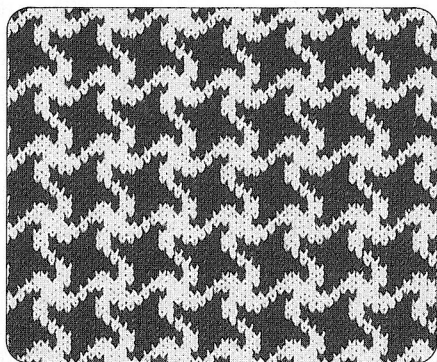
3 ポイントカムをはずします。

間欠送り模様 利用できるカード：同時編込模様と同じです。

- ストップレバーを〈のびる〉に合わせれば、縦に2倍の模様を編むことができます。

※ ストップレバーを〈のびる〉に合わせると、Kキャラジが右から左へ動いたときのみパンチカードは送ります。

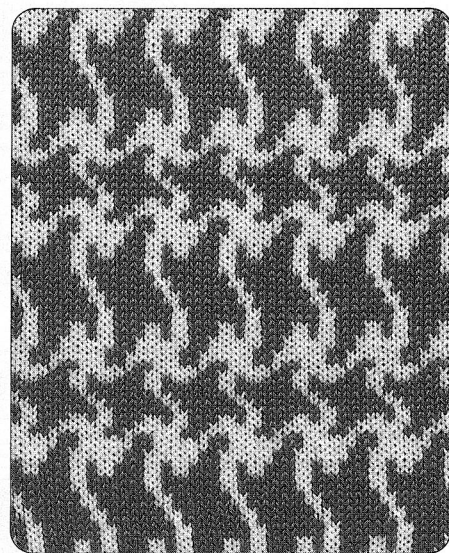
※ 間欠送り模様はすべり目模様・スレッド模様・編込レース模様にも応用できます。



カードNo.40
〈普通の同時編込編〉



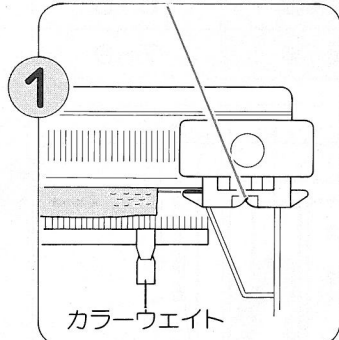
カードNo.40
〈間欠送り使用〉



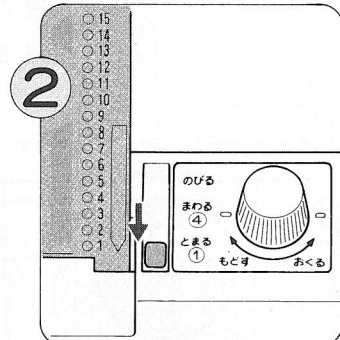
カードNo.40
〈間欠送りを部分的に使用〉

● 模様の編み方

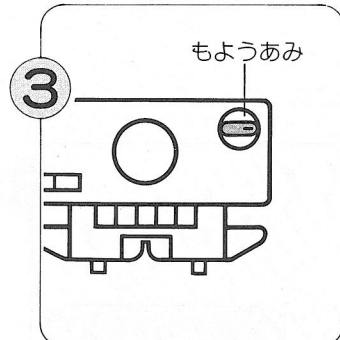
- 編糸の通し方は同時編込模様と同じです。(41ページ参照)



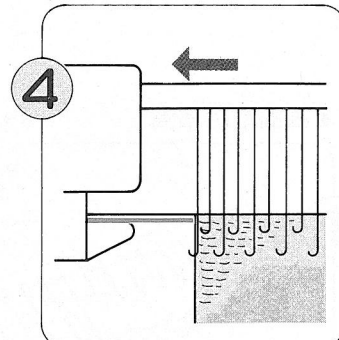
1 カラーウエイト
地糸で平編を数段編み、Kキャラジを右側に置きます。カラーウエイトを左右均等にかけます。



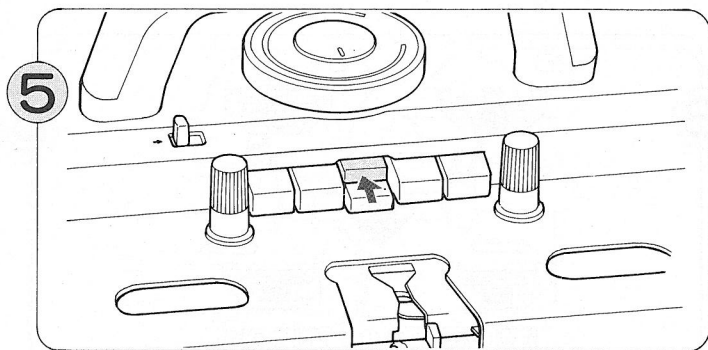
2 パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを〈とまる〉に合わせます。



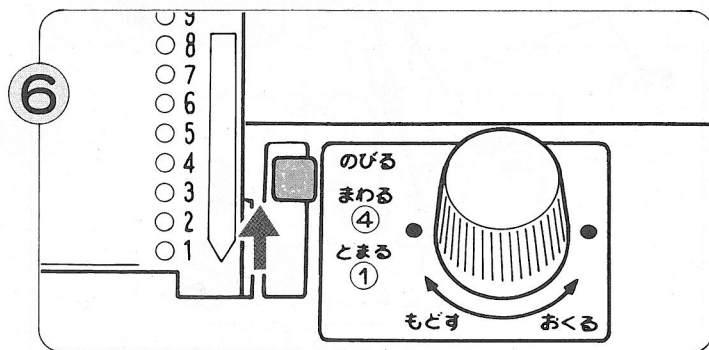
3 選針切替つまみを〈もようあみ〉に合わせます。



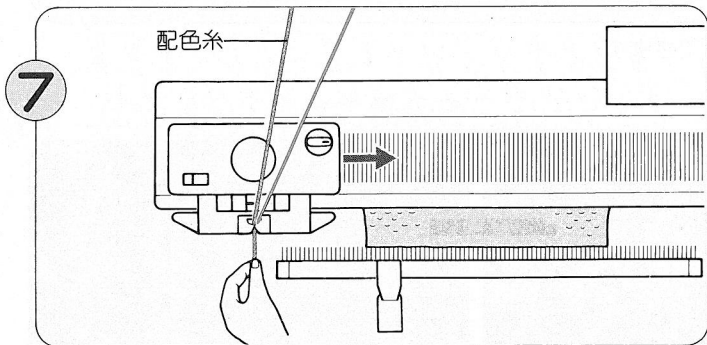
4 Kキャラジを左へ動かします。編針が選針されます。



5 カムボタンの〈同時あみ〉(上のボタンだけ)を押します。



6 ストップレバーを〈のびる〉に合わせます。



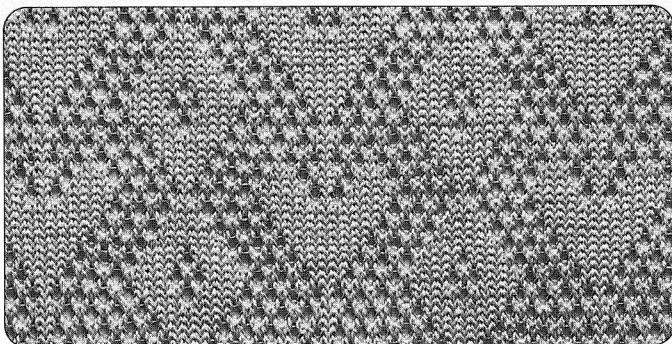
配色糸を色糸口に通します。配色糸の糸端を指でつまみ、かるく真下に引くようにしながらKキャリジを操作します。

間欠送りを部分的に使う場合

●パンチカード左側の切替マークがカード差込口にきたとき（Kキャリジが左側にあるとき）にストップレバーを〈のびる〉⇒〈まわる〉に交互に切り替えて編みます。

編込レース模様 利用できるカード：No10・60・110・140・150・160

カードNo140

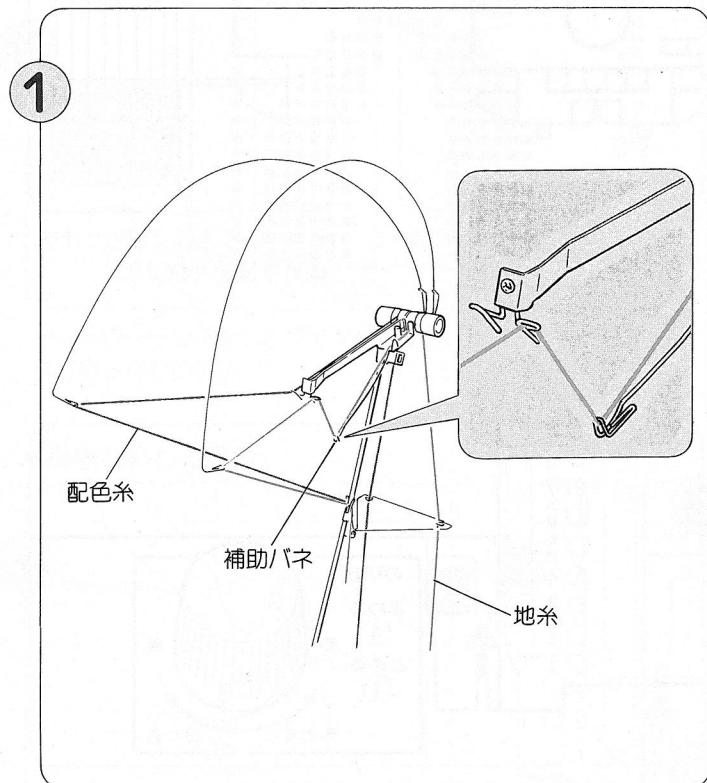


- 編込レース模様は、太い編糸と細い編糸の組み合わせによる効果を利用して編みます。
- 地糸には中細または合細タイプの編糸を、配色糸には地糸に似た色の極細タイプを使用して編みます。

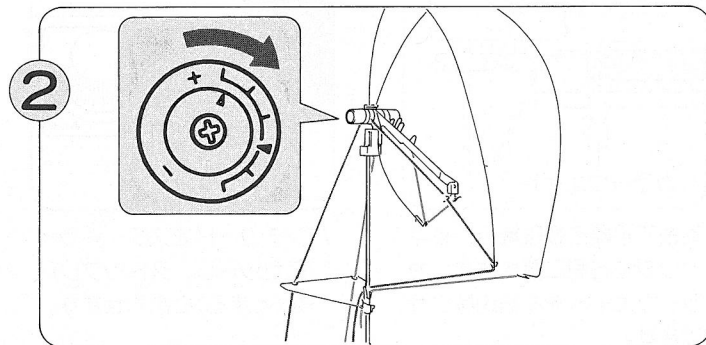
編糸の組み合わせによる編目ダイヤル

編糸タイプ	編目ダイヤル
合細と超極細	4~6
合細と極細	5~7
中細と超極細	6~8
中細と極細	7~9

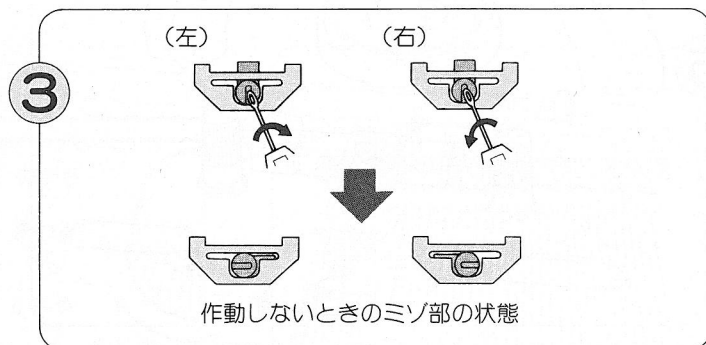
●編む前の準備



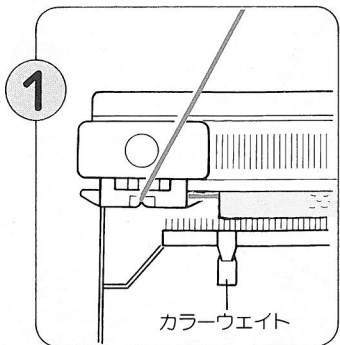
糸取装置の右側に地糸を、左側へ配色糸を通します。そのあと、地糸を補助バネに通します。



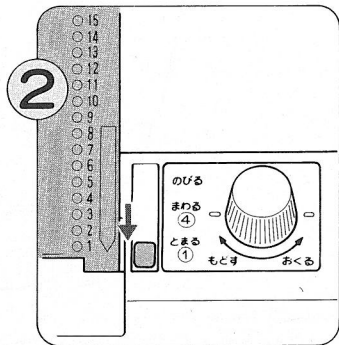
配色糸は、細い編糸を使用しますので、つまみを(+側)にします。



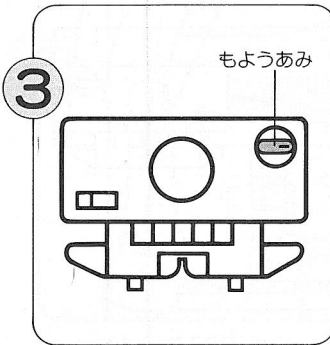
Kキャリジの端針選針機構を、左右とも作動ないようにします。(22ページ参照)



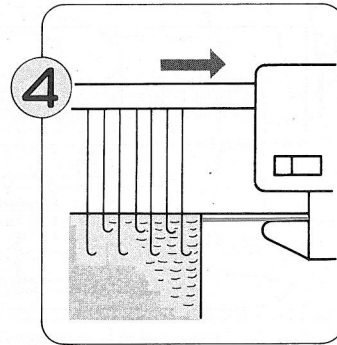
① 地糸で平編を数段編み、Kキャリジを左側に置きます。カラーウエイトを左右均等にかけます。



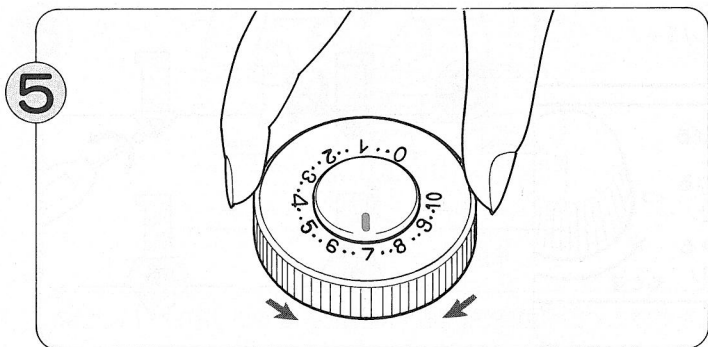
② パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを〈とまる〉に合わせます。



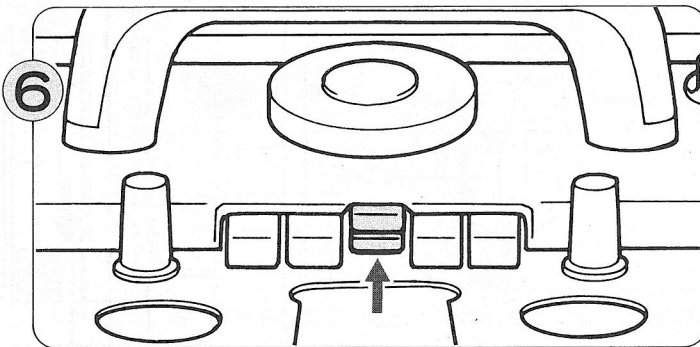
③ 選針切替ツマミを〈もようあみ〉に合わせます。



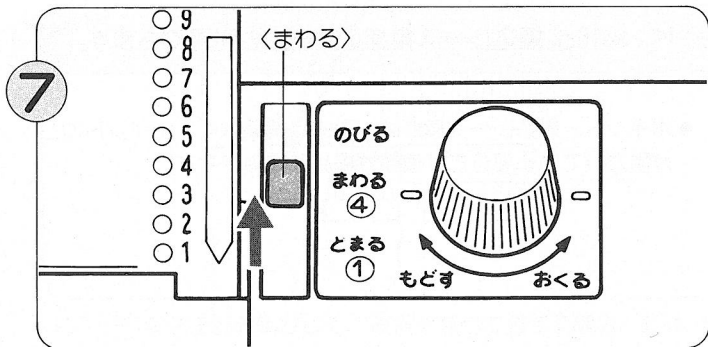
④ Kキャリジを右へ動かします。編針が選針されます。



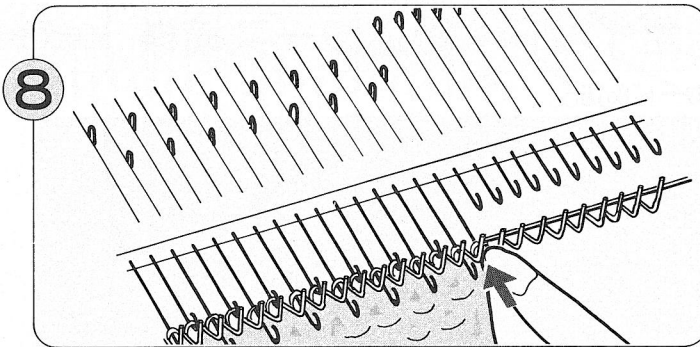
⑤ 編目ダイヤルを、使用する編糸の組み合わせに応じて合わせます。



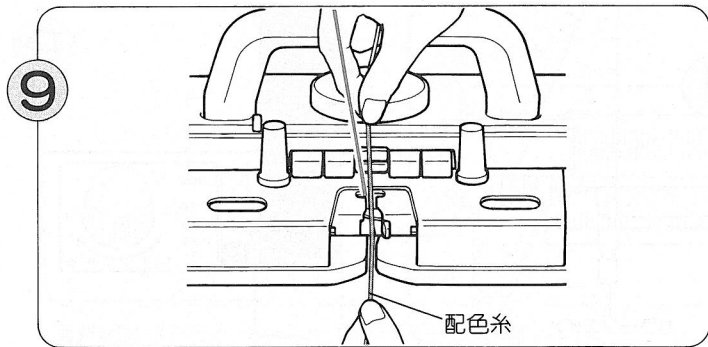
⑥ カムボタンの〈あみこみレース〉を上下同時に押します。



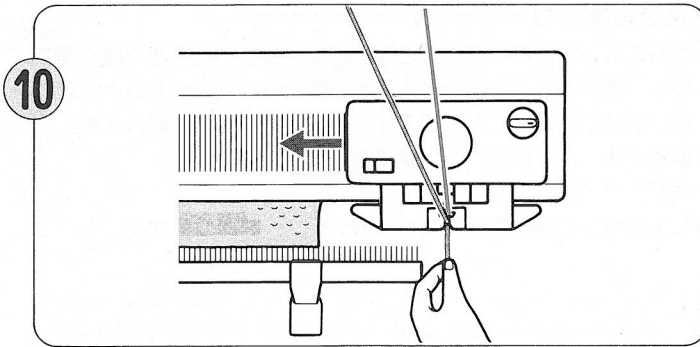
⑦ ストップレバーを〈まわる〉に合わせます。



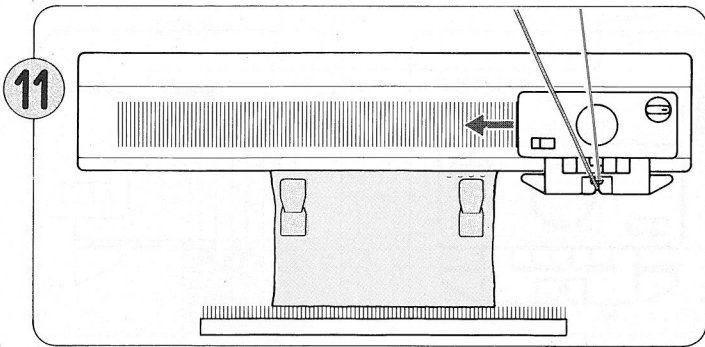
⑧ 編地の両端の編針がD位置に出たら、B位置にもどします。



⑨ 糸口レバーは閉じたままで、配色糸(細い糸)を糸口へ入れます。

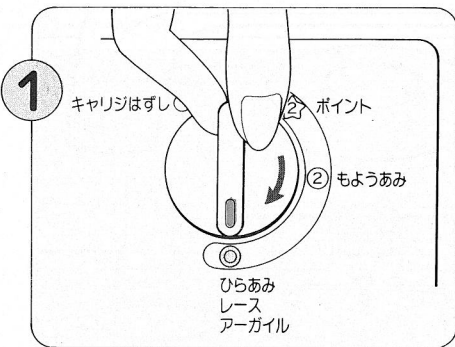


⑩ 配色糸(細い糸)の糸端を指でつまみ、軽く真下に引くようにしながら、Kキャリジを左へ動かします。

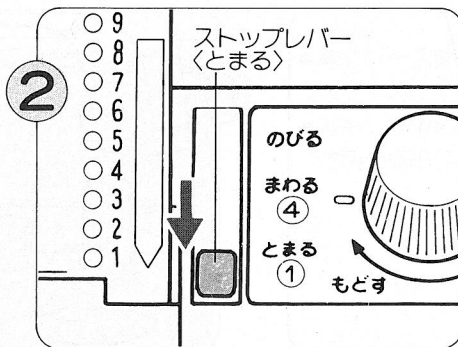


⑩のように両端の編針をB位置にもどしながら編み進みます。
 ※カラーウエイトは20段おきぐらいに、編地の両端にかけ替えてください。

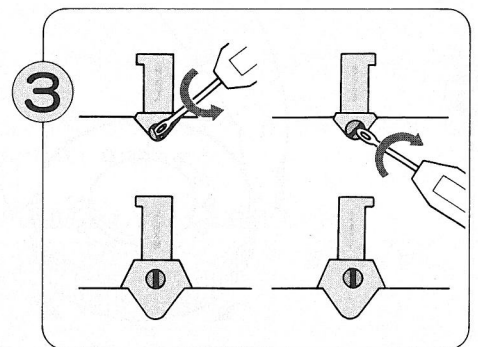
●模様を終わる場合



選針切替つまみを(ひらあみ)にもどします。カムボタンは自動的にもどります。



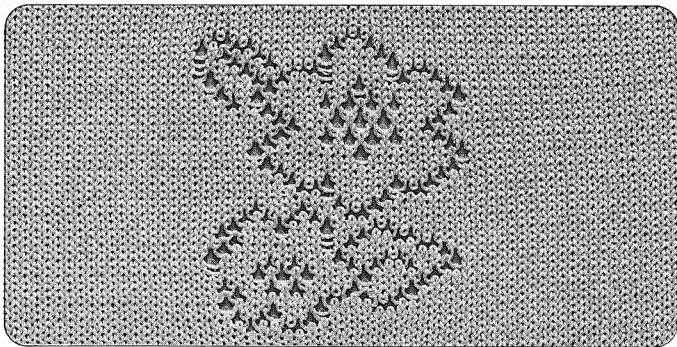
ストップレバーを<とまる>にもどし、配色をはずします。



端針選針機構を作動位置にもどします。

ポイント・編込レース模様 利用できるカード：No16Q, 編込レース模様のカードも利用できます。

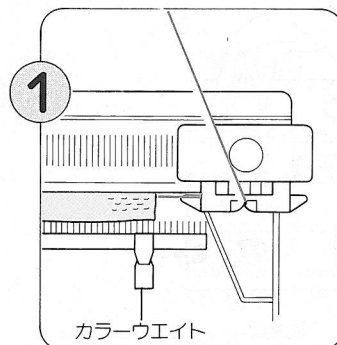
カードNo16Q



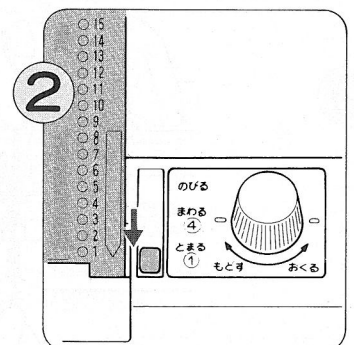
●ポイント・編込レース模様は、編幅に関係なく、ポイントカムが置かれている部分だけ模様が編める編み方です。

●模様の編み方

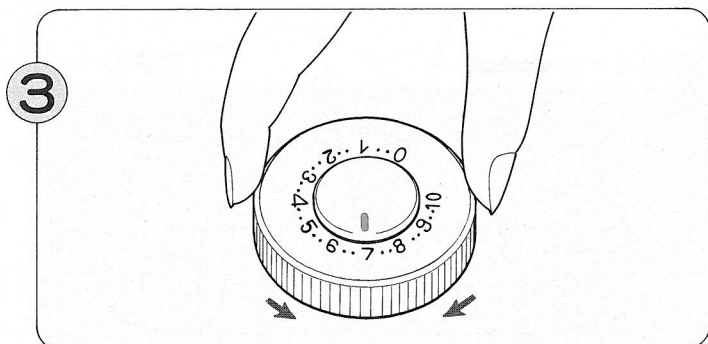
- 例題のように模様を部分的に編む場合、模様の上下を平編で編むと、模様の左右の部分とは編地の風合いが変わってしまいます。そこで、編み方をそろえるために、次のように編みます。
- 編糸の通し方は編込レース模様の場合と同じです。(48ページ参照)
- Kキャリジの端針選針機構を解除する必要はありません。



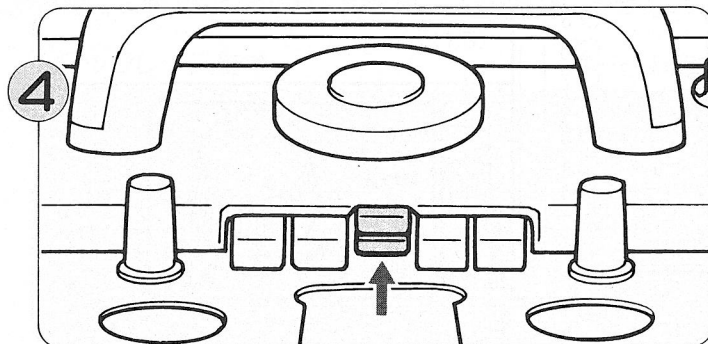
地糸で平編を数段編み、カラーウエイトを左右均等にかけます。



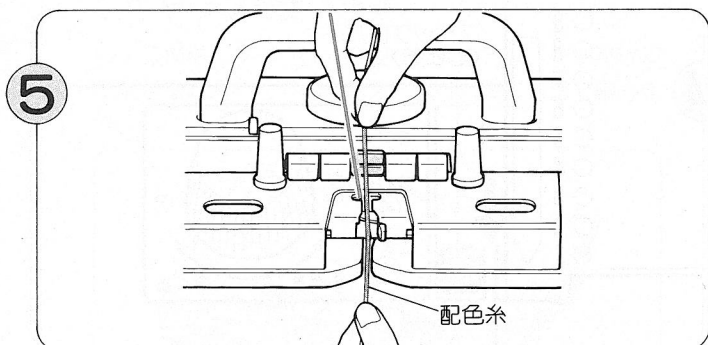
パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを<とまる>に合わせます。



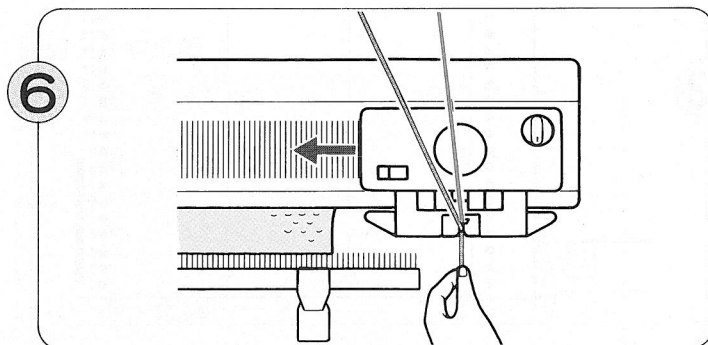
編目ダイヤルを、使用する編糸の組み合わせに応じて合わせます。
(48ページ参照)



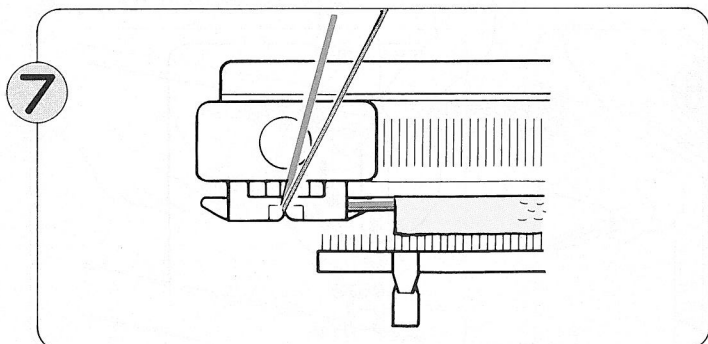
カムボタンの〈あみこみレース〉を上下同時に押します。



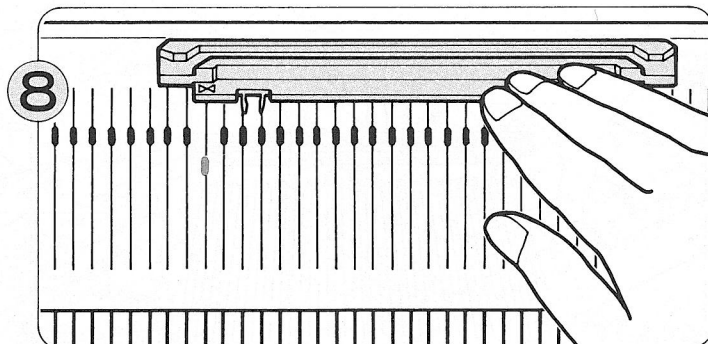
糸口レバーは閉じたままで、配色糸(細い糸)を色糸口へ入れます。



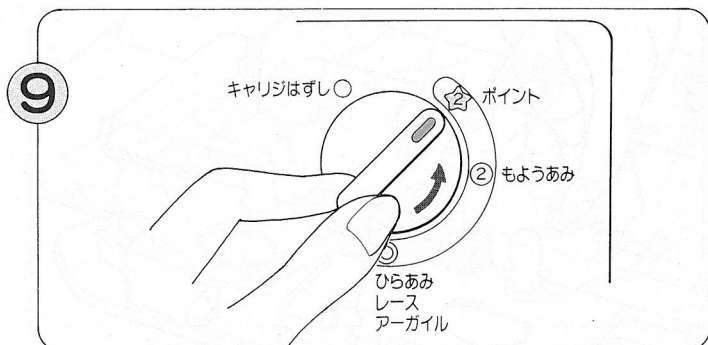
配色糸(細い糸)の糸端を指でつまみ、かるく真下に引くようにしながら、Kキャリジを動かします。



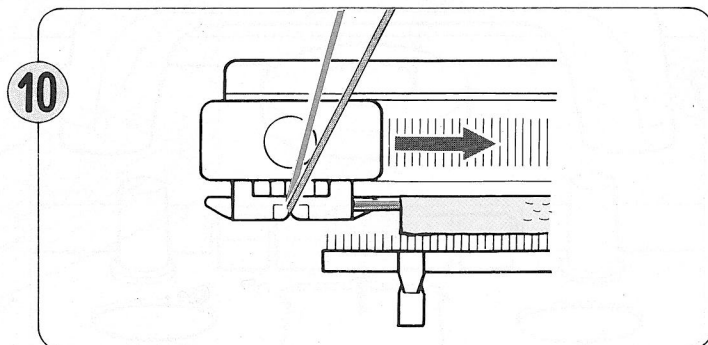
Kキャリジを左右に動かして、模様を編む位置まで編み、Kキャリジを左側に置きます。



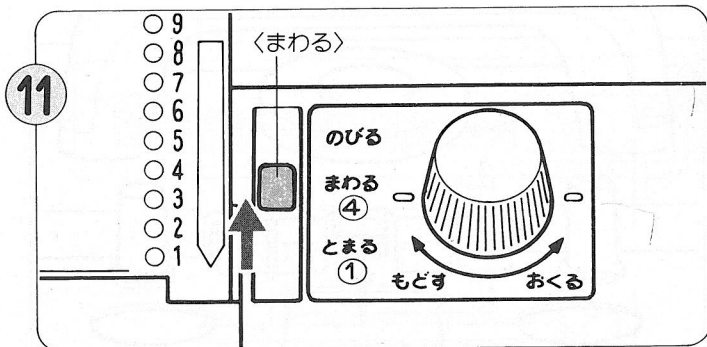
模様を編む位置にポイントカムをセットします。(45ページ参照)



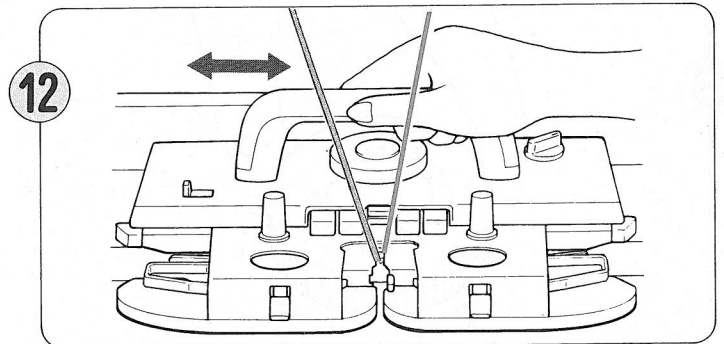
選針切替つまみを〈ポイント ☆〉に合わせます。



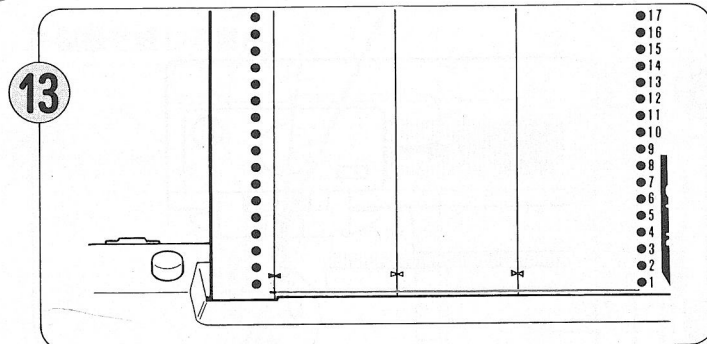
Kキャリジをゆつくり右へ動かします。編針が選針されます。



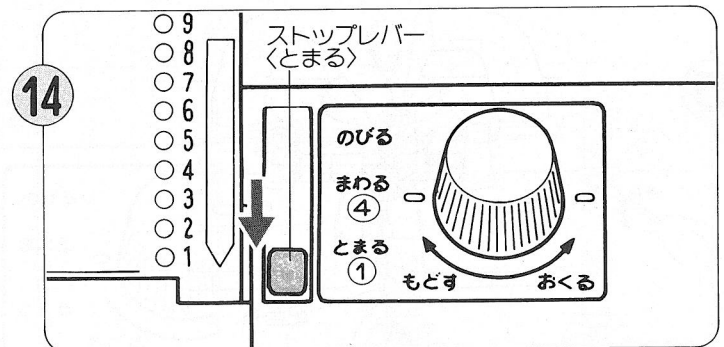
ストップレバーを<まわる>に合わせます。



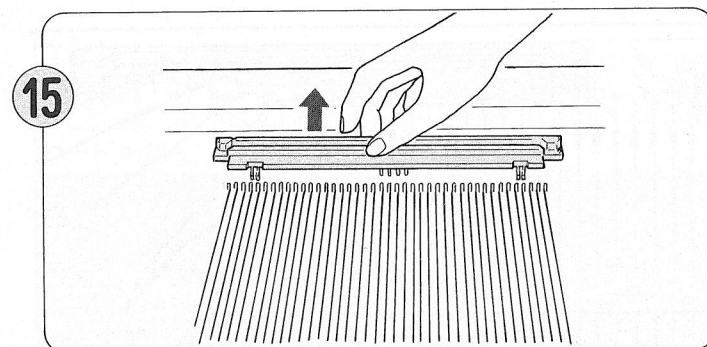
Kキャリジを左右に動かすと、編込レース模様が編めます。



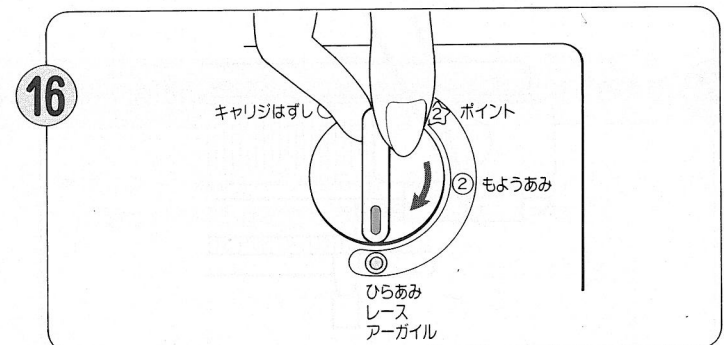
パンチカードのスタートラインが、カード差込口にきたら、1模様が編み終わります。



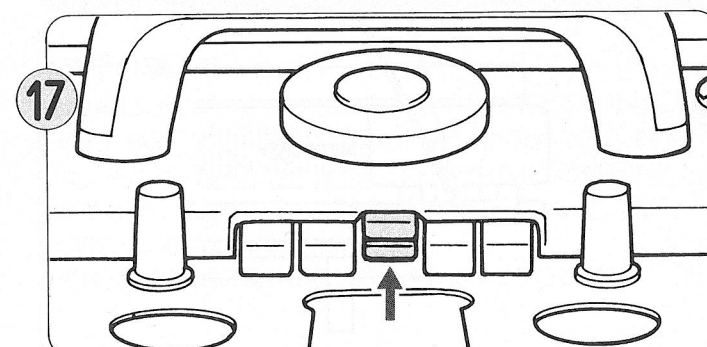
ストップレバーを<とまる>にもどします。



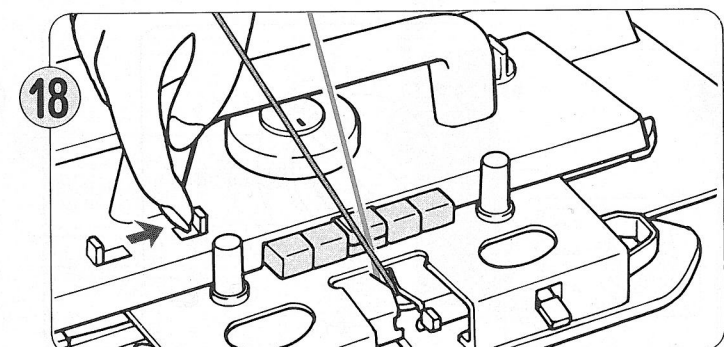
ポイントカムをはずします。



選針切替ツマミを<ひらあみ>にもどします。カムボタンは自動的にもどります。D位置に選針されている編針をB位置にもどします。



再び、カムボタンの<あみこみレース>を上下同時に押します。そのまま、Kキャリジを動かし、必要な段数を編みます。



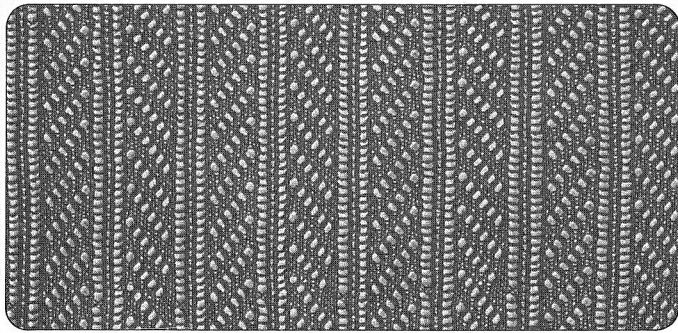
ボタンもどしレバーを右に押します。カムボタンはもどります。

レース模様・タックレース模様

利用できるカード： レース模様：No17□・18□・19□・20□
 タックレース模様：No17□・19□・20□

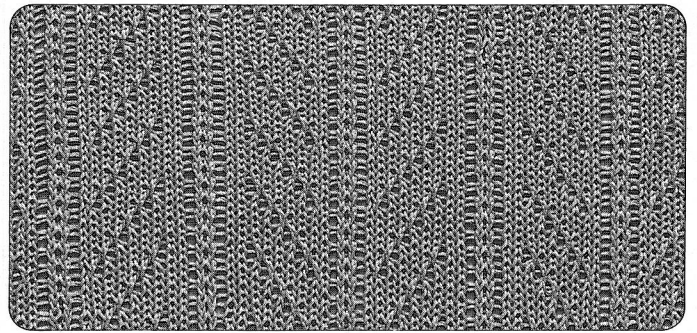
レース模様

カードNo20□



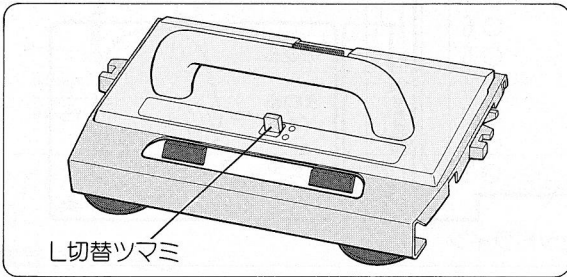
タックレース模様

カードNo20□



Lキャリジを使います

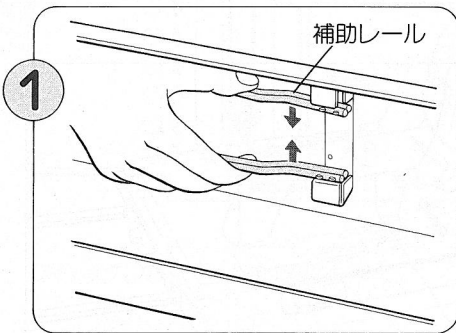
レース模様・タックレース模様の編み方は、L切替ツマミを模様に合わせて切り替える以外、同じ方法で編みます。



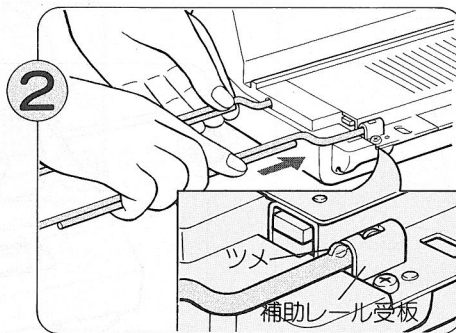
編目ダイヤル表

編糸タイプ	編目ダイヤル
極細	4 ~ 5
合細	4 ~ 5
綿・化繊レース	4 ~ 5
中細	5 ~ 6

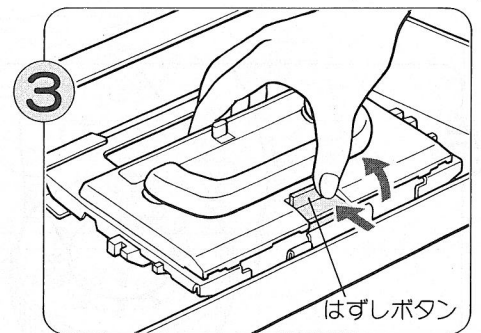
●Lキャリジのセット方法



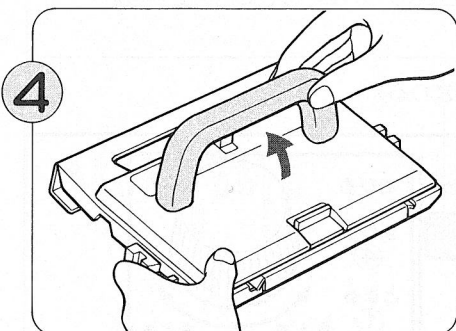
1 補助レール2本をケースから取り出します。



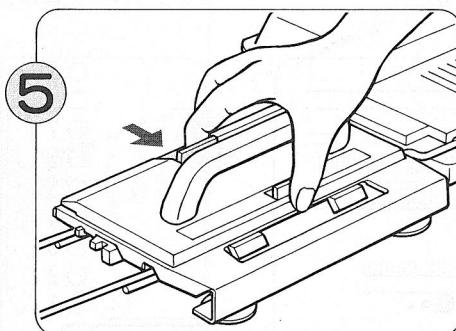
2 補助レールのツメを上にして、本体両端の補助レール差込口と補助レール受板に、左右とも確実に差し込みます。



3 ケースに収めてあるLキャリジのはずしボタンを矢印の方向に押し取り出します。

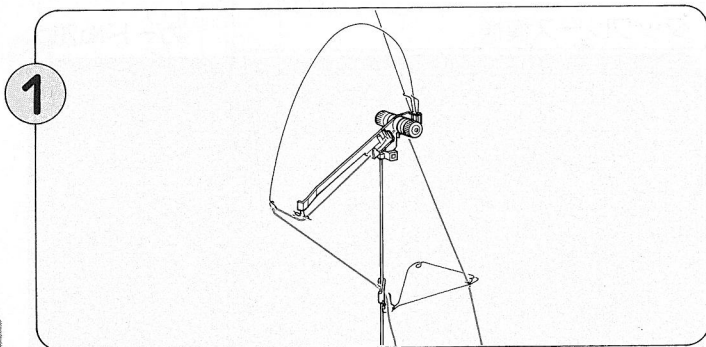


4 ハンドルを矢印の方向に引き上げておきます。

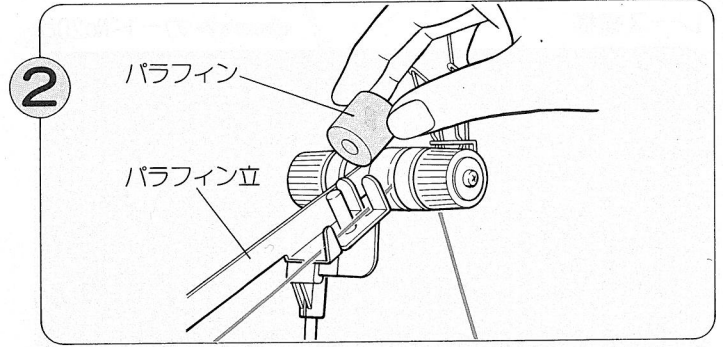


5 はずしボタンを手前に引き、左側の補助レールの上に正しくのせます。
 ※正しくのっていないとミゾ板に滑り込ませることができません。

● 模様の編み方

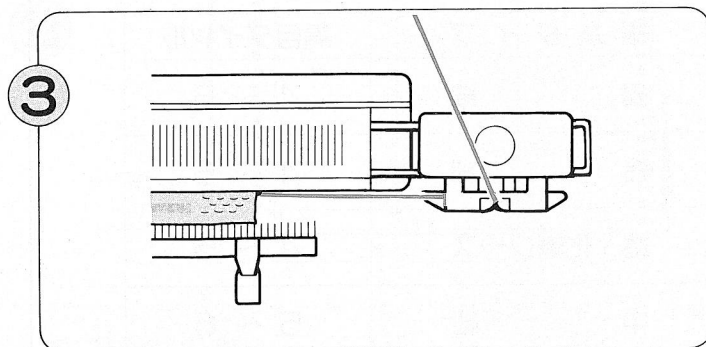


糸取装置の右に地糸を通します。

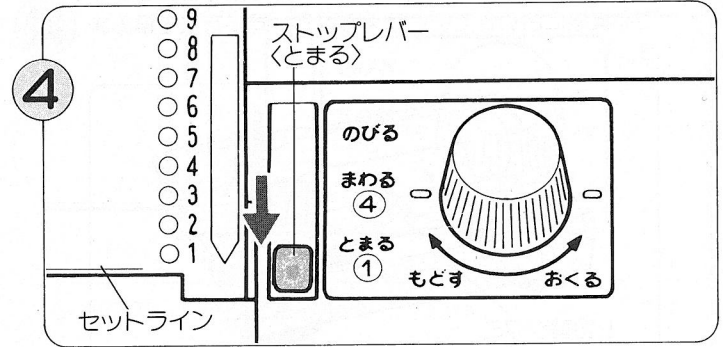


パラフィンケースからパラフィンを取り出し、編糸の上になるように糸取装置のパラフィン立にはめます。

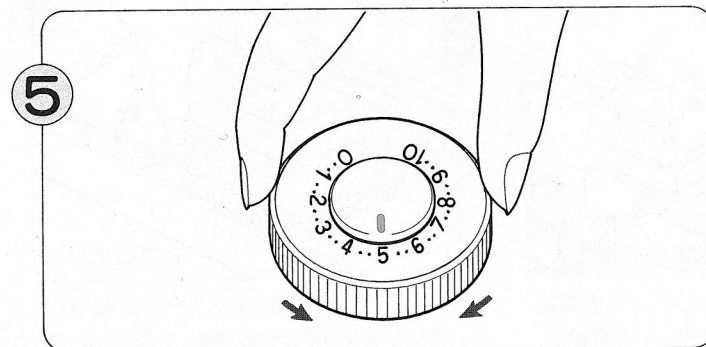
※レース模様・タックレース模様のときは、編糸のすべりをよくするため、必ず使用します。



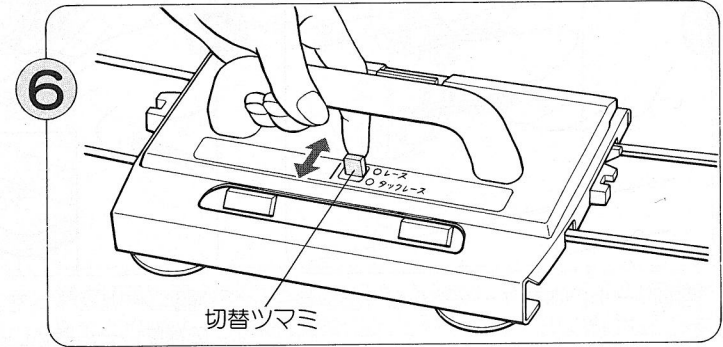
平編を数段編み、Kキャリジを右の補助レールの上に置きます。カラーウェイトを左右均等にかけます。



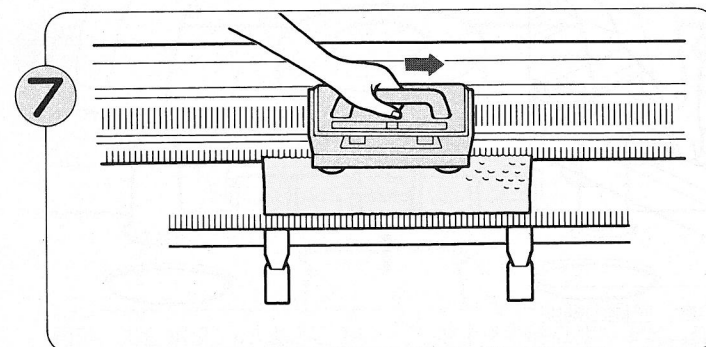
パンチカードをセットラインにセットし、ストップレバーを〈とまる〉にセットします。



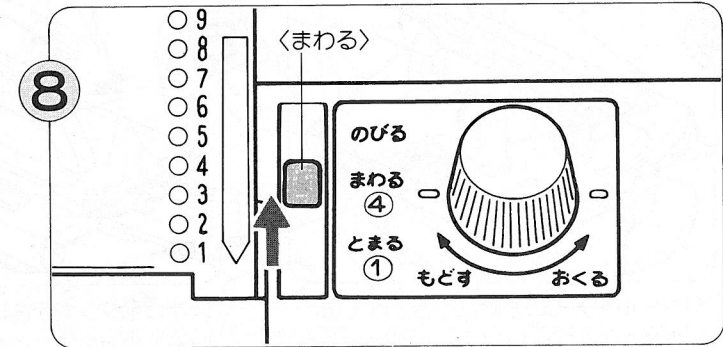
編目ダイヤルを、使用する編糸のタイプに応じて合わせます。



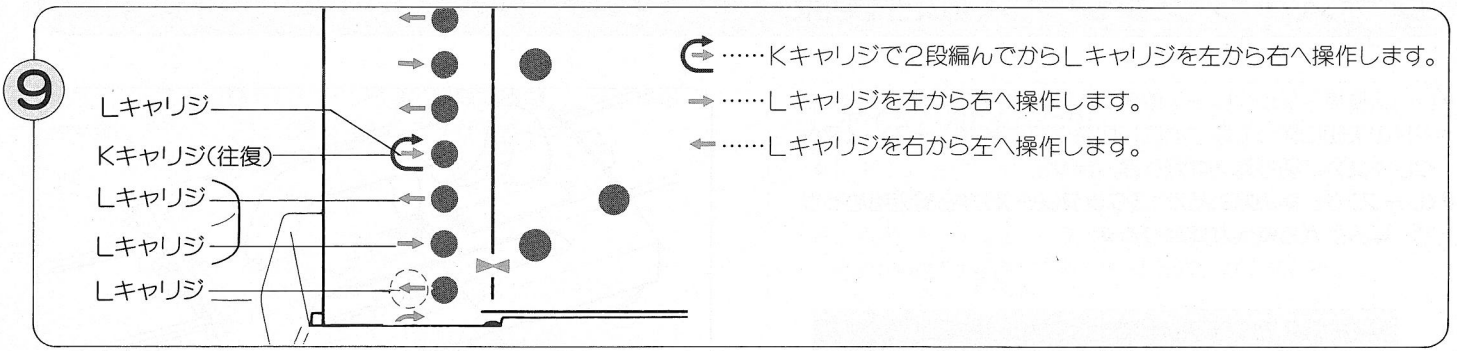
LキャリジのL切替ツマミを、レース模様のときは〈レース〉に、タックレース模様のときは〈タックレース〉に合わせます。



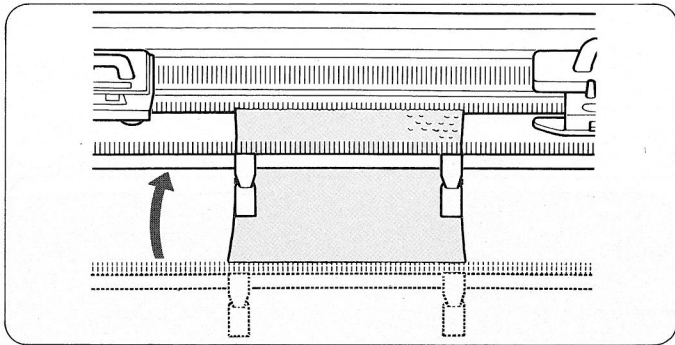
Lキャリジを補助レールからミゾ板に滑り込ませ、そのまま右へゆっくと動かして選針します。



ストップレバーを〈まわる〉に合わせます。

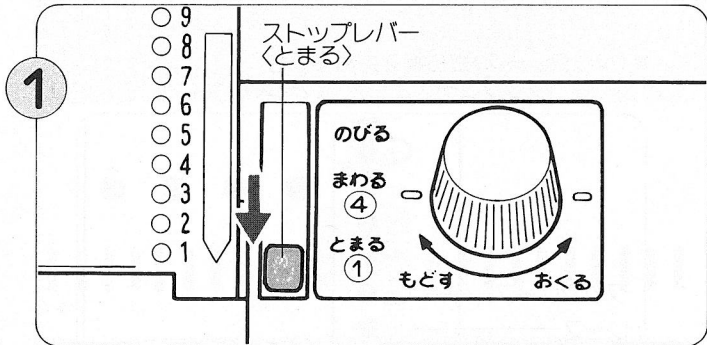


パンチカードの矢印に従って、Lキャリジ・Kキャリジを動かします。



※編み進んで編地が長くなったら、編出シとカラーウェイトをかけ直します。

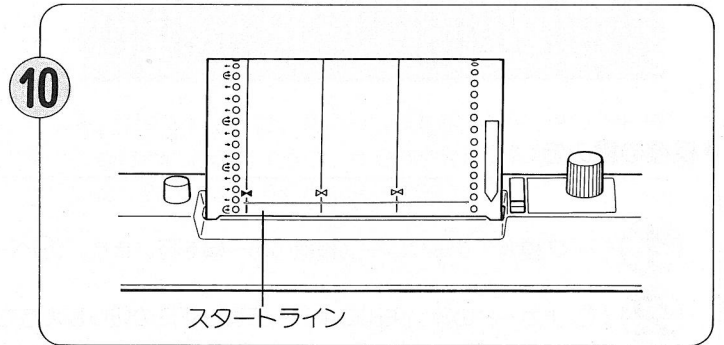
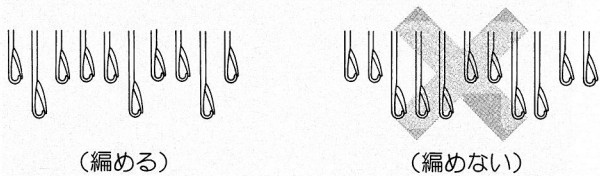
●模様を終わる場合



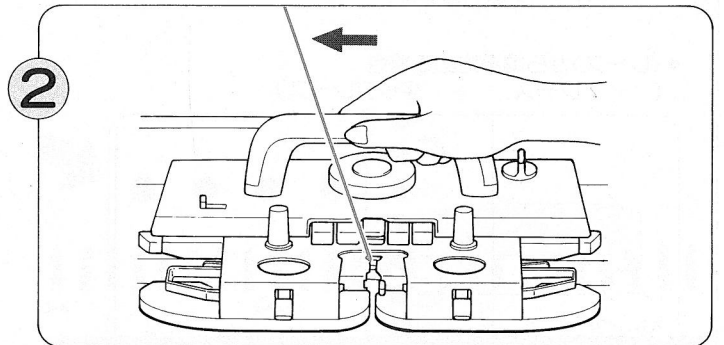
ストップレバーを<とまる>にします。

◀知識メモ▶

- レース編・タックレース編の場合は、編針が2本以上ならんで選針されると編めません。



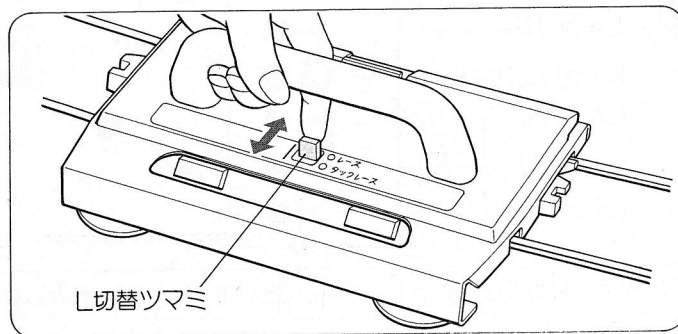
スタートラインのすぐ下の ⤵ 印がカード差込口にきたとき、パンチカードが1周したことを示します。



Kキャリジで平編を数段編みます。

レース・タックレース混合模様 利用できるカード：No19a

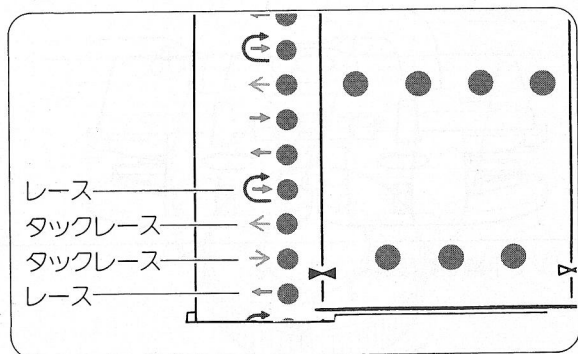
- レース模様・タックレース模様と同じ編み方ですが、パンチカードの矢印に従って段ごとにL切替ツマミを〈レース〉・〈タックレース〉に切り替えながら編みます。
- 〈レース〉から編み始めるか、〈タックレース〉から編み始めるかで、編み上がる模様が異なります。



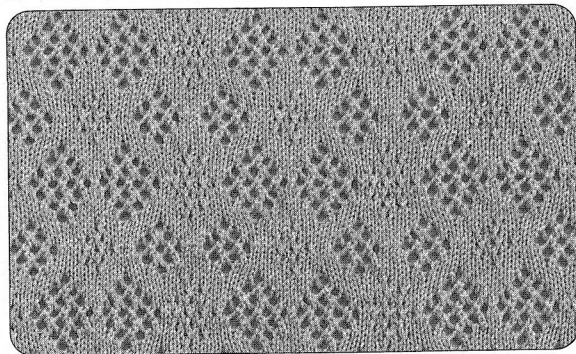
●模様の編み方

- ① レース模様・タックレース模様の①～⑥を行います。(54ページ参照)
- ② パンチカードの赤い矢印によるL切替ツマミの切り替え方を決めます。
〔 → をレース、 → をタックレース 〕 のどちらかに決めます。
〔 → をタックレース、 → をレース 〕
- ③ L切替ツマミをカードの矢印に従い 〈レース〉・〈タックレース〉に切り替えながら編みます。(54ページ⑥～⑩参照)

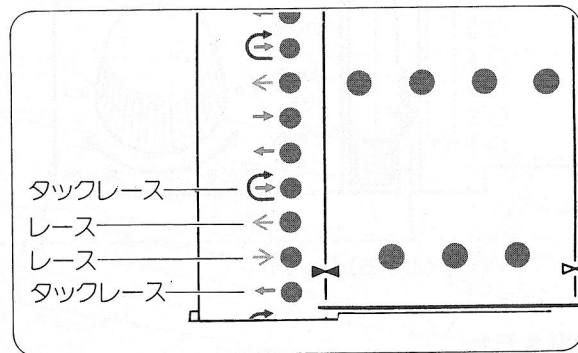
●〈レース〉から編み始める場合
〔 → : レース、 → : タックレース 〕



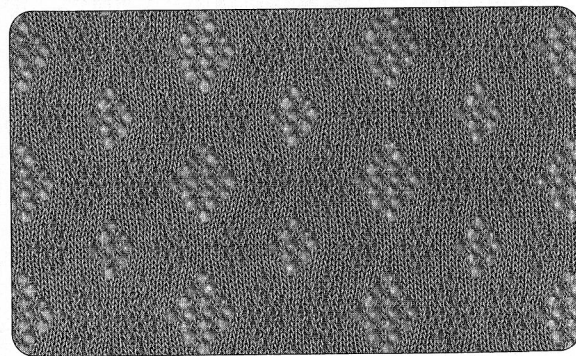
カードNo19a



●〈タックレース〉から編み始める場合
〔 → : タックレース、 → : レース 〕



カードNo19a



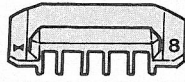
ポイント・レース模様 利用できるカード：レース模様・タックレース模様と同じです。

- Lポイントカムが置かれている部分の模様が消え、レース模様と平編とをミックスした模様を編むことができます。

Lポイントカム
4針用

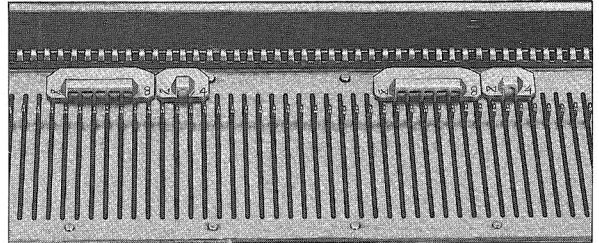


8針用



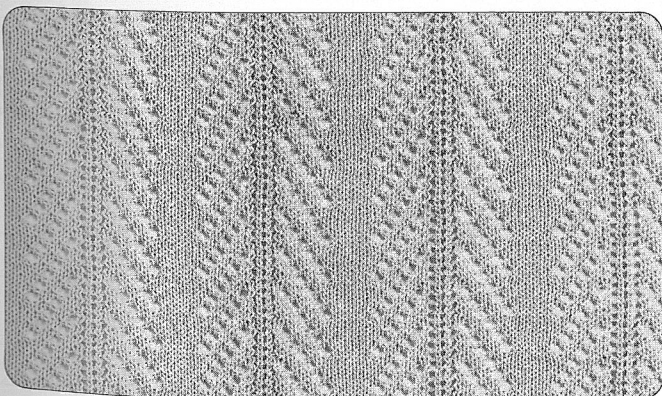
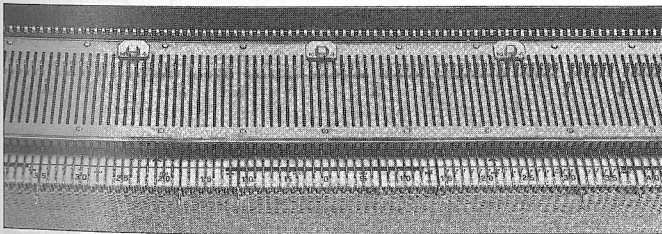
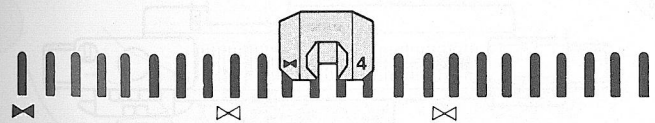
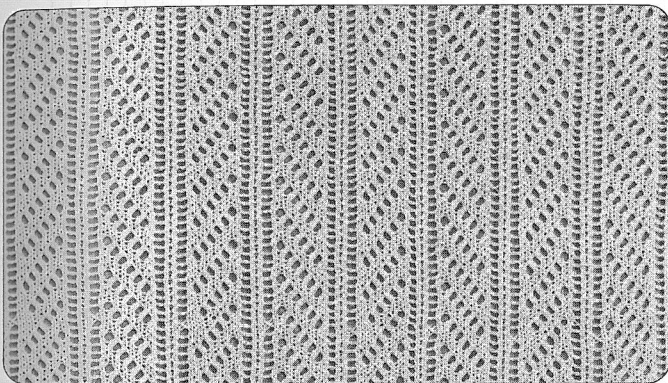
Lポイントカムのセット

- Lポイントカムは、消したい部分の幅に応じて、4針用・8針用を自由にセットすることができます。
- ※Lポイントカムは、4針用・8針用を組み合わせたり、好みの数だけ連続してセットすることができます。

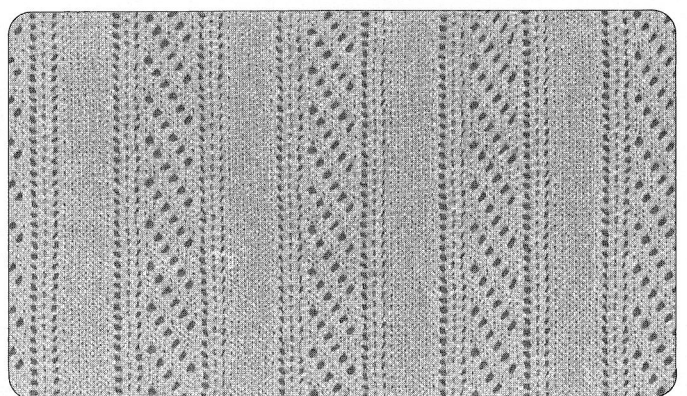
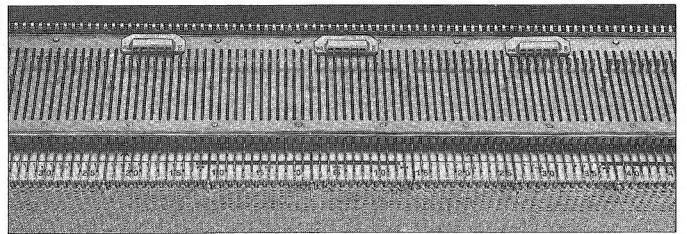
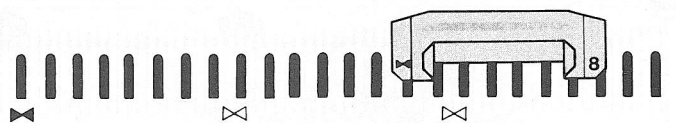


- ※Lポイントカムは、Kキャリッジを使ったワンポイント模様などには使用することができません。編み終わった後は、必ずはずしてください。

カードNo20a <Lポイントカムを使用しない場合>

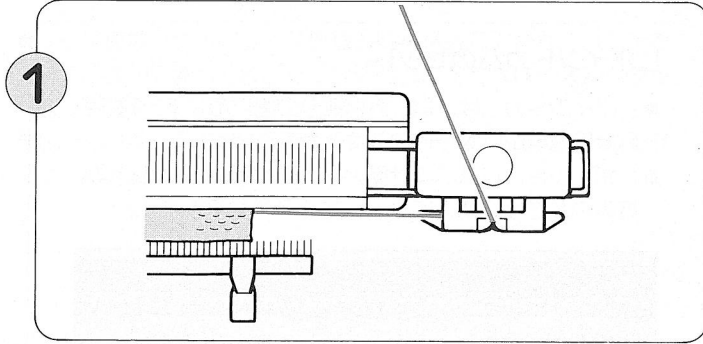


(A)

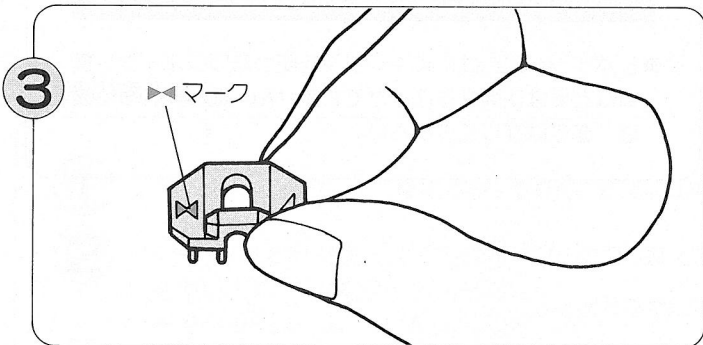


(B)

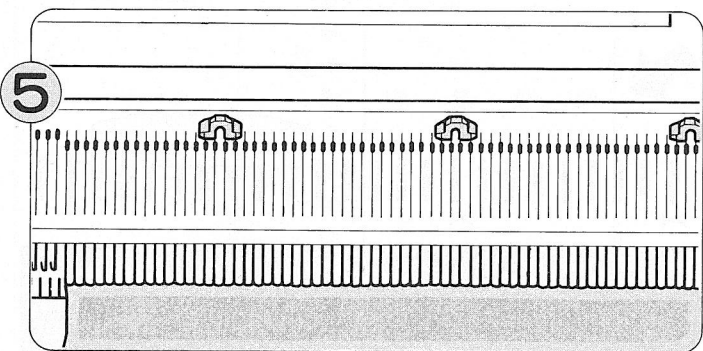
●模様の編み方……ここでは4針用のLポイントカムを使用し、〈例A〉を編んでみましょう。



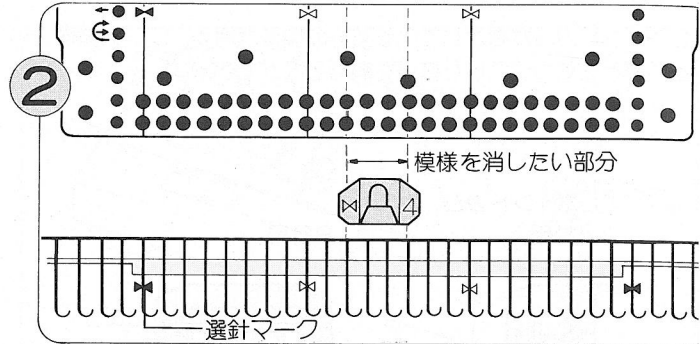
レース模様・タックレース模様の①～③を行います。
(54ページ参照)



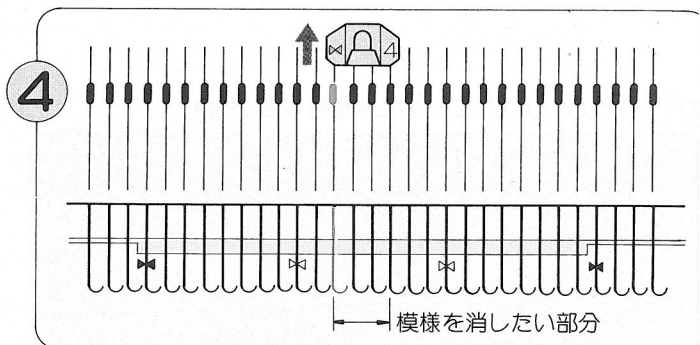
Lポイントカムのツメを下にして ▶ マークが左側になるように持ちます。



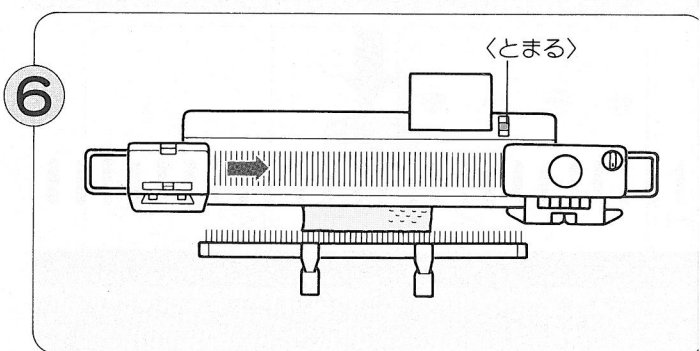
編幅すべての選針マークに対して、模様を消したい部分にLポイントカム4をセットします。



パンチカードと、ミゾ板目盛板の選針マークを対比させ、模様を消したい部分の位置を決めます。



Lポイントカムの ▶ マークと、模様を消したい部分の左端の編針を合わせ、そのままLポイントカムのツメをB位置の編針の後ろのミゾにはめ込み、後レール側いっぱい押しつけます。

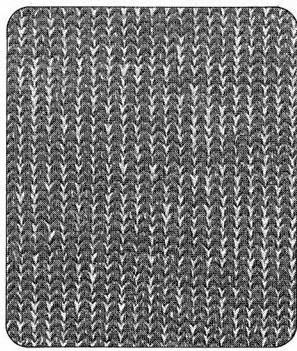


レース模様・タックレース模様の④～⑩を行います。
(54ページ参照)

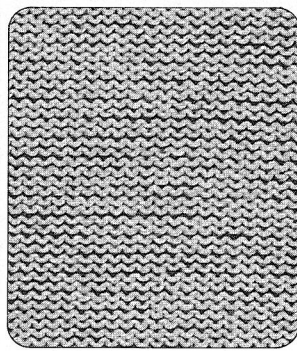
ご注意

Lポイントカムを使ってレース模様・タックレース模様を編むときは、Lキャリジをゆつくり操作してください。

添え糸編



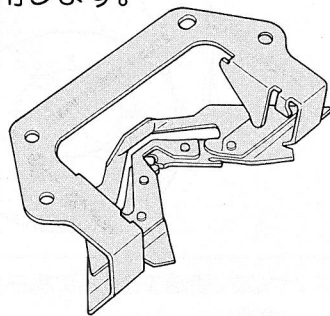
編地の表



編地の裏

- 2本の編糸を同時に表裏に編み分ける編み方です。地糸口の編糸が表目側に、添え糸口の編糸が裏目側にあらわれます。

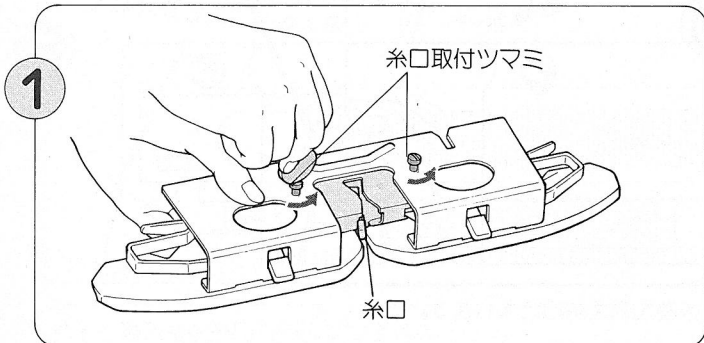
添え糸用糸口を使用します。



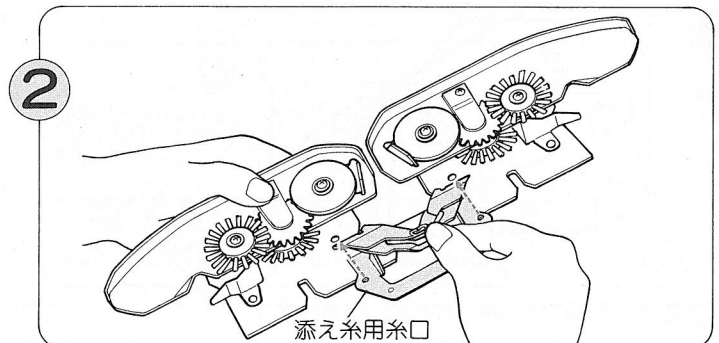
地糸と添え糸の組み合わせと編目ダイヤル

編糸タイプ	編目ダイヤル
極細 と 極細	4 ~ 5
合細 と 極細	6 ~ 7
合細 と 合細	8 ~ 9

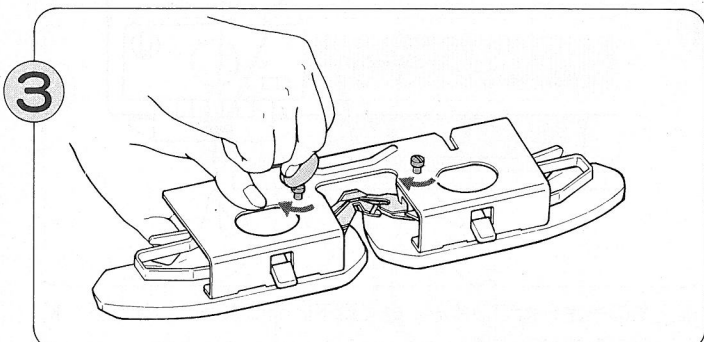
- 編み方……Kキャリジは〈ひらあみ〉の状態編みます。合細程度の編糸を2色用意してください。



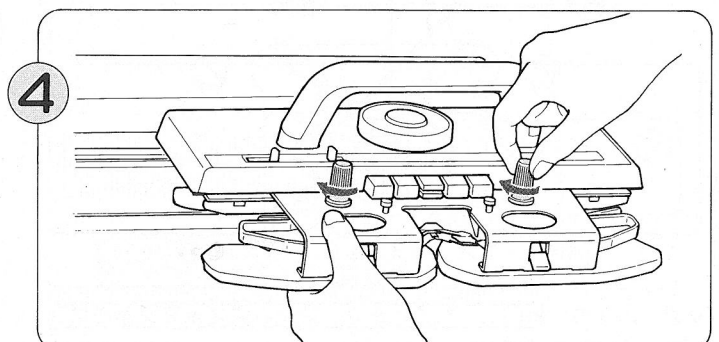
1 編地押えをKキャリジからはずし、編地押え上面の糸口取付つまみを⊖ドライバーカコインでゆるめ、糸口をはずします。
※糸口取付つまみは、なくさないように注意してください。



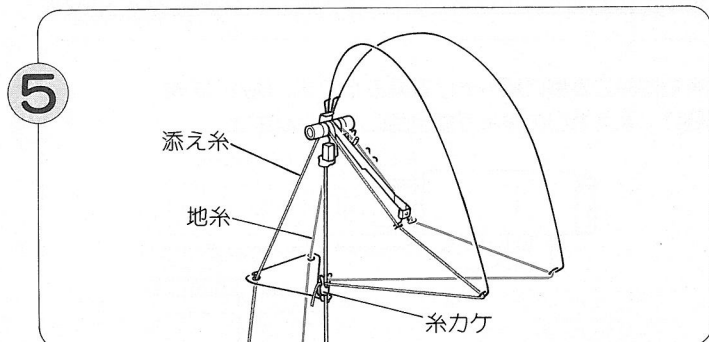
2 部品箱から添え糸用糸口を取り出して、図のように合わせます。



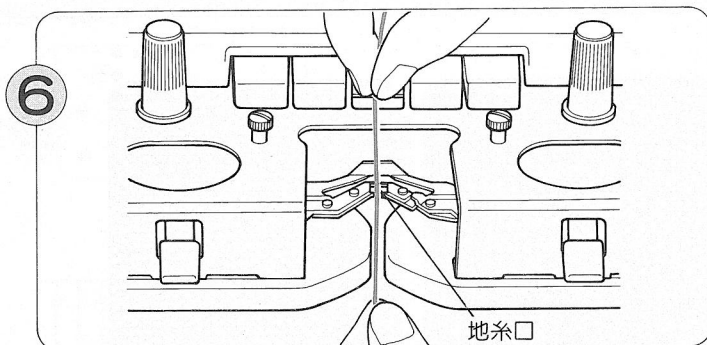
3 2本の糸口取付つまみを編地押えの上面の穴から差し込み、そのまま締め付けます。



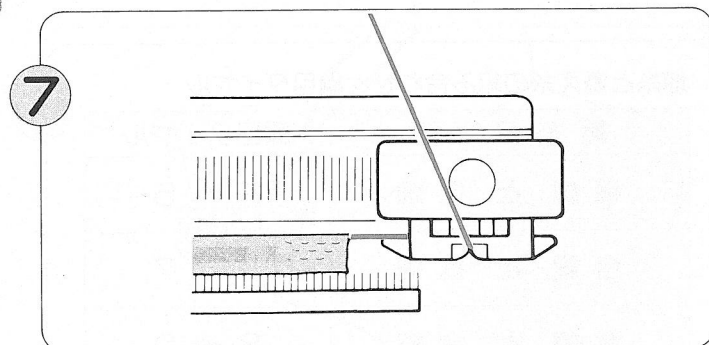
4 糸口の取り替えがすんだら、編地押えをKキャリジに取り付けます。



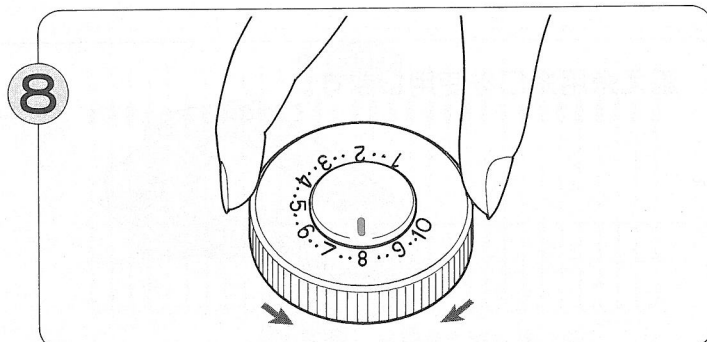
糸取装置の右側へ地糸を、左側へ添え糸を通します。



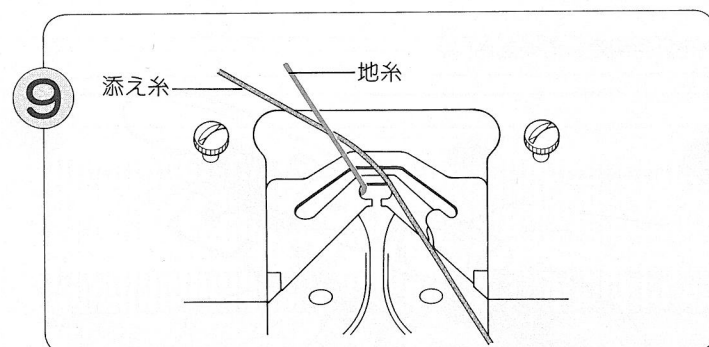
地糸を、地糸口に入れます。



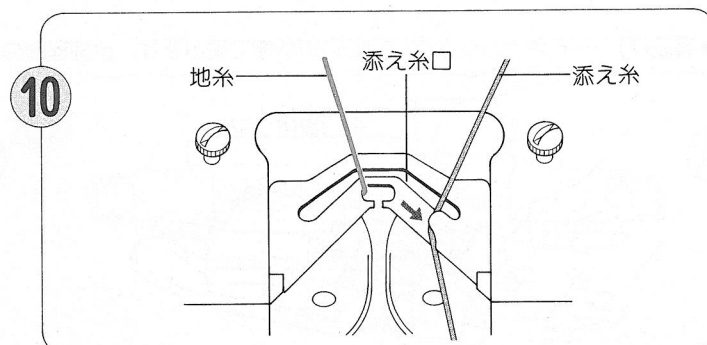
平編を数段編み、Kキャリジを右に置きます。



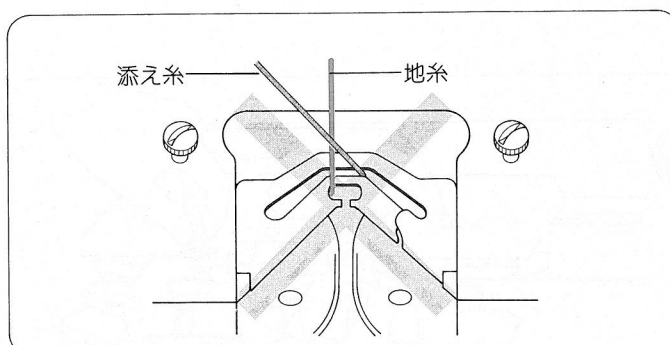
編目ダイヤルを、使用する編糸の組み合わせに応じて合わせます。
(59ページ参照)



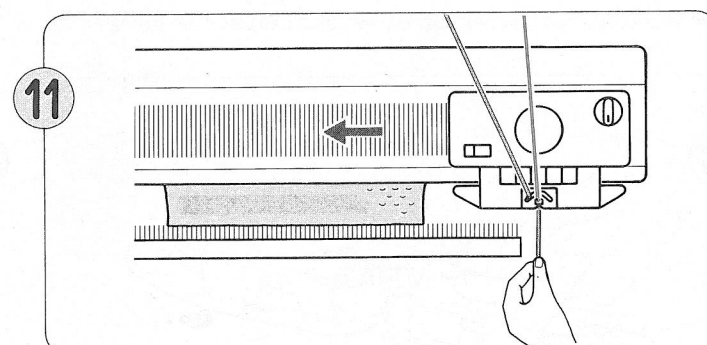
添え糸を地糸の後ろ側になるように通します。



糸端を添え糸口に入れます。

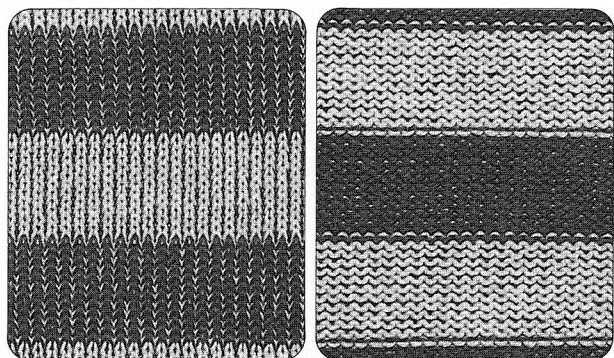


※添え糸を添え糸口に入れるときは、地糸と添え糸を交差させないようにしてください。



添え糸の糸端を指でつまみ、軽く真下に引くようにしながら、Kキャリジを動かします。

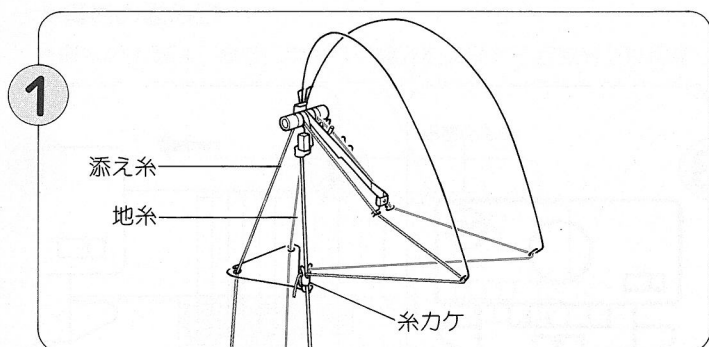
添え糸編 (地糸と添え糸を入れ替えて編む場合)



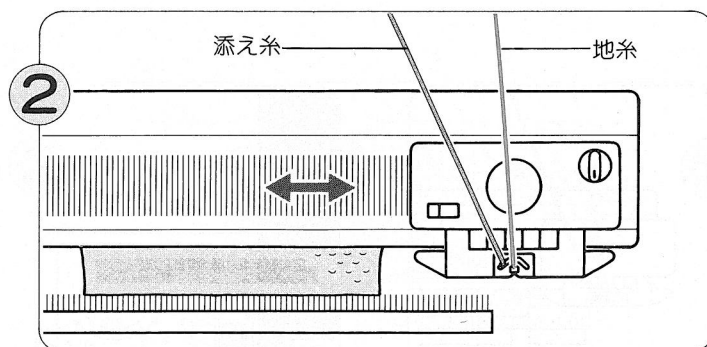
編地の表

編地の裏

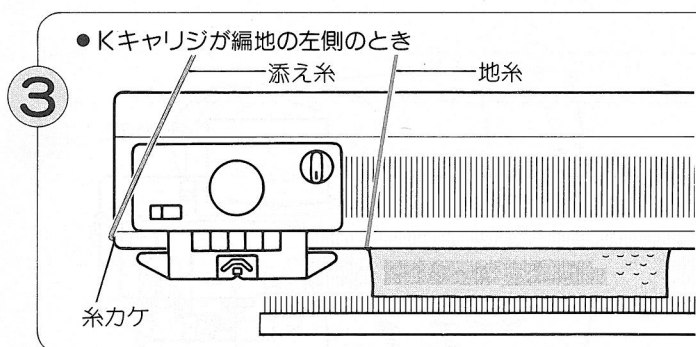
- 添え糸編と同じ操作ですが、地糸と添え糸の糸口を切り替えて編みます。



糸取装置の右側に地糸を、左側に添え糸を通します。



添え糸編で編糸を入れ替えるところまで編みます。
(59～60ページ参照)



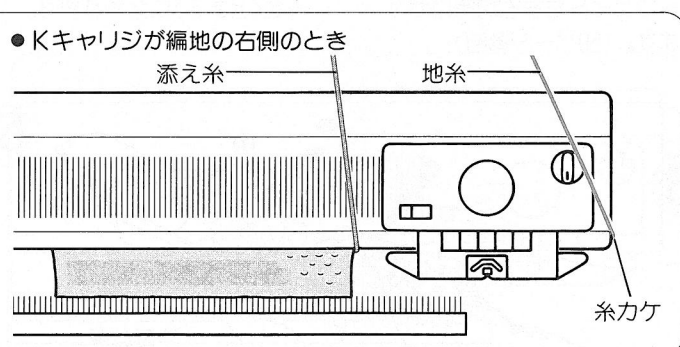
● Kキャリジが編地の左側のとき

① 地糸口の編糸をはずし休めます。

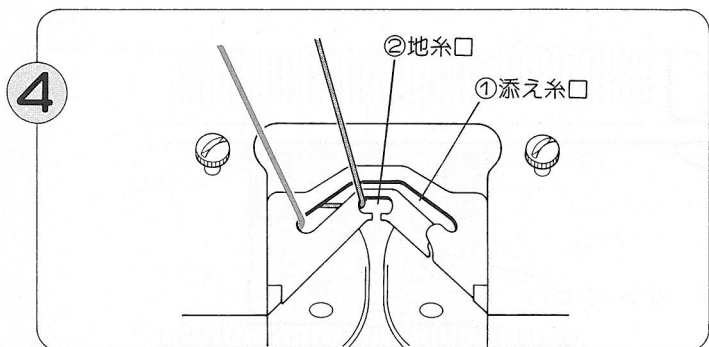
② 添え糸口の編糸をはずし休めます。

糸取装置の右側に通した編糸——糸口より右側で休めます。

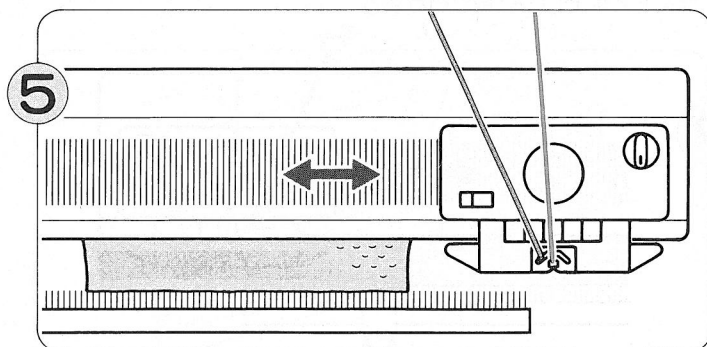
糸取装置の左側に通した編糸——糸口より左側で休めます。



● Kキャリジが編地の右側のとき



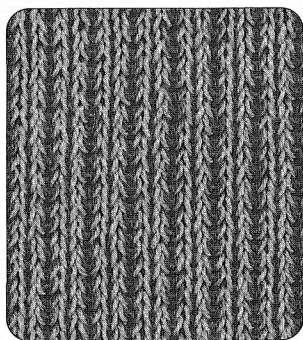
① 添え糸口、② 地糸口の順に編糸を入れ替えて通します。



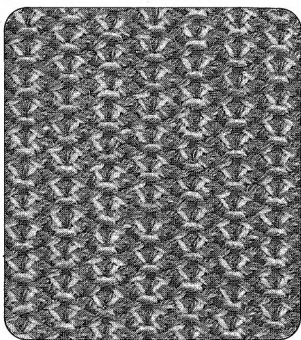
編糸を入れ替えながら編み進みます。

添え糸タック模様 利用できるカード：No10・30・80

カードNo30

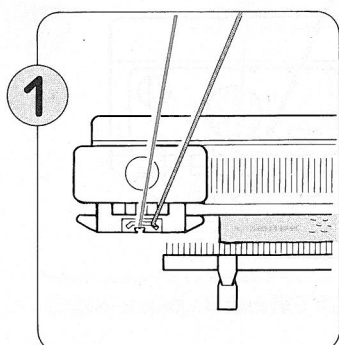


編地の表

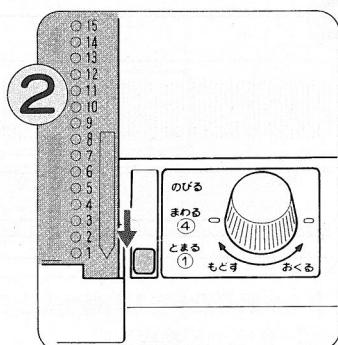


編地の裏

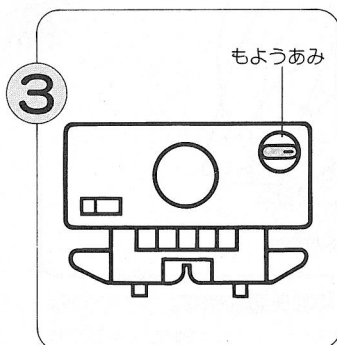
●添え糸タック模様は添え糸用糸口を使用し、タック模様と同じ手順で編みます。



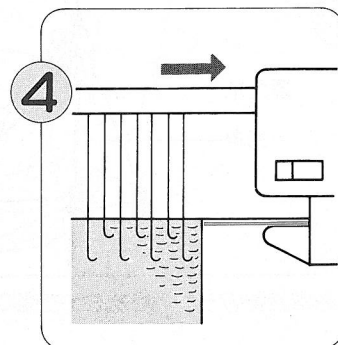
1 添え糸編を数段編み、Kキャリジを左側に置きます。カラーウェイトを左右均等にかけます。(59ページ参照)



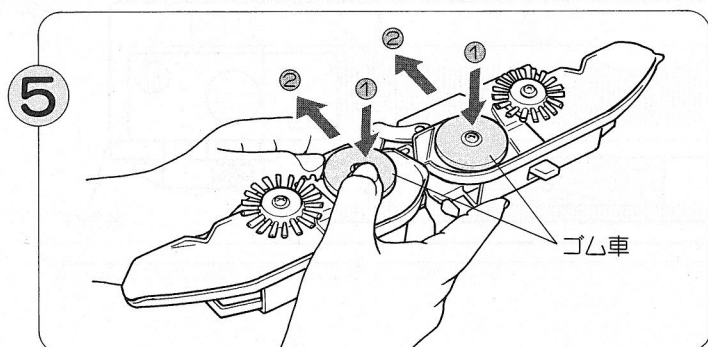
2 パンチカードをスタートラインにセットし、ストップレバーを<とまる>に合わせます。



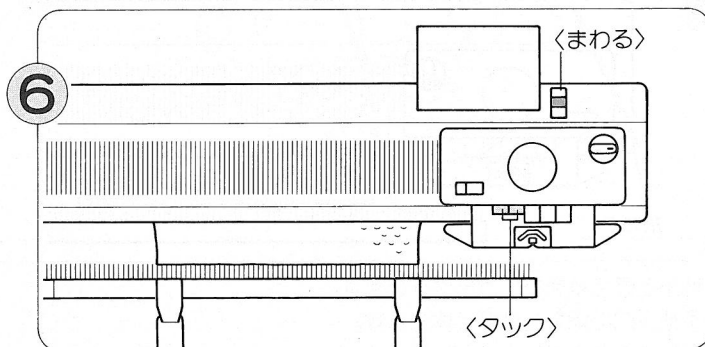
3 選針切替つまみを<もようあみ>に合わせます。



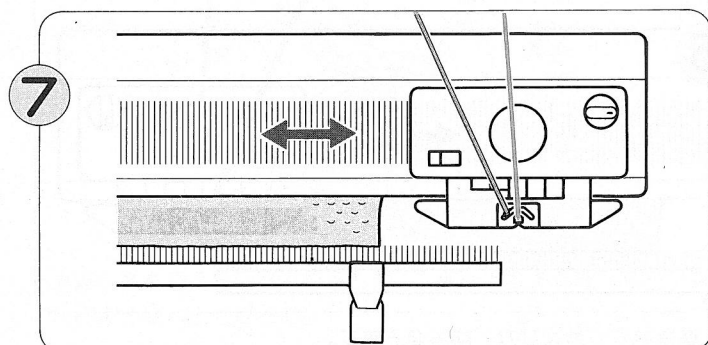
4 Kキャリジを右へ動かします。編針が選針されます。



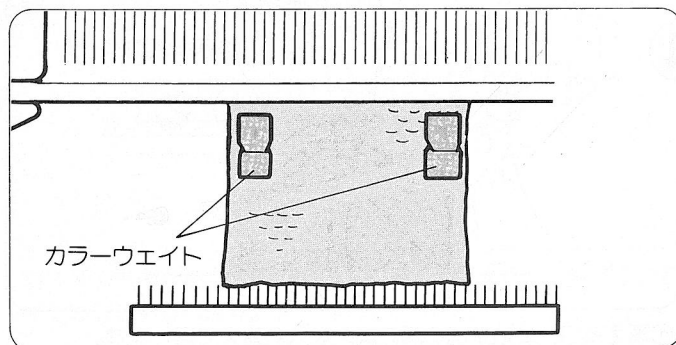
5 編地押えをKキャリジからはずして、①ゴム車のネジ頭を押し②そのまま矢印方向へ<パチッ>と音がするまで押し出します。編地押えをKキャリジに取り付けます。



6 カムボタンの<タック>左右を同時に押します。ストップレバーを<まわる>に合わせます。

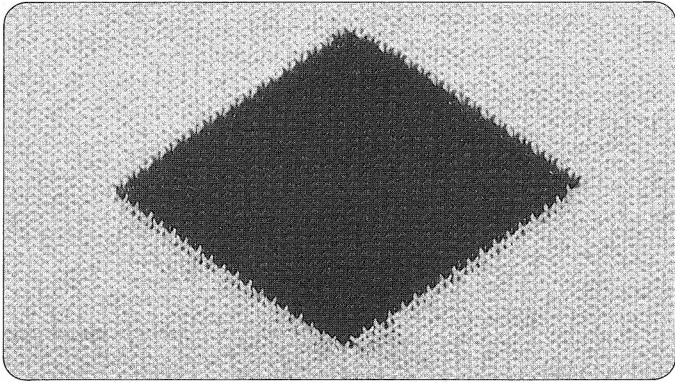


7 編糸を確かめ、Kキャリジを左右に動かすと、添え糸タック模様が編めます。



*カラーウェイトは、20段ごとぐらいに編地の両端にかけ直します。

アーガイル編

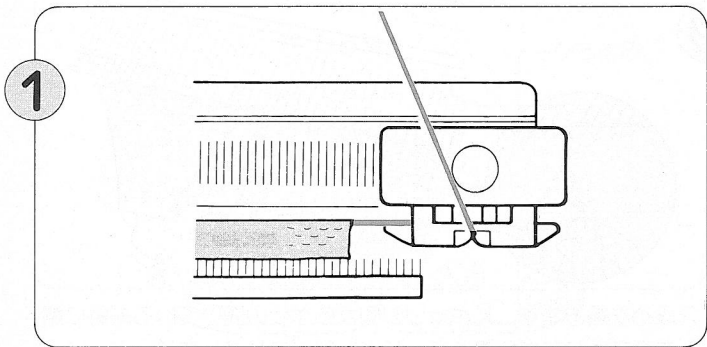


- 裏面に編糸が渡らない編み方です。
1段の間で何色でも編め、しかも変化のある模様を好みの大きさに編むことができます。
図案は、お好みにより自由に決めてください。

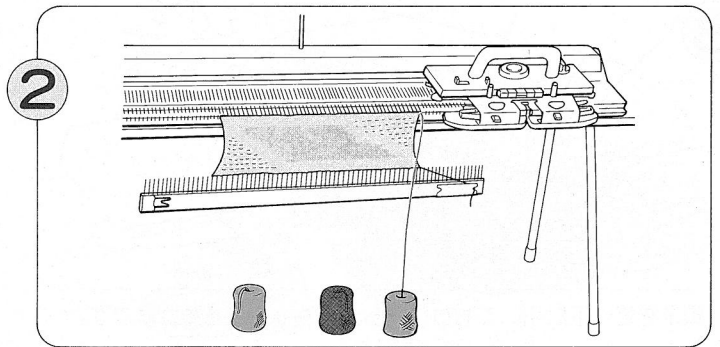
平編に対してアーガイル編は、編目ダイヤル1目盛ぐらい細かく編めますので、試し編みをして編目ダイヤルをきめてください。

●模様の編み方

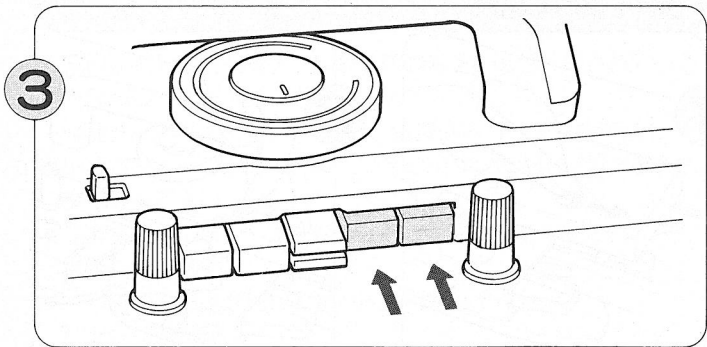
※編糸の本数は、模様に関係なく編糸を交換する回数だけ用意します。



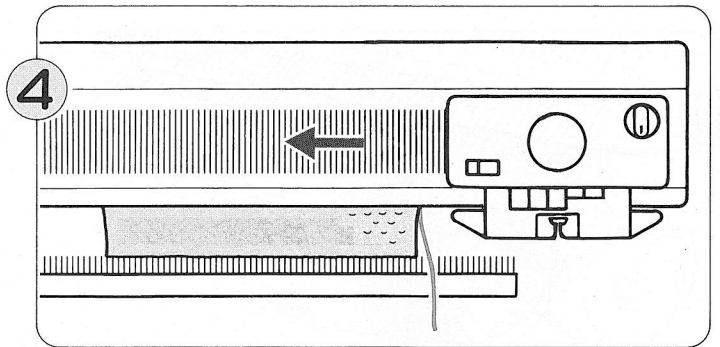
アーガイル編を編む位置まで平編を編みます。



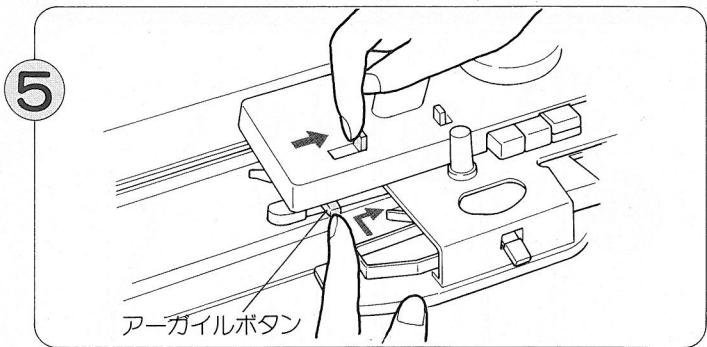
編糸を地糸口と糸取装置からはずし、足元に置きます。他の編糸も用意します。



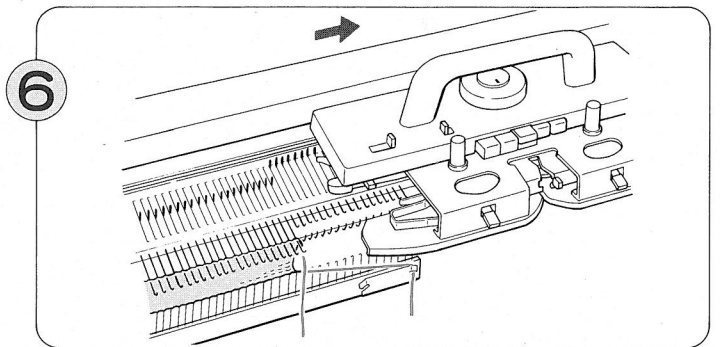
カムボタンのくすべり左右を同時に押します。



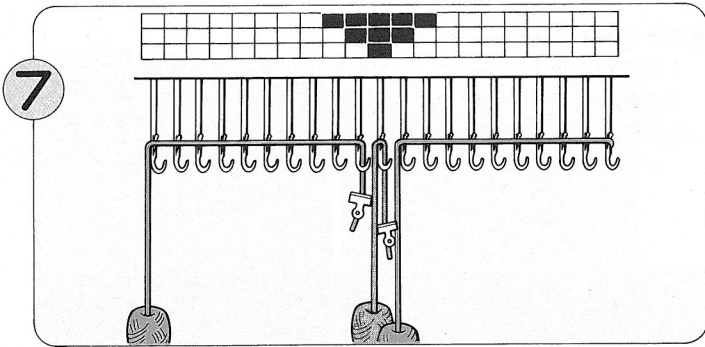
Kキャリジを1段動かします。



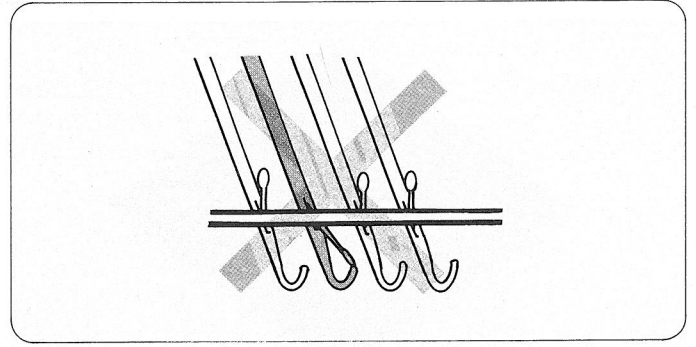
アーガイルボタンを押しながら引返しレバーをくアーガイルに合わせます。



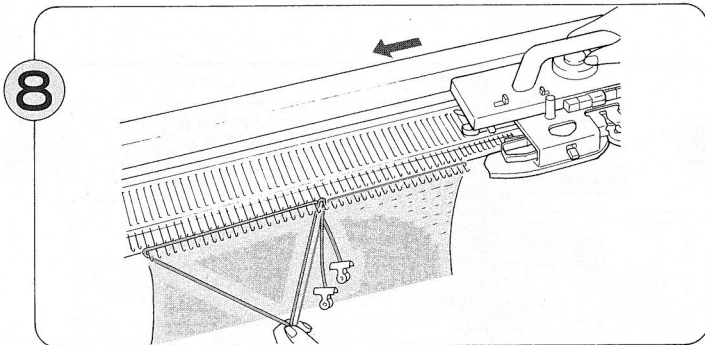
Kキャリジを1段動かすと、編針がD位置に出ます。



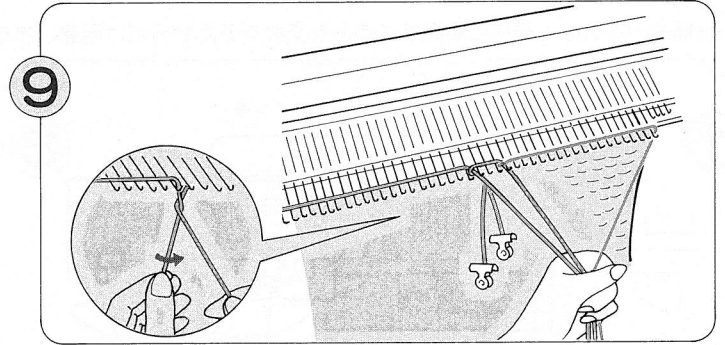
7 Kキャリジ側から順に、模様に合わせて必要な糸を編針に渡します。



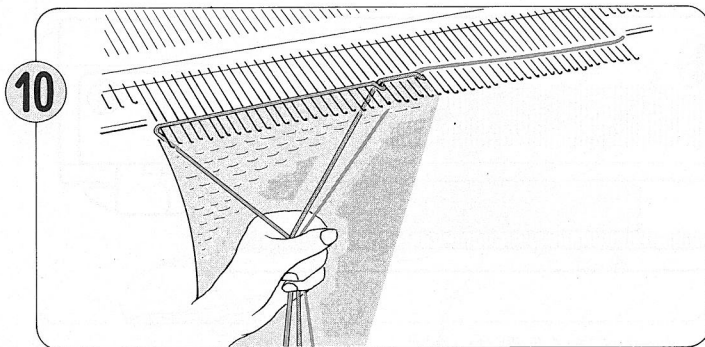
※アーガイル編は、編糸を編針に渡して編みますので、ベラが閉じていると編目がおちてしまいます。もし、ベラが閉じている場合には、ウツシ等で開けてから編糸を渡します。



8 編糸を軽く下に引いてもちながら、Kキャリジを動かします。

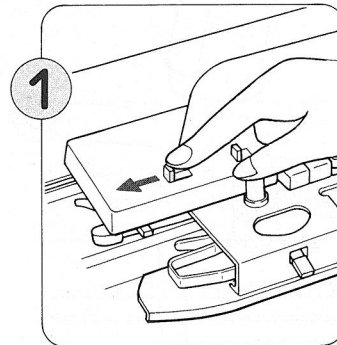


9 2段めを編みます。Kキャリジ側からベラの開いている編針に編糸を交差させながら渡して、Kキャリジを動かします。

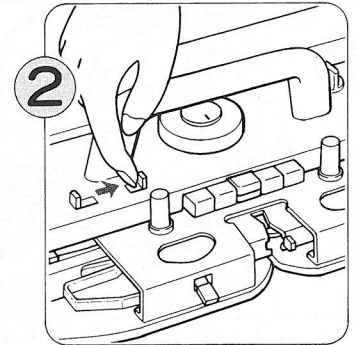


10 3段めは、Kキャリジの進行方向が逆ですので、図のように交差させながら渡して、Kキャリジを動かします。このように⑨・⑩を繰り返して編み進みます。

●模様を終わる場合



1 引返しレバーをくひらあみに合わせます。

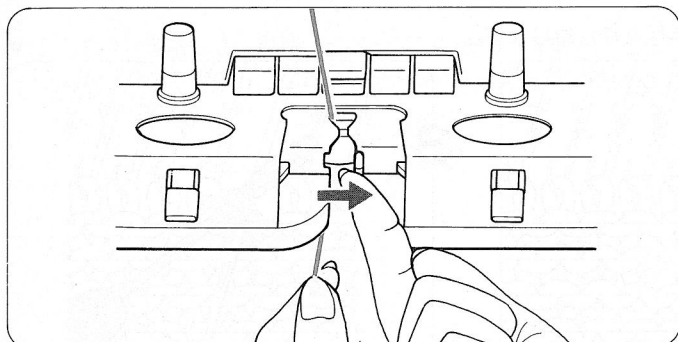


2 ボタンもどしレバーでカムボタンをもどします。

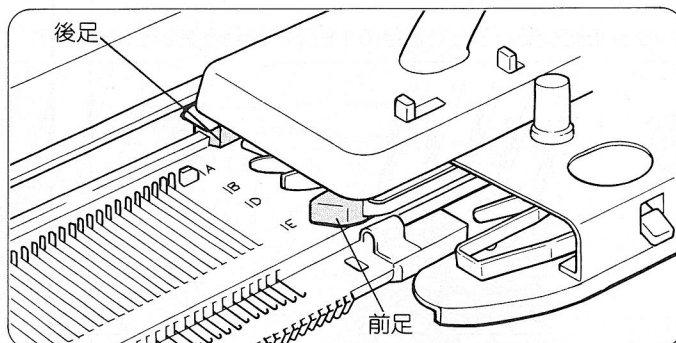
こんなときには

平編がうまく編めない場合

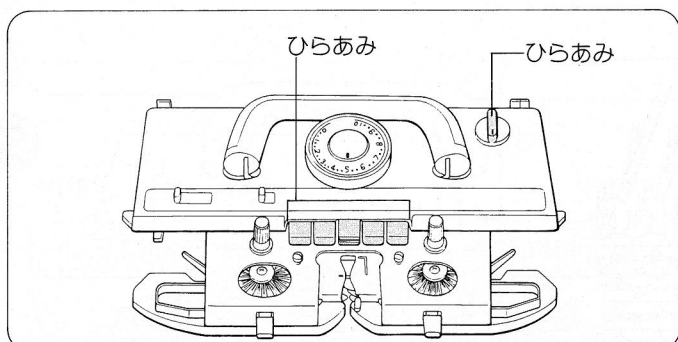
1. 編針に編糸がかからないときには



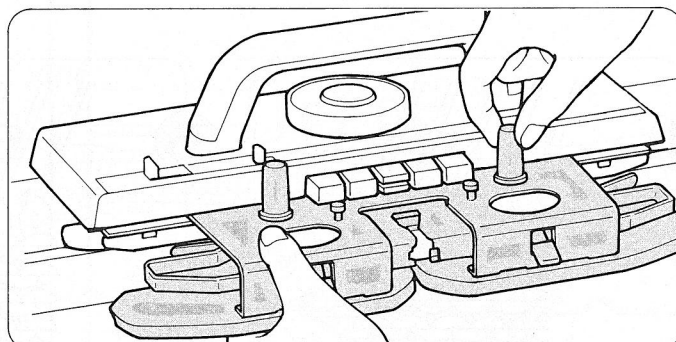
- 編糸が地糸口に正しく入っていますか。
- 糸口レバーは閉じていますか。



- Kキャリジの後足と前足は、ミノ板に正しくセットされていますか。



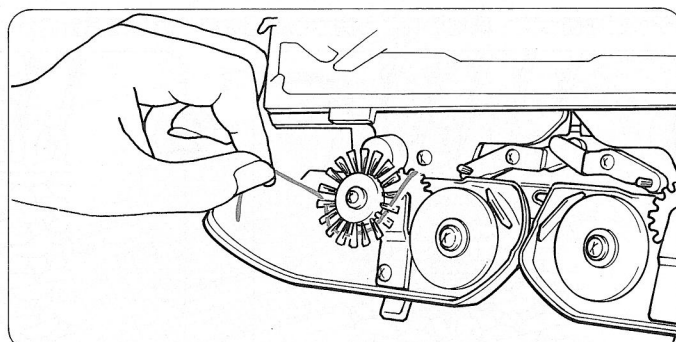
- 選針切替つまみは〈ひらあみ〉位置にセットされていますか。
- カムボタンは平編の状態(ボタンは押されていない)になっていますか。



- 編地押えが浮いていないよう、正しくKキャリジにセットされていますか。

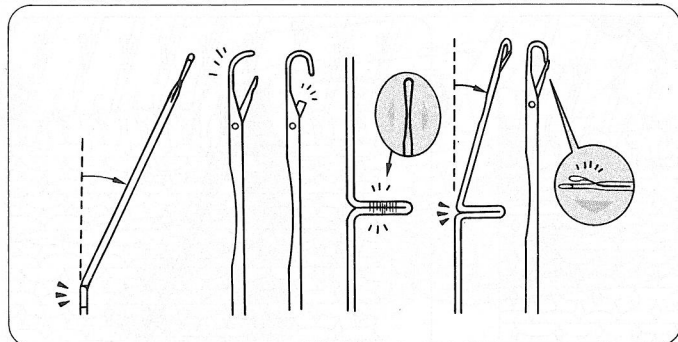
2. Kキャリジの操作が非常に重いときには

- 編目ダイヤルと糸調子が編糸に応じて正しくセットされているか確認してください。
(編目ダイヤル…19ページ参照、糸調子…24ページ参照)
- 編機が糸くずなどでよごれていませんか。Kキャリジの裏側も調べてください。
- 油が切れていませんか。切れていたら注油してください。
(102ページ参照)
- 糸取装置に編糸が正しくセットされていますか。
(24ページ参照)
- 編糸が糸玉からスムーズに出ていますか。



- 編地押え裏のハケ車・ゴム車がかかるく回りますか。編糸が巻き付いて回らないことがあります。そのような場合には、編糸の巻き付きを取り除いてください。

3. 編目が引き上がってしまうときには

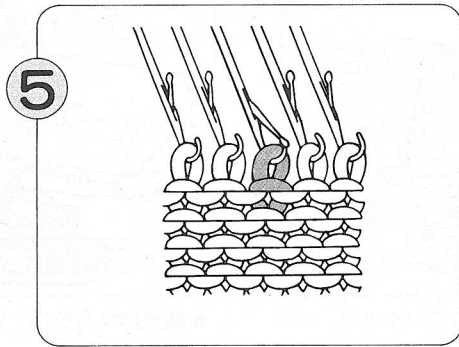
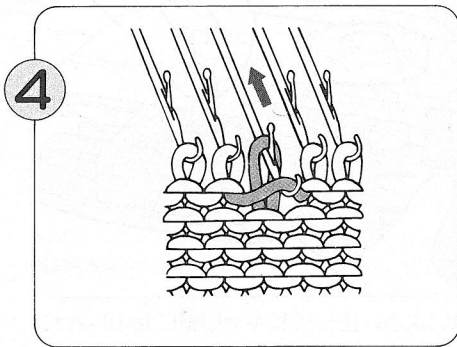
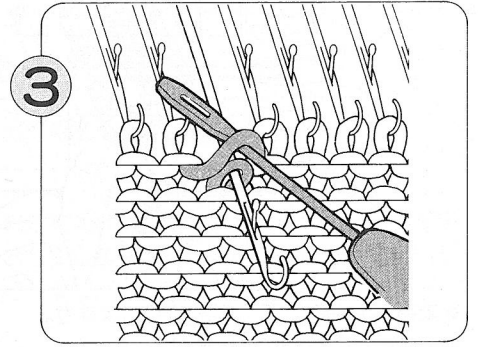
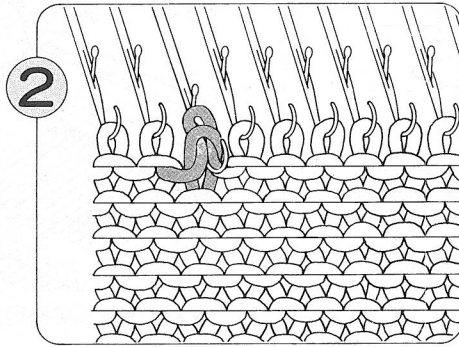
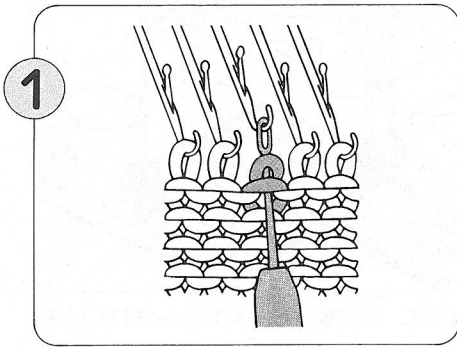


- 針が曲がっていませんか。曲がっていたら、取り替えてください。(101ページ参照)
- ゴム車を出してください。(27ページ参照)

4. 編目がおちてしまったら(編目の拾い方)

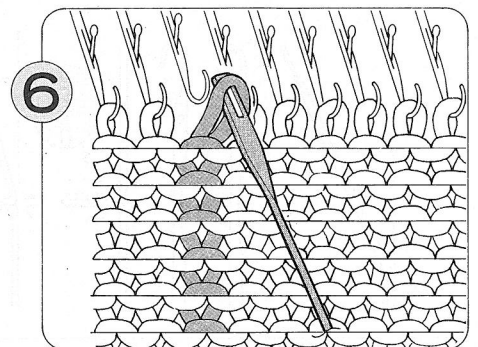
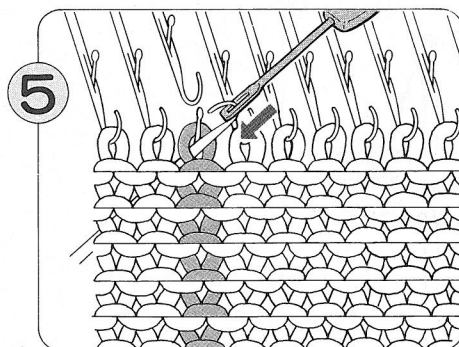
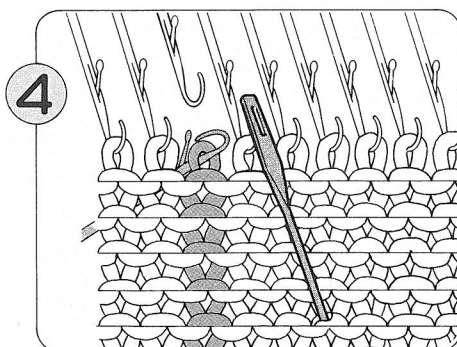
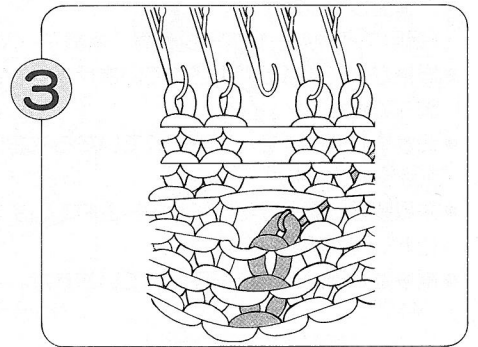
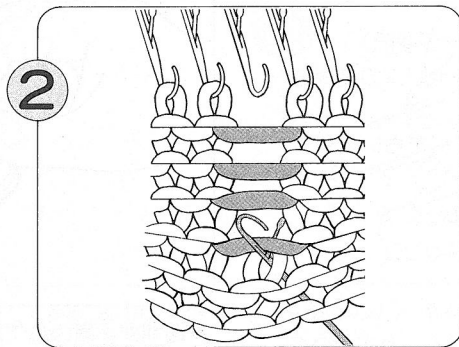
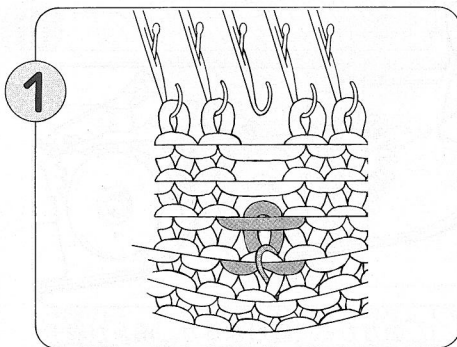
● 1段おちた場合

ウツシを使って、おちた編目の1段下の編目を拾い上げ、編針にかけて編目を作り直します。



● 数段おちた場合

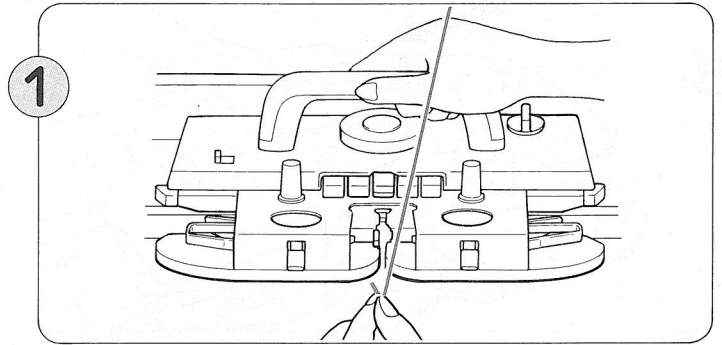
タツピを使って、編地の向こう側から編目を作り直して編針にかけます。



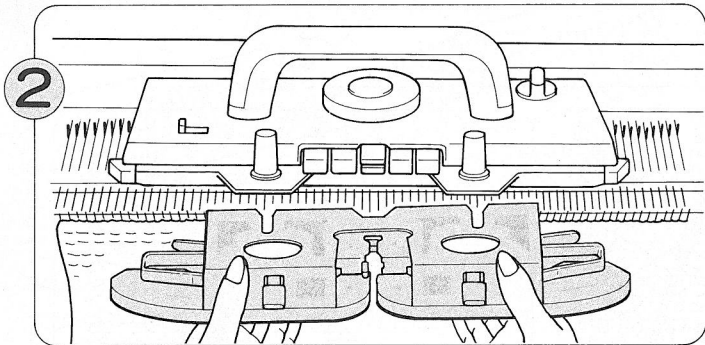
編みまちがえたときの直し方(平編・添え糸編)

1. 編んでいる途中でKキャラジが動かなくなったら

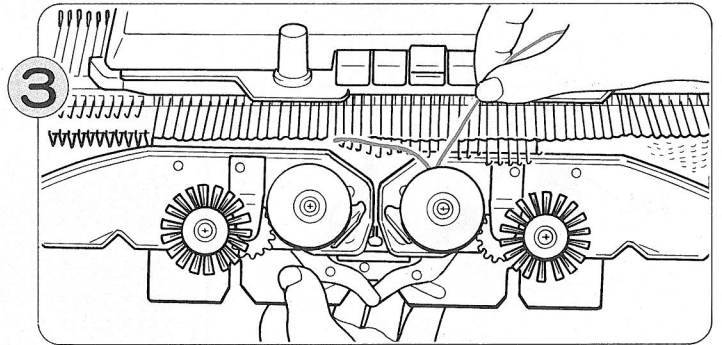
- このような場合には、無理にKキャラジを動かさないでください。Kキャラジをミゾ板からはずしてその段の始めから編み始めます。



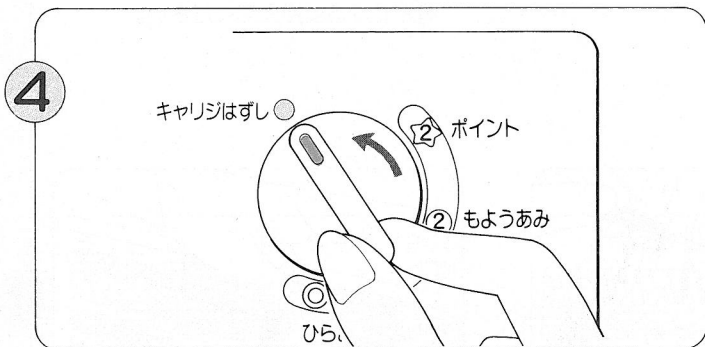
地糸口から編糸をはずします。



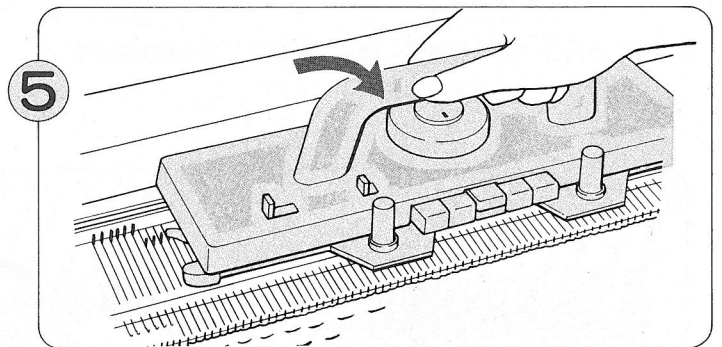
Kキャラジ左右の編地押えツマミをゆるめ、編地押えをKキャラジからはずします。



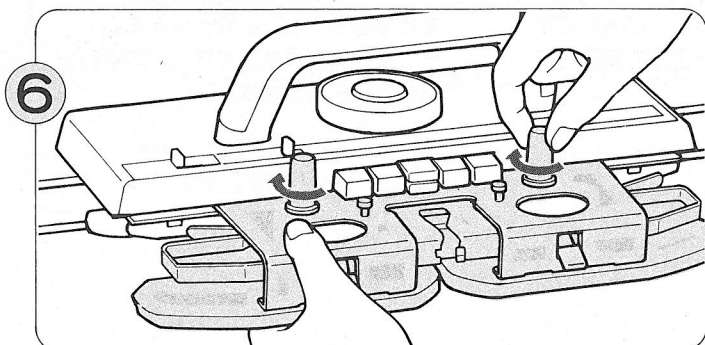
編地押えを裏返してみます。編糸がハケ車・ゴム車にかかっていたらはずします。



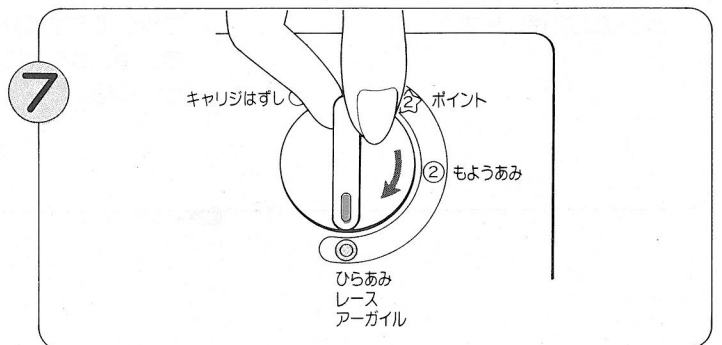
選針切替ツマミをくキャラジはずし)にセットします。



Kキャラジを手前へ持ち上げ、ミゾ板からはずします。

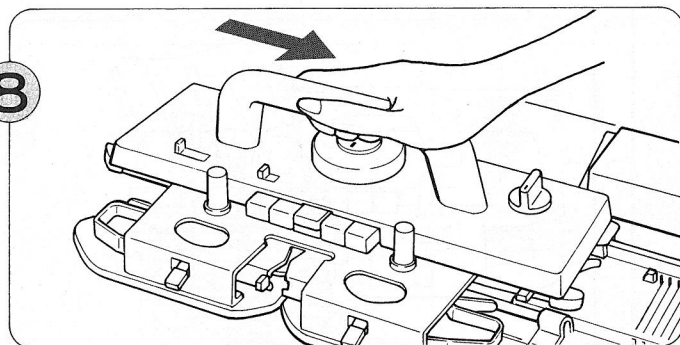


Kキャラジを左右どちらかの補助レールの上に置き、編地押えを取り付けます。



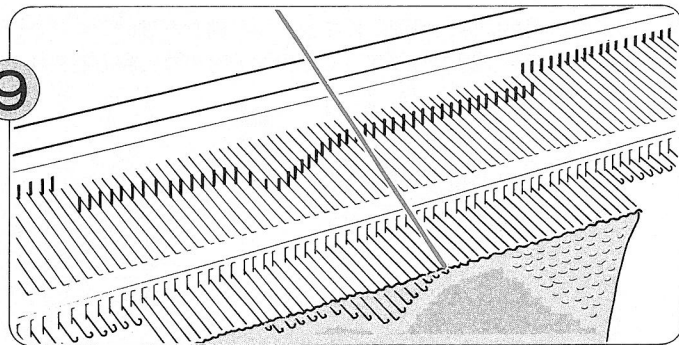
選針切替ツマミをくひらあみ)にもどします。

8

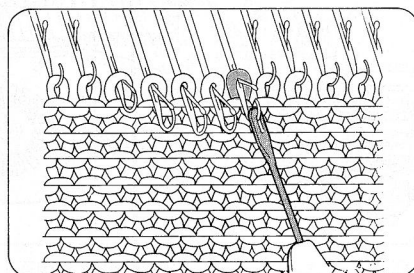
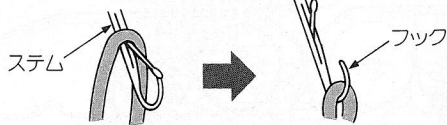


Kキャリジをミノ板の上に正しく置きます。

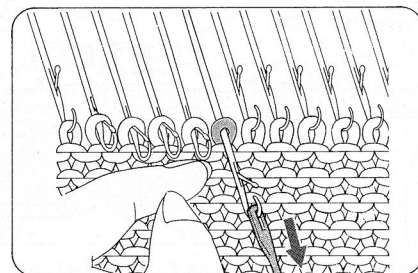
9



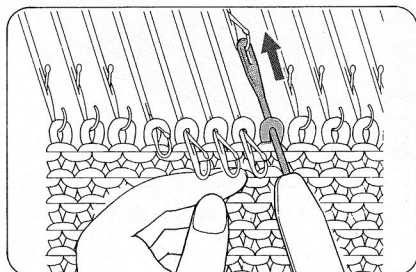
Kキャリジをはずしたあとの乱れている編針を直します。編目がおちないように、編針のステムの上にある編目を次の(1)~(5)の手順でフックにもどします。



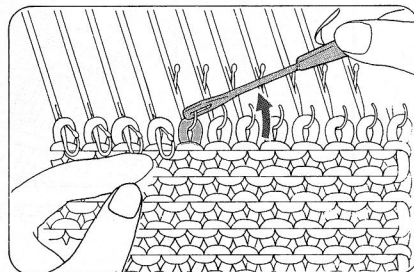
(1)ウツシの穴に、目直しする編針のフックを入れます。



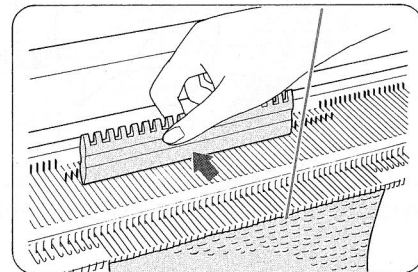
(2)ウツシを編針と平行に、手前に引きます。このとき編地がいっしょに前に引かれて他の編目がおちないように左手の指先でかるく押えてください。



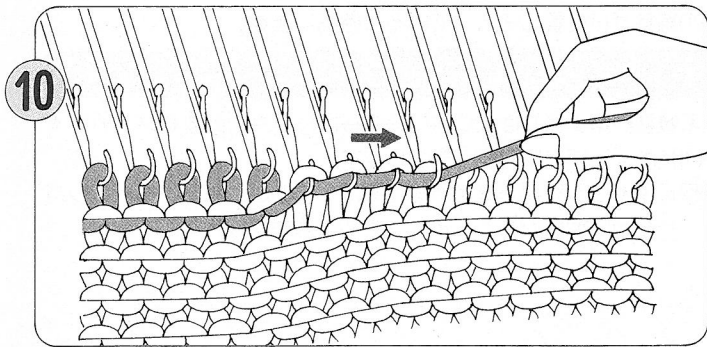
(3)ウツシを向こう側へ押して、編目をウツシの上に移します。



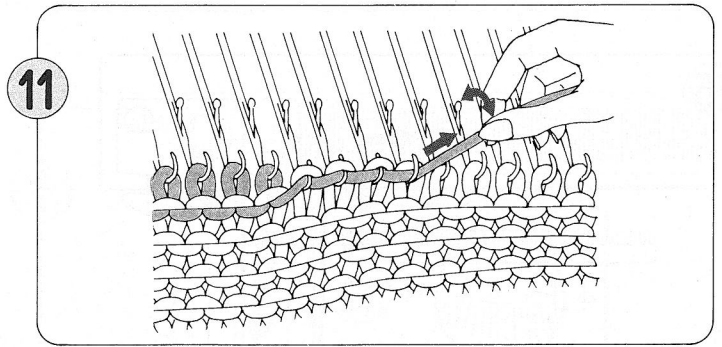
(4)再び、手前にウツシを引きもどして、ウツシの穴を編針のフックに入れたまま、少しななめに持ち上げて編目をフックに移します。



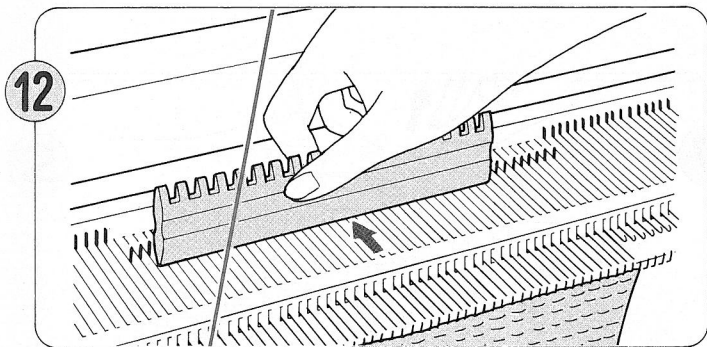
(5)(1)~(4)を繰り返して、全てのステムにある編目をフックにもどします。その後模様板を使ってすべての編針をB位置にそろえます。



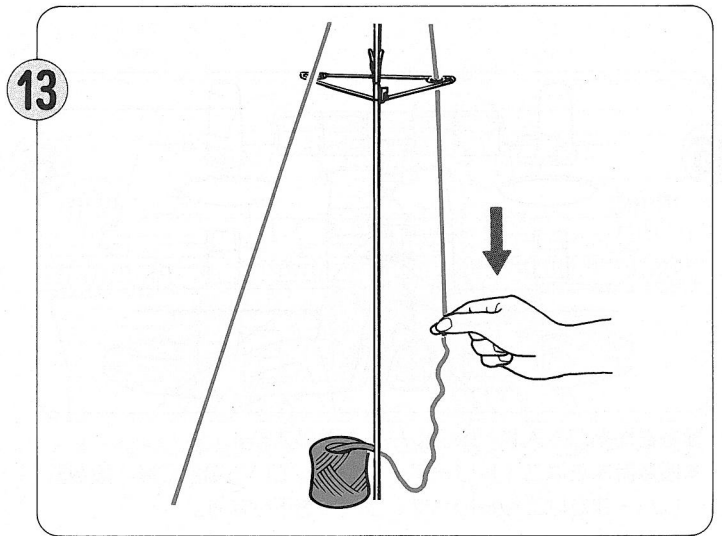
10 途中で編まれている段をほどくため、編糸を編み方向へクシバの線と平行に引いて、編目を引きしぼります。



11 斜め上から前後方向に振りながら編針のフックからはずすようにしてほどきます。前の段の編目はフックにかかります。⑩・⑪の操作を何回かに分けて行います。

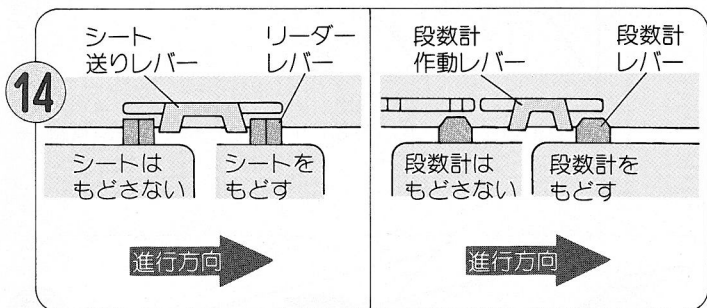


12 編地をほどいたあと、編目がすべてフックにかかっているかどうか確認してください。その後、模様板を使ってすべての編針をB位置にそろえます。



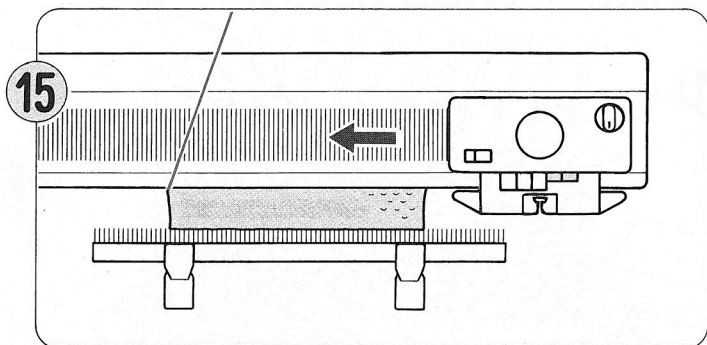
13 ほどいた糸のたるみをなくすため、糸取装置の後ろから編糸を引き下げます。

※編地を何段かほどく場合には⑩～⑫を繰り返して行ってください。



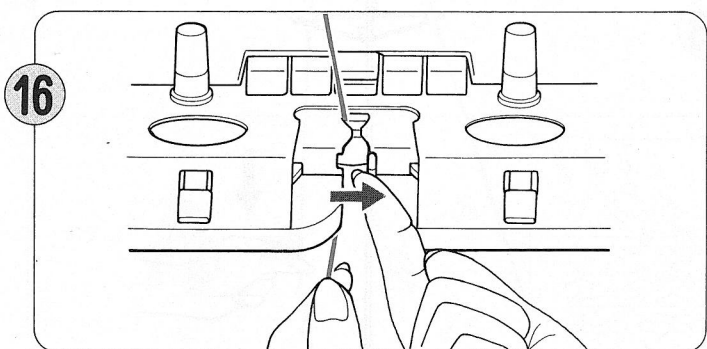
14 段数計やニットリーダーを使用している場合には、ほどいた段数だけでもどします。

(途中で編んだ段で段数計やニットリーダーが送られていない) 場合には、その段を含めてもどす必要はありません。

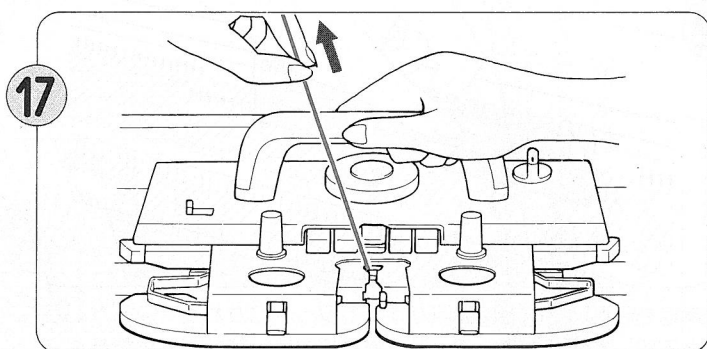


もしKキャリジが編糸の端と反対側にあつたら、次の(1)~(5)の方法でKキャリジを編糸がある側へカラ送りしてください。

- (1)編針がB位置にそろっているか確認します。
- (2)カムボタン<すべり左右>を押します。
- (3)段数計やニットリーダーを使用している場合、Kキャリジの段数計レバーまたはニットリーダーレバーを上げます。
- (4)Kキャリジを反対側へ動かします。
- (5)Kキャリジを編糸がある側に動かしたあと、ボタンもどしレバーを右に押し、カムボタンをもとにもどします。



編糸を地糸口へ入れ、糸口レバーを閉じます。
 ※段数計またはニットリーダーを使用している場合には、段数計レバーまたはニットリーダーレバーを下げます。



編糸のたるみをなくすよう、左手で糸をかるく引いて、Kキャリジを操作します。

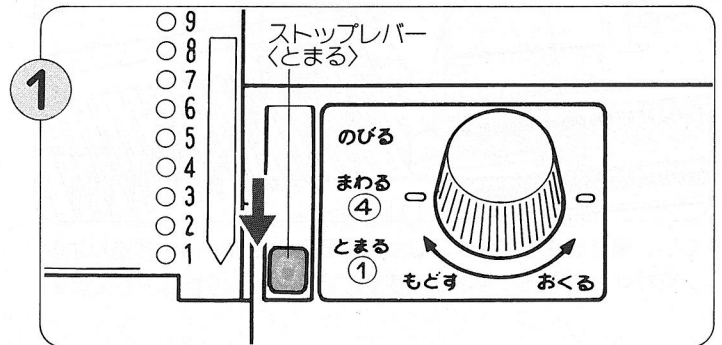
2. 編地をほどきたい場合

69ページの⑩~⑮をします。

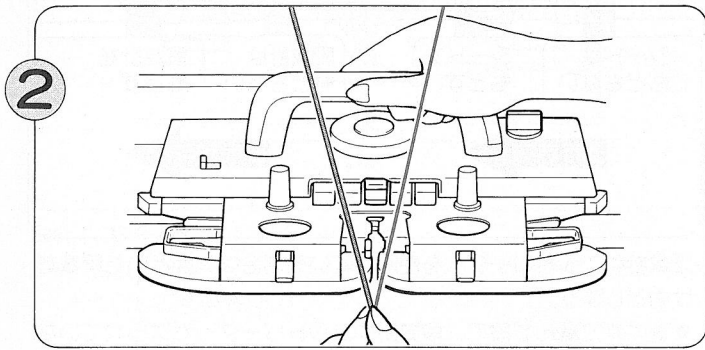
編みまちがえたときの直し方 模様編 (同時編込模様・タック模様・すべり目模様・スレッド模様・編込レース模様・添え糸タック模様)

1. 編んでいる途中でKキャリジが動かなくなったら

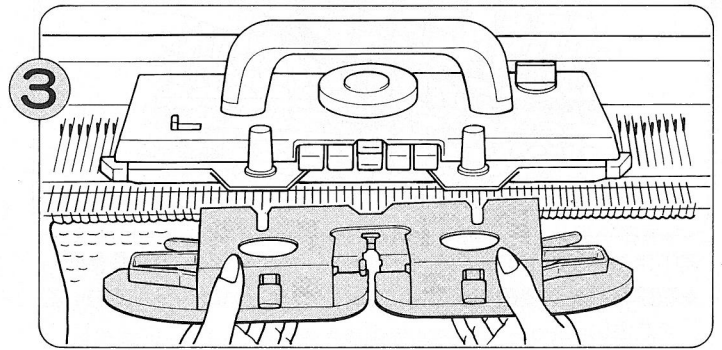
- 無理に動かさず、Kキャリジをミゾ板からはずして編み直します。



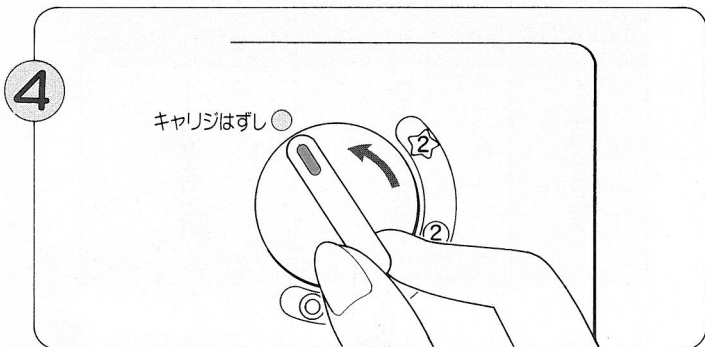
ストップレバーを「とまる」にします。



糸口から編糸をはずします。

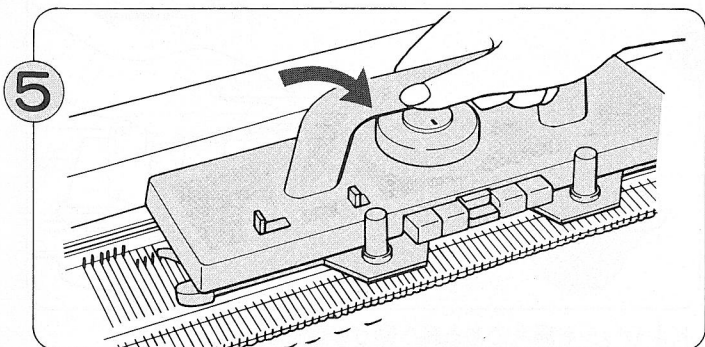


Kキャリジの編地押えツマミをゆるめ、編地押えをはずします。

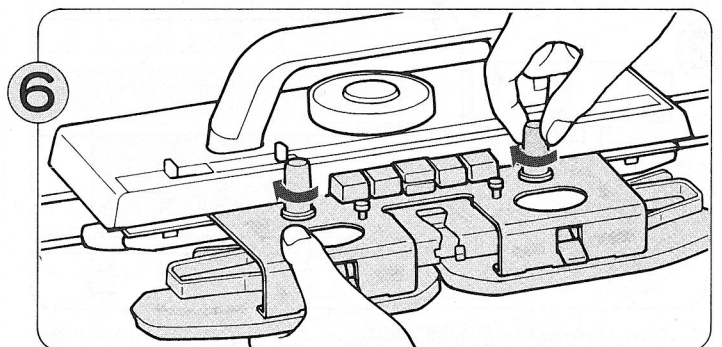


選針切替ツマミを「キャリジはずし」にセットします。

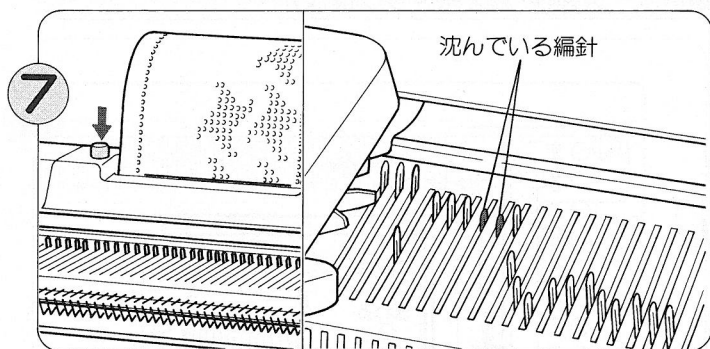
※編込レース模様の場合、Kキャリジをはずす前にカムボタン〈あみこみレース〉をもどさないでください。もし、カムボタンをもどしてしまったときは、Kキャリジを左右に動かさずにミゾ板からはずし、再びカムボタン〈あみこみレース〉を押してください。



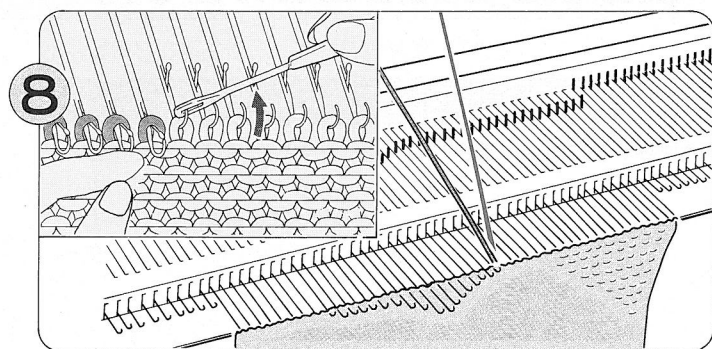
Kキャリジを手前に持ち上げてはずします。選針切替ツマミを、〈ひらあみ〉に合わせ補助レールの上に置きます。



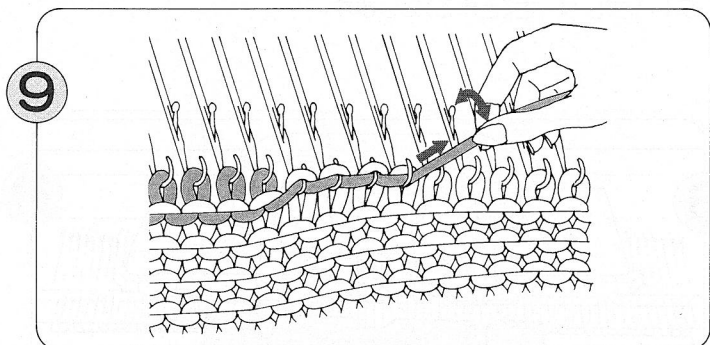
Kキャリジに編地押えを取り付けます。



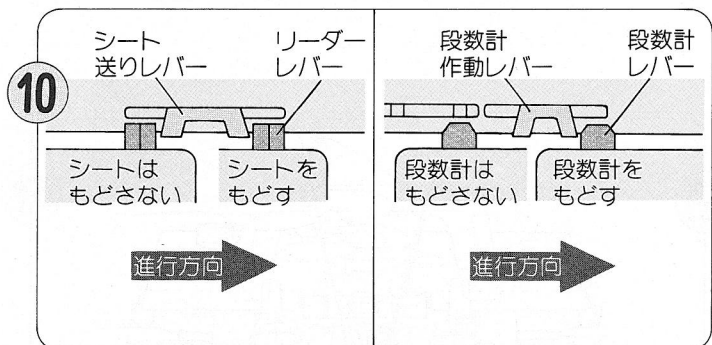
もし、編針が沈んだままになっているときには、カード送りボタンを押すと自動的に浮き上がります。



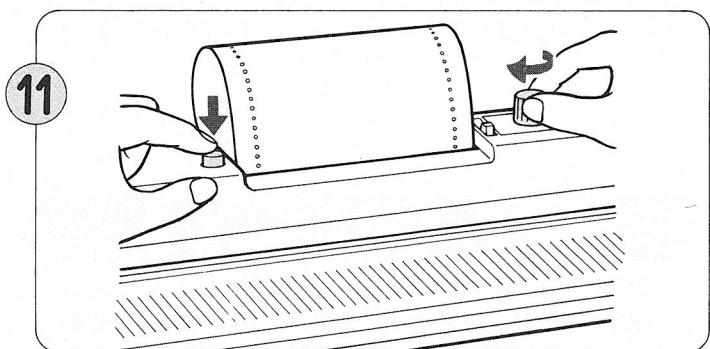
編針のステムの上にある編目をフックにもどし、Kキャリジをはずしたあとの乱れている編針を直します。(68ページ⑨の(1)~(5)参照)



途中まで編まれている段をほどきます。(69ページ⑩~⑬参照)
※数段ほどく必要のある場合には、何段ほどいたか覚えておいてください。



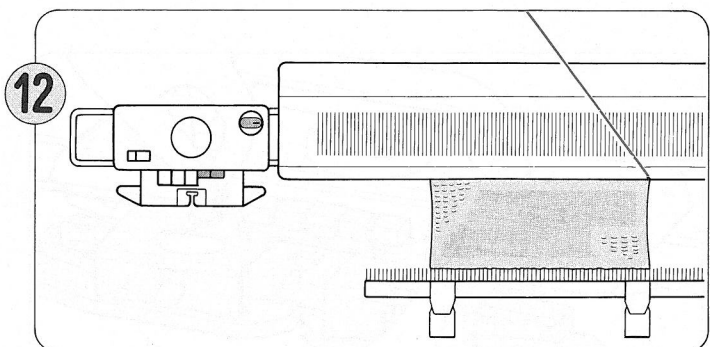
段数計やニットリーダーを使用している場合は、ほどいた段数だけでもどします。
※途中まで編んだ段で、段数計やニットリーダーが送られていない場合は、その段を含めてもどす必要はありません。



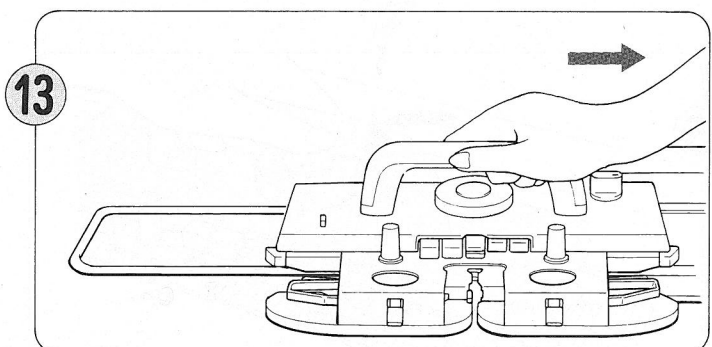
編地をほどいた段数だけパンチカードをもどします。
※間欠送り模様のおときは右表のようにもどします。

●間欠送り模様のおときのパンチカードをもどす段数早見表

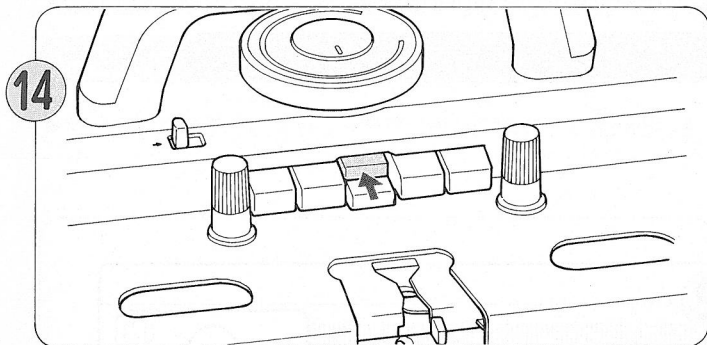
編地をほどいた段数	パンチカードをもどす段数	
	編糸が左側にある場合	編糸が右側にある場合
1	0	1
2	1	2
3	2	3
4	3	4
5	4	5
6	5	6
7	6	7
...



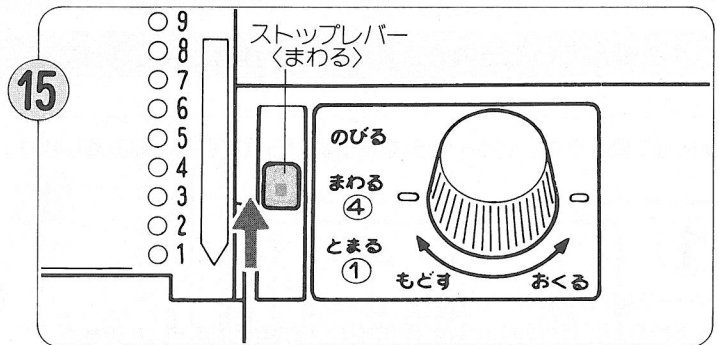
Kキャリジを編糸と反対側の補助レールの上に置き、(70ページ⑮参照)、編まないで模様編の選針を行うためにカムボタン(くすべり左右)を押し、選針切替つまみを模様に合わせてくもようあみ②か☆)にセットします。



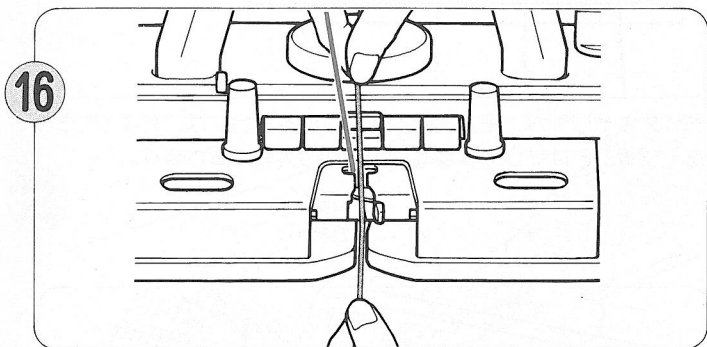
Kキャリジを編糸のある側へ動かし選針します。
このとき糸口には編糸は入れません。
※段数計やニットリーダーを使用している場合は、段数計レバーまたはニットリーダーレバーは上げて操作してください。



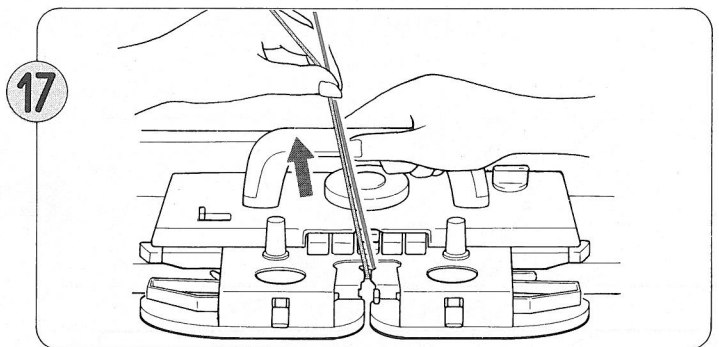
14 編針が選針されたら、模様編に合わせてカムボタンを押します。



15 ストップレバーをくまわる)にします。
* 間欠送り模様のときはくのびる)にします。



16 糸口に編糸を入れます。
* 配色糸、スレッド糸、添え糸を使用している場合は、忘れないようにしてください。



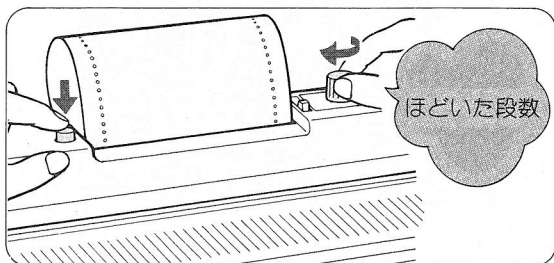
17 編糸がたるまないように左手で編糸をかるく引いて模様編を続けます。
* 段数計やニットリーダーを使用している場合は、段数計レバーまたはリーダーレバーを作動位置に下げてください。

2. 編地をほどこしたい場合(模様を編んでいてKキャリジが編地の外にあるとき)

- 1 Kキャリジを動かさずに、ストップレバーをくとまる)にします。
- 2 指示マークを見て、パンチカードが送られているかどうかを確認します。
* 指示マークが次の段のKキャリジの進行方向を示していたら、パンチカードは送られています。
* 間欠送り模様を編んでいるとき、Kキャリジが編地の左側にあるときには、指示マークが次の段のKキャリジの進行方向(◀▶)を示していても、パンチカードは送られていません。

パンチカードが送られていないとき

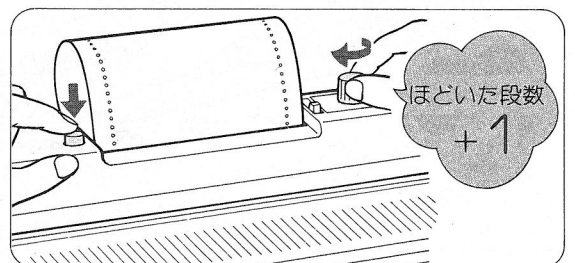
- 3 編地をほどこします。
- 4 編地をほどこした段数だけパンチカードをもどします。
* 間欠送り模様のときは、72ページ⑩の右表のようにもどします。



- 5 72ページ⑫~⑰を行ないます。

パンチカードが送られているとき

- 3 編地をほどこします。
- 4 編地をほどこした段数に1段加えてパンチカードをもどします。
* 間欠送り模様のときは、72ページ⑩の右表の段数に1段加えてパンチカードをもどします。



- 5 72ページ⑫~⑰を行ないます。

編みまちがえたときの直し方(アーガイル編)

1. 編んでいる途中で、Kキャリジが動かなくなったら

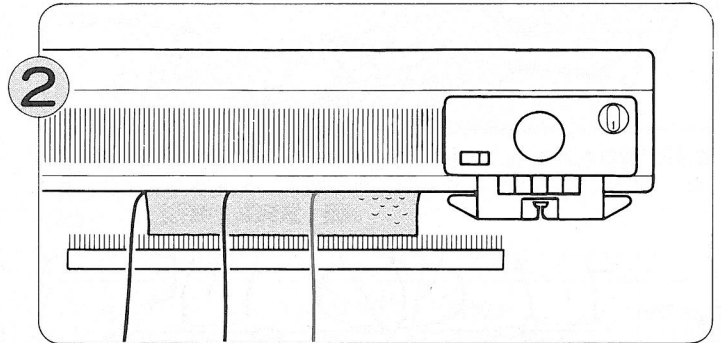
●無理に動かさず、Kキャリジをミゾ板からはずして、編み直します。

1

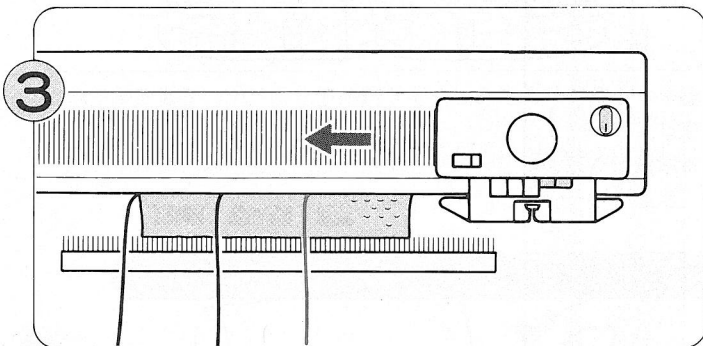
67ページの②～⑩を行います。

※段数計やニットリーダーを使用している場合はほどいた段数だけもどします。

※途中まで編んだ段で、段数計やニットリーダーが送られていない場合は、その段を含めてもどす必要はありません。

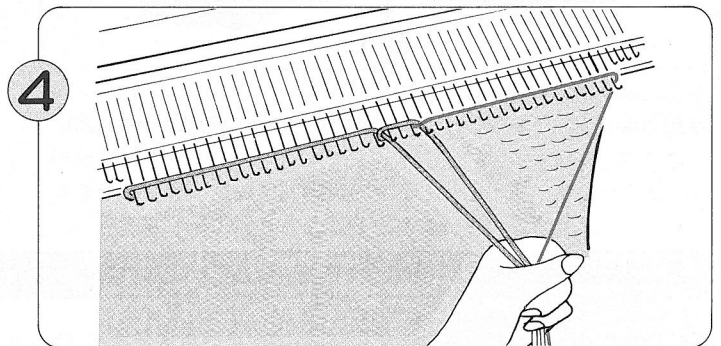


もしKキャリジが、編糸と同じ方向にある場合には、Kキャリジをミゾ板からはずして、反対側の編地の外側に置きます。



カムボタンの〈すべり左右〉を押します。Kキャリジを1段動かします。

※段数計または、ニットリーダーを使用している場合には、段数計レバーまたは、リーダーレバーを下げます。



編糸を渡して、アーガイル編を続けます。

2. 編地をほどきたい場合

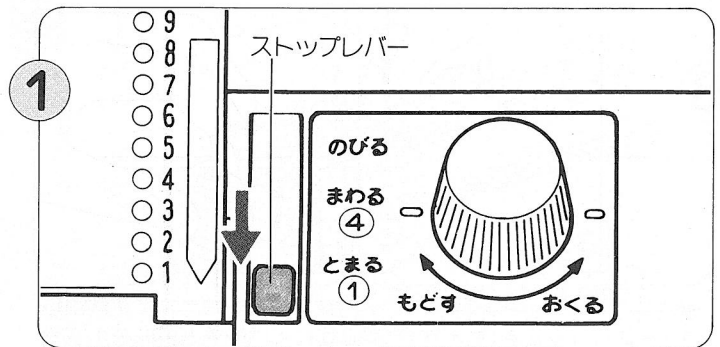
1

68ページ③の(1)～(4)を行います。その後、上記②～④を行います。

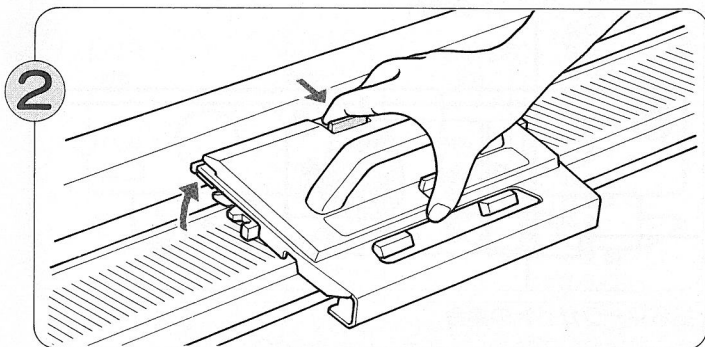
編みまちがえたときの直し方(レース模様・タックレース模様)

1. 編んでいる途中でLキャリジが動かなくなったら

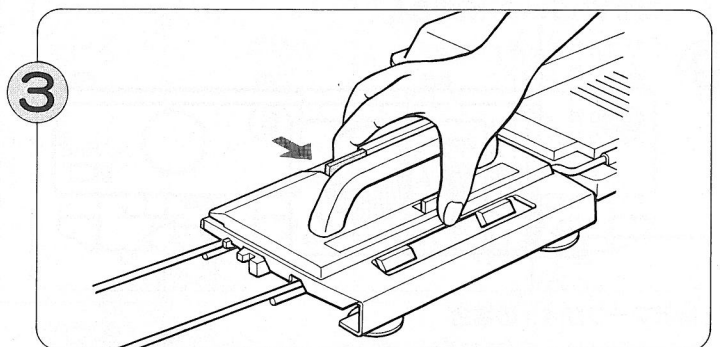
- 無理に動かさず、Lキャリジをミノ板からはずして編み直します。



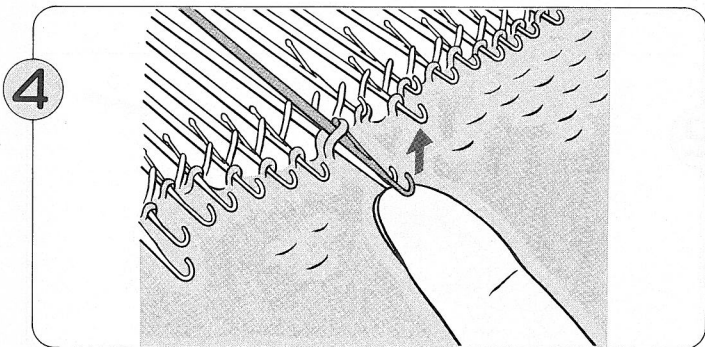
ストップレバーを<とまる>に合わせます。



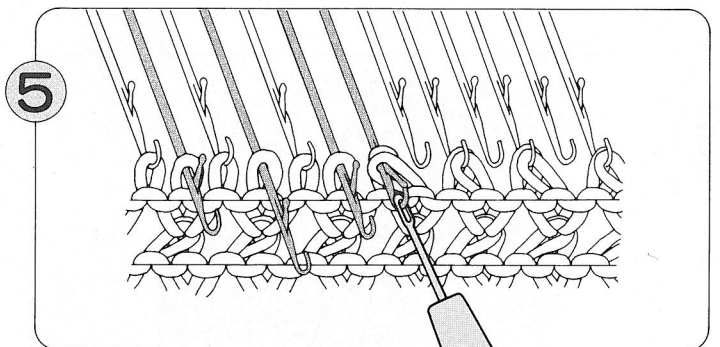
Lキャリジのはずしボタンを手前に引き、向こう側を持ち上げてはずします。編針が引っかかっているときは、よく見て無理のないようにはずしてください。



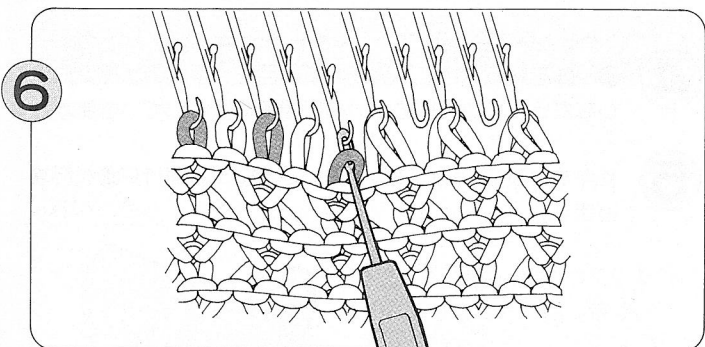
はずしボタンを押して、Lキャリジを左側の補助レールの上に正しく置きます。



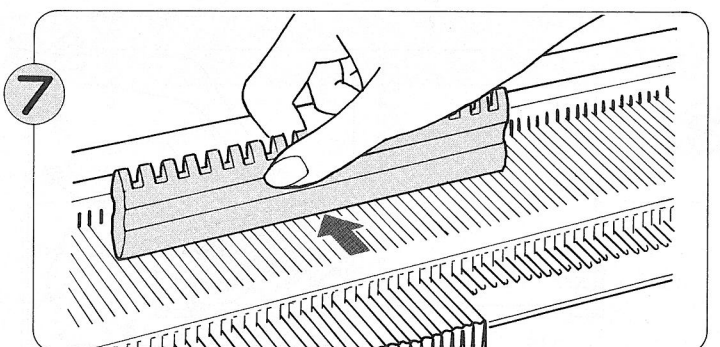
2本重なっている編針があったら、針先を指で持ち上げてはずします。



ペラの向こう側にある編目をウツシを使ってフックにもどします。

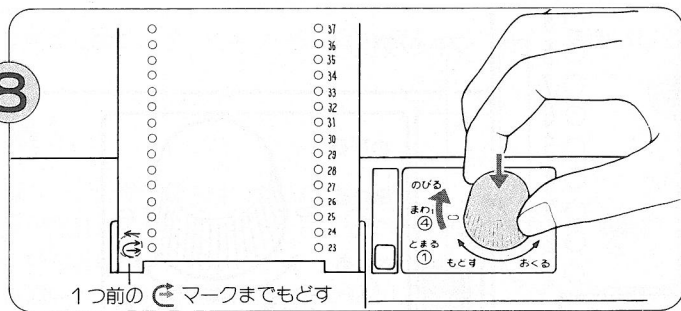


ウツシを使って移った編目をもとの針にもどし、平編の状態にもどします。



乱れているすべての編針を、B位置にそろえます。

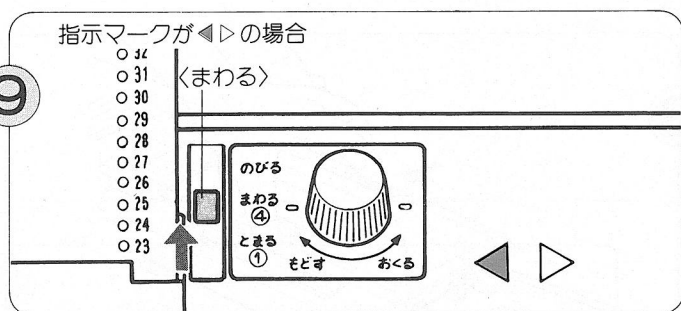
8



1つ前の \odot マークまでもどす

カード送りツマミをくもどす方向に回し、パンチカードを1つ前の \odot マークまでもどします。

9

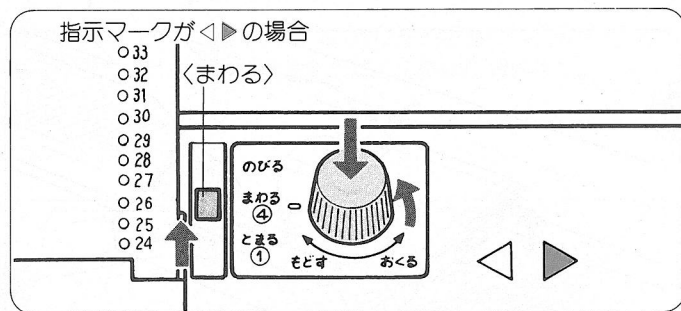


指示マークが $\triangleleft \triangleright$ の場合

くまわる

指示マークが $\triangleleft \triangleright$ の場合

ストップレバーをくまわるに合わせ、パンチカードの矢印に従ってLキャリジから動かし、編み続けます。



指示マークが $\triangleleft \triangleright$ の場合

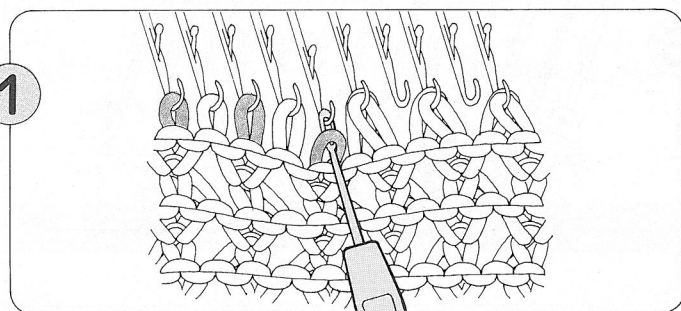
くまわる

指示マークが $\triangleleft \triangleright$ の場合

カード送りツマミでパンチカードを1段送り、ストップレバーをくまわるに合わせます。Lキャリジを右に動かしパンチカードの矢印に従って編み続けます。

2. 編地をほどきたい場合

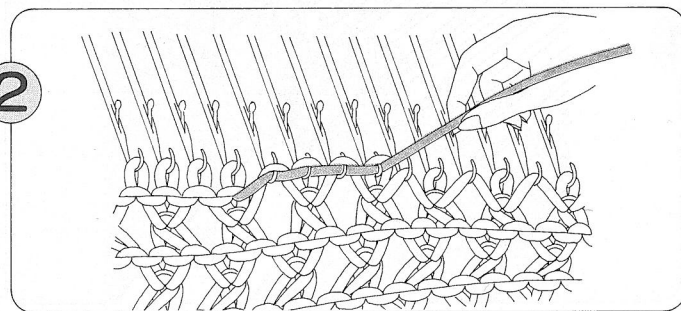
1



ストップレバーをくとまるに合わせます。

ウツシを使って移った編目をもとの編針にもどし、平編の状態にしてB位置にそろえます。

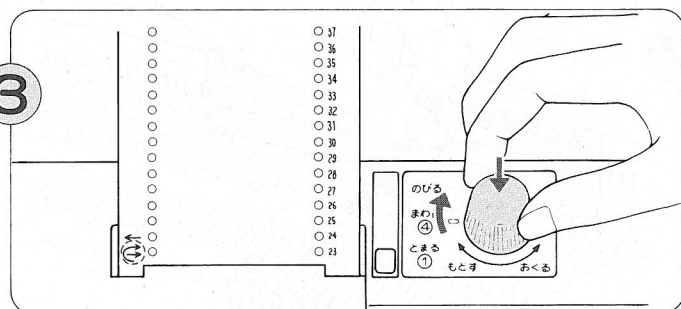
2



平編の部分(2段)をほどきます。

※段数計やニットリーダーを使用している場合はほどいた段数だけもどします。

3



パンチカードを1つ前の \odot マークまでもどします。

4

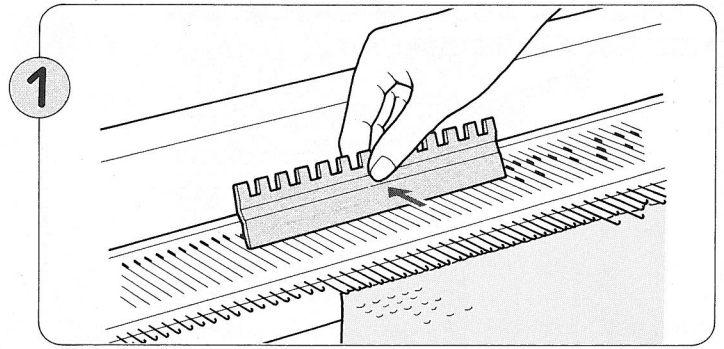
①～③を繰り返して、移された編目を、平編の状態にもどしながら、正しく編めている位置までほどいていきます。

5

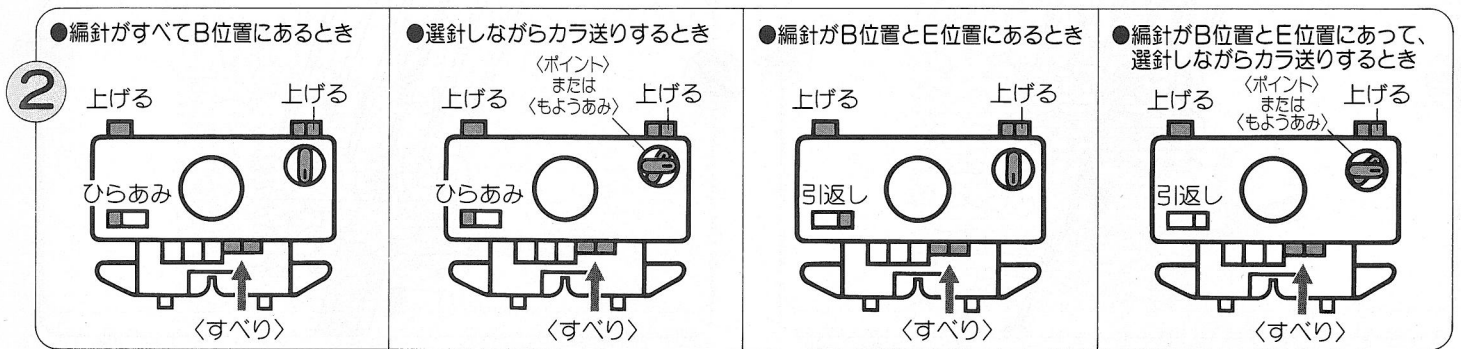
Kキャリジで平編(2段)を編んでから、上記1-③を行ないます。

Kキャリジをカラ送りするには

- Kキャリジをミノ板に取り付けたまま、編まずに移動することができます。
- ※ アーガイル編の場合、選針しながらカラ送りするときには、①を行ってから63ページの③⑤⑥を行います。

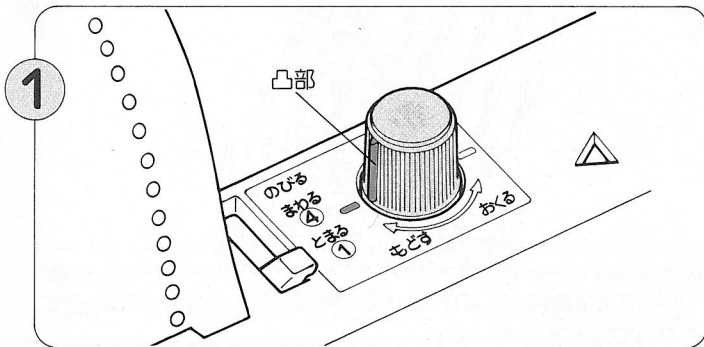


編目がベラの向う側にある場合はフックにもどしてから、E位置以外の編針をB位置へもどします。

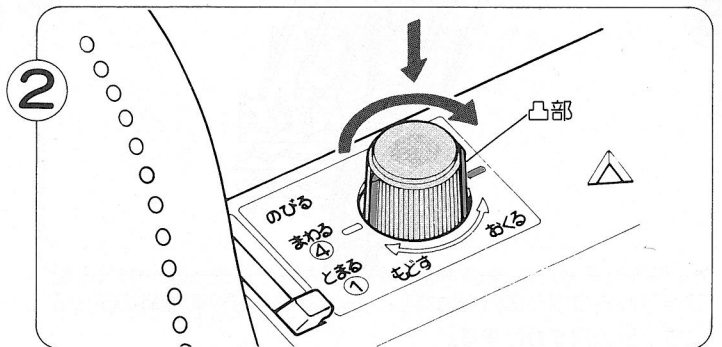


それぞれの場合によってKキャリジをセットし、Kキャリジを動かしてカラ送りします。

正しく選針されているかどうか確認したいときには



カード送りつまみを押さずに回し、凸部を表示板の=印に合わせます。

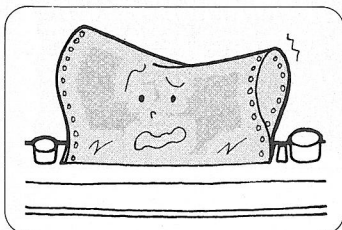


送りつまみをいっぱい押し下げ、<もどす>方向に180°回して、反対側の=印に合わせるとカードは7段もどり、現在編んでいる段の模様穴がカード差込口に現われます。

編針がまちがって選針されていた場合

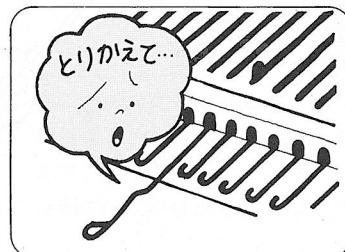
次のような原因が考えられます。

- パンチカードが正しく入っていないとき



カードが斜めに入っていたら、まっすぐに入れ直します。

- 編針が曲がっているとき



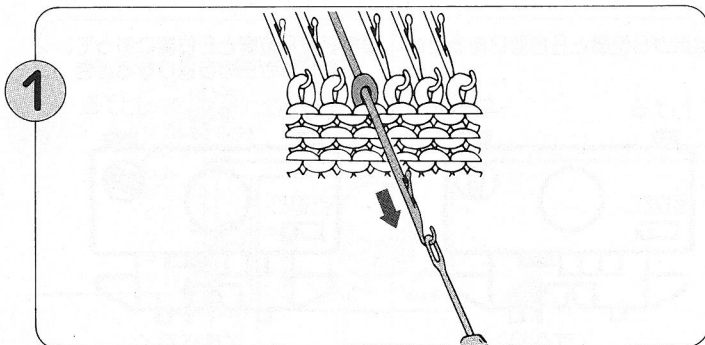
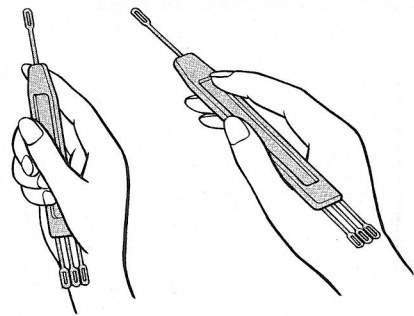
まちがって選針されている編針をE位置まで出し、曲がっていたら取り替えます。(101ページ参照)

ウツシの使い方(編目の移し方)

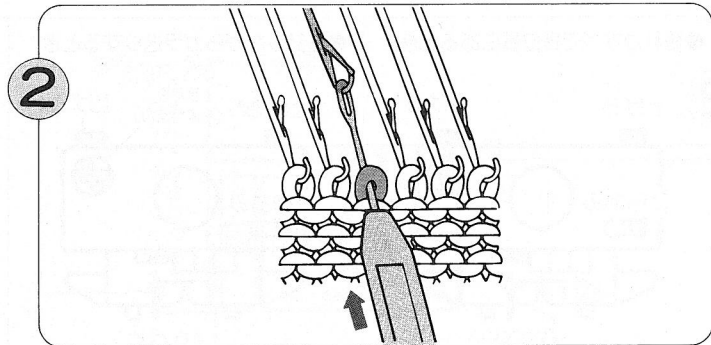
- ウツシは増し目、減らし目、移し目などに使います。
- ここでは移し目の方法で説明します。

★ウツシの持ち方

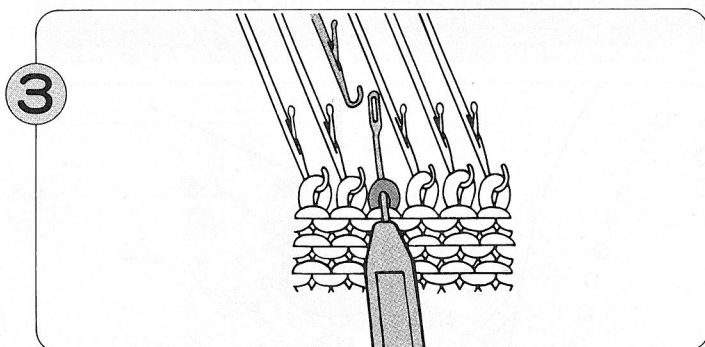
2つの持ち方があります。自分で使いやすいと思われる方法で行ってください。



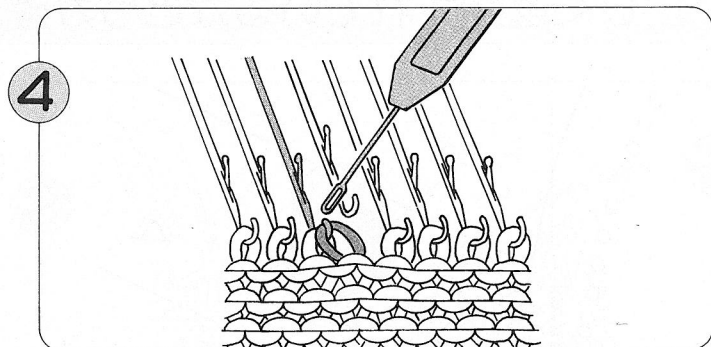
1 編針のフックにウツシの穴を掛け、手前に引き出して編目をペラの向こうに移します。



2 逆に押すとペラが閉じ、編目はウツシに移ります。



3 フックからウツシの穴をはずし、移したいとなりの編針のフックにウツシの穴を掛けます。



4 ウツシの手前側を少し持ち上げて、編目をフックにすべり込ませてからウツシをはずします。

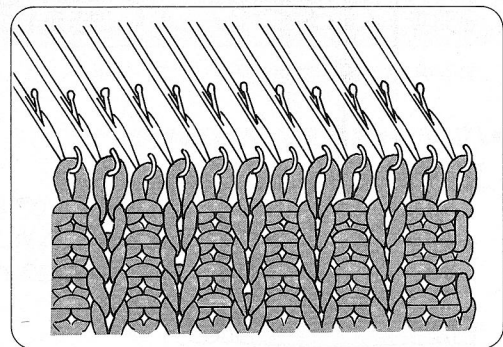
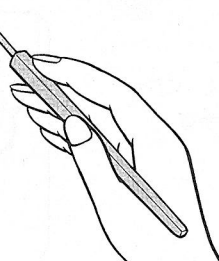
タツピの使い方(ゴム編)

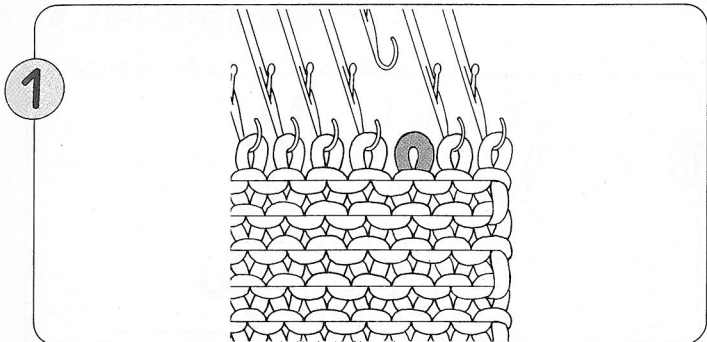
- タツピはゴム編や、編目がおちたときなどに使います。
- ここでは1目ゴム編の編み方で説明します。

★タツピの持ち方

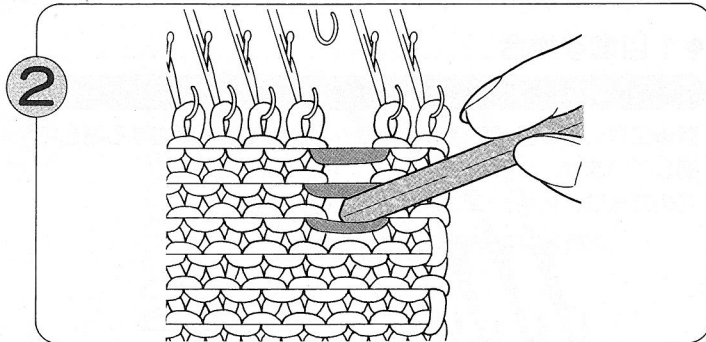
鉛筆を持つようにして持ち、ペラを上に出します。

フック ← → ペラ

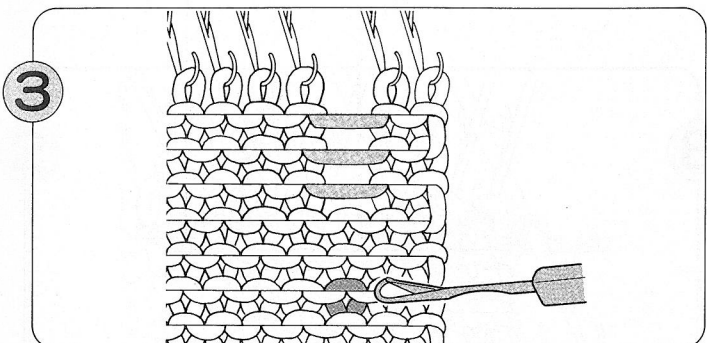




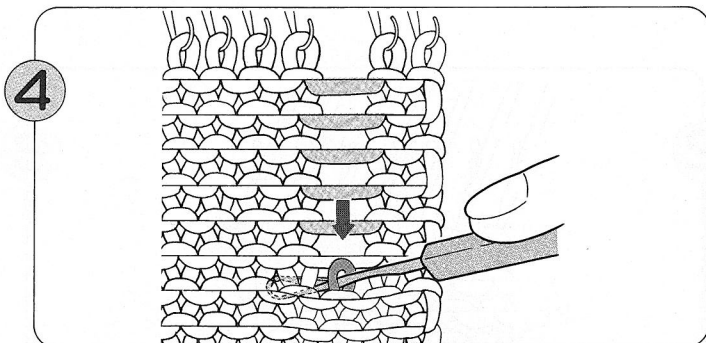
① 右端から3本目の編針を、E位置に出してからA位置に押ししてもどして、編目をフックから落とします。



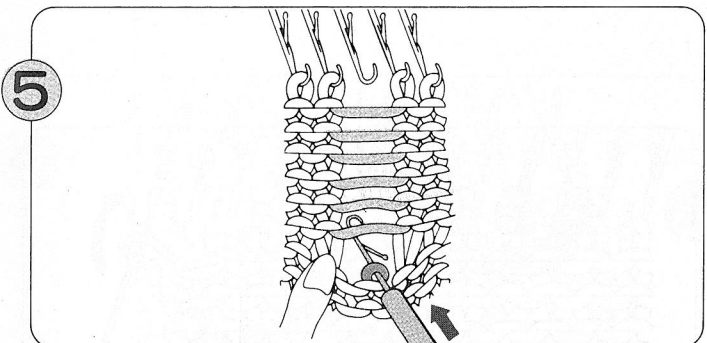
② タップピの柄を使用し、おとした編目のすぐ下を押しして編地をほどきます。



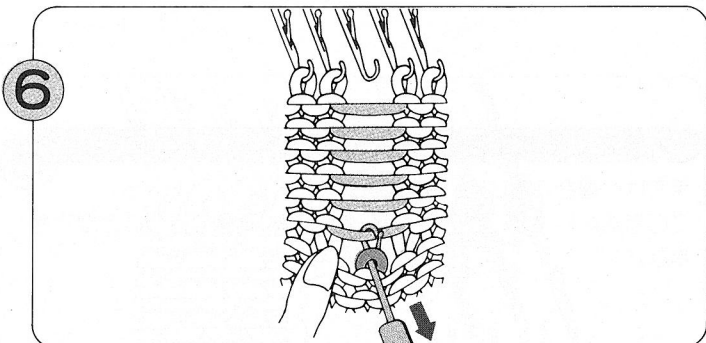
③ ゴム編に返そうとしている位置より2~3段上までほどき、ゴム編を始める編目にタップピの先を差し込みます。



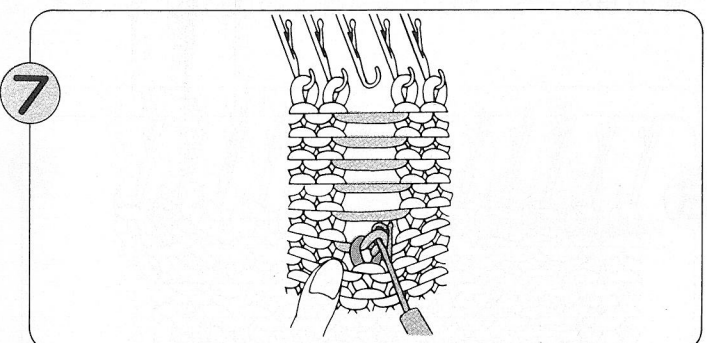
④ 編目に差し込んだタップピを少し強く押し下げれば、ほどき残した2~3段がほどけます。



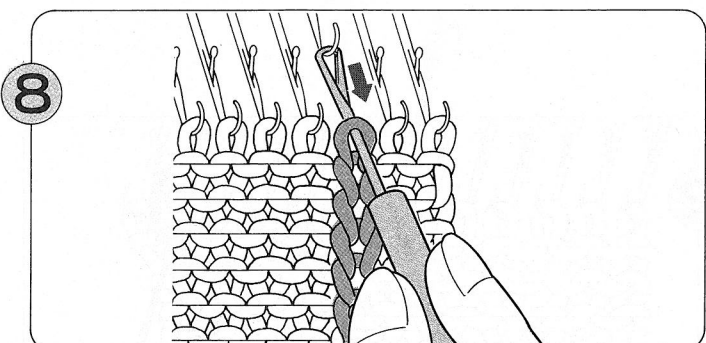
⑤ 編地を左手で下に引っばって、しっかり持ちます。タップピを編地の向こう側へ押し込み、編目をタップピのペラより越えさせます。



⑥ はしご状にほどかれた最も下の段の編糸をタップピのフックでつかみ、タップピを手前へ引きます。



⑦ タップピを引くことによってタップピでつかんだ編糸は、タップピの上にあつた編目をくぐり、新しい表目を作ります。



⑧ ⑤~⑦の操作を繰り返して、上まで表に返して最後の編目を編針に移します。編針を1本おきに同じようにして、表目に返していきます。

※編地の両端は返さないでおきます。

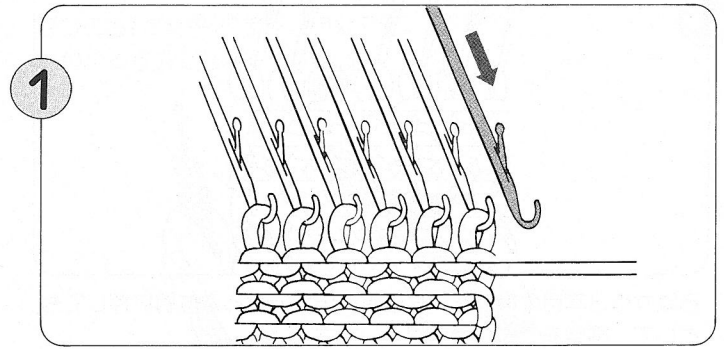
編目の増し方(増し目)

● 1目増す場合

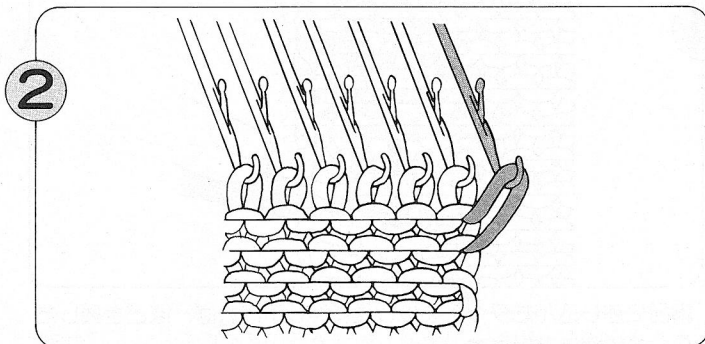
編針を1目ずつ出す増し目

簡単に早く増し目ができます。ミシン縫製で仕上げをする場合に適しています。

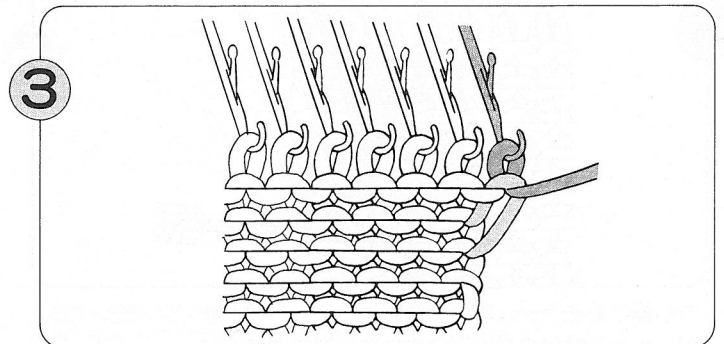
この方法は、Kキャラジのある側で行います。



1 Kキャラジ側で編地のとなりの編針を1本、B位置に出します。



2 Kキャラジを操作して1段編みます。B位置に出した編針に編糸がかかります。

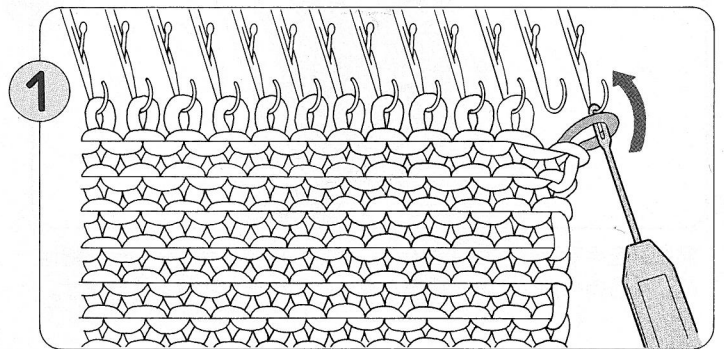


3 Kキャラジをもう1段操作します。1目の増し目ができました。

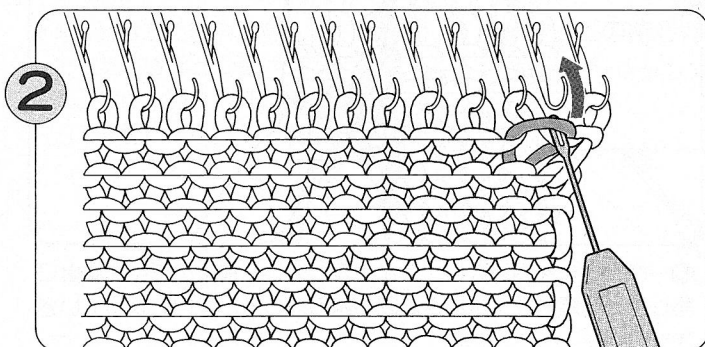
1目立てる増し目

手ではぐ場合に適しています。

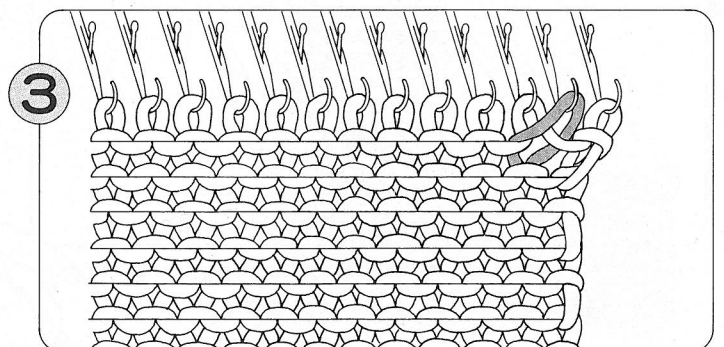
この方法はKキャラジのある側、ない側、両側で行うことができます。



1 端の1目をウツシに取り、1目外側の編針(増す針)に移します。



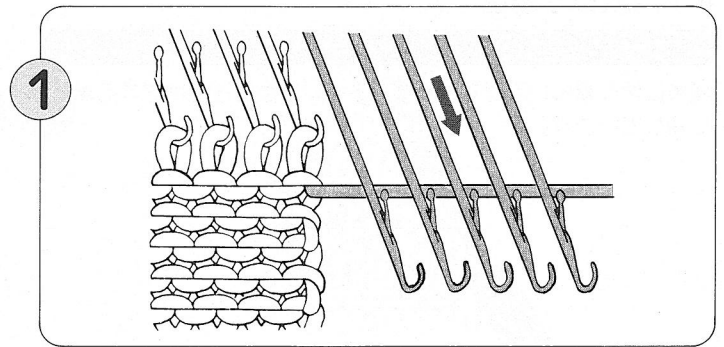
2 端から2目めの編目の、1段下の編目をウツシで引き上げ、となりの編針にかけます。



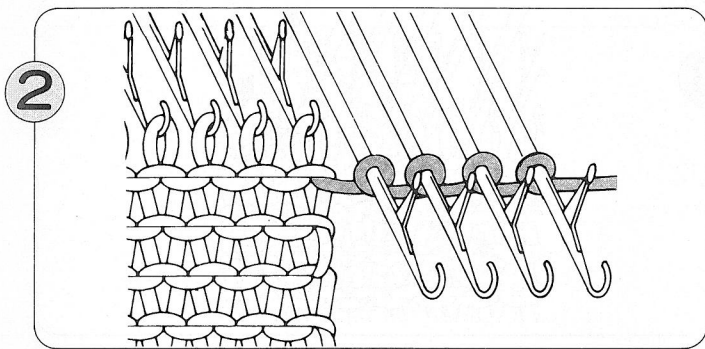
3 増し目が終わったら、Kキャラジを操作して編み続けます。

● 2目以上増す場合

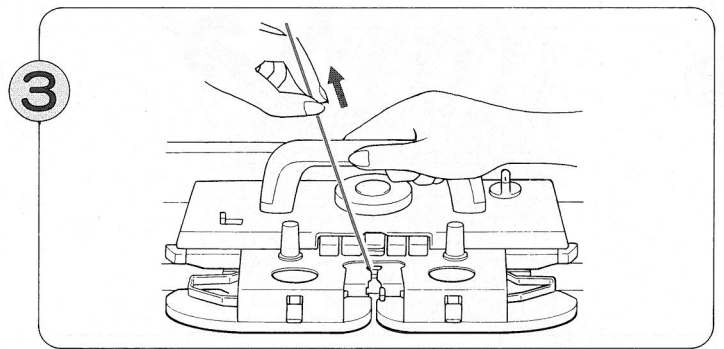
この方法は、Kキャラジのある側で行います。



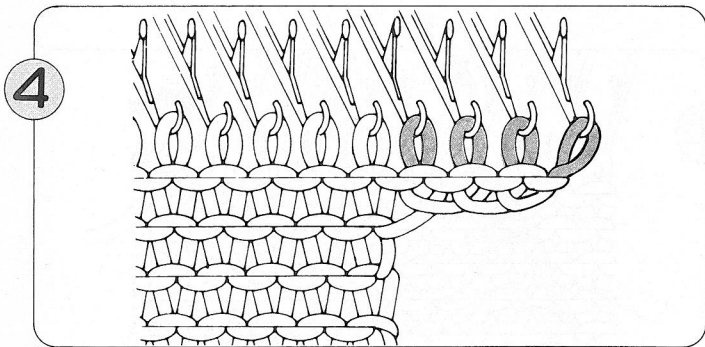
1 Kキャラジ側で増し目する編針を、E位置に出します。



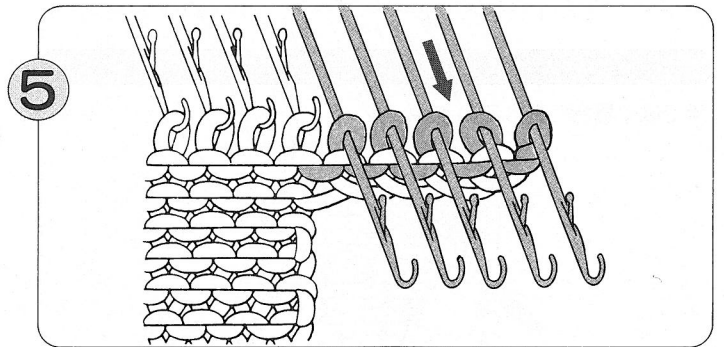
2 E位置に出した編針に、編糸をゆるく巻きつけます。



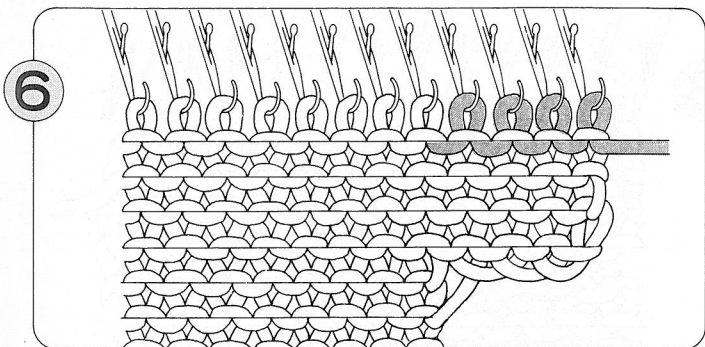
3 編糸がたるまないように、左手で軽く糸を引きながら1段編みます。



4 1段編み終わった状態です。



5 増し目した編針をE位置に出し、次の段を編みます。



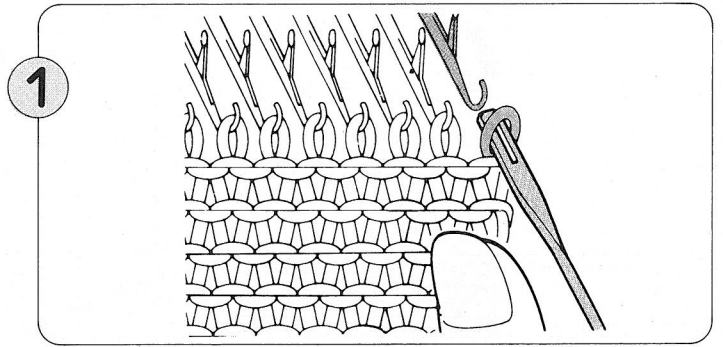
6 3～4段は、増し目した編針をE位置に出しながら編みます。

編目の減らし方(減らし目)

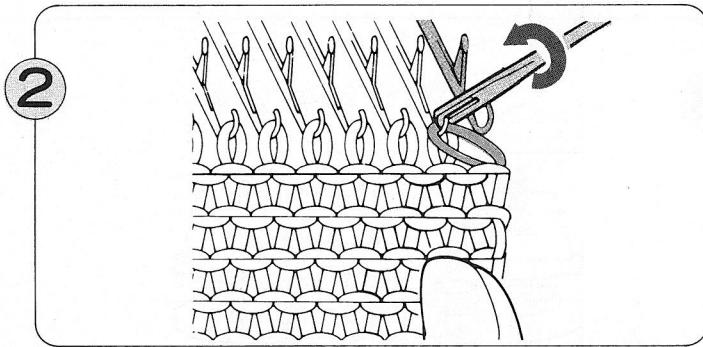
● 1目減らす場合

端で1目減らす減らし目

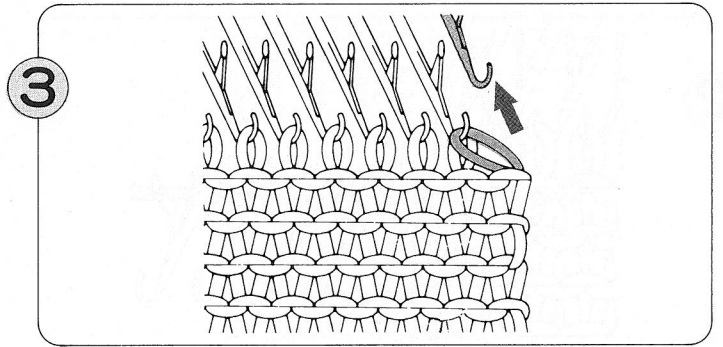
簡単に早く減らし目ができます。ミシン縫製で仕上げをする場合に適しています。



端目をウツシに取ります。



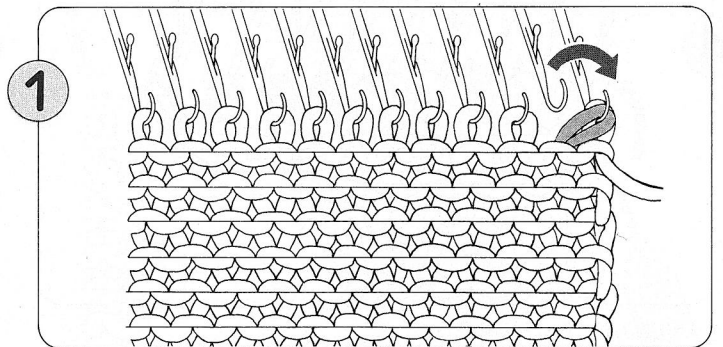
ウツシに取った編目を、1目内側の編針に移します。



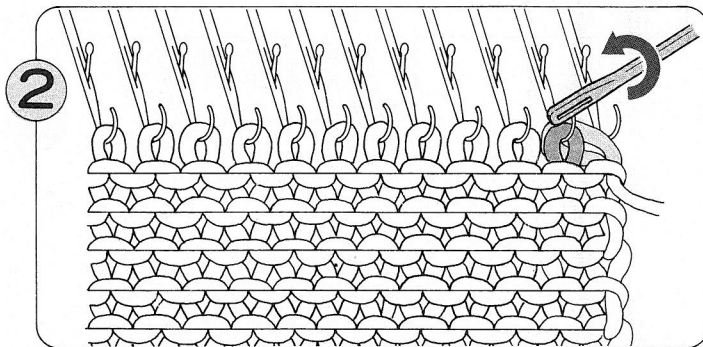
減らし目した編針を、A位置(編まない位置)にもどします。

1目立てる減らし目

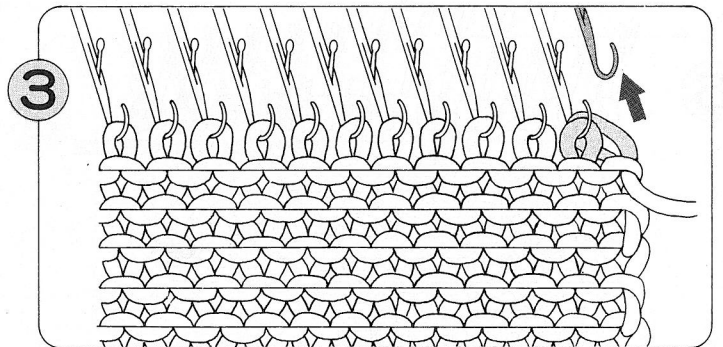
手ではぐ場合に適しています。



端から2本目の編針の編目を、端の編目に重ねます。



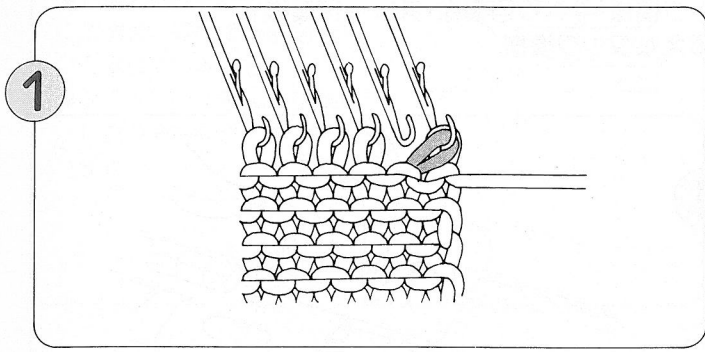
①で重なった2目を、2本目の編針に一度に移します。



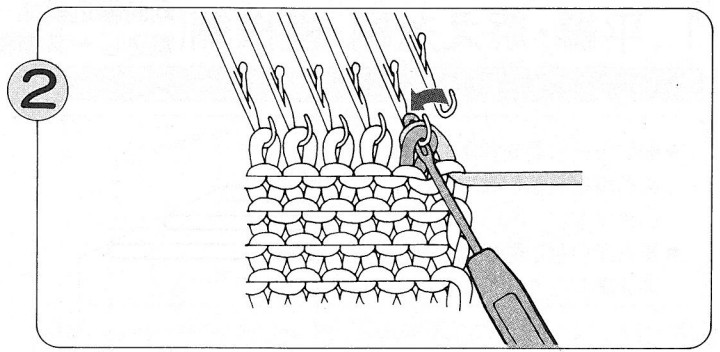
減らし目した編針を、A位置(編まない位置)にもどします。

●2目以上減らす場合

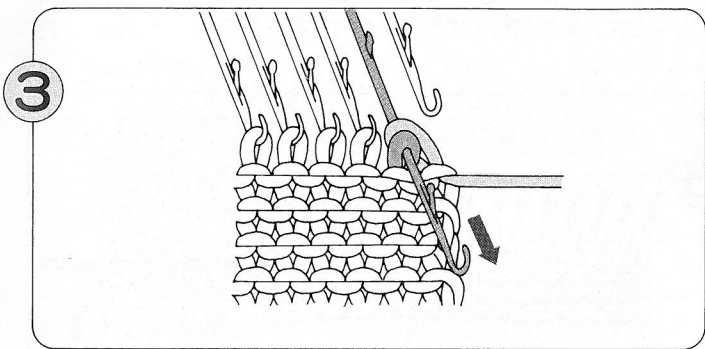
この方法は、Kキャリジのある側で行います。



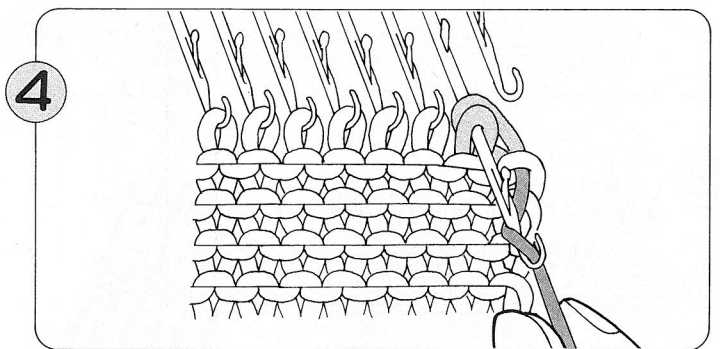
① 端から2本目の編針の編目を、端の編目に重ねます。



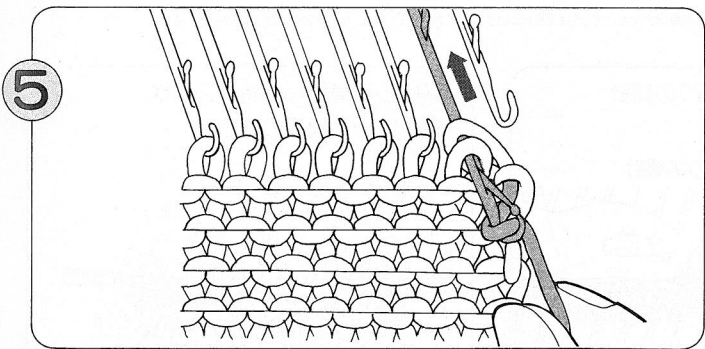
② ①で重なった2目を、2本目の編針に一度に移します。



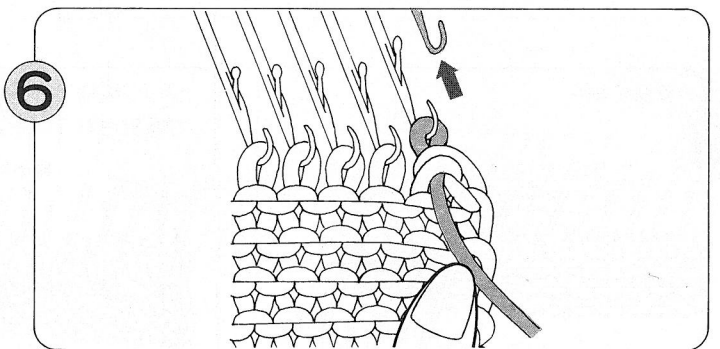
③ 編目2目が重なっている編針を、E位置に出します。編目はペラのうしろに移ります。



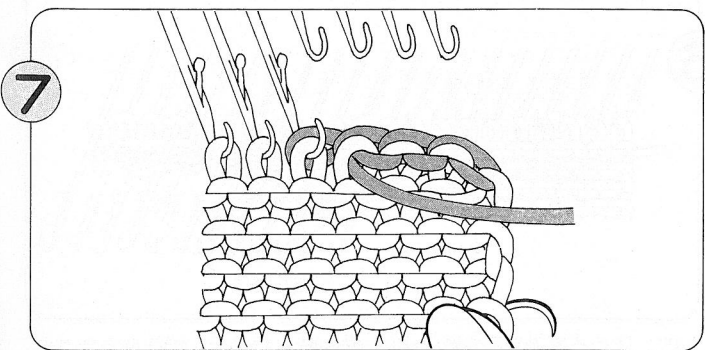
④ E位置に出した編針のフックに、Kキャリジに渡っている編糸を入れます。



⑤ 指で編針をB位置に押しもどします。



⑥ 減らし目した端の編針を、A位置(編まない位置)にもどします。



①～⑥までの操作を繰り返しながら、必要な目数になるまで減らし目を行います。

ご注意

- 減らし目をするときに、編目がきつくならないように注意してください。
- 減らし目の終わりは、編糸で編まないで①と②だけ行います。編針には2目かかっています。

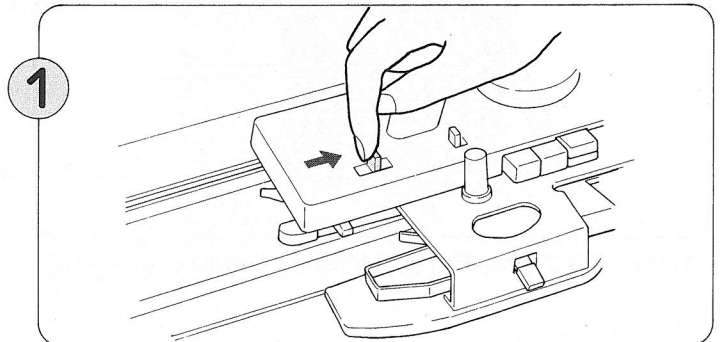
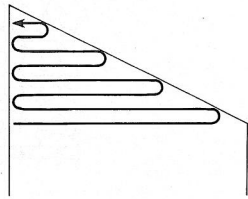
引返しによる編目の増し方・減らし方(引返し編)

編目を編針にかけたまま、増し目・減らし目をする方法です。

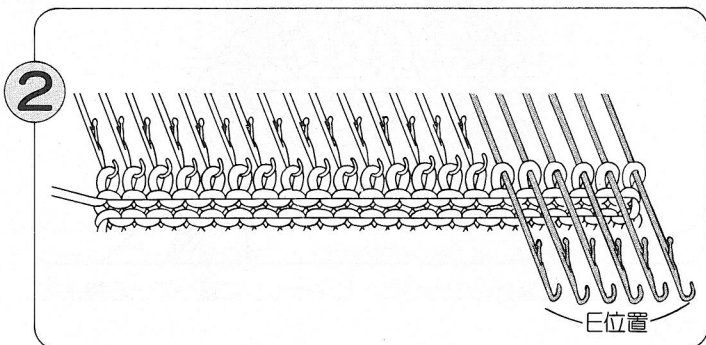
1. 平編・添え糸編・模様編 (同時編込模様・タック模様・すべり目模様・スレッド模様) 編込レース模様・添え糸タック模様

編む部分を減らしてゆく場合

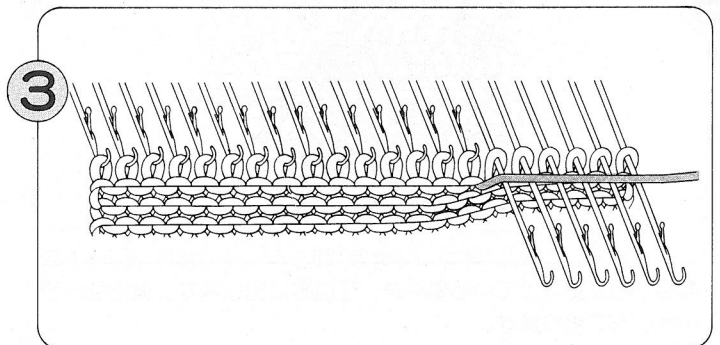
- 編針のE位置を利用して休める編針を少しずつ増していきます。
- 肩さがりなどの傾斜した編地を編むときに使います。



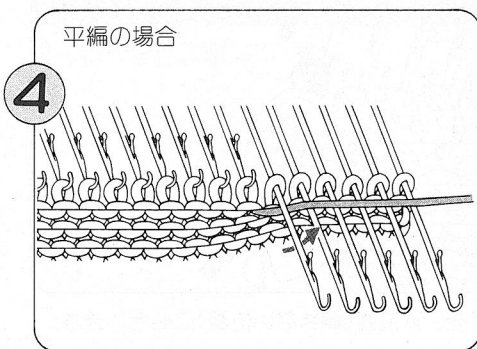
引返しレバーをく引返しにセットします。カムボタン・選針切替ツマミは、編む模様の状態に合わせておきます。



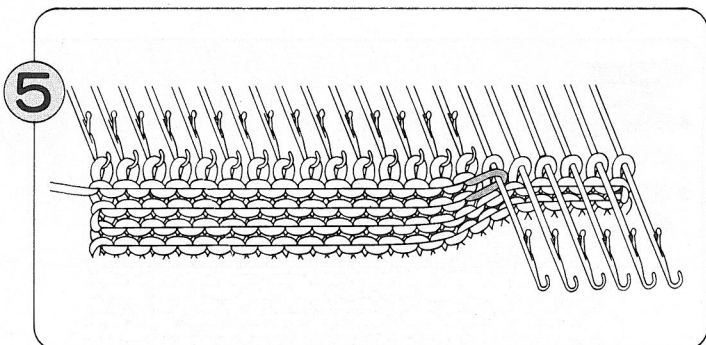
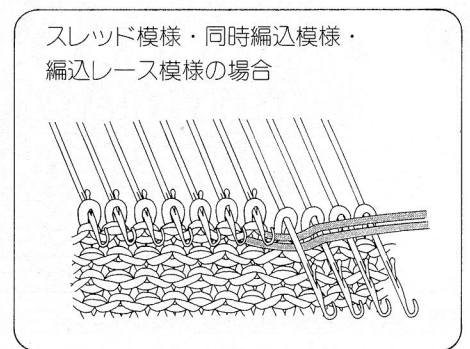
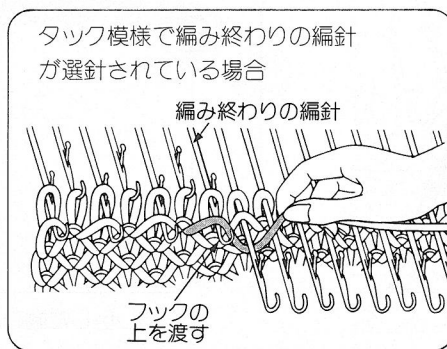
Kキャラジと反対側の休める部分の編針をE位置に出します。



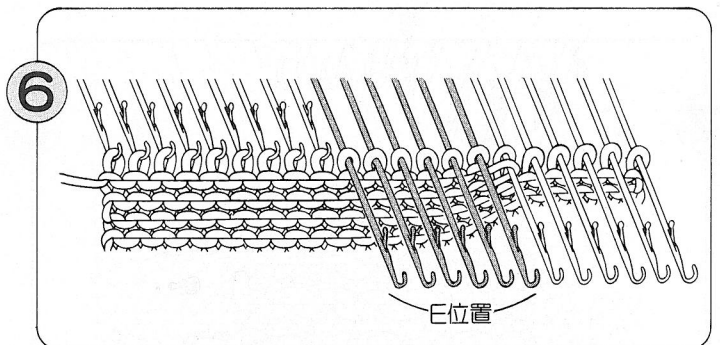
1段編みます。B位置(模様編の場合はB位置とD位置)の編針が編めて、E位置に出した編針の上に編糸が渡ります。



編み終わりのとなりのE位置に出してある編針の下から、編糸をくぐらせます。



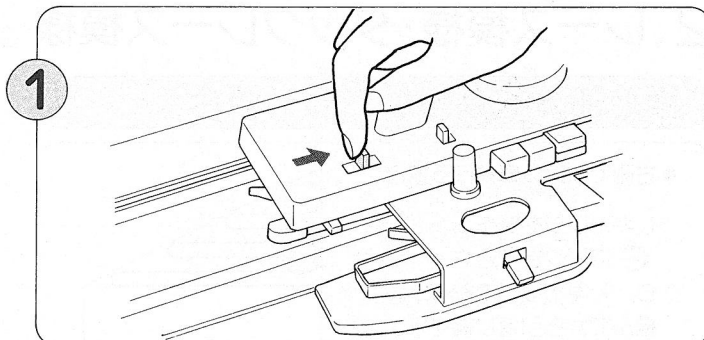
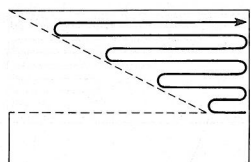
編糸を軽く上に引っぱりながら1段編みます。編糸がかかります。



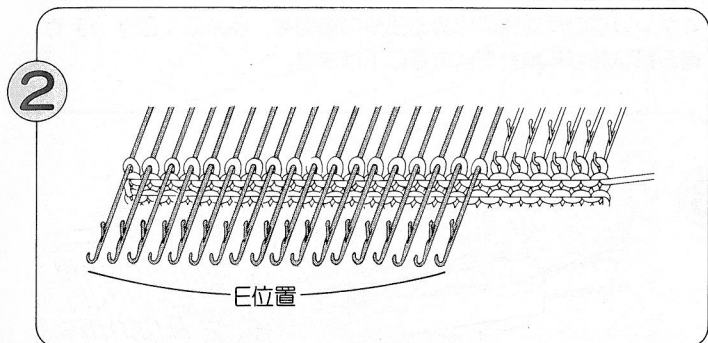
次に、休める編針をE位置に出し、③~⑥を繰り返して編み進みます。
※引返し編が終わったら、引返しレバーをくひらあみにもどします。

編む部分を増してゆく場合

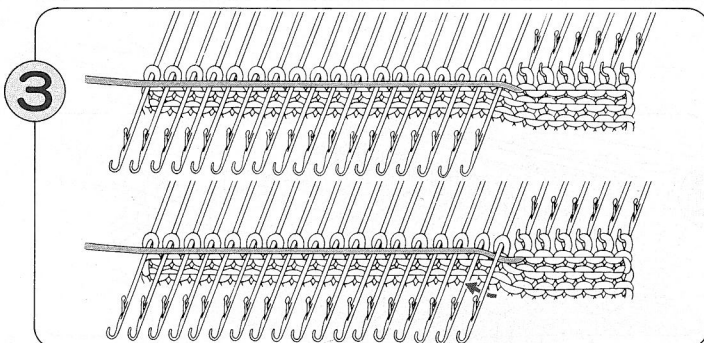
- 最初に編針をたくさん休めておき、編む部分を少しずつ増していきます。
- スカートのスそなどの傾斜した部分を編むときに使います。



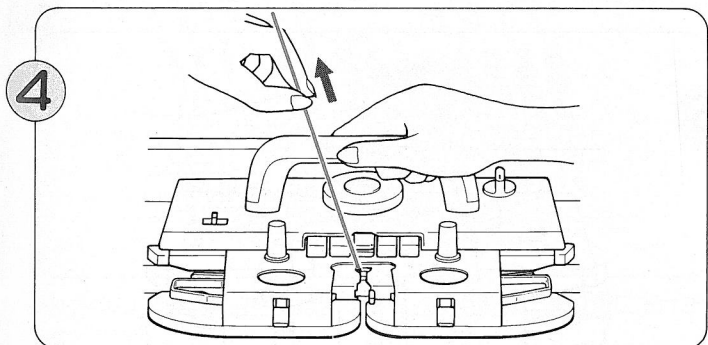
引返しレバーをく引返しにセットします。カムボタン・選針切替ツマミは、編む模様の状態に合わせておきます。



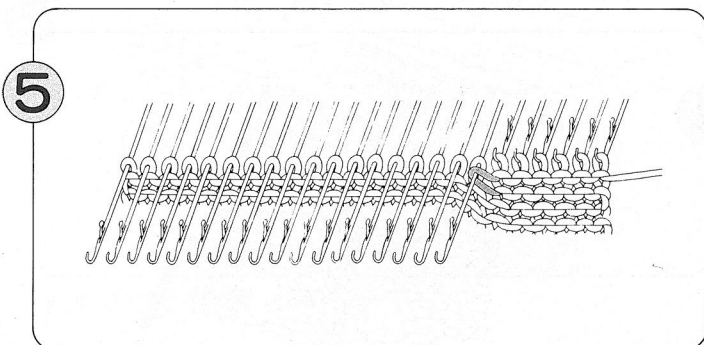
Kキャリジと反対側の休める部分の編針をE位置に出します。



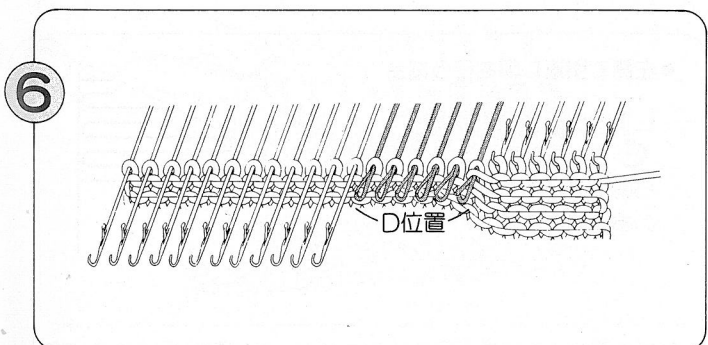
1段編みます。B位置の編針が編めて、E位置に出した編針の上に編糸が渡ります。編み終わりのとなりのE位置に出してある編針の下から、編糸をくぐらせます。(模様編のときは84ページ④参照)



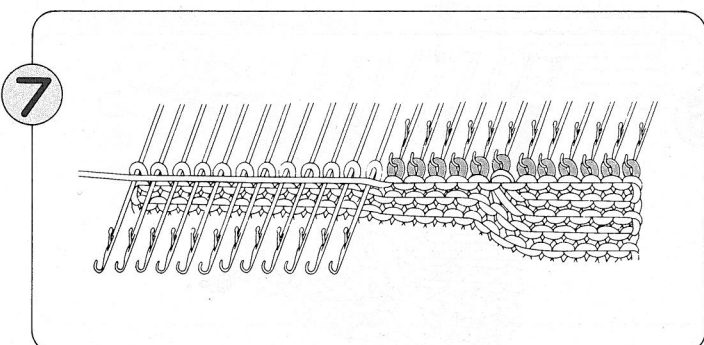
編糸を軽く上に引っ張りながら1段編みます。



糸がかかります。



次に、編む部分の編針をD位置にもどします。
※模様編の場合、編めている部分の選針状態をよく見て、D位置の編針のうちB位置にもどる編針の編目を、ウツシを使ってフックの中にもどし、B位置に下げます。



Kキャリジを移動すると、D位置にもどした編針まで編めますから、③～⑥を繰り返して編みます。
※引返し編が終わったら、引返しレバーをくひらあみにもどします。

引返しによる編目の増し方・減らし方(引返し編)

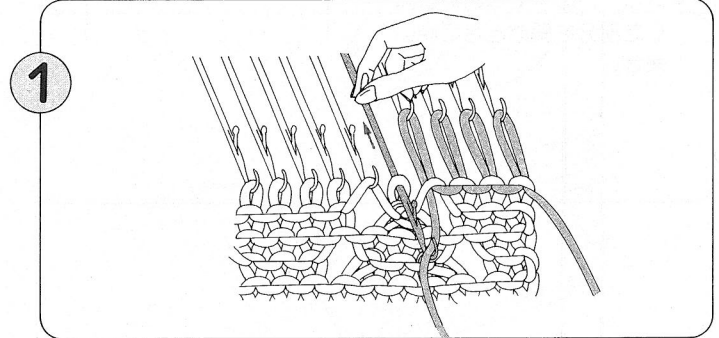
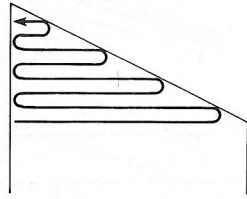
2. レース模様・タックレース模様

引返し編を行う側によって、操作の手順が異なります。

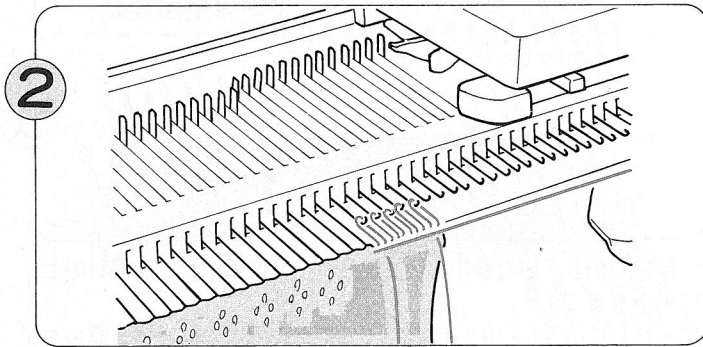
編む部分を減らしてゆく場合

●右側で引返し編を行う場合

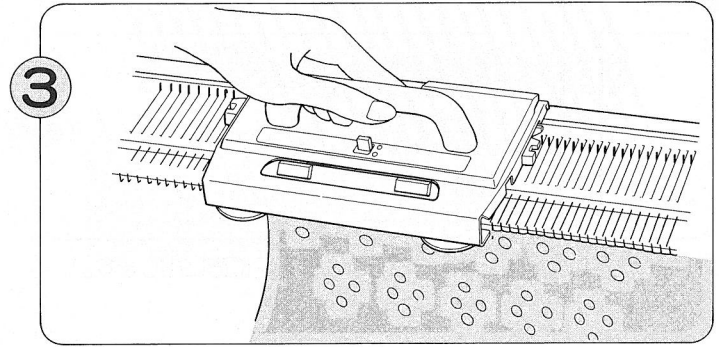
Lキャリジを操作し、
 ⌚マークまできたら、
 Kキャリジで左へ1段
 編んでから引返し編を行います。



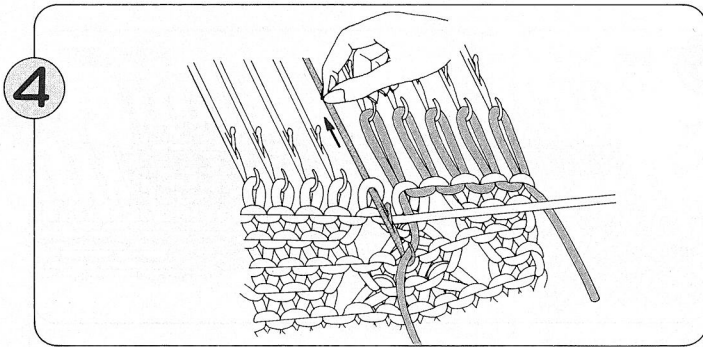
1 Kキャリジの反対側の休める部分の編目を、別糸に1目ずつ手で編み移しながら編針をA位置に下げます。



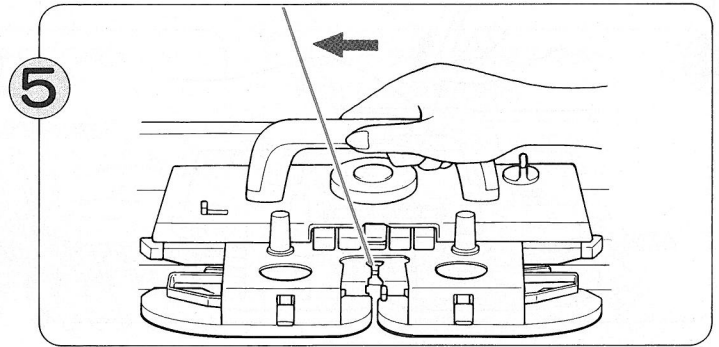
2 Kキャリジで1段編みます。



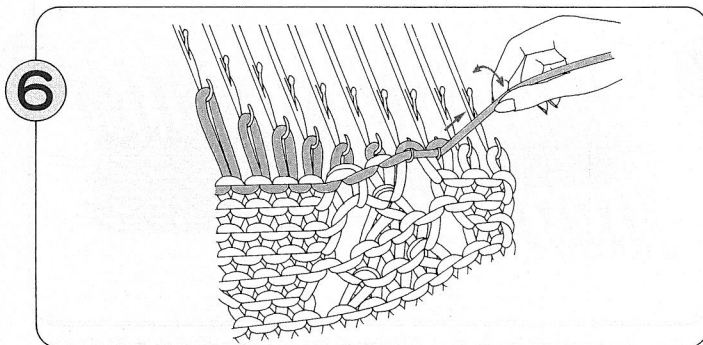
3パンチカードに従って、次の⌚マークまでLキャリジを動かします。



4 Kキャリジ側のB位置の端目1目を別糸に移し、A位置に下げます。



5 Kキャリジで1段編みます。

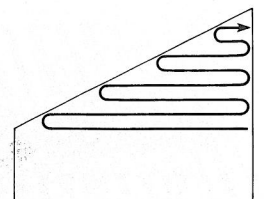


①～⑥を繰り返します。

※引返し編が終わったら、A位置に休めておいた部分は別糸をほどこき、B位置にもどします。

●左側で引返し編を行う場合

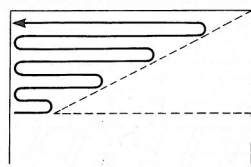
Lキャリジを操作し、
 ⌚マークまできたら
 ①→②→④→⑥→③→⑤
 の順で編みます。



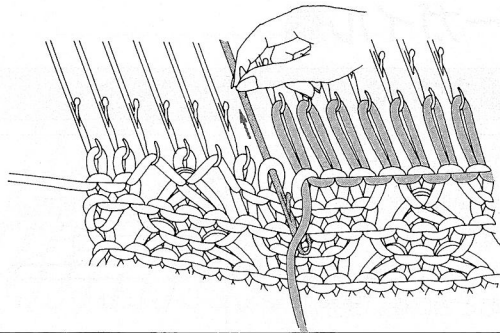
編む部分を増してゆく場合

●右側で引返し編を行う場合

Lキャラリジを操作し、
 Ⓒマークまできたら、
 Kキャラリジで左へ1段
 編んでから引返し編を行
 います。

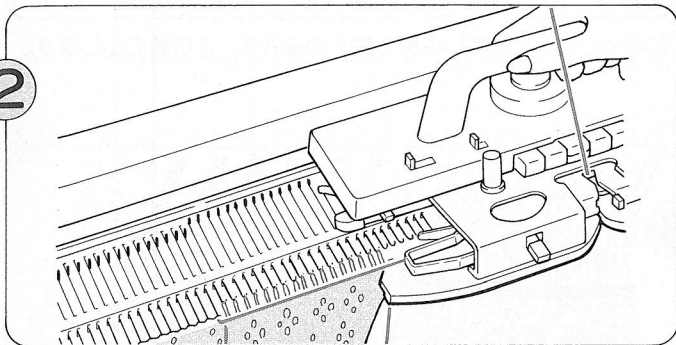


1



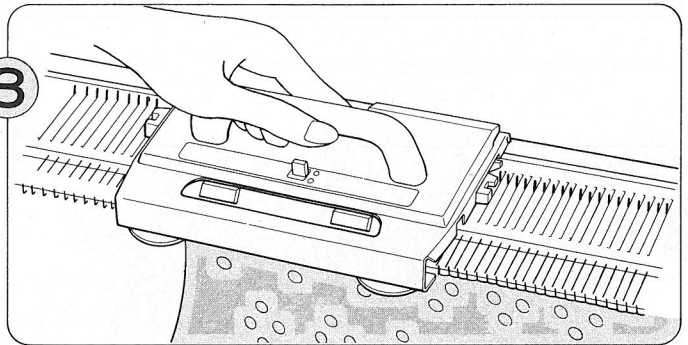
Kキャラリジの反対側の休める部分の編目を、別糸に1目ずつ手で編み移しながら編針をA位置に下げます。

2



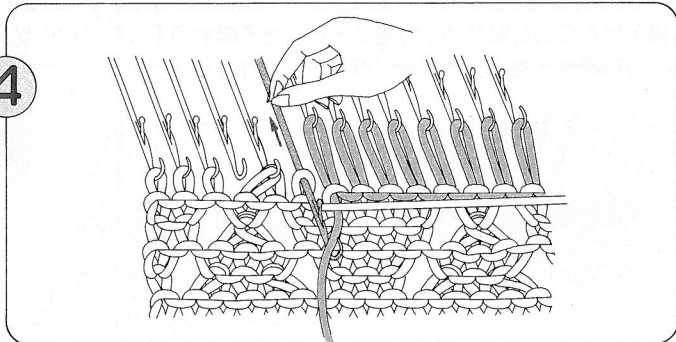
Kキャラリジで1段編みます。

3



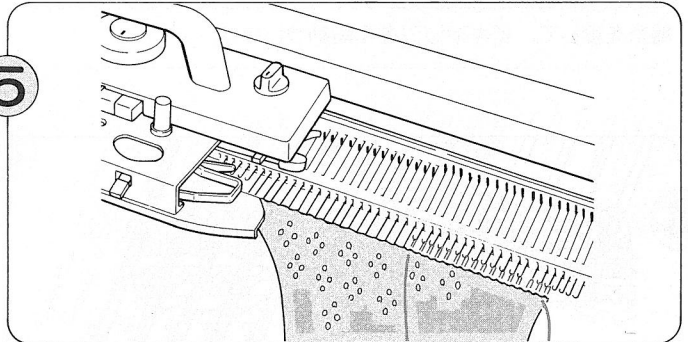
パンチカードに従って、次のⒸマークまでLキャラリジを動かします。

4



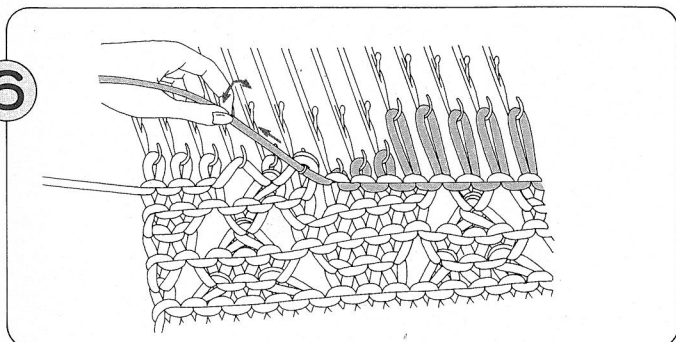
Kキャラリジ側のB位置の端目1段を別糸に移し、A位置に下げます。

5



Kキャラリジで1段編みます。

6

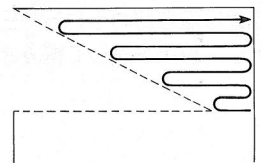


次に編む部分の編目は、別糸をほどきB位置にそろえて1段編みます。

③～⑥を繰り返します。

●左側で引返し編を行う場合

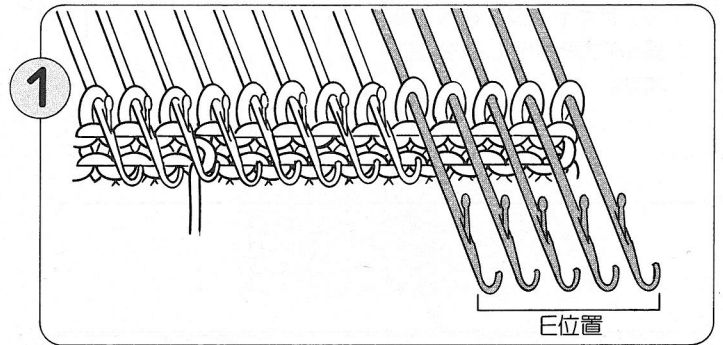
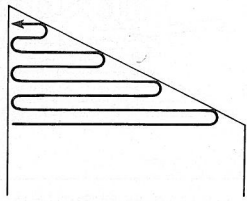
Lキャラリジを操作し、
 Ⓒマークまできたら
 ①→②→④→⑤→③→⑥
 の順で編みます。



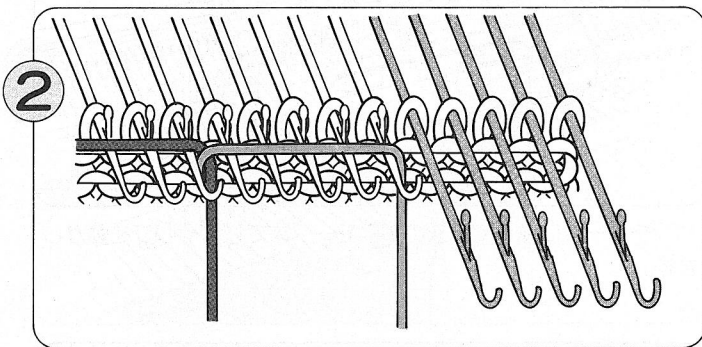
3.アーガイル編

編む部分を減らしてゆく場合

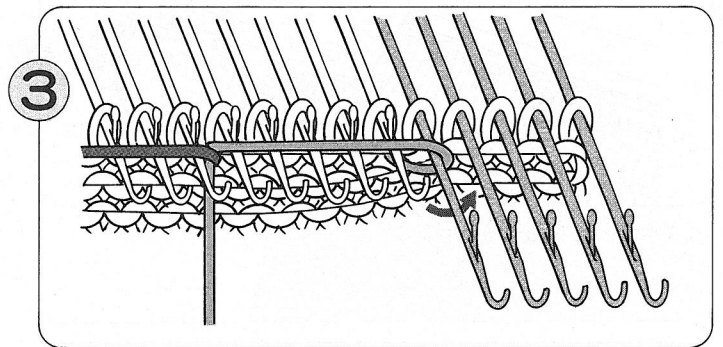
- 編針のE位置を利用して休める編針を少しずつ増していきます。
- 肩さがりなどの傾斜した編地を編むときに使います。



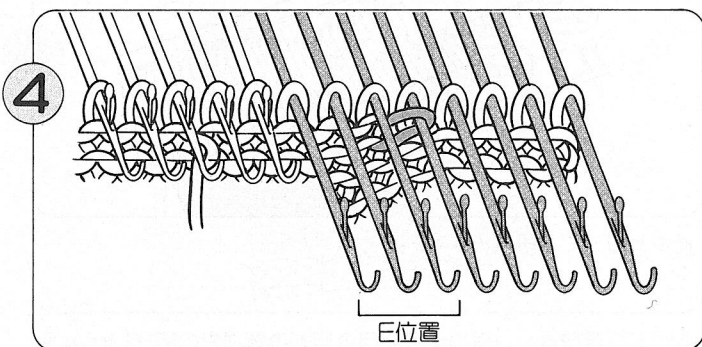
1 Kキャリッジと反対側の休める部分の編針を、E位置に出します。



2 編糸を渡して、Kキャリッジを1段動かします。



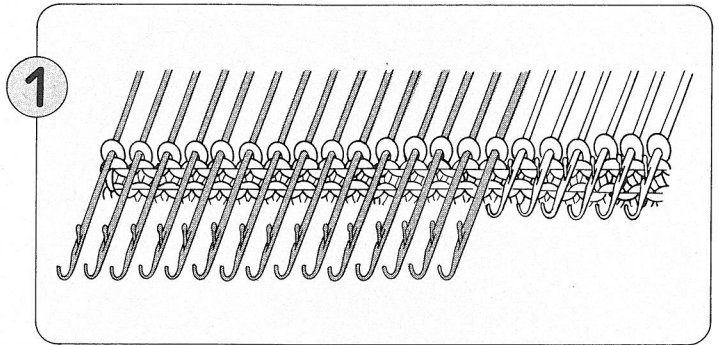
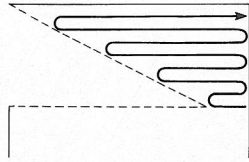
3 編み終わりのとなりのE位置に出してある編針の下からくぐらせてから編針を渡し、Kキャリッジを1段動かします。



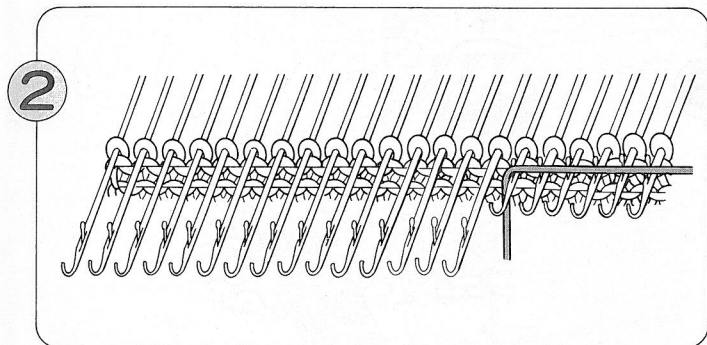
4 次に休める編針をE位置に出し、②~④を繰り返して編み進みます。
※引返し編が終わったら、E位置に出している編針をD位置にもどし、編糸を渡して編みます。

編む部分を増してゆく場合

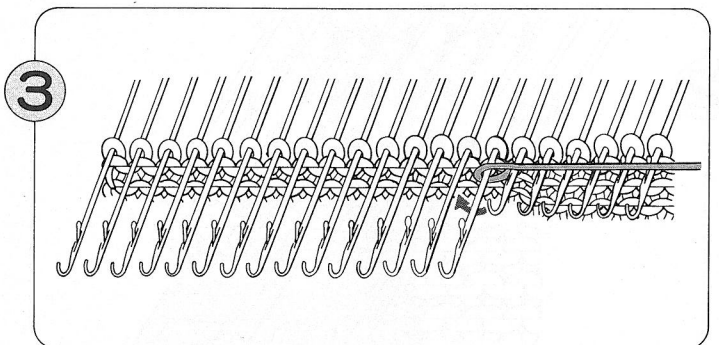
- 最初に編針をたくさん休めておき、編む部分を少しずつ増していきます。
- スカートのスそなどの傾斜した部分を編むときに使います。



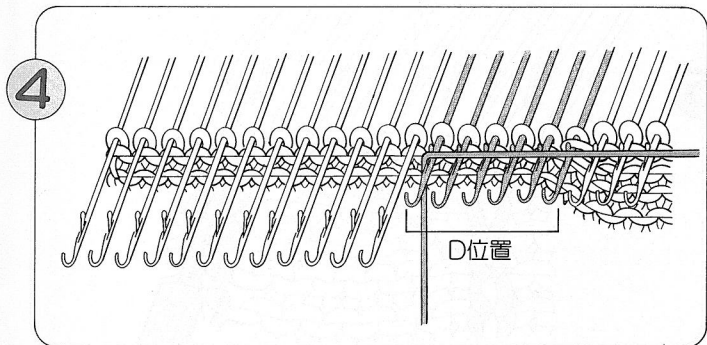
Kキャラジと反対側の休める部分の編針を、E位置に出します。



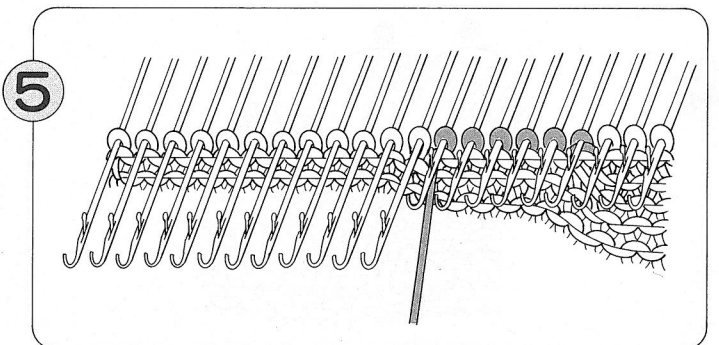
編糸を渡して、Kキャラジを1段動かします。



編み終わりのとなりのE位置に出してある編針の下からくぐらせてから編糸を渡し、Kキャラジを1段動かします。

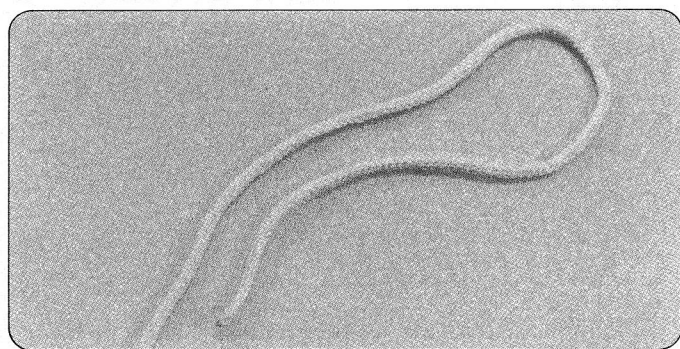


次に編む部分の編針をD位置にもどし、編糸を渡します。

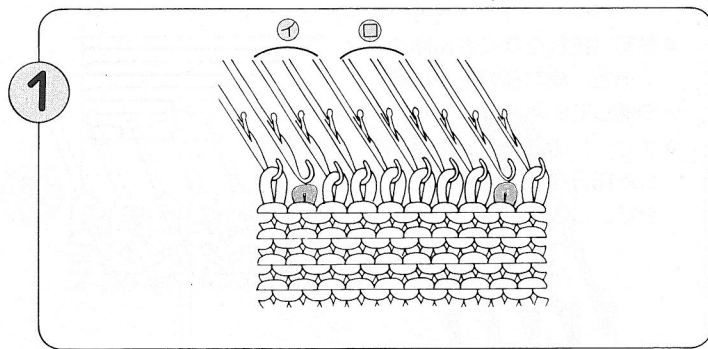


Kキャラジを移動すると、D位置にもどした編針まで編めますから③～④を、繰り返し編みます。

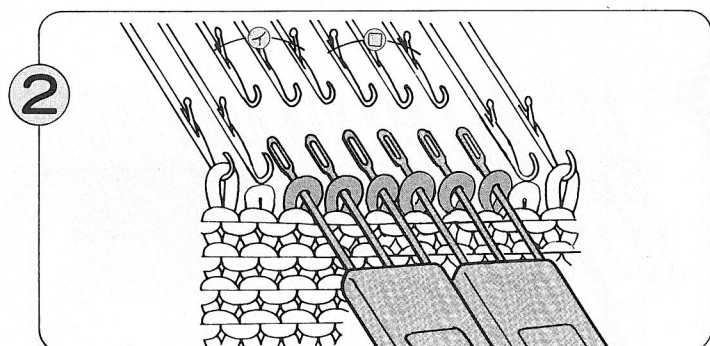
なわ編 (交差模様)



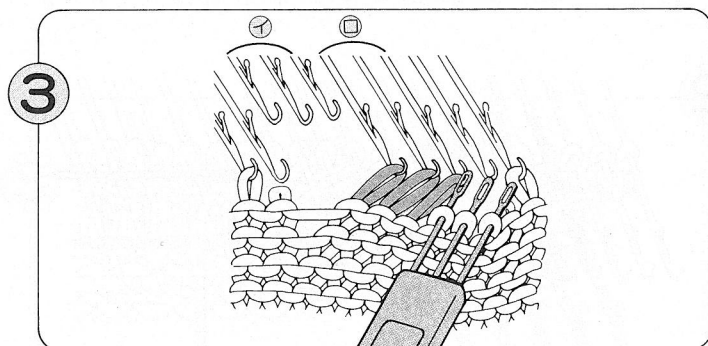
- 編目を交差させて模様を作ります。
- ここではウツシの1×3・2×3の3本針側を利用します。



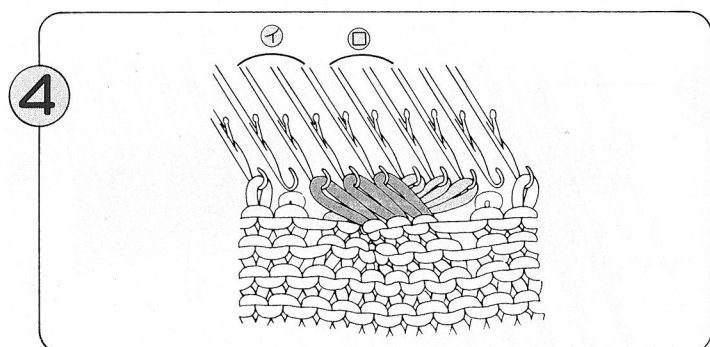
平編を10段編み、交差させる編目(①・②)の両どなりの編目を、1本ずつ編針からはずします。



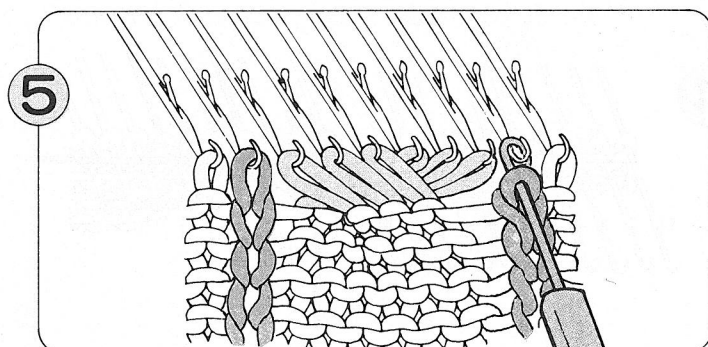
交差させる①と②の部分の編目を3目ずつウツシに取ります。



①の編目を②のカラ針に移します。

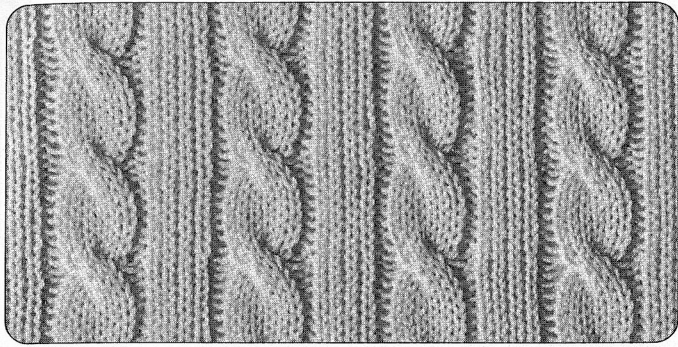


②の編目を①のカラ針に移します。

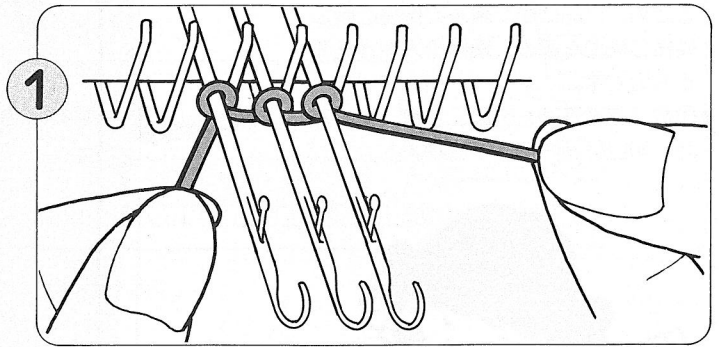


交差させた編目の両端の編目を、10段下からタッピを使って表目に直します。①～⑤を繰り返してなわ編を編みます。

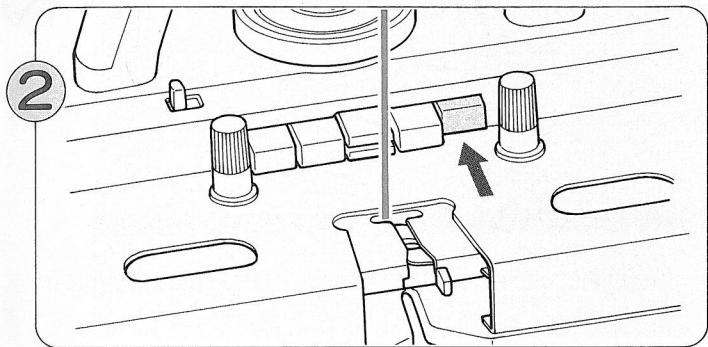
ひも編



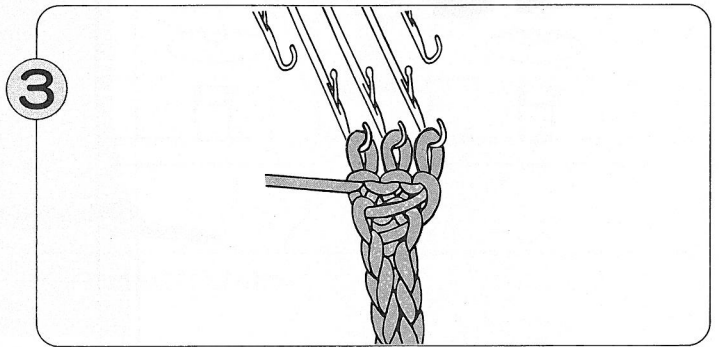
● 編地の左右の編目がつながり、丸くひも状に編み上がります。編目をきれいにするため、編目ダイヤルを標準より1目盛り小さく合わせます。



1 Kキャリジをミゾ板の右端におきます。ミゾ板中央の編針3~4本をE位置に出し、編糸を巻き付けて作り目します。



2 地糸口に編糸を通し、カムボタン(すべり右)を押します。

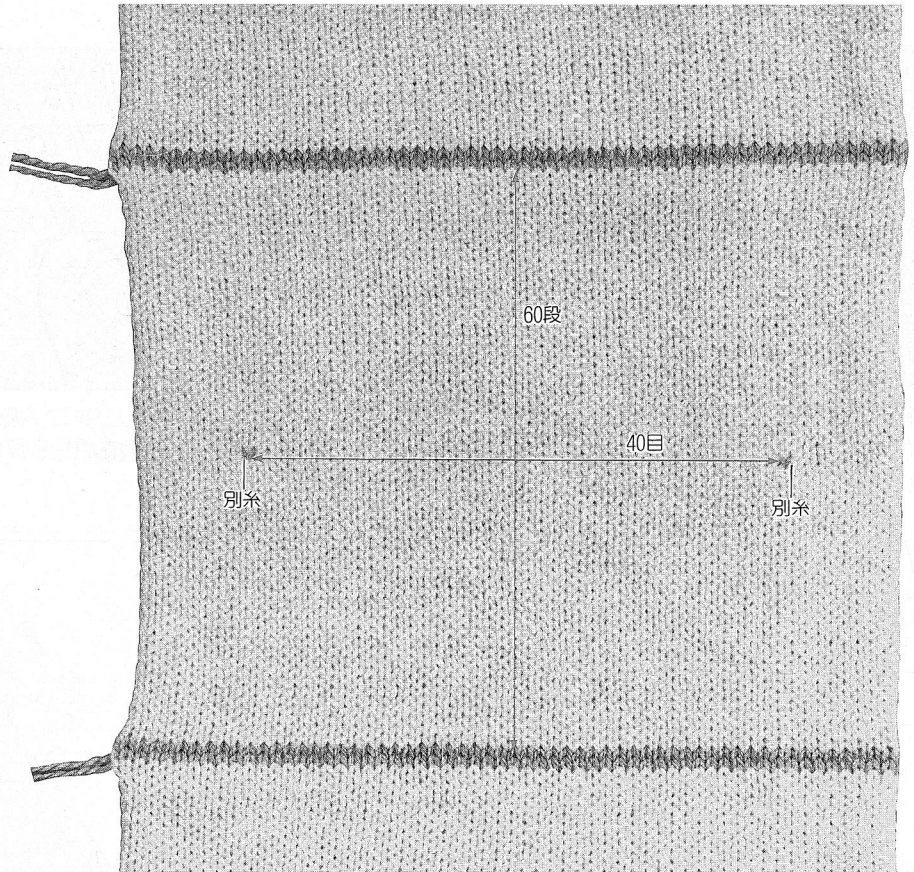
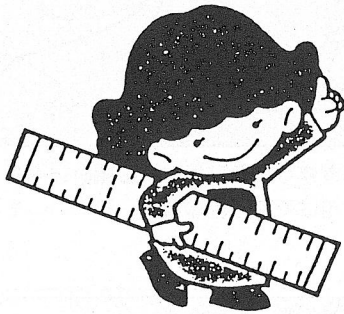


3 左手で糸端を持ち、かるく下に引きながらKキャリジを左右に操作します。

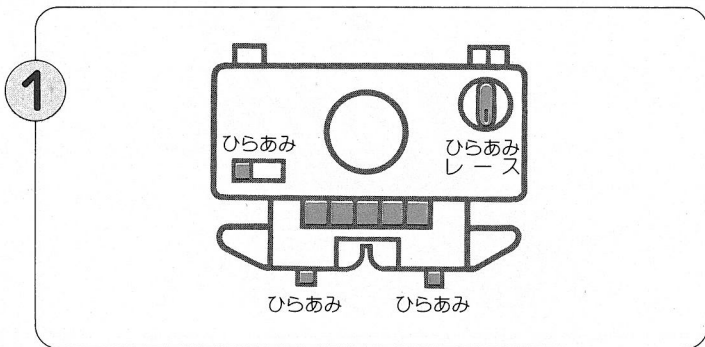
作品を編む前に

編ゲージについて

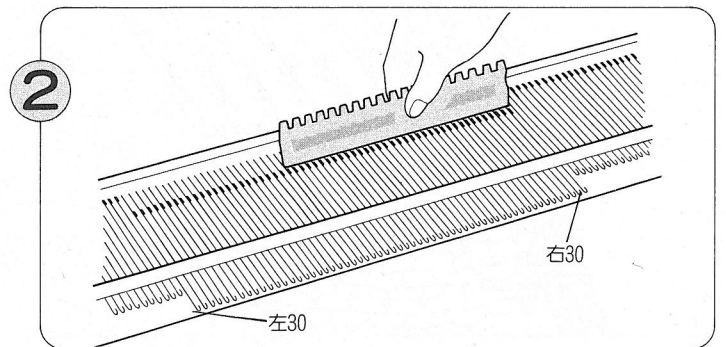
- 作品を、希望どおりの寸法に編み上げるため、作品に使う編糸で作品と同じ模様の編地を編み、編目の大きさを知るものです。
- 段数（たて方向）60段、目数（よこ方向）40目の長さを測ります。



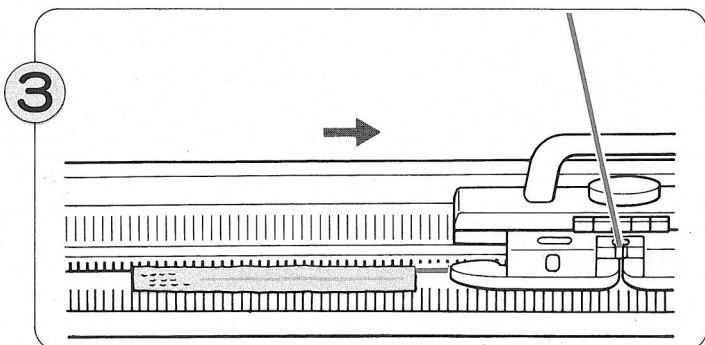
編ゲージの作り方 ここでは中細毛糸を使った平編の編ゲージを作ってみましょう。



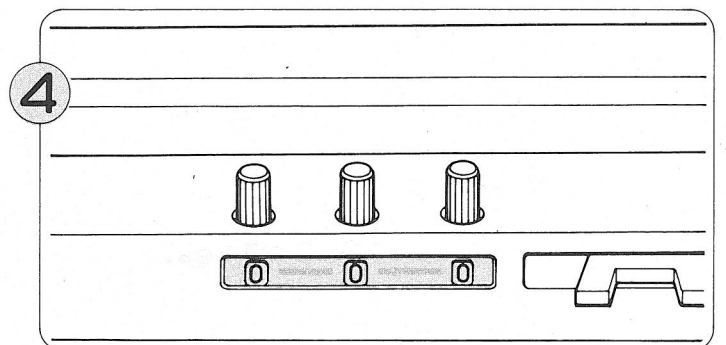
1 Kキャリジを図のようにセットします。
 ※糸取装置の右側に地糸を、左側に別糸を通しておきます。



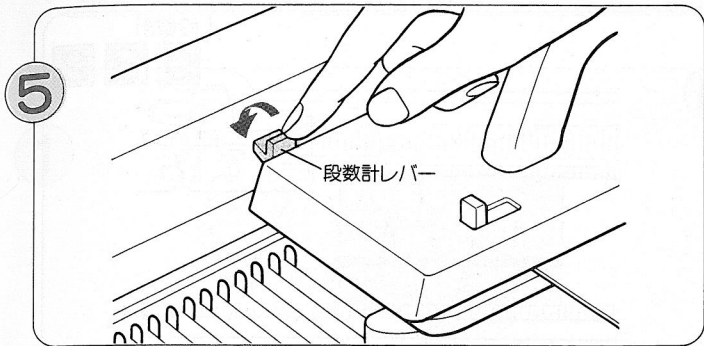
2 中心より左30～右30までの編針をB位置に出します。



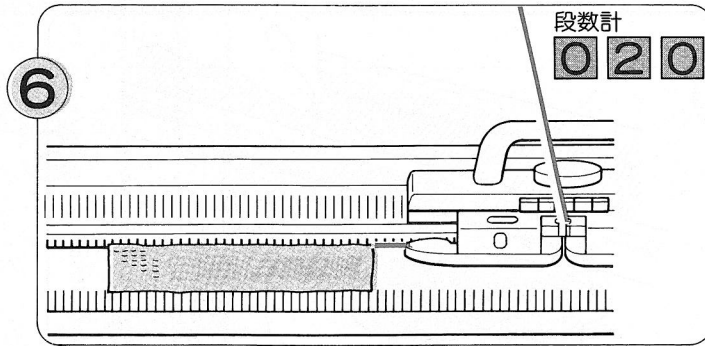
3 地糸で平編を数段編みKキャリジを右側に置きます。



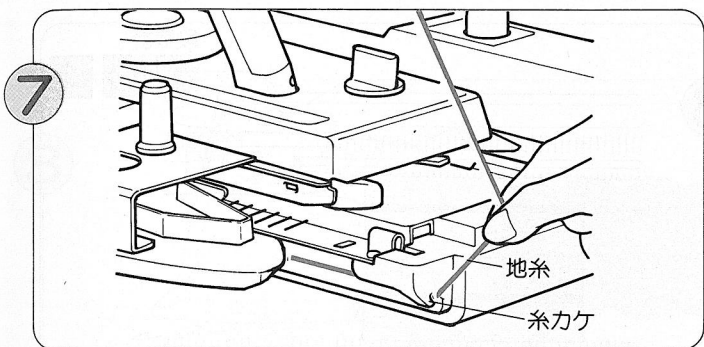
4 段数計を〇〇〇にセットします。



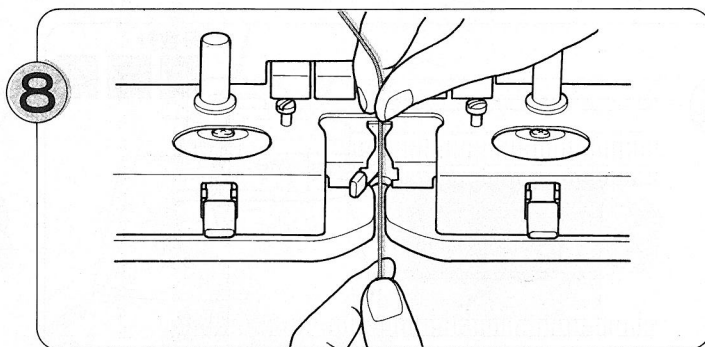
段数計レバーを向こう側に押し下げます。



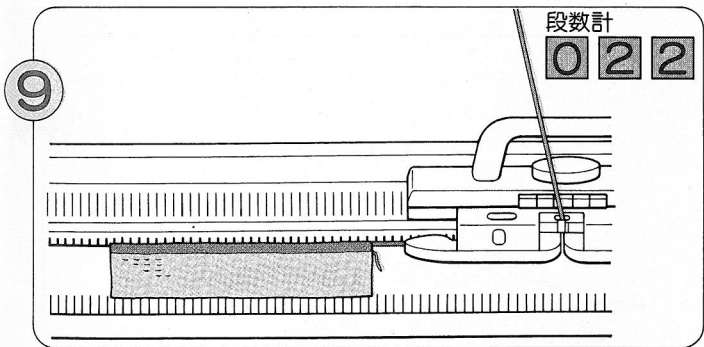
20段編みます。



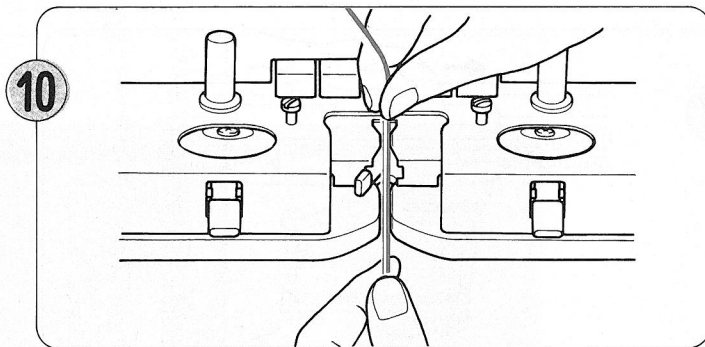
地糸を地糸口からはずし、本体の右端にある糸カケに休めます。



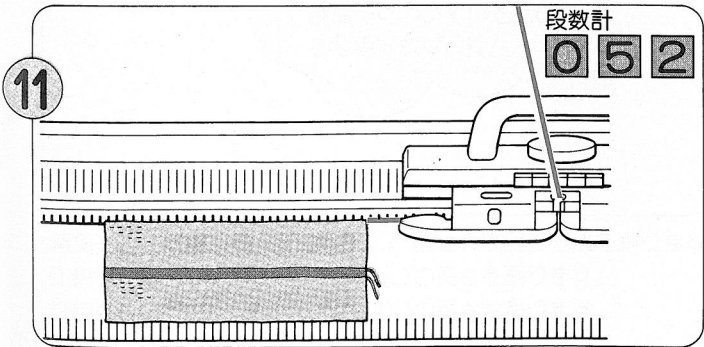
別糸を地糸口に入れます。



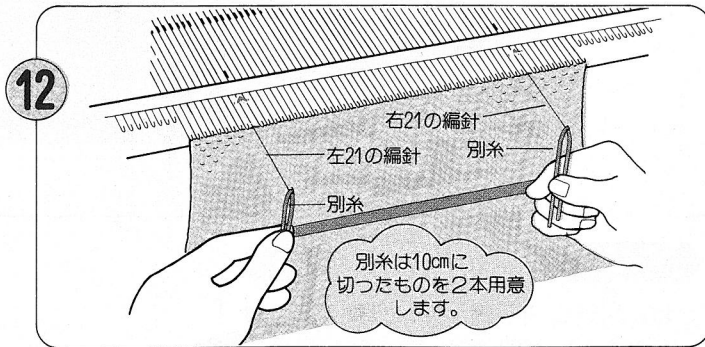
2段編みます。



別糸を地糸口からはずし、糸端を5cmぐらい残して切ります。地糸を地糸口に入れます。

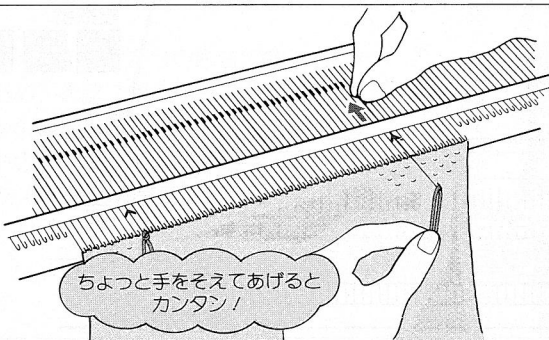


30段編みます。



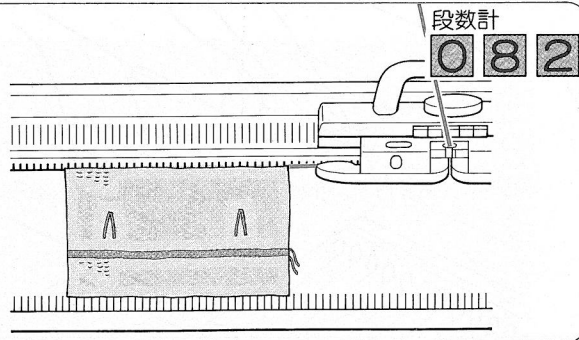
中心より左右21本目(ミノ板目盛板のA印)の編針を1本ずつE位置に出し、フックに別糸をかけます。

13



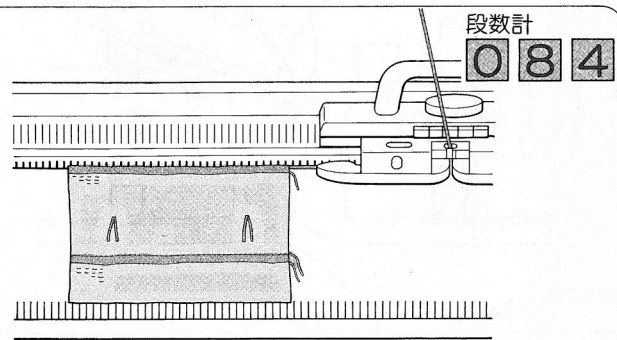
E位置の2本の編針をB位置までもどし、編目を作ります。

14



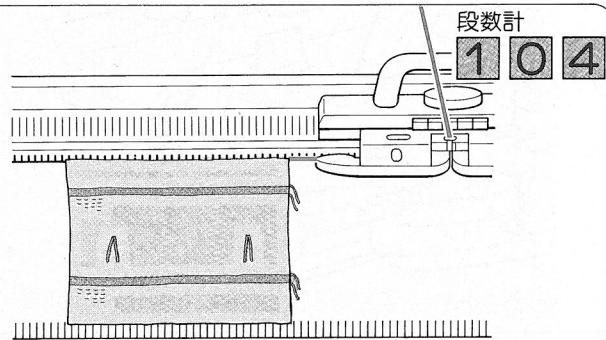
さらに30段編みます。

15



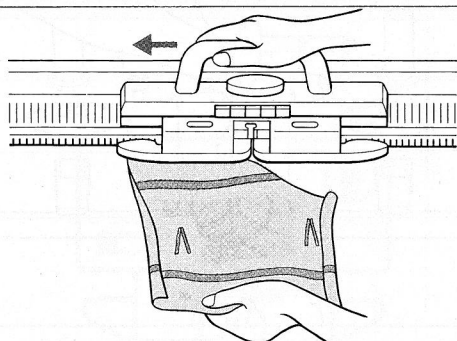
地糸を地糸口からはずし、本体右の糸カケに休めます。別糸に入れ替えて2段編みます。

16



別糸を切り、地糸口からはずします。地糸に入れ替えて20段編みます。

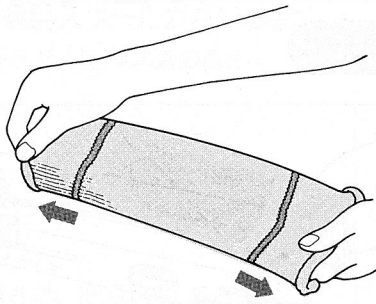
17



地糸を切り、地糸口からはずします。Kキャリジを動かして編地をはずします。

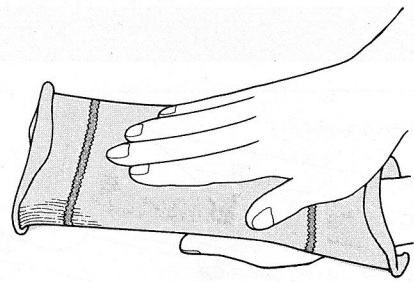
編ゲージの測り方 編ゲージの長さが作品の寸法を決めます。

1



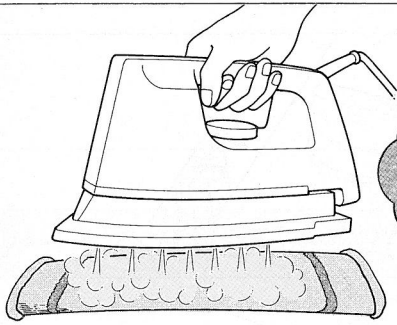
はずしたばかりの編地は横に伸びていますので、縦に2~3回かるく引き伸ばします。

2

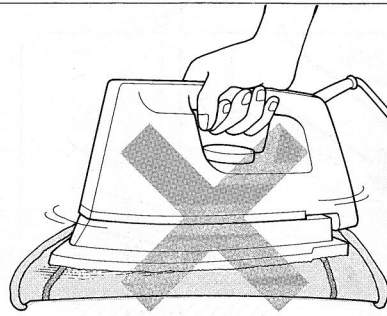


かるく手でたたいて、編目を整えます。

3



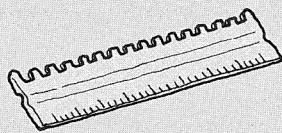
編地の端は表と裏にクルッと巻いています。アイロンの先と端を上手に使って開いてあげましょう。



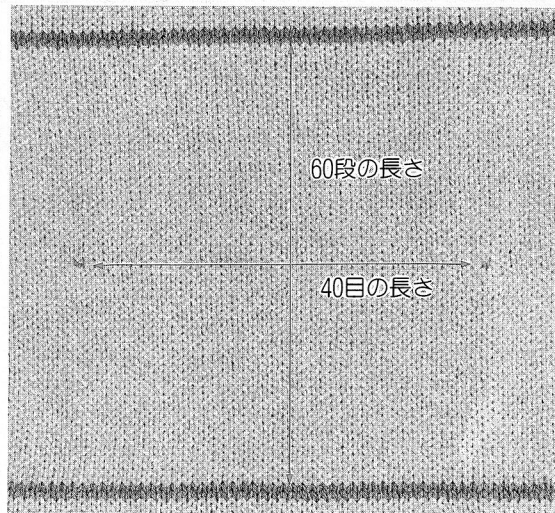
編地にアイロンを押しつけないように注意しましょう。

スチームアイロンで編地全体に2~3分蒸気を当てます。

4



模様板についているものさしを利用すればOK!



蒸気を当てた後、5~10分放置し、編地の表目で寸法を測ります。

(1)段数(たて方向...別糸の内側60段)の長さを測ります。

(2)目数(よこ方向...別糸の内側40目)の長さを測ります。

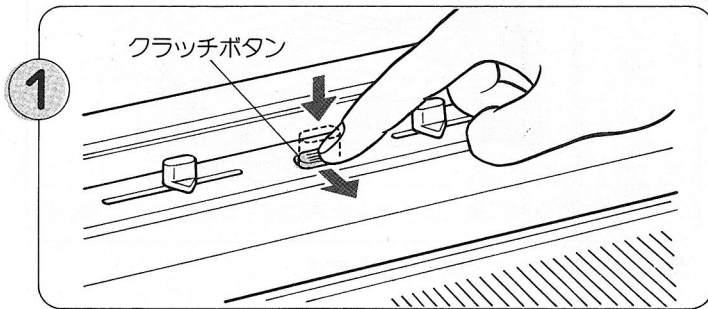
綿・麻・化繊などの場合

編ゲージが編めたら、水に浸しかるくしぼってから、自然乾燥(約1昼夜)させたあと、①~④の方法で蒸気を当てて測りましょう。

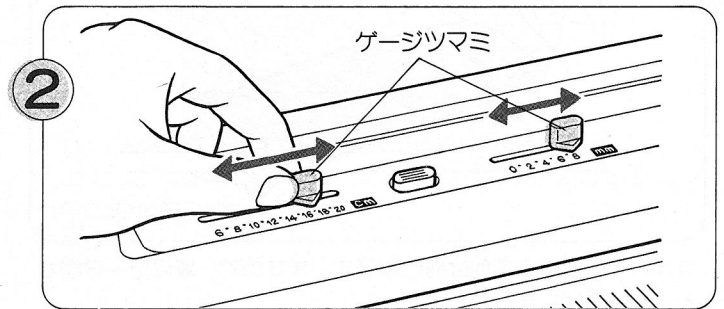
編ゲージのセットのしかた

- 段数(60段)の長さはゲージツマミでセットします。
- 目数(40目)の長さは編目スケールでセットします。

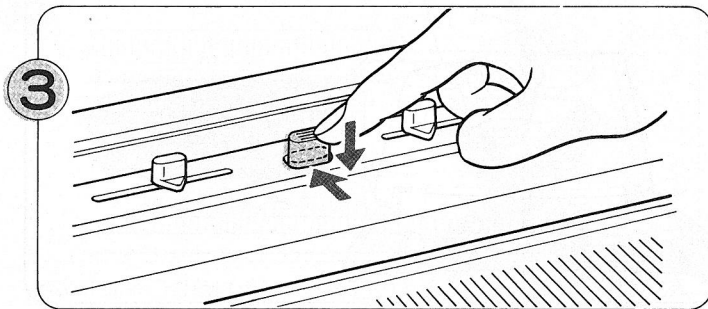
〈例〉ゲージツマミ〈60段が17.8cmの場合〉のセットのしかた



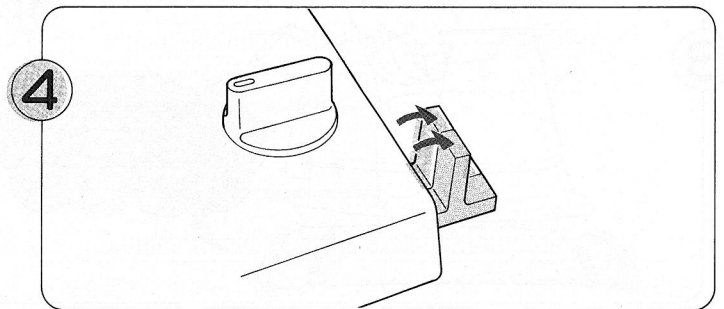
クラッチボタンを押して、手前に少し引きロックします。



左側のゲージツマミ cm を17に、右側のゲージツマミ mm を8に合わせます。

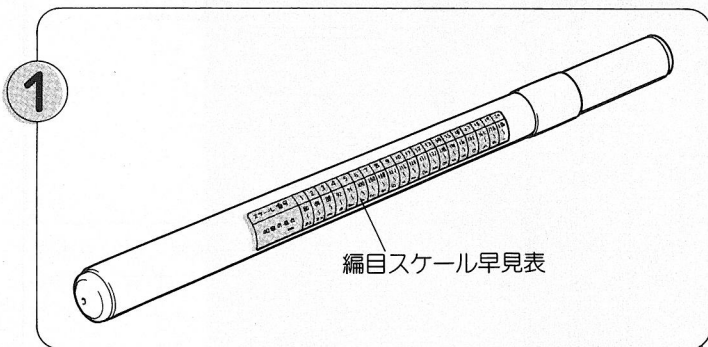


セットできたらクラッチボタンを向こう側に押してロックをはずします。

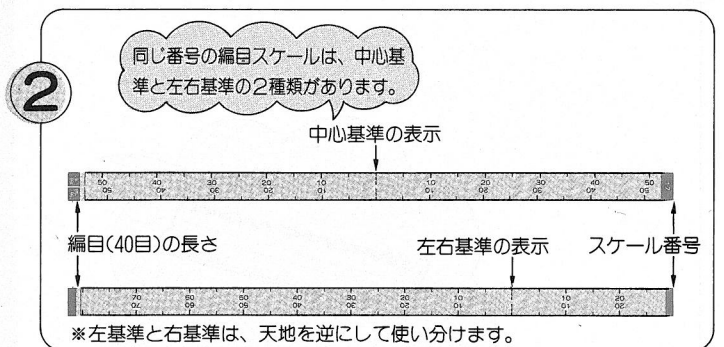


Kキャリジのリーダーレバー(ピンク色と白色)を下げます。
※作品を編むとき、Kキャリジを1段操作するごとに1段ずつシートが送られます。

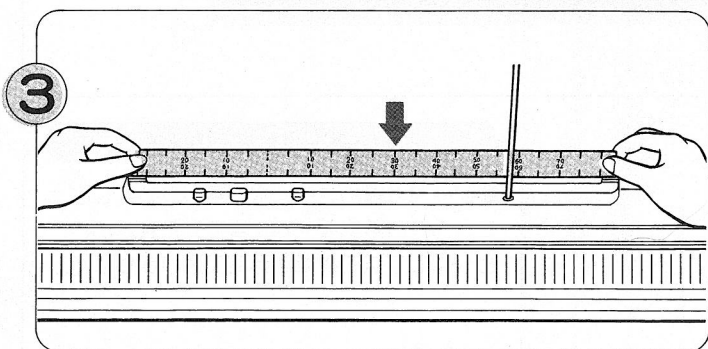
〈例〉編目スケール〈40目が15.6cmの場合〉のセットのしかた



目数15.6cm=156mmです。シートケースの編目スケール早見表から156は赤・17の編目スケールだということがわかります。



シートケースの中から、赤・17の編目スケールを選び出します。



選び出した編目スケールを、必要とする面を手前にして編目スケール差込口へ差し込みます。

※左基準は基準線が左側に、右基準は基準線が右側になるようにセットします。

編ゲージを測ったとき、ニットリーダーにセットできない場合

● 選ぶ編目スケールがない場合

40目の長さが、6.0cm未満の場合

例 5.6cmのときには
 $5.6 \times 2 = 11.2$
 112の編目スケールを選び編目スケールの1目盛を2目と読みます。

40目の長さが、18.6cm以上の場合

例 19.4cmのときには
 $19.4 \div 2 = 9.7$
 97の編目スケールを選び編目スケールの2目盛を1目と読みます。

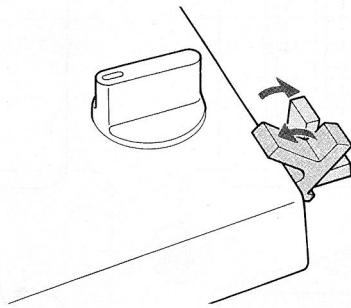
● ゲージつまみがセットできない場合

60段の長さが、6.0cm未満の場合

例 5.4cmのときには
 $5.4 \times 2 = 10.8$
 ゲージつまみを10に、ゲージつまみを8に合わせます。
 Kキャリジのリーダーレバーのピンク色を下げ、右側の白色は上げて使います。

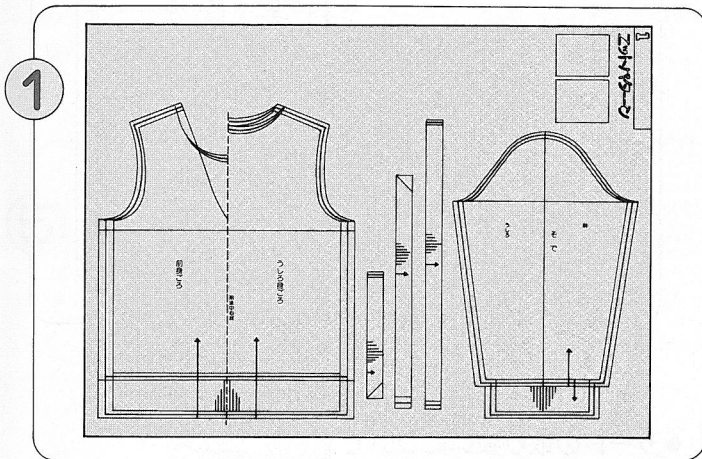
60段の長さが、21.0cm以上の場合

例 21.8cmのときには
 $21.8 \div 2 = 10.9$
 ゲージつまみを10に、ゲージつまみを9に合わせます。
 毎段Kキャリジを操作した後、シート送りレバーを指で1段送りながら編みます。



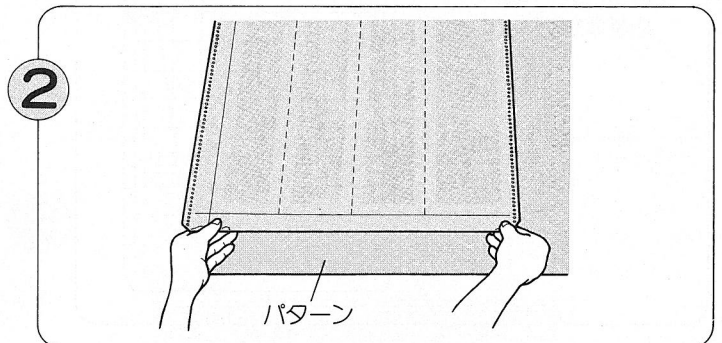
※ Kキャリジを2回操作するとシートが1段送られます。

シートへのパターンの写し方

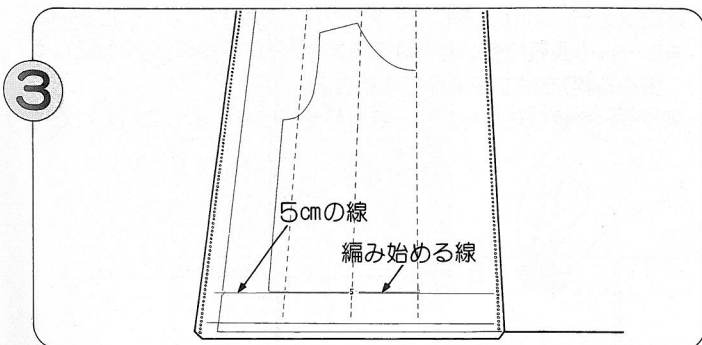


別売りのブラザーニットングパターンを平らなところにひろげます。

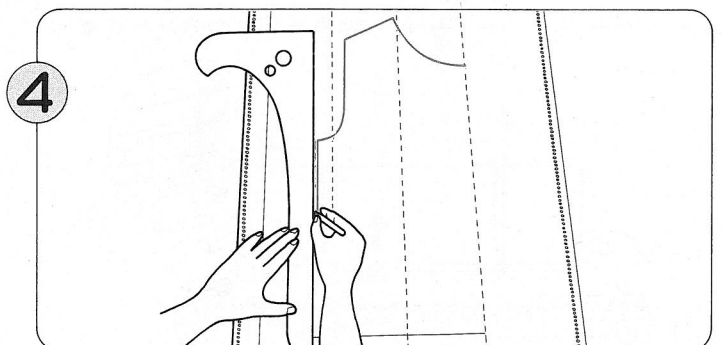
※ 編みたいサイズのパターンを選んでください。



シートを表側(文字が正しく読める側)にしてパターンの上に置きます。



1枚のシートに3本の基準線がありますので、作品により各基準線をパターンの中心線に合わせます。(98ページの図参照)シートの目盛り5cmの線をパターンの編み始める線に合わせます。

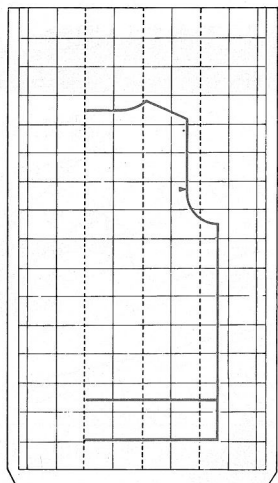


ブラザーペンでパターンのとおりに写します。

●うしろ身ごろの場合

パターンの中心線をシートの左基準線に合わせます。

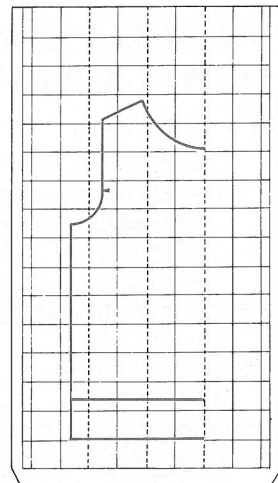
※編目スケールは左基準を使います。



●前身ごろの場合

パターンの中心線をシートの右基準線に合わせます。

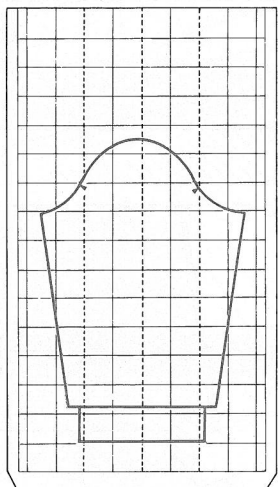
※編目スケールは右基準を使います。



●そでの場合

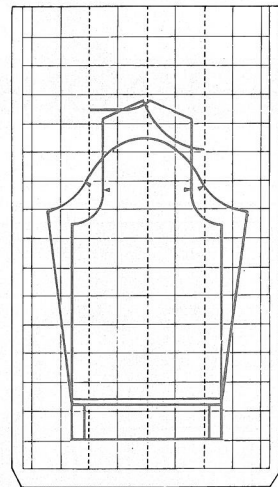
そでのように幅のせまいものは、パターンの中心線をシートの中心基準線に合わせます。

※編目スケールは中心基準を使います。



●パターンを写し終えた状態

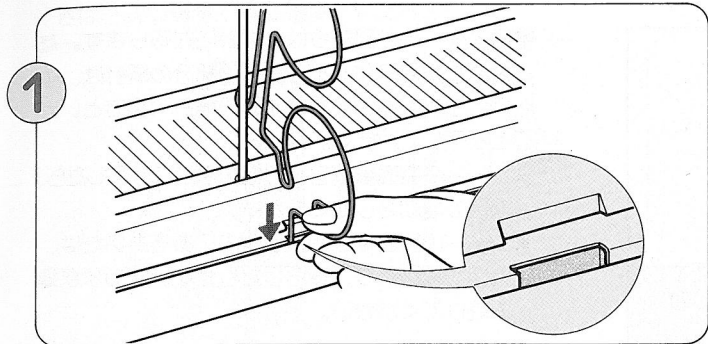
基準線に合わせて、それぞれのパターンを1枚のシートに写します。



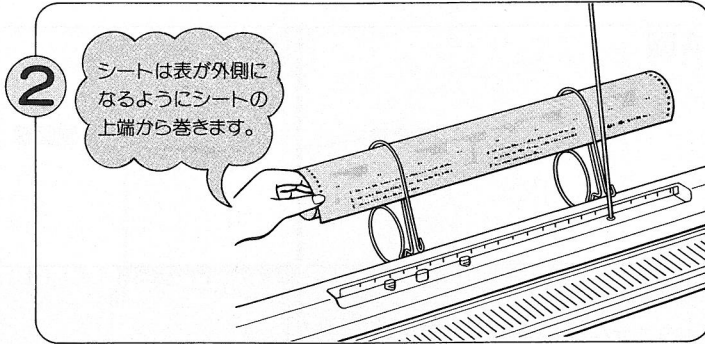
●シートの取り扱いについて

- ★写しまちがえたときや描き直したいときは、布に水を含ませ、上から軽くふき取ればきれいに消えます。
- ★シートの汚れは、中性洗剤を布にしみ込ませてふき取ってください。
- ※シンナー、アルコール、ベンジンなどは使わないでください。
- ※シートの表裏の使い分けはできません。必ず表側(文字が正しく読める側)だけを使用してください。
- ※シートを折りたたんだり、折り目をつけないようにしてください。

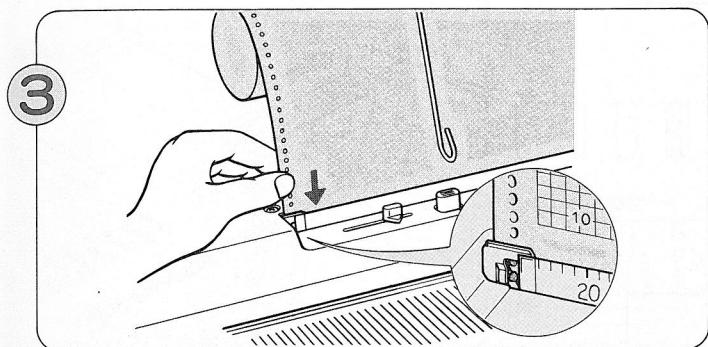
シートのセットのしかた



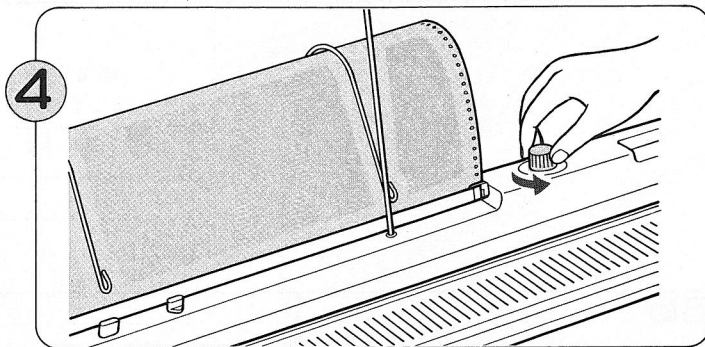
シートガイドをケースから取り出し、シートガイド取付穴に差し込みます。



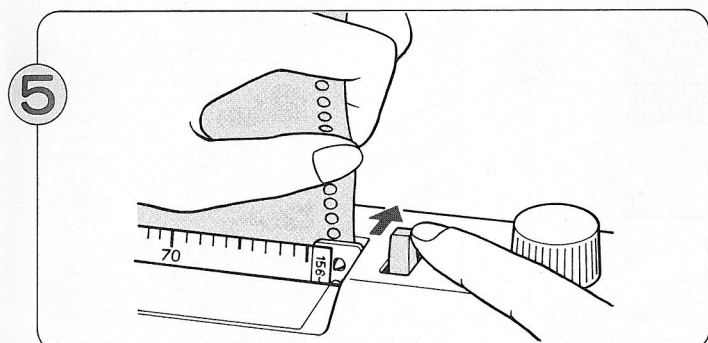
シートをシートガイドに通します。



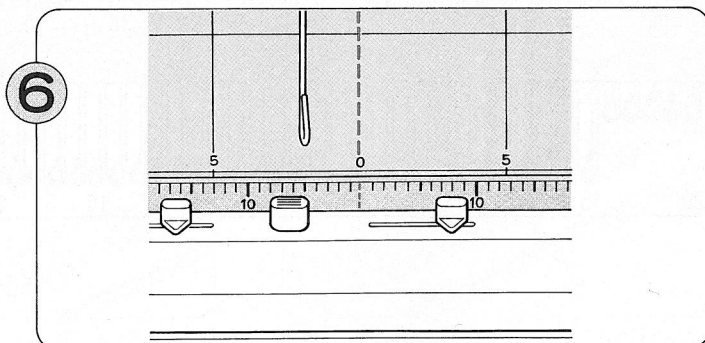
シートの左下端をニットリーダーのシート差込口に入れ、シート送りダイヤルを回して送り歯にシートの送り穴をかけます。



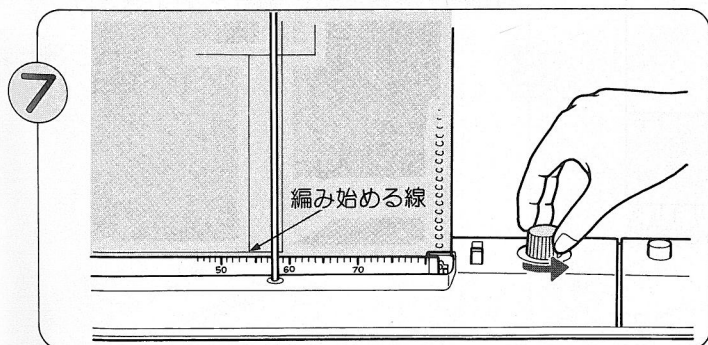
シート送りダイヤルを回し、シートを2~3段送ります。



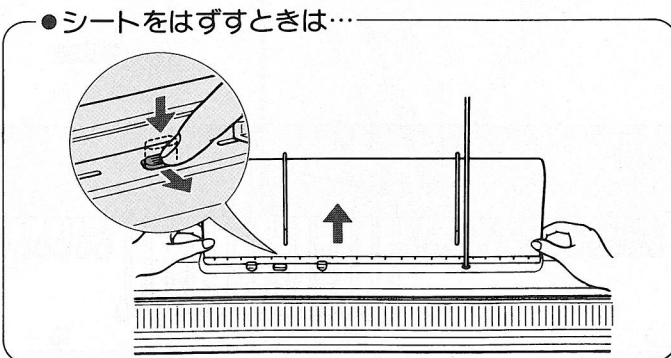
シートレバーを押したまま、シートの右側を上下に動かしシートの傾きを直します。



シートの基準線に編目スケールの基準線を合わせます。

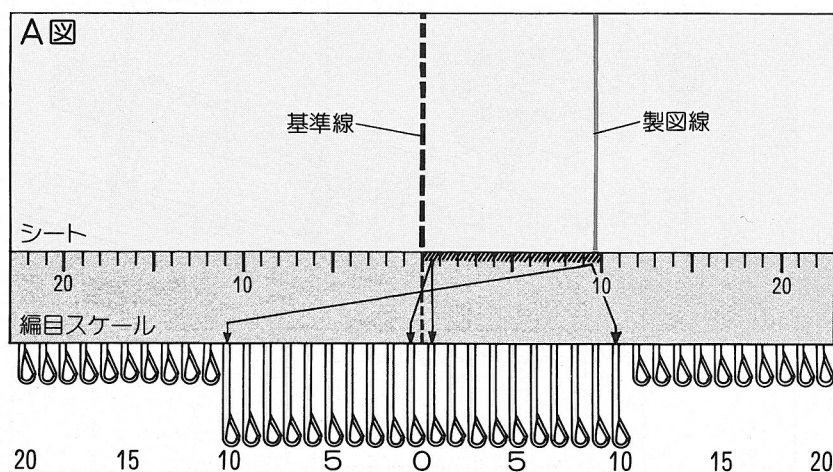


シート送りダイヤルを回し、シートに写した編み始める線を編目スケールの上端に合わせます。



クラッチボタンをロックして、シートを手で引き抜きます。

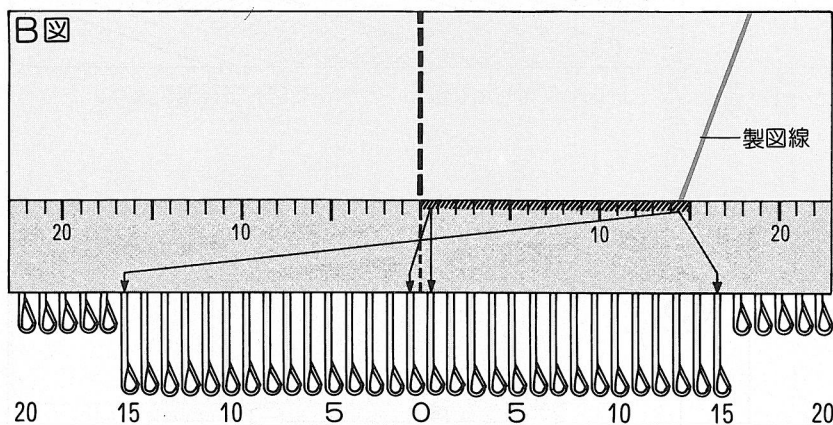
編目スケールの目盛りの読み方



編目スケールの目盛りは、編針に対応します。たとえば、編目スケールの斜線部分の編針は、中心から左10～右10の間の20本の編針で編むことを示しています。

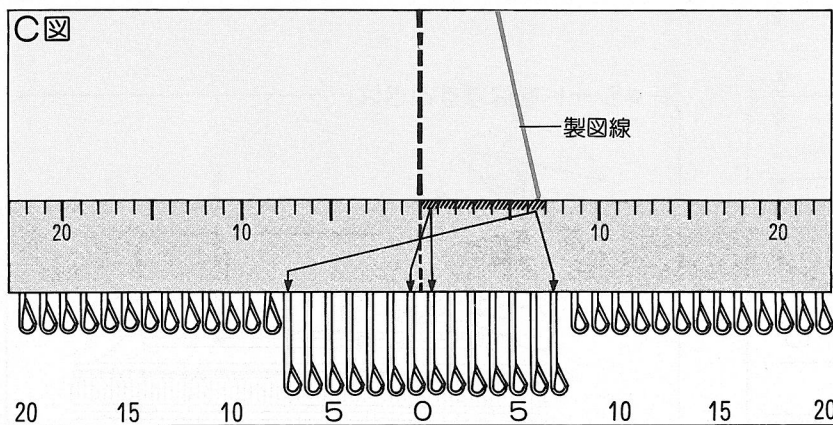
※シートの製図線がB・C図のように移動したら、編目の増減をしてください。

※シートの製図線が同じ目盛内にあるあいだは、編目を増したり、減らしたりせず、そのまま編み続けてください。



■増し目をする場合

左15～右15間の30本の編針で編みます。
(A図より左右5本ずつ編針を増します。)

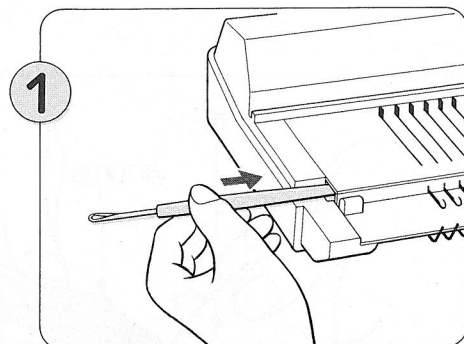
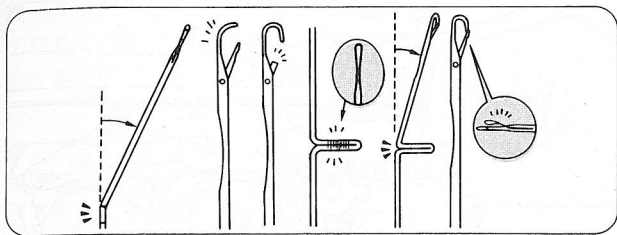


■減らし目をする場合

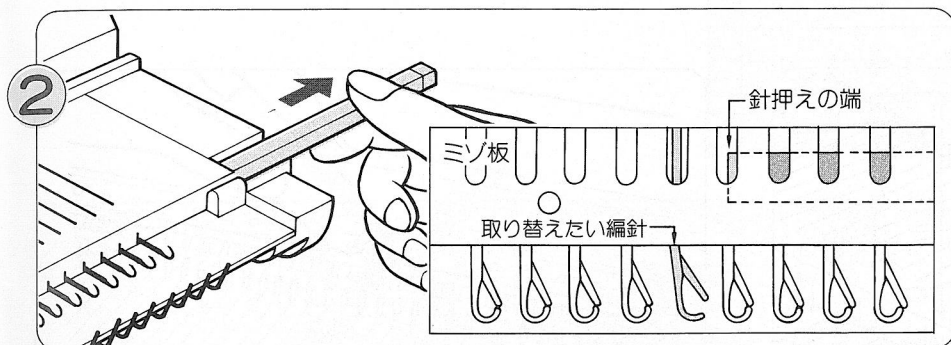
左7～右7間の14本の編針で編みます。
(A図より左右3本ずつ編針を減らします。)

編針の取り替え方

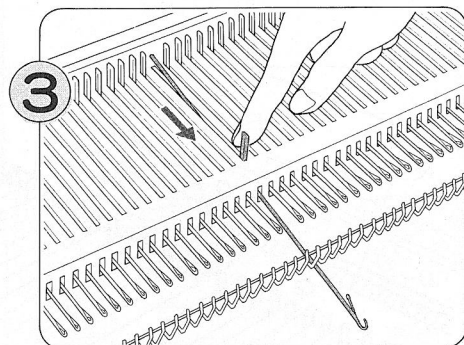
● 編針が曲がっていたり、折れたり、また傷が付いたりすると、さまざまなトラブルの原因となります。こんなときは、次の順序で編針を替えてください。



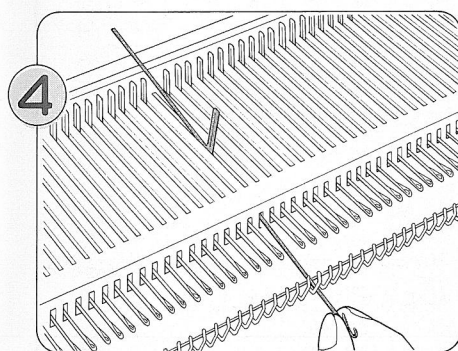
針押えをミノ板の片端（取り替えたい編針に近い側）から、タツピの柄を使ってミノ板の中へ押し込みます。



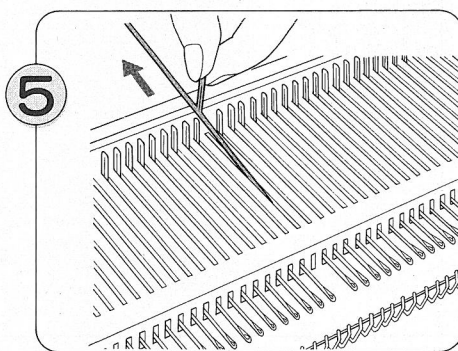
反対側に出た針押えを、押し込んだ側の針押えの端が取り替えたい編針を通りすぎるところまで引き抜きます。



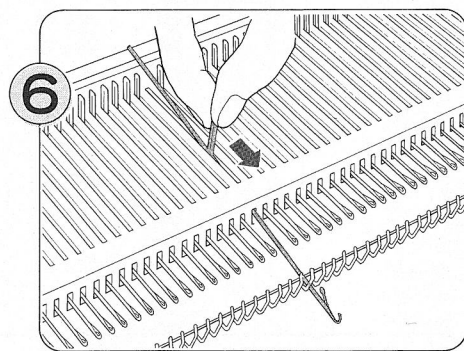
取り替えたい編針を、E位置まで出します。



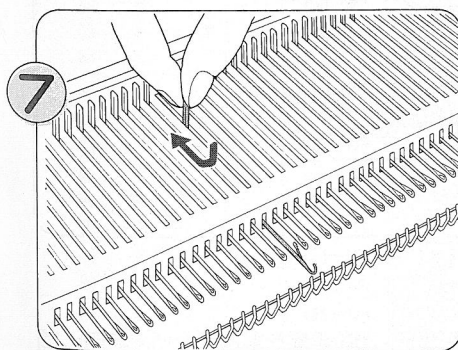
E位置に出した編針のフック部分を押し下げます。シャンク部分がミノ板上に出ます。



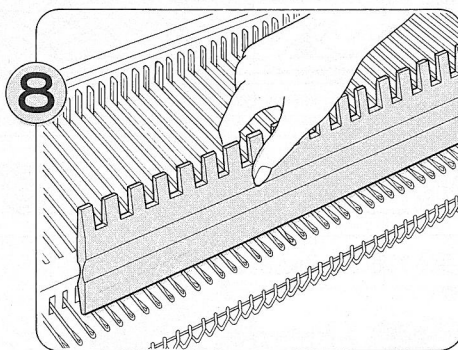
シャンク部分、またはバット部分を指でつまみ上げるようにして、向こう側に引き抜きます。



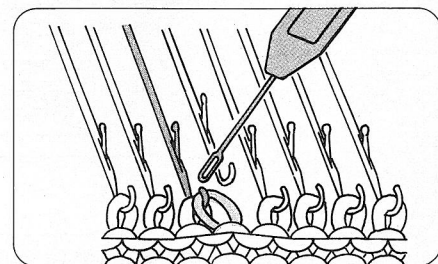
編針のペラを開いて、フック部分からミノ板の中に入れ、そのままE位置まで差し込みます。



バット頭部を指で押し下げ、そのままA位置か、B位置までもどします。

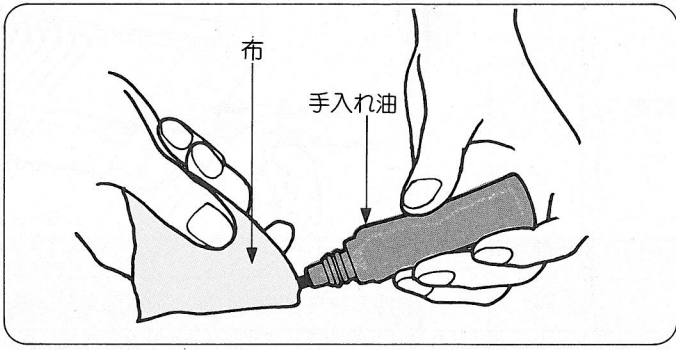


フック部分が浮き上がっている編針を模様板を使って押し付け、針押えを押し込みます。

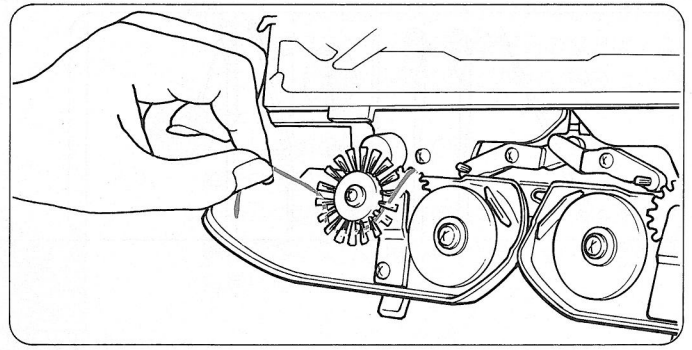


※ 編地がかかっている場合には、そのまま編針を取り替えると編目がおちてしまいますので、ウツシを使ってとなりの編針に編目を移しておきます。編針の取り替えが終わったらもとにもどします。

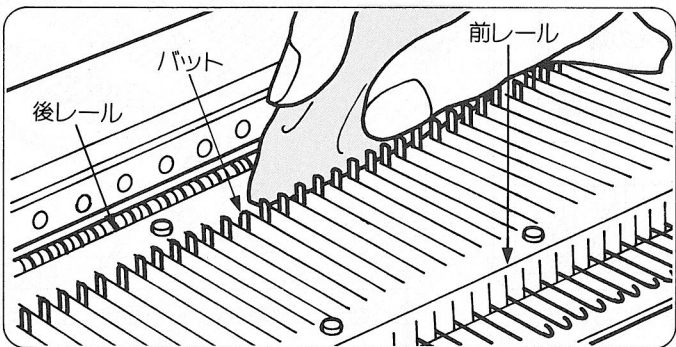
編機の手入れ



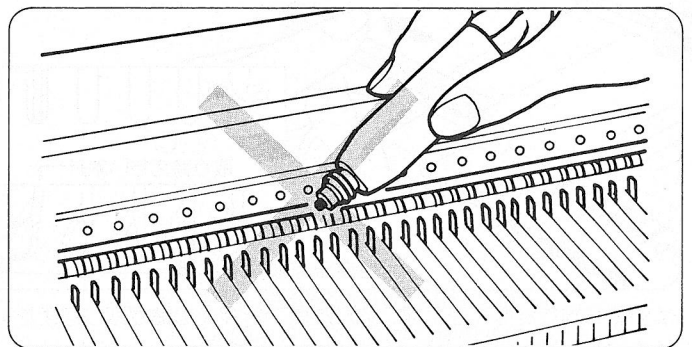
金属部分は付属の手入れ油をしみ込ませた布で、プラスチック部分は中性洗剤などをしみ込ませた布でふいてください。



Kキャリジ・Lキャリジを本体からはずし、手帕や布で、よくほこりやゴミを取り除いてください。

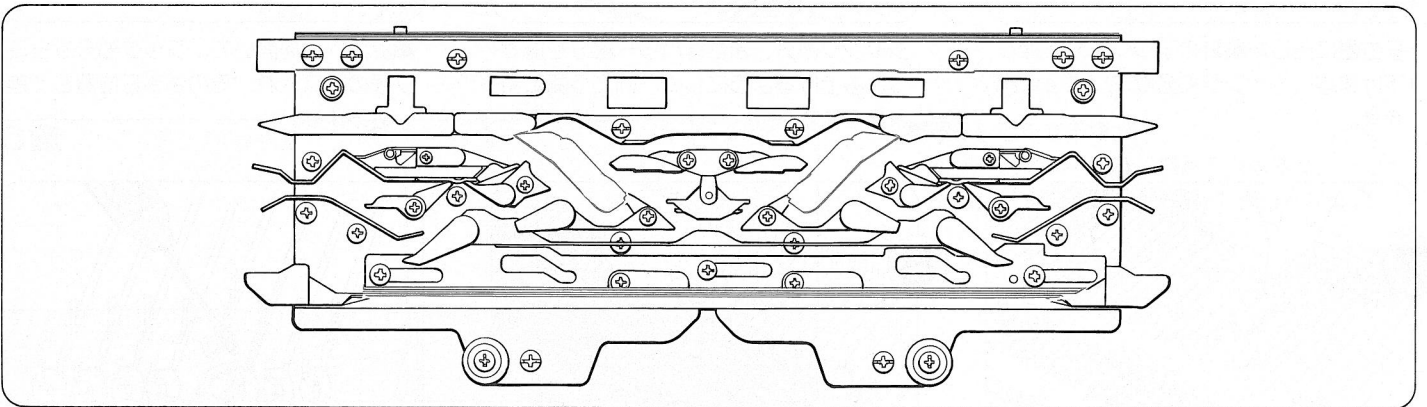


ミゾ板の部分は、編針をB位置にそろえ、後レール・前レール・編針のバットを、付属の手入れ油をしみ込ませた布でふきます。



編機に直接注油しないでください。故障の原因となります。

シンナー、アルコール、ベンジンなどを使用しないでください。



Kキャリジの裏側は上図の——部分に沿って、手入れ油をしみ込ませた布でふきます。Kキャリジの操作が重いときもふいてください。

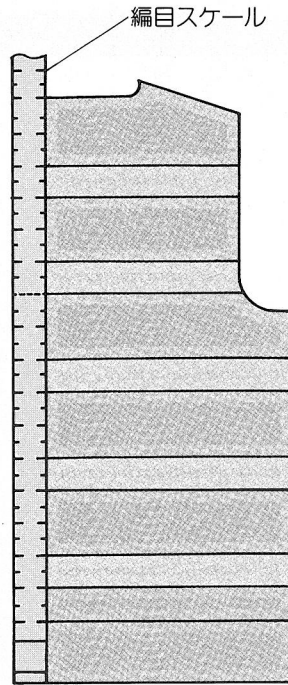
★編機を長く保存しておいて再び使用するときは、油をしみ込ませた布でよくふき取り、古い毛糸で20～30段平編を編んでからご使用ください。古い油が取れ、作品をよごしません。

編目スケールを段方向(段数)に使うときの早見表

●編目スケールの選び方

60段の編ゲージの長さから、右表をご覧ください。例えば、段縞模様を編むとき、60段の長さが11.8(118mm)の場合、右表より118を探し、その横方向に対応する(赤17の156~158)の編目スケールを取り出し、段方向に当てて段縞の目盛を製図に書いてください。

線に従って編糸を交換すればきれいな段縞模様ができます。



ゲージツツミを合わせた位置 (60段の長さ)	使用する編目スケール		ゲージツツミを合わせた位置 (60段の長さ)	使用する編目スケール		ゲージツツミを合わせた位置 (60段の長さ)	使用する編目スケール		ゲージツツミを合わせた位置 (60段の長さ)	使用する編目スケール					
	色	番号		数字	色		番号	数字		色	番号	数字	色	番号	数字
60 *	青	1	80~81	オレンジ	13	132~134	青	4	92~93	黄	10	116~117			
61 *			80~81			100 *			132~134			139	92~93	175	116~117
62 *			82~83			101 *			135~137			140	92~93	176	116~117
63 *	"	2	84~85	"	14	135~137	"	5	94~95	"	11	118~119			
64 *			84~85			102 *			135~137			141	94~95	177	118~119
65 *	"	3	86~87	"	15	135~137	黄緑	6	94~95	"	12	118~119			
66 *			88~89			103 *			138~140			142	94~95	178	118~119
67 *			88~89			104 *			138~140			143	94~95	179	118~119
68 *	"	4	90~91	"	16	141~143	"	7	96~97	"	13	120~122			
69 *			92~93			105 *			138~140			144	96~97	180	120~122
70 *			92~93			106 *			141~143			145	96~97	181	120~122
71 *	黄	5	96~97	"	17	141~143	"	8	96~97	"	14	120~122			
72 *			96~97			107 *			144~146			146	96~97	182	120~122
73 *			96~97			108 *			144~146			147	98~99	183	120~122
74 *	"	6	98~99	"	18	147~149	"	9	98~99	"	15	123~125			
75 *			100~101			109 *			144~146			148	98~99	184	123~125
76 *			100~101			110 *			147~149			149	98~99	185	123~125
77 *	"	7	102~103	"	19	147~149	"	10	100~101	"	16	123~125			
78 *			104~105			111 *			150~152			150	100~101	186	123~125
79 *			104~105			112 *			150~152			151	100~101	187	123~125
80 *	"	8	106~107	"	20	153~155	"	11	102~103	"	17	126~128			
81 *			108~109			113 *			150~152			152	102~103	188	126~128
82 *			108~109			114 *			153~155			153	102~103	189	126~128
83 *	"	9	110~111	"	21	153~155	"	12	102~103	"	18	126~128			
84 *			112~113			115 *			156~158			154	104~105	190	126~128
85 *			112~113			116 *			156~158			155	104~105	191	126~128
86 *	"	10	114~115	"	22	159~161	"	13	104~105	"	19	126~128			
87 *			116~117			117 *			159~161			156	106~107	192	126~128
88 *			116~117			118 *			159~161			157	106~107	193	126~128
89 *	"	11	118~119	"	23	80~81	"	14	104~105	"	20	129~131			
90 *			120~121			119 *			80~81			158	104~105	194	129~131
91 *			120~122			120 *			80~81			159	106~107	195	129~131
92 *	"	12	123~125	"	24	82~83	"	15	106~107	"	21	129~131			
93 *			123~125			121			82~83			160	106~107	196	129~131
94 *			123~125			122			82~83			161	106~107	197	129~131
95 *	"	13	126~128	"	25	84~85	"	16	108~109	"	22	132~134			
96 *			126~128			123			84~85			162	108~109	198	132~134
97 *			129~131			124			84~85			163	108~109	199	132~134
98 *	"	14	129~131	"	26	84~85	"	17	108~109	"	23	132~134			
95 *			126~128			125			84~85			164	110~111	200	132~134
96 *			126~128			126			84~85			165	110~111	201	132~134
97 *	"	15	129~131	"	27	86~87	"	18	110~111	"	24	135~137			
98 *			129~131			127			86~87			166	110~111	202	135~137
99 *			129~131			128			86~87			167	110~111	203	135~137
100 *	"	16	132~134	"	28	86~87	"	19	112~113	"	25	135~137			
101 *			132~134			129			86~87			168	112~113	204	135~137
102 *			135~137			130			86~87			169	112~113	205	135~137
103 *	"	17	135~137	"	29	88~89	"	20	114~115	"	26	135~137			
104 *			135~137			131			88~89			170	114~115	206	135~137
105 *			135~137			132			88~89			171	114~115	207	138~140
106 *	"	18	138~140	"	30	88~89	"	21	114~115	"	27	138~140			
107 *			138~140			133			88~89			172	114~115	208	138~140
108 *			138~140			134			88~89			173	114~115	209	138~140
109 *	"	19	144~146	"	31	88~89	"	22	114~115	"	28	138~140			
110 *			144~146			135			88~89			174	114~115	210	138~140
111 *			147~149			136			88~89			175	114~115	211	138~140
112 *	"	20	147~149	"	32	90~91	"	23	114~115	"	29	138~140			
113 *			147~149			137			90~91			176	114~115	212	138~140
114 *			147~149			138			90~91			177	114~115	213	138~140

※ *印の場合は60段の内、1段の長さが編目スケールの1目盛分に
 足りないため、編目スケールの1目盛を2段と読みます。
 ※この表は、中心基準・左右基準の編目スケールを共用できます。

メモ

アフターサービスについて

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は大切に保存してください。
- 無料修理保証期間は、お買い上げ日より1年間です。(詳しくは保証書をご覧ください) それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または最寄りのブラザー販売店にご相談ください。
- 当社はこの編機の補修用性能部品を、お買い上げ日から最低5年保有しています。
・性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または下記の《お客様相談コーナー》へお問い合わせください。

お客様相談コーナー

札幌支店	〒060 札幌市中央区南三条西3-2-2	TEL : (011) 261-6631
仙台支店	〒980 仙台市一番町2-3-10	TEL : (0222) 27-8877
北関東支店	〒330 大宮市仲町1-124-2	TEL : (0486) 42-1271
東京支社	〒104 東京都中央区京橋3-3-8	TEL : (03) 273-0231
新潟支店	〒950 新潟市東大通1-1-1	TEL : (0252) 47-7101
静岡支店	〒420 静岡市御幸町9-1	TEL : (0542) 54-2601
名古屋支店	〒460 名古屋市中区栄3-27-18	TEL : (052) 261-3271
大阪支店	〒542 大阪市南区心斎橋筋1-1	TEL : (06) 252-1797
広島支店	〒730 広島市中区胡町4-27	TEL : (082) 241-9236
高松支店	〒760 高松市寿町1-1-5	TEL : (0878) 51-7341
福岡支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-20-1	TEL : (092) 481-2671
熊本支店	〒860 熊本市城東町2-20	TEL : (096) 355-7151
沖縄出張所	〒900 那覇市泊3-1-2	TEL : (0988) 68-4511

- ブラザー製品についてのご意見、ご要望がございましたら、お買い上げの販売店または上記の《お客様相談コーナー》へご連絡ください。

※上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

ブラザー工業株式会社

取扱店

名古屋市瑞穂区堀田通9-35 〒467
TEL : (052) 824-2511(代表)